# 2015 年階層と社会意識全国調査
# （第 1 回 SSP 調査）
# **報告書**

2016 年 3 月

SSP プロジェクト

# ２０１５年階層と社会意識全国調査（第１回ＳＳＰ調査）報告書

ＳＳＰプロジェクト

# はしがき

1. 本報告書は、2015 年階層と社会意識全国調査（第 1 回 SSP 調査）について、調査の概要と特性、基礎分析結果、コード・ブックと基礎集計表、および調査票を掲載したものである。この調査は SSP プロジェクト（正式名称「階層と社会意識研究プロジェクト」）の 5 年間の研究の集大成として設計実施された。SSP プロジェクトは、関連するいくつかの研究課題の総合的連携により運営されているが、本調査研究は、主に日本学術振興会 科学技術研究費補助金研究 基盤研究（S）課題番号:23223002 の支援を受けて実施されたものである。

2. 本報告書は、2016 年 2 月末日時点で第 1 回 SSP 調査のデータを整理し、基礎分析を行った結果を、日本学術振興会 科学技術研究費補助金研究 基盤研究（S）課題番号:23223002 の研究期間終了に際してとりまとめたものである。SSP プロジェクトとしては、この先においてさらに本格的な解析を継続し、その成果を発信していく。

3. 実査に使用した CAPI 法の調査票画面を本報告書の印刷媒体では正確に再現できないので、2015 年第 1 回 SSP 調査の質問文と選択肢は、PAPI法調査票に準じたフォーマットで掲載している。

SSP プロジェクト 代表
吉川　徹

# 目　次


## 1. 調査の概要と特性 ..... 1

1－1.「第 1 回 SSP 調査の設計と実施概要」 ..... 3
前田　忠彦（統計数理研究所）

1－2.「第 1 回 SSP 調査の特性」 ..... 11
吉川　徹（大阪大学）

## 2. 基礎分析 ..... 23

2－1.「社会意識の新しい生年世代差」 ..... 25
吉川　徹（大阪大学）

2－2.「「中」意識から「上・下」意識へ」 ..... 31
谷岡　謙（大阪大学／日本学術振興会）

2－3.「働き方と主観的 Well-Being の変容」 ..... 39
橋爪　裕人（大阪大学／日本学術振興会）

2－4.「若年層における現在志向の時点間比較」 ..... 47
狭間　諒多朗（大阪大学／日本学術振興会）

2－5.「社会意識と主観的健康の基礎的分析」 ..... 55
大久保　将貴（大阪大学／日本学術振興会）

2－6.「主観的社会的地位と健康」 ..... 63
神林　博史（東北学院大学）

２－７.「都市規模が市民参加に与える影響」 ..... 71
平松 誠（大阪大学）

２－８.「「絆」意識に対する個人属性とその認知の影響」 ..... 79
阪口 侑洋（大阪大学）

２－９.「変わるジェンダー意識」 ..... 87
吉川 徹（大阪大学）

２－１０.「ポスト 55 年体制期における政治文化の時点間比較」 ..... 95
伊藤 理史（大阪大学）

３. コード・ブック..... **103**

４. 基礎集計表 ..... **121**

５. 調査票 ..... **169**

# １　調査の概要と特性

# 第 1 回 SSP 調査の設計と実施概要

前田　忠彦
（統計数理研究所）

## １．はじめに

本稿は 2015 年 1 月から 6 月にかけて実施された第 1 回 SSP 調査の設計と実施の概要について述べる。

調査の正式名称は「2015 年階層と社会意識全国調査（第 1 回 SSP 調査）」であり、「2015 年第 1 回 SSP 調査」「第 1 回 SSP 調査（2015 年）」または単に「第 1 回 SSP 調査」との略称が、本報告書では適宜用いられる。

本稿では調査設計と実施に関わる基本的な事実を並べるのみとする。本調査の計量社会学的な立場での調査設計上の特徴、タブレットを利用した CAPI 方式の実査導入の狙いを含む実査方法論上の特徴については、「SSP 調査の特性」に詳述されているので、合わせて参照されたい。下記に実施概要について要約し、次節以下でその内容のうち補足が必要な部分についてやや詳しく述べる。

**「2015 年階層と社会意識全国調査（第 1 回 SSP 調査）」実施概要**

１．調査目的

階層と社会意識の関係を糸口にして、日本社会がどこへ向かって進みつつあるのかを把握することを目的とする。また、CAPI（Computer Assisted Personal Interview）法を用い、日本の学術研究における CAPI 調査の先駆的モデルとなることを目指す。

２．調査項目

下記の内容を含む約 110 項目で構成される。

(1) 調査主題としての「社会意識」57 項目：格差（階層意識）、満足・幸福（主観的ウェルビーイング）、絆と社会関係、労働意識、ワークライフバランス、ジェンダー、子育て・教育、社会参加活動、政治参加、支持政党、消費文化等に関する項目

(2) 対象者の「プロフィール（属性）」約 50 項目：本人の学歴、職業関連諸項目、経済力関係諸項目、家庭の階層的地位等

３．調査対象

(1) 母集団：全国の 20 歳以上 64 歳以下（2014 年末現在）の日本国籍を持つ男女

(2) 標本サイズ　計画標本 9,000。うち対象者の死亡、住所不明、転居抽出ミスによる対象外を除く有効計画標本のサイズは 8,309

(3) 抽出方法　層化 3 段無作為抽出法、調査地点 450 地点

４．調査時期

2015 年 1 月 24 日～6 月 21 日

※調査を 3 期に分けて実施（第 3 期は第 1、2 期の対象者への追加調査）。

第 1 期（225 地点）: 2015 年 1 月 24 日（土）～2 月 15 日（日）

第 2 期（225 地点）: 2015 年 2 月 21 日（土）～3 月 15 日（日）

第 3 期（追加調査）: 2015 年 5 月 16 日（土）～6 月 21 日（日）

５．調査方法

コンピュータ（タブレット端末）を用いた調査員による個別聴取面接法（CAPI 法）

６．調査実施機関

株式会社 日本リサーチセンター

７．回収結果

有効回収数 3,575 人（有効回収率：43.0%；有効計画標本 8,309 に対する数値）

調査不能数 4,734 人（調査不能率：57.0%；同上）

―不能内訳―（詳細は３節参照）

接触困難対象 285、短期不在 787、拒否 3,631、その他 31

## ２．調査設計と実施概要

### 2-1　標本設計

標本設計の概要は以下の通りである。

**対象地域**　日本全国

**対象母集団**　**（抽出条件）**20 歳以上 64 歳以下（2014 年末現在）の日本国籍を持つ男女（昭和 25 年（1950 年）1 月 1 日～平成 6 年（1994 年）12 月 31 日に生まれた人）

**標本設計**　層化 3 段無作為抽出。第 1 次抽出単位を市区町村、第 2 次抽出単位を町丁字等（国勢調査の小地域集計で利用されるものを基準とする）、第 3 次抽出単位を個人とする。

**地点数**　450 地点（第 2 次抽出単位としての市区町村から異なる 2 町丁字等を第 3 次抽出単位として抽出。以下この 450 町丁字等を地点と呼ぶ。（のべ 225 市区町村×２町丁字等＝450 地点）［注 1］

**計画標本サイズ**　9,000　（20 名×450 地点＝9,000 名）［注 2］

**抽出台帳**　選挙人名簿（選挙人名簿での抽出が行えなかった自治体については、住民基本台帳を用いた。）

**地点抽出の方法**　調査主体より、第 1 次抽出単位（市区町村）、第 2 次抽出単位（大字・町丁目）を指定。各抽出単位は規模比例抽出［注 3］。

**個人抽出の方法**　各大字・町丁目から対象条件に合致する対象者を「抽出間隔 11 または 21」で系統抽出した。抽出間隔は人口規模によってこの 2 通りのいずれかとした。

1 つの町丁字等で抽出間隔×抽出人数に満たない場合は、隣接の町丁字に移り抽出を続けた。［注 4、5］

注1）人口規模が大きいために、第1次抽出単位の抽出時点で2回選ばれ、4地点となった 1 自治体があり、異なり市区町村数は224。

注2）いわゆる「予備抽出サンプル」は設定していない。

注3）手続き上は、系統抽出を利用した規模比例抽出を模した方法を利用している。

注4）台帳記載の住所等から、養護老人ホームや、自衛隊敷地内官舎などの施設が判別できる場合は除外した。

注5）住民基本台帳で抽出する場合、名簿上表示法が明確に区別可能な場合（生年月日表記等が日本国籍者と異なる等）、それ以外では姓名等の表記から日本国籍以外と思われる対象者は除外した。

なお、層化の基準等、標本設計の概要は表 1 の通りである。

表 1　2015 年階層と社会意識全国調査（第 1 回 SSP 調査）の標本設計の概要

| | |
|---|---|
| 総計画サンプルサイズ＝ | 9,000 |
| 計画地点総数＝ | 450 |
| 1地点当たりサンプルサイズ＝ | 20 |
| 1地点当たり母集団人口＝ | 157,227 |

| 層コード | 層名称 | 母集団人口（20-64歳）注1 | 母集団での単位数 | | 割当地点数 | | 割当サンプルサイズ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 市区町村 | 町丁字等 | 市区町村 | 町丁字等 | |
| | 全国計 | 70,752,280 | 1,850 | 209,908 | 225 | 450 | 9,000 |
| 1. K-00 | 区部 | 20,696,709 | 193 | 36,249 | 66 | 132 | 2,640 |
| | 市部計 | 44,024,554 | 248 | 75,687 | 140 | 280 | 5,600 |
| 2. S-01 | 人口20万人以上の市 | 17,626,116 | 91 | 42,067 | 56 | 112 | 2,240 |
| 3. S-02 | 人口10万人以上20万人未満の市 | 12,085,796 | 157 | 33,620 | 38 | 76 | 1,520 |
| 4. S-03 | 人口10万人未満の市 | 14,312,642 | 515 | 63,777 | 46 | 92 | 1,840 |
| 5. G-00 | 郡部 | 6,031,017 | 894 | 34,195 | 19 | 38 | 760 |

表注1）母集団人口は2010年国勢調査による。ただし，市区町村の区分は同国勢調査のものを用い，25-64歳人口の代わりに15-59歳人口を用いた。その後の市区町村合併は反映させていない。一部の島嶼部・僻地を除く。

## 2-2　調査実施の概要

### ■調査の方法

コンピュータ（タブレット端末）を用いた調査員による個別聴取面接法（以下 CAPI 法：Computer Assisted Personal Interview）。調査員用と対象者用の２台の端末を利用した。

CAPI 法の概要は以下の通り。

面接聴取の制御は、SurveyHackers 社（現 MS Hackers、 LLC）の開発した Android 上で稼働するアプリ CCAST システム内の "Ques Android"［調査員用］および"Ques Android （for Respondents）"［対象者用の端末］を利用した。調査員用端末（画面サイズが約 10 インチ）上に表示される質問文を調査員が読み上げ、同期している対象者用端末（画面サイズ約 7 インチ）に表示される選択肢一覧の中から、対象者が選択肢を選んで口頭で回答し、調査員が端末に記録する方式を原則とした。ただし、対象者が希望する場合には自身が対象者用端末画面をタップし、回答を選択することができる。両端末が同期して、回答が調査員用端末に記録され、同時に対象者は自身の回答を対象者用端末で視認することもできる。

個人収入と世帯収入に関わる質問では、調査員による口頭質問を行わずに、対象者自身が端末操作により回答を入力し、調査員側に回答が知られない配慮を行った。

### ■調査項目

調査主題である「格差」「社会意識」に関わる 57 項目と、対象者の基本属性約 50 項目等を含む約 110 の質問項目で構成される。それらの内訳と狙いについては第 2 章を参照。

### ■対象者への謝礼

対象者への謝礼として QUO カード 500 円相当を、調査終了時に手渡した。

### ■調査実施委託機関

株式会社日本リサーチセンターに調査の実施を委託した。

なお 450 地点のうち、33 地点については、SSP プロジェクト側から推薦した調査員（学生・大学院生・研究者）が調査員を務めた。

### ■調査期間および各期の概要

調査を３期に分けて実施した。225 の自治体を一つの単位として、多くの場合同一の調査員が同じ自治体内の 2 地点を（1 期目に第 1 地点、2 期目に第 2 地点のように）担当した。当初計画としては、225 地点 4,500 名を 1 期分とし、2015 年 1 月 24 日から 3 月 8 日までの期間を 2 期に分けて活動する計画であったが、1 期・2 期の活動を通じて回収数が目標回収数に到達しなかったため、各期の調査を予定より 1 週間延長したほか、2015 年 5 月 16 日～6 月 21 日までの期間に、1・2 期の未決着対象者に対して第 3 期の調査活動を行った（追加調査）。

【第 1 期調査】対象地点・標本サイズ：225 地点・4,500 名

依頼葉書投函　 2015 年 1 月 20 日（火）

第 1 期実査　　2015 年 1 月 24 日（土）～2 月 15 日（日）

【第 2 期調査】対象地点・標本サイズ：225 地点・4,500 名

依頼葉書投函　2015 年 2 月 17 日（火）

第 2 期実査　　2015 年 2 月 21 日（土）～3 月 15 日（日）

【第 3 期調査（追加調査）】調査対象として、以下の 3 対象（総計 2,423 名）を選定した。

① 1 期・2 期の訪問活動で残留した「長期不在」「短期不在」等の対象者

② 軽微な「家族拒否」または「本人拒否」の対象者

③ 本来対象外とすべき標本（拘置所官舎等）を抽出していた 2 地点 20 名の再抽出標本

上記 3 対象総計 2,423 名に対して、主に次のアとイ 2 通りの調査方法にて実査を行った。（）内は該当する方法と対象の内訳である。

〈実施方法ア〉地点での再訪問調査（計 630 名）

実施対象：①不在不能対象者（地点で 5 名以上残留地点のみ）（605 名）

②軽微な「家族拒否」または「本人拒否」の対象者（5 名）

③再抽出標本 20 名

〈実施方法イ〉調査協力意向を郵送調査（ご意向アンケート）にて確認し、応諾者に対して訪問（計 1,793 名）

実施対象：①一時不在不能対象者（地点で 5 名未満残留地点）（514 名）

②軽微な「家族拒否」または「本人拒否」の対象者（1,279 名）

〈アとイの実施時期〉

依頼状類投函 2015 年 5 月 5 日（火）、または 5 月 12 日（火）

実査　　2015 年 5 月 16 日（土）～6 月 21 日（日）

〈実施方法ウ〉上記のほかに、3 期訪問対象としていなかった計 6 名（5 地点）の対象に対して、3 期訪問期間中に訪問依頼による捕捉を行った。

## ３．回収結果

### 3-1　回収結果と回収率

**■回収結果と調査不能理由**

調査実施の結果は、表 2 のようにまとめられる。表中の A～F の大分類は本調査における便宜的な区分である。調査不能の最も主な理由は拒否（3,631 名）であり、調査不能の合計（4,734 名）のうちの 76.7%を占める。

**■回収率**

本調査では、表の大区分 A.無効計画サンプルを計画標本から除外したものを有効計画標本とし、「回収率＝完了数／有効計画標本」と定義する。

回収率は、3,575／（9,000－691）＝3,575／8,309＝43.0%である。

表 2　回収結果

| 大区分 | 完了・不能コードと内容（小区分） | 大区分度数 | 小区分度数 | （大区分%）小区分% |
|---|---|---|---|---|
| A.無効計画サンプル | | 691 | | (7.6%) |
| | 1 住所不明 | | 172 | 1.9% |
| | 2 転居 | | 516 | 5.7% |
| | 3 対象者死亡 | | 2 | 0.0% |
| | 4 抽出ミスによる対象外 | | 1 | 0.0% |
| 有効計画サンプル(B～Fの計) | | 8309 | | (92.3%) |
| B.接触困難対象 | | 285 | | (3.1%) |
| | 5 病気・障害 | | 98 | 1.1% |
| | 6 長期不在 | | 187 | 2.1% |
| C.短期不在 | | 787 | | (8.7%) |
| | 7 短期不在(家族等と話した) | | 126 | 1.4% |
| | 8 短期不在(誰とも話さなかった) | | 661 | 7.3% |
| D.拒否 | | 3631 | | (40.3%) |
| | 9 家族拒否 | | 1232 | 13.7% |
| | 10 本人拒否(コンピュータ使用が理由) | | 93 | 1.0% |
| | 11 本人拒否(その他の理由) | | 2306 | 25.6% |
| E.その他の不能 | | 31 | | (0.3%) |
| | 12 その他 | | 31 | 0.3% |
| 調査不能(B～E)の計 | | 4734 | | (52.6%) |
| F.完了 | | 3575 | | (39.7%) |
| | 13 完了（有効回収） | | 3575 | 39.7% |
| 総計画サンプル | | 9000 | 9000 | 100.0% |

### 3-2　属性別の回収状況

表 3 には基本属性別の回収状況をまとめた。取り上げた属性は A. 性×年齢、 B. 標本設計時の層（都市規模）、C. 地方、である。回収率は、右端の有効計画サンプルに対するものである。他の社会調査の例と同様に、若年層ほど、また都市規模が大きい地域ほど、回収率が低い傾向が認められる。

表 3　属性別の回収状況

A.性×年齢別

| | 不能 | 回収 | 回収率 | 合計*1 |
|---|---|---|---|---|
| **女性** | **2191** | **1932** | **46.9%** | **4123** |
| 20代 | 390 | 263 | 40.3% | 653 |
| 30代 | 513 | 378 | 42.4% | 891 |
| 40代 | 574 | 502 | 46.7% | 1076 |
| 50代 | 451 | 470 | 51.0% | 921 |
| 60代 | 263 | 319 | 54.8% | 582 |
| **男性** | **2543** | **1643** | **39.2%** | **4186** |
| 20代 | 433 | 213 | 33.0% | 646 |
| 30代 | 604 | 343 | 36.2% | 947 |
| 40代 | 668 | 407 | 37.9% | 1075 |
| 50代 | 558 | 413 | 42.5% | 971 |
| 60代 | 280 | 267 | 48.8% | 547 |
| **男女計** | **4734** | **3575** | **43.0%** | **8309** |
| 20代 | 823 | 476 | 36.6% | 1299 |
| 30代 | 1117 | 721 | 39.2% | 1838 |
| 40代 | 1242 | 909 | 42.3% | 2151 |
| 50代 | 1009 | 883 | 46.7% | 1892 |
| 60代 | 543 | 586 | 51.9% | 1129 |

B.都市規模別

| | 不能 | 回収 | 回収率 | 合計*1 |
|---|---|---|---|---|
| 1.区部(政令指定都市,東京23区) | 1508 | 897 | 37.3% | 2405 |
| 2.人口20万人以上の市 | 1215 | 852 | 41.2% | 2067 |
| 3.人口10万人以上20万人未満の市 | 807 | 639 | 44.2% | 1446 |
| 4.人口10万人未満の市 | 837 | 855 | 50.5% | 1692 |
| 5.郡部 | 367 | 332 | 47.5% | 699 |
| **全国計** | **4734** | **3575** | **0.43026** | **8309** |

C.地方別

| | 不能 | 回収 | 回収率 | 合計*1 |
|---|---|---|---|---|
| 北海道・東北 | 503 | 480 | 48.8% | 983 |
| 関東 | 1878 | 1050 | 35.9% | 2928 |
| 中部 | 716 | 683 | 48.8% | 1399 |
| 近畿 | 792 | 587 | 42.6% | 1379 |
| 中国・四国 | 379 | 358 | 48.6% | 737 |
| 九州・沖縄 | 466 | 417 | 47.2% | 883 |
| **全国計** | **4734** | **3575** | **0.43026** | **8309** |

表注 1）右端の合計欄は有効計画サンプルを表す。

# 第 1 回 SSP 調査の特性

吉川 徹
（大阪大学）

## １．計量社会学的観点からの設計

### 1-1　質問項目設計

第 1 回 SSP 調査は現代日本社会全体の主観のあり方が主題とする。その第一の特長は、前章で示されているとおり、通常の世論調査よりもはるかに厳密かつ精細な調査設計がなされていることである。加えて、多変量解析や時点間比較分析の実質的な手続きを考慮して、質問項目を洗練していることも特長といえる。以下では、そうした計量社会学的観点から本調査のデザインを概説する。

本調査の質問項目数はおおよそ 110 項目ある。これは通常の電話調査などの数倍の分量であり、訪問面接調査で獲得する情報量としてはかなり多く、回答にはおおよそ 30～60 分を要した。

調査主題である社会意識項目については、現代の重要トピックである格差（階層意識）、満足・幸福（主観的ウェルビーイング）、絆と社会関係、労働意識、ワークライフバランス、ジェンダー、子育て・教育、社会参加活動、政治参加、支持政党、消費文化などから、57 項目が採用された。これらは「社会の心」と社会のしくみのかかわりをみる因果分析において、説明される側（従属変数）におかれる。

このうちの 25 項目については、この先で述べるとおり、1995 年に実施された大規模な個別訪問全国調査との時点比較設計をとっている。そのほかの 32 項目のほとんどは、SSP プロジェクト内で実施した調査（SSP-P2010、SSP-I2010、SSP-W2012、SSP-W2013-1st、SSP-W2013-2nd）に導入されて、分布形状の確認、変数間の関連構造の予備分析を経て有用性を見極めたものである。これらは質問文と回答選択肢のワーディングを生かして単一指標として解析されるが、類似した項目をあえて 3 項目以上尋ねることで合成尺度の作成を視野に入れている項目バッテリーもある。

他方で本調査は、社会的地位や人生、家族などについての対象者のプロフィール変数を通常の世論調査よりも数多く（約 50 項目）尋ねている。これらのうちでも対象者学歴（教育年数、専攻）、職業（具体的な職業名、産業、従業上の地位、役職の有無、職業的自律性、継続年数、転職回数など）、経済力（個人収入、世帯収入、資産など）、家庭の階層的地位（配偶者や父母の学歴、15 歳時の家庭の状況などの階層変数）については、日本の代表的な階層調査である SSM 調査プロジェクトで培われてきた項目を踏襲して、詳細に尋ねている。この点で 2015 年第 1 回 SSP 調査は、階層調査としての特性を兼ね備えたものだと

いうことができる。またデータセットには、年齢、性別、居住地域の人口規模などのデモグラフィックな属性に加え、未既婚、家族人数、近隣との関係などの項目も含まれる。これらの対象者の社会的属性変数は、社会意識の形成構造をみるための要因（独立変数）として用いられる。

### 1-2　時点間比較

社会意識についての社会学的調査では、日本人の「社会の心」（社会意識）の動態を 10～30 年の長期的視座で検討することが重要になる。この点について 2015 年第 1 回 SSP 調査では、とくに 1995 年を時点間比較の準拠点に定めた設計がなされている。1995 年には、戦後日本社会で 10 年のインターバルで継続されている 1995 年第 5 回 SSM 調査が実施されている。その有効回答のほぼ半数を占める B 調査票は、他の SSM 調査データと少し異なる設計をもっている。階層変数の基幹である職業にかんして、通常は大きなウェイトを占める職歴が尋ねられておらず、現職の情報を中心に最小限の調査項目に留められているのだ。そしてその分のスペースは、多様な階層意識項目の聞き取りに割かれている。これは 1995 年第 5 回 SSM 調査 B 票が、階層意識の解析に重点をおいて設計されたものであったためである。2015 年第 1 回 SSP 調査では、意識項目のうちの 25 項目については、この調査と同一のワーディングとし、調査票設計も踏襲することで、SSM データとの比較可能性を保つことにした。つまり、本調査ではバブル経済後から現在までの 20 年間の社会意識の動態を把握するというねらいが定められているのだ。戦後の拡大期を過ぎた平成の日本社会は、停滞のなかでの繊細な変化を経験し、「失われた 20 年」などと評されることがある。

### 1-3　若年層への着目

現代日本の調査計量社会学の目下の大きな課題のひとつとして、若年層（20 歳代・30 歳代）の動向の把握があげられる。1980～90 年代生まれの生年層は、そもそも人口ピラミッドにおける比率が小さい。加えて、長期・短期の不在が多いライフステージにあるため、対象者と接触することも容易ではない。接触できた場合でも、多忙などを理由に調査への協力の同意が得られないことも少なくない。そのため、この生年層について十分な代表性を確保し、動向を精緻に分析できる社会学的調査データは今のところ多くはない。しかし、晩婚化や少子化、雇用の流動化や非正規化などの雇用不安、育児や次世代教育戦略などのような現代的課題は、まさにこの生年層を当事者としている。加えて、この先の日本社会を長期にわたり支えていくことになるこの生年世代について、潜在する社会意識の実態を知ることは、日本社会の将来を展望する手がかりともなる。

そこで 2015 年第 1 回 SSP 調査では、従来とは異なる設計戦略をとることにした。それはいわゆる「団塊の世代」（1946～49 生年）以上の年齢層をあえて計画サンプルに含めず、

より若い「現役」の世代に多くの計画サンプルを割り当てるという戦略である。

超高齢社会を迎えた日本社会では、65 歳以上の高齢人口（おおよそ「団塊の世代」以上にあたる）は、約 3,300 万人と総人口約 1 億 2,708 万人の 26.0%（内閣府 2015）を占め、20 歳以上の人口約 1 億 124 万人に対しては 32.6%にも及ぶ （総務省統計局 2015）。この高比率のため、日本社会全体を視野に入れた近年の社会調査では、計画サンプルの 3 割程度を高齢人口が占めている。しかもこの層は在宅率が高く、他世代よりも調査に協力的なので回収率が高くなる。その結果、有効回収サンプルの 4 割ほどを高齢者が占めるというのが現代日本の多くの社会調査の現状である。

しかし、この生年層の大半はすでに現職をもっておらず、子育ても終えて、消費や社会参加活動も徐々に非活発化していく人生局面にある。つまり産業経済セクター（狭い意味での階層社会）から距離をおいた地位にあり、育児や女性の就労、ワークライフバランスなどの現代的課題についても、当事者として全面的にかかわっているとは必ずしもいえない。さらにこの先の時間進行により、徐々に総数を減らしつつ、社会のなかでのプレゼンスが縮小していくことも必然とみなけれればならない。

翻って、調査計量の観点から再考するとき、「団塊の世代」は 1970 年代以降の日本の社会調査において、常に最大のボリューム層であり続けた。70 年代の調査データはかれらの 20 代、80 年代の調査データは 30 代、90 年代の調査データは 40 代、2000 年代の調査データは 50 代の実態を大きく反映するというかたちで、そもそも同年人口の多いこの生年世代は時系列データの動向を少なからず左右してきたのだ。それゆえに、かれらの人生のあゆみについては、わたしたちはすでに十分な情報をもっている。しかし、かれらより若いこんにちの「現役」世代については、見過ごされてきた部分や、十分な情報を得ていない部分がある。本調査はそこにねらいを定めているということができる。

### 1-4　データが捉えた人口構成

上述の諸点を、実際の調査データから確認しよう。図 1 は 2015 年第 1 回 SSP 調査の計画サンプル（2010 年国勢調査集計から 1950～94 年生まれの男女を抜き出したもの）の人口構成である。上述のとおり、ここには「団塊の世代」より上の生年が含まれていないため、最も人口の多いボリューム層が「団塊ジュニア」（1970 年代後半生年）へと入れ替わっている。そしてグラフ下部においては、1980 年代以降の若年世代の少子化による人口規模の縮小がみられる。そのため、本調査の計画サンプルの「人口ピラミッド」のおおよその形状はつぼ型となっている。

そして図 2 が、2015 年第 1 回 SSP 調査の有効回収サンプルの年齢性別構成である。この図 2 こそが、本調査のデータのかたちを描き出したものに他ならない。回収率 43.0%の本調査では、有効回収が難しい若年層が少なからず削られてはいるものの、有効回収サンプルにおいても、計画サンプルのつぼ型のプロポーションはおよそ再現されている。

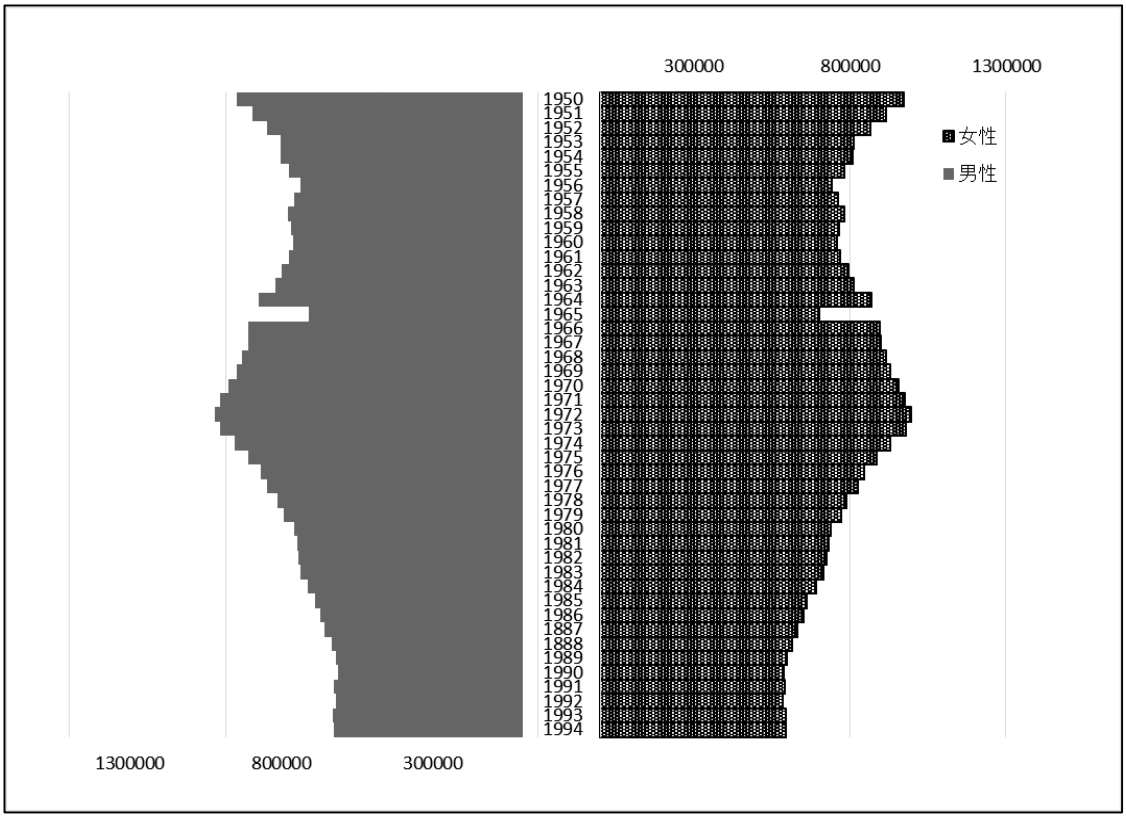



図 1　2015 年の人口構成　（2010 年国勢調査）

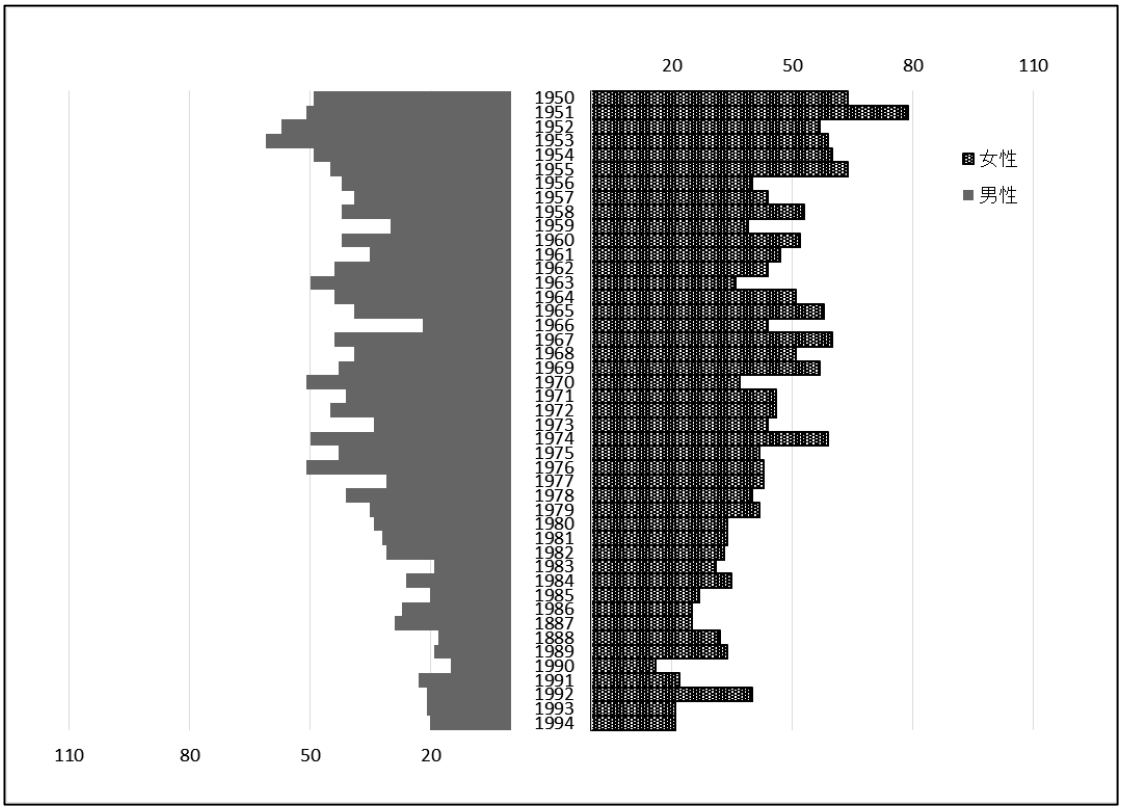



図 2　2015 年第 1 回 SSP 調査有効回収サンプル

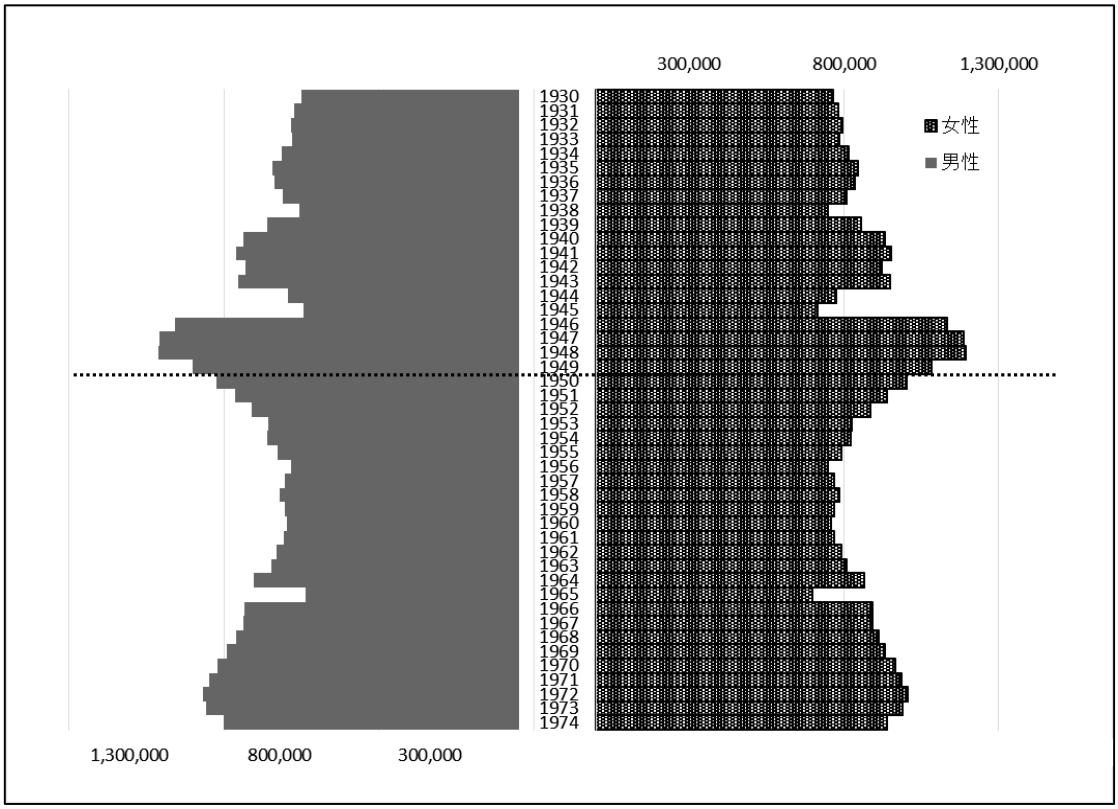



図 3　1995 年の人口構成　（1990 年国勢調査）

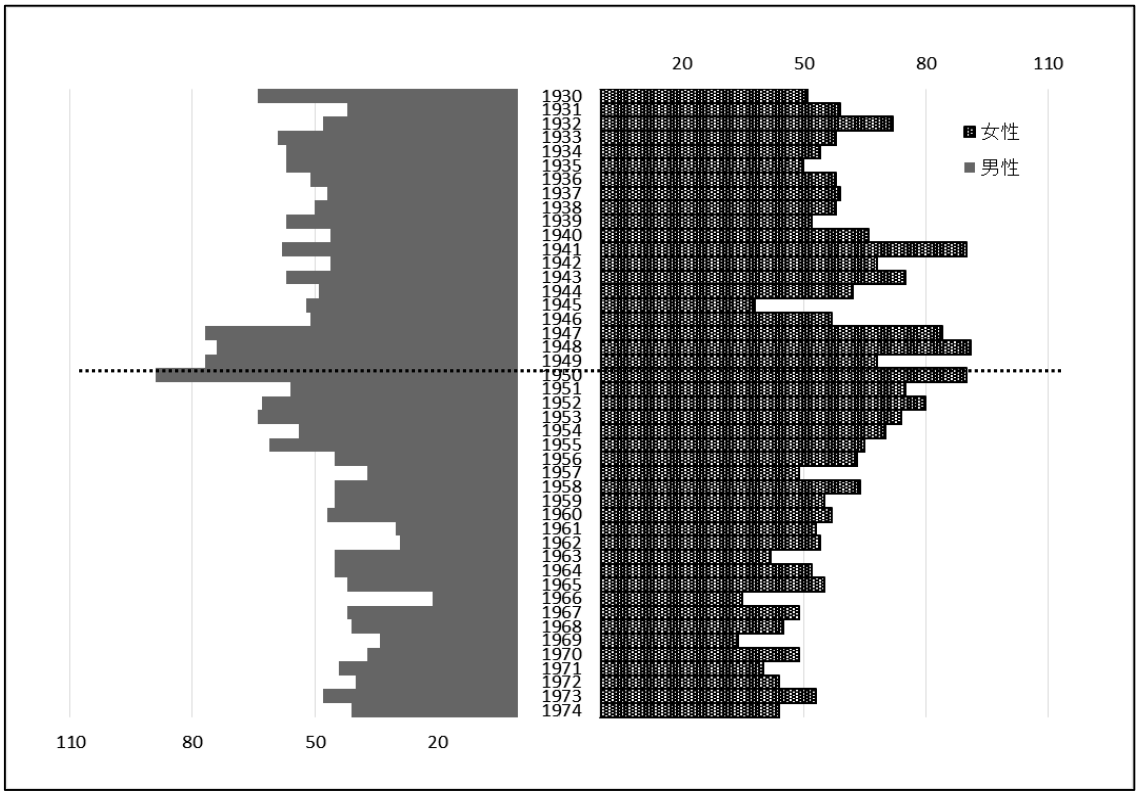



図 4　1995 年 SSM 調査 B 票有効回収サンプル

図 3 は時点間比較の準拠点に定めた 1995 年の人口構成（20～64 歳の部分）である。そして図 4 は第 5 回 SSM 調査 B 票の有効回収サンプルの性別年齢構成である（回収率 67.1%）。図 3 上部の 60 歳代は「昭和一桁世代」にあたる。そして「団塊の世代」（1946～48 生年）が計画サンプルのほぼ中央に位置しており、大きな比率を占めていることがわかる。他方、先にみた 2015 年第 1 回 SSP 調査では、図 3 図 4 の点線から上の生年世代が対象から外れることになる。また図 3 では、最若年層に同年人口の多い「団塊ジュニア世代」が加わり始めたことを確認できる。そのため全体の形状は台形もしくはスクエア状となっており、生年世代ごとの人口の偏りが比較的少ない時代であったとみることができる。なおデータの特性を示す図 4 をみると、若年層の回収率が低いために、1995 年第 5 回 SSM 調査が再現する「人口ピラミッド」は、緩やかに先細ったつぼ型になっている。

## ２．実査方法論上の設計

### 2-1 回収率と非標本誤差

本調査実施上の課題は、回収データがもつ歪み（非標本誤差）にどう対処するかということであった。計画サンプルと有効回収サンプルの「人口ピラミッド」の形状比較からも端的にわかるとおり、回収率が低いことはデータに統計学的には解決しえない歪みを生じさせる。

しかし現代日本社会のデータについては、実査メソッド （本調査の場合、個別訪問面接法） の調査時点間の斉一性を厳密に維持すると、後発の調査において回収率が低下してしまう。実際 2015 年第 1 回 SSP 調査は、同時期に実施された他の個別訪問面接調査とほぼ同じ回収率を得ているのだが、1995 年第 5 回 SSM 調査と比べると約 24 ポイント低い。しかし回収率の高い実査メソッド（例えば郵送法や留め置き法）に切り替えてしまうと、データの比較可能性が大きく損なわれる。戦後日本の継続社会調査は、最も精度が高いとされる個別訪問面接法を維持しつつ時点間比較調査を蓄積してきたのだが、60 年前に確立された方法を継続し、同質の有効回収データを得ることは困難になりつつある。

なお本調査については、計画サンプルの構成に基づいて、年齢、性別、対象地域についての回収率のウェイト補正を行った分析を試みる予定である。ただし、この方法によってバイアスを完全に調整できるわけではない。この問題には、結局は実査局面において調査主体ができるだけ高い回収率を目指して努力するというほかに、対処法を見出せないのが現状である。

### 2-2 CAPI 法の実査への導入

他方で、実査についてこの数年指摘されているのは、従来型の紙と鉛筆による面接調査（paper and pencil interview）からの方法論的な革新の必要性である。戦後日本で確立された個別訪問面接調査では、提示カードあるいは回答票と呼ばれる回答選択肢を書いた小型

の冊子を対象者に示しつつ、インストラクションを受けた調査員が、調査票原票の指定された箇所に筆記具で回答を記入していく（吉川 2014）。

この従来のアナログ技法では、聞き取りミス、記入ミス、分岐質問の進行の間違いなどが生じる可能性があった。さらに、回収された回答の一部は事後にコーディング、クリーニング、ロジカルチェックを経て数値データ化される。このプロセスにおいてもデータには調査対象者や調査員などの実査当事者とは別の主体の手が加えられる。入力のミスも皆無とはいえない。これらがどれほど生じ、真の値を歪めていたかは一概に確定できないが、従来法では回収データにこの種の誤差が含まれることについて、一定の留意が必要であった。

この問題に取り組むために、SSP プロジェクトでは調査対象者と調査員が個別訪問面接時に、直接電子データを入力する CAPI（computer assisted personal interview）法を独自に開発して 2015 年第 1 回 SSP 調査に導入した。システムの仕様の詳細は別稿に譲るが、これはタブレット PC（Android 5.0 OS）上で、調査対象者の情報と訪問の経緯を電子的に管理しつつ、面接調査の回答を実査地点で電子入力するものである（杉野・俵・轟 2015）。その際、面接方法については、従来なされていたコミュニケーションの実質を新たなデバイスで再現することに努めた。具体的には、10 インチのタブレット PC を調査員が回答を入力する装置とし、対象者に対しては従来の提示カード冊子に代えて、面接質問の進行と同期しつつ回答選択肢を表示する 7 インチのタブレットを手渡すという方法を導入した。

これらは本プロジェクト内において、システム構築企業である MS ハッカーズと、調査実施機関である日本リサーチセンターとの共同で開発したものである。管見のかぎり、タブレット PC を用いた CAPI 法による 225 地点という大規模な実査展開は、世界的に例がない。

このシステムには数多くの利点がある。例えば対象者名簿と回答を電子的に紐付けることにより、調査票の取り違えをほぼ皆無にできる。質問の過程で生じる質問の分岐（例えば未婚対象者に対しては、配偶者の学歴や職業をスキップする）についても、あらかじめアルゴリズムを指定しているために、重複や矛盾なく進行することができる。また GPS 情報と時間情報を利用できるため、事後の回答の改変やメイキングなども抑止できる。加えて、従来は大量の冊子などを携行していた調査員の負担も減らすことができる。

実査メソッドを PAPI 法から CAPI 法に改めたことによる影響については、この先で詳細に検討していく必要がある。しかし現時点までの基礎的な分析では、５年前に同様の質問項目について PAPI 法で実施された SSP-I2010 調査などと比較して、有効回収データに目立った特性の違いは見出されていない。あえて挙げておくべき発見は、今回の CAPI 法では「わからない」「拒否」を含めた無回答による項目ごとの欠損データの発生数が、従来法の半分から 5 分の 1 程度にまで減少しているという、想定外の結果が得られたことである。

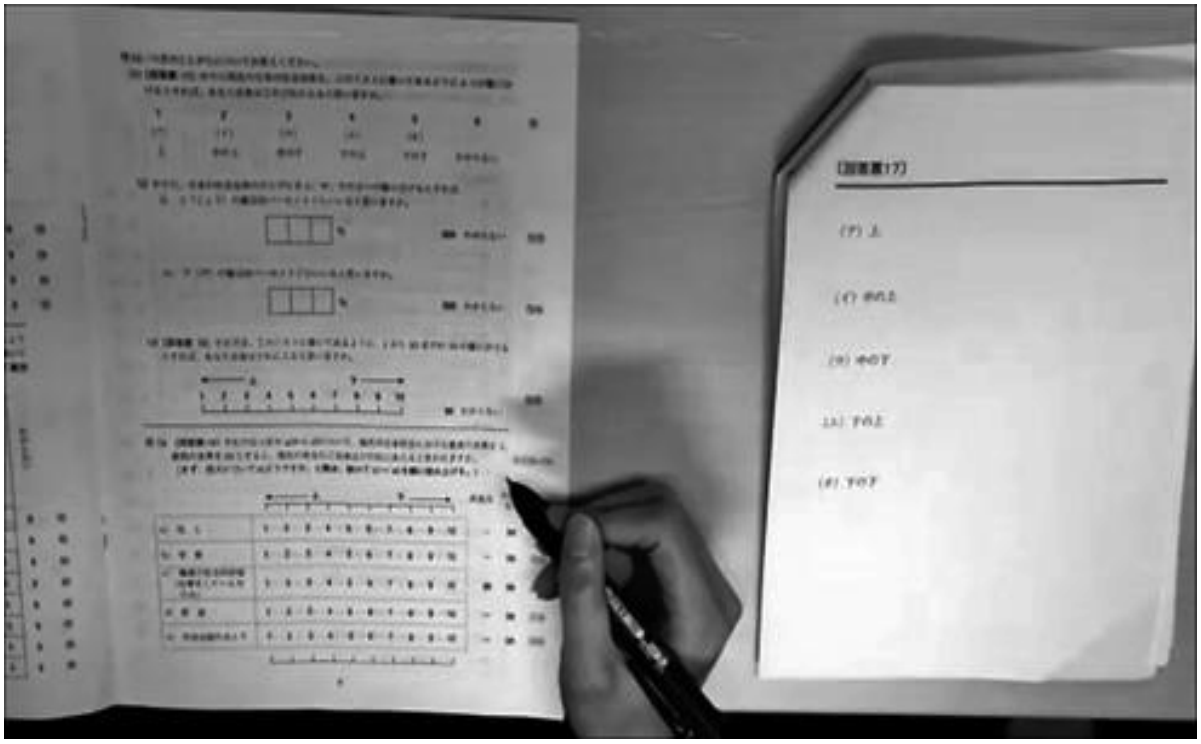



図 5　従来型の PAPI 法の調査票（左）と提示カード（右）

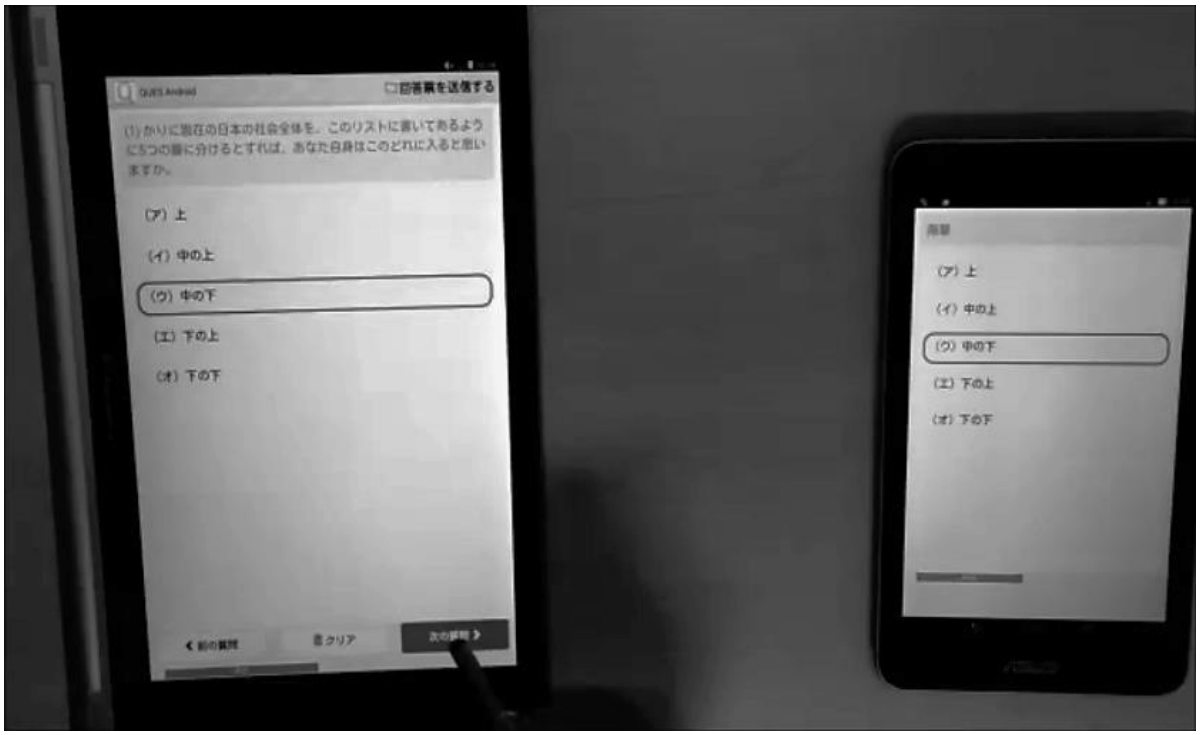



図 6　CAPI 法による調査結果の入力（左）と提示機材の同期表示（右）

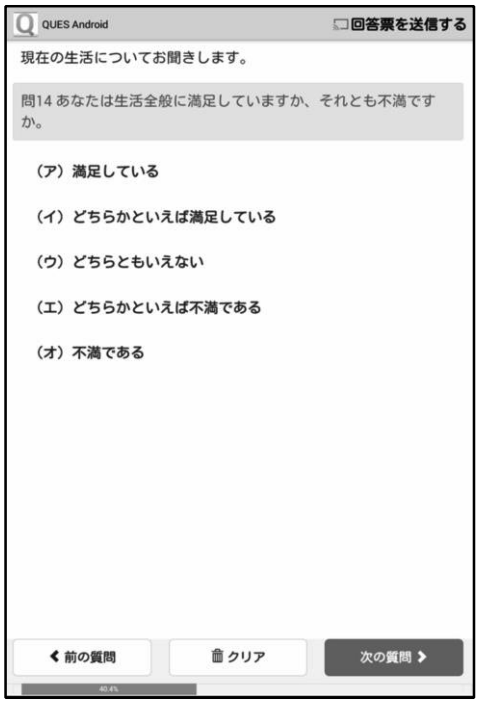



図 7　CAPI システムの回答画面の例

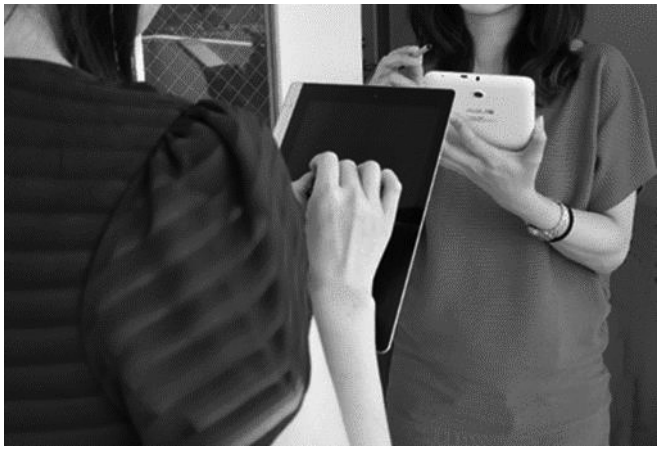


図 8　調査員と回答者の操作場面

### 2-3 職業小分類のプルダウン選択

実査メソッドを CAPI 化するにあたり検討課題となったのは、職業的地位の回答をいかにして得るかということであった。本調査は階層構造自体の解明を目的とするものではないが、対象者の現在の職業的地位は、社会意識のあり方を左右するので、階層調査と同様の精度で、職業的地位の情報を得る必要がある。もっとも、階層調査における「あなたは現在どのようなお仕事をなさっていますか」という問いに対する回答で期待されている職業名（職業小分類）は、対象者が日常用いている言葉とはかなり異なったものであり、しかも高い測定精度が求められる。

従来の階層調査においては、回答者に具体的な職業の内容を尋ね、調査員がそれを回答欄に記入し、その情報を計量社会学者が厳密なルールを決めてコーディングしていた（職業コーディング）。しかし、タブレット PC は実査現場での詳細なテキスト記述には不向きな機材であるし、自由回答によって情報を得て、それをアフターコーディングするのでは、迅速で直接的な情報処理を可能にする CAPI 法のメリットを生かせない。

そこで本調査では、対象者が現在就いている職業（職業小分類）を実査現場で選択する方式をとることにした。その際、職業コードとして用いたのは国際労働機関（ILO）が策定している ISCO08 という国際標準職業分類（the International Standard Classification of Occupations）である（総務省 2016）。ISCO08 は 619 個の小分類からなるが、大分類、中分類、小分類の入れ子構造がきわめて体系的に形作られている。よって、自分の現在の職業に該当するカテゴリを大きな分類から細かな分類へと順次絞り込んでいくことで、自分の

現在の職業名を選ぶことが可能になる。本調査においては、MS ハッカーズ社の技術的な支援を受けながら web モニター対象の予備調査を重ね、3～4 段階のプルダウン型の選択肢の繰り返しで職業を選択できる回答システムを開発することに成功した。この方法を、わたしたちは ISCO08 プルダウン回答システムと呼んでいる。

なおタブレット上には、プルダウンでは納得のいく名称を選択できないという場合のために、職業の自由回答・補足回答欄を設け、調査員による手書きメモも併用した。実際は、ほぼ 9 割の回答者が、ISCO プルダウン回答システムにより職業名を自ら選択している。若干の事後クリーニングを行ってはいるが、本調査では、基本的に実査現場で対象者自身が選択した職業小分類を職業的地位の指標としている。

ISCO08 がもつ計量操作上の利点は、日本の社会学で用いられている SSM 小分類との対応が明らかで、コードの変換が可能だという点である。また、より目の粗い大分類や中分類にも欠落なく回答を振り分けることができる。計量社会意識論においては、職業的地位は EGP 階級分類や SSM 職業分類などの 6～8 個の職業カテゴリとして解析される場合が大半なので、細かな職業境界の識別が確実ではなくても、現在の職業的地位を従来と同様に変数化することが可能になった。ISCO プルダウン回答システムには、今後 web 調査における利用などの多くの可能性が期待される。ただし職業小分類レベルでの精度については、さらなる検証が必要であるだろう。

## ３．結語

ここでは計量社会学的な観点から 2015 年第 1 回 SSP 調査の設計理念を解説してきた。本報告書のこの先の各章が示すとおり、基礎分析を終えた現段階においては、調査データは設計を反映した妥当な結果を描き出している。私的な印象を述べるならば、本調査データは、これまでに蓄積されてきた日本の継続社会調査が示すトレンドの延長線上で、こんにちの緩やかだが新しい変化を測り出しているようにみえる。さらなる解析結果に期待をもつことができるだろう。

### 付記

1995 年 SSM 調査の利用にあたっては 2015 年 SSM 調査管理委員会の許可を得た。

### 文献

吉川徹，2014，『現代日本の「社会の心」――計量社会意識論』有斐閣.

内閣府，2015，『平成 27 年版高齢社会白書』

総務省統計局，2015，『人口推計』，総務省統計局ホームページ，（2016 年 2 月 26 日閲覧，http://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm）.

総務省，2016，「国際標準職業分類（ISCO）2008 年改定版（仮訳）」，総務省ホームページ，

（2016 年 2 月 26 日閲覧，http://www.soumu.go.jp/main_content/000397965.pdf）.
杉野勇・俵希實・轟亮，2015,「モード比較の解くべき課題」『理論と方法』 30（2）： 253-72.

# ２　基礎分析

# 社会意識の新しい生年世代差

## ―若年層に閉塞感の兆し―

吉川 徹
（大阪大学）

### １．社会意識の生年世代差

2015 年第 1 回 SSP 調査の基礎的な解析の過程で、目立った傾向のひとつは生年世代による意識の違いであった。しかもそれは、わたしたちがよく知る 20 世紀以来の枠組みを越えた新たな傾向を示唆するものであった。これまで社会意識の生年世代差を考えるときには、社会変動に起因する直線的な時代のベクトル、すなわち伝統・保守性から近代・革新性に向かう直線的な変化を考えるのが常であった。すなわち、生まれの旧い高年世代は古い考え方を支持し、若年世代は新しい考え方をもつという「傾斜」がほとんど自明の前提となっていたのだ。

しかし、本調査は、昭和の高度経済成長期を支えた生年世代を対象サンプルに含めておらず、現代の若年層に重点をおく設計がなされている。それゆえに本調査における生年世代差は、現在の壮年層（1950～60 生年）と若年層（1970～90 生年）の対比を描き出すものであるという点で新しい。そして、そこに注目すべき社会意識の新たな兆候がみいだされているのだ。本稿では、これらのうちで特徴的ないくつかの結果を、シンプルな生年世代と社会意識のクロス集計分析によって示し、そこにあらわれた傾向を総括するかたちで、最新の社会意識の時代変化の兆しを指摘する。

現代日本社会において、若年層の生活や意識の状況が不安定で閉塞したものになっていることは、近年多くの論者が指摘するところとなっている。実際に 2015 年第 1 回 SSP 調査からは、その実像を知る手がかりを見出すことができる。

まず表 1 と図 1、および表 2 と図 2 は、そうした諸説において重要な論点とされる（若い世代の）労働への構えをみたものである。質問項目は「職場では自分の働きぶりが認められていると思うか」、「自分の仕事の内容やペースを自分で決めることができるか」という問いであり、賛否の 4 カテゴリの選択肢（そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わない）による回答が求められている。表とグラフからはっきりわかるのは、年齢が若くなるほど職場で働きぶりが認められておらず、仕事の自己裁量度が低いと考えているという傾向である。この事実は、現在と未来の日本社会を就労によって長く支える若年労働者が仕事から疎外されているという実感をもっていることを示している。

表 1　生年世代と「職場では自分の働きぶりが認められている」の関係

| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代 | 度数 | 75 | 200 | 51 | 7 | 333 |
| | 行% | 22.5% | 60.1% | 15.3% | 2.1% | 100.0% |
| 30 歳代 | 度数 | 161 | 370 | 74 | 15 | 620 |
| | 行% | 26.0% | 59.7% | 11.9% | 2.4% | 100.0% |
| 40 歳代 | 度数 | 269 | 440 | 79 | 7 | 795 |
| | 行% | 33.8% | 55.3% | 9.9% | 0.9% | 100.0% |
| 50 歳代 | 度数 | 331 | 351 | 60 | 9 | 751 |
| | 行% | 44.1% | 46.7% | 8.0% | 1.2% | 100.0% |
| 60 歳代 | 度数 | 249 | 138 | 14 | 9 | 410 |
| | 行% | 60.7% | 33.7% | 3.4% | 2.2% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 1,085 | 1,499 | 278 | 47 | 2,909 |
| | 行% | 37.3% | 51.5% | 9.6% | 1.6% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.150

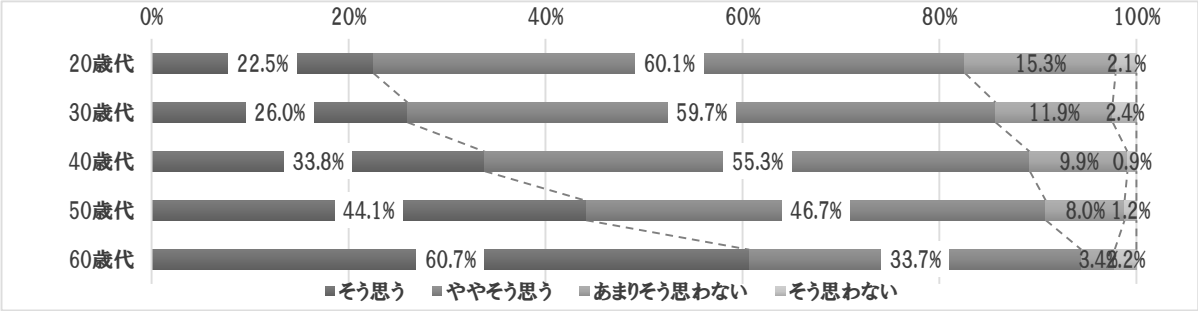



図 1　「職場では自分の働きぶりが認められている」の年齢差

表 2　生年世代と「自分の仕事の内容やペースを自分で決めることができる」の関係

| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代 | 度数 | 58 | 175 | 81 | 20 | 334 |
| | 行% | 17.4% | 52.4% | 24.3% | 6.0% | 100.0% |
| 30 歳代 | 度数 | 140 | 323 | 124 | 32 | 619 |
| | 行% | 22.6% | 52.2% | 20.0% | 5.2% | 100.0% |
| 40 歳代 | 度数 | 210 | 395 | 143 | 47 | 795 |
| | 行% | 26.4% | 49.7% | 18.0% | 5.9% | 100.0% |
| 50 歳代 | 度数 | 274 | 330 | 103 | 44 | 751 |
| | 行% | 36.5% | 43.9% | 13.7% | 5.9% | 100.0% |
| 60 歳代 | 度数 | 199 | 147 | 46 | 20 | 412 |
| | 行% | 48.3% | 35.7% | 11.2% | 4.9% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 881 | 1,370 | 497 | 163 | 2,911 |
| | 行% | 30.3% | 47.1% | 17.1% | 5.6% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.125

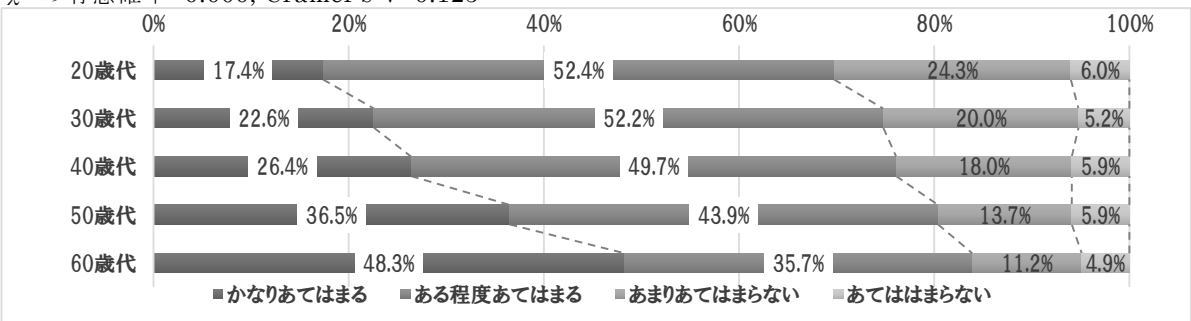



図 2　「自分の仕事の内容やペースを自分で決めることができる」の年齢差

表 3　生年世代と「まごまごしていると他人に追い越されそうな不安を感じる」の関係

| | | よくあてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代 | 度数 | 44 | 144 | 84 | 150 | 52 | 474 |
| | 行% | 9.3% | 30.4% | 17.7% | 31.6% | 11.0% | 100.0% |
| 30 歳代 | 度数 | 22 | 131 | 174 | 278 | 110 | 715 |
| | 行% | 3.1% | 18.3% | 24.3% | 38.9% | 15.4% | 100.0% |
| 40 歳代 | 度数 | 34 | 150 | 200 | 381 | 144 | 909 |
| | 行% | 3.7% | 16.5% | 22.0% | 41.9% | 15.8% | 100.0% |
| 50 歳代 | 度数 | 15 | 105 | 177 | 406 | 180 | 883 |
| | 行% | 1.7% | 11.9% | 20.0% | 46.0% | 20.4% | 100.0% |
| 60 歳代 | 度数 | 11 | 46 | 97 | 252 | 179 | 585 |
| | 行% | 1.9% | 7.9% | 16.6% | 43.1% | 30.6% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 126 | 576 | 732 | 1,467 | 665 | 3,566 |
| | 行% | 3.5% | 16.2% | 20.5% | 41.1% | 18.6% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.133

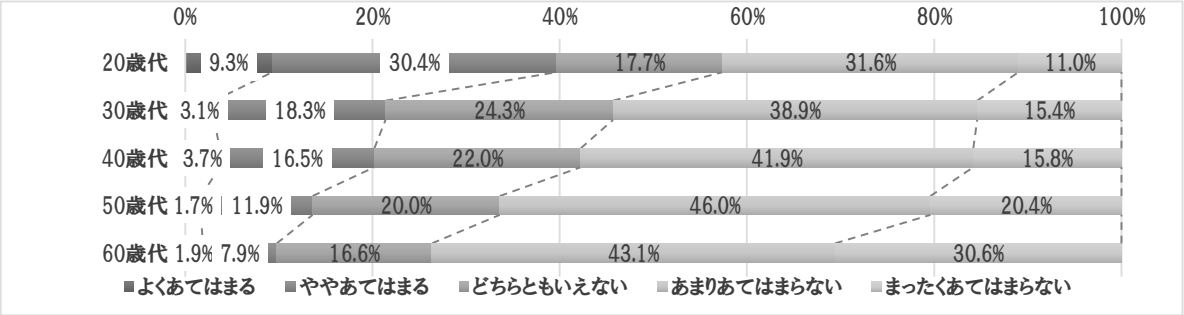



図 3　「まごまごしていると他人に追い越されそうな不安を感じる」の年齢差

表 4　生年世代と「自分がこれまで獲得したものを失ってしまう不安を感じる」の関係

| | | よくあてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代 | 度数 | 25 | 101 | 91 | 188 | 70 | 475 |
| | 行% | 5.3% | 21.3% | 19.2% | 39.6% | 14.7% | 100.0% |
| 30 歳代 | 度数 | 14 | 101 | 169 | 300 | 133 | 717 |
| | 行% | 2.0% | 14.1% | 23.6% | 41.8% | 18.5% | 100.0% |
| 40 歳代 | 度数 | 23 | 126 | 199 | 388 | 171 | 907 |
| | 行% | 2.5% | 13.9% | 21.9% | 42.8% | 18.9% | 100.0% |
| 50 歳代 | 度数 | 13 | 96 | 171 | 402 | 199 | 881 |
| | 行% | 1.5% | 10.9% | 19.4% | 45.6% | 22.6% | 100.0% |
| 60 歳代 | 度数 | 6 | 62 | 103 | 232 | 182 | 585 |
| | 行% | 1.0% | 10.6% | 17.6% | 39.7% | 31.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 81 | 486 | 733 | 1,510 | 755 | 3,565 |
| | 行% | 2.3% | 13.6% | 20.6% | 42.4% | 21.2% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.087

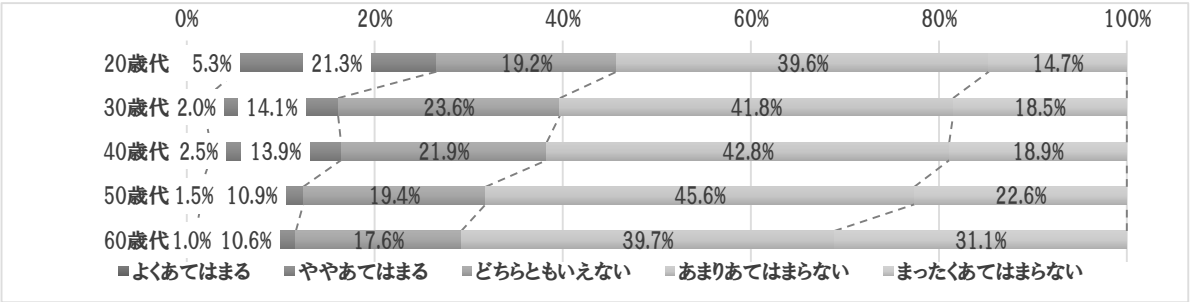



図 4　「自分がこれまで獲得したものを失ってしまう不安を感じる」の年齢差

表5　生年世代と「子どもには海外留学をさせたほうがよい」の関係

| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代 | 度数 | 40 | 139 | 201 | 95 | 475 |
| | 行% | 8.4% | 29.3% | 42.3% | 20.0% | 100.0% |
| 30 歳代 | 度数 | 89 | 218 | 310 | 94 | 711 |
| | 行% | 12.5% | 30.7% | 43.6% | 13.2% | 100.0% |
| 40 歳代 | 度数 | 117 | 338 | 348 | 104 | 907 |
| | 行% | 12.9% | 37.3% | 38.4% | 11.5% | 100.0% |
| 50 歳代 | 度数 | 113 | 333 | 332 | 100 | 878 |
| | 行% | 12.9% | 37.9% | 37.8% | 11.4% | 100.0% |
| 60 歳代 | 度数 | 99 | 176 | 218 | 88 | 581 |
| | 行% | 17.0% | 30.3% | 37.5% | 15.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 458 | 1,204 | 1,409 | 481 | 3,552 |
| | 行% | 12.9% | 33.9% | 39.7% | 13.5% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.073

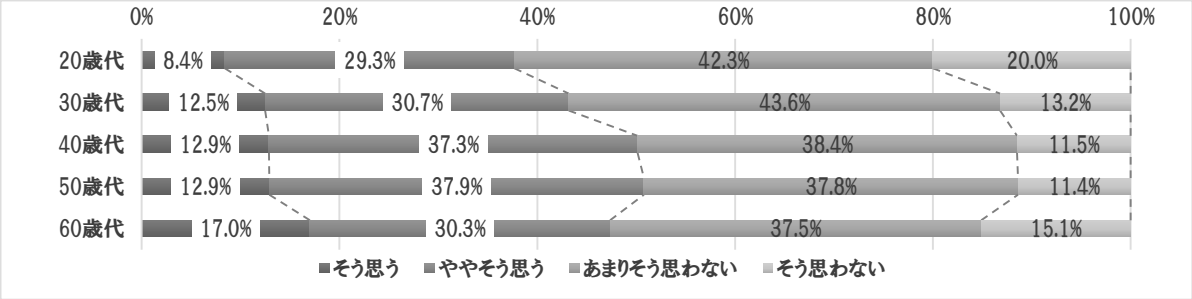



図5　「子どもには海外留学をさせたほうがよい」の年齢差

表6　生年世代と「募金や寄付の頻度」の関係

| | | いつもしている | よくしている | ときどきしている | めったにしない | したことがない | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代 | 5 | 21 | 229 | 174 | 47 | 476 | 474 |
| | 1.1% | 4.4% | 48.1% | 36.6% | 9.9% | 100.0% | 100.0% |
| 30 歳代 | 16 | 42 | 351 | 232 | 78 | 719 | 715 |
| | 2.2% | 5.8% | 48.8% | 32.3% | 10.8% | 100.0% | 100.0% |
| 40 歳代 | 38 | 65 | 458 | 254 | 94 | 909 | 909 |
| | 4.2% | 7.2% | 50.4% | 27.9% | 10.3% | 100.0% | 100.0% |
| 50 歳代 | 60 | 91 | 463 | 188 | 78 | 880 | 883 |
| | 6.8% | 10.3% | 52.6% | 21.4% | 8.9% | 100.0% | 100.0% |
| 60 歳代 | 73 | 78 | 303 | 80 | 52 | 586 | 585 |
| | 12.5% | 13.3% | 51.7% | 13.7% | 8.9% | 100.0% | 100.0% |
| 合計 | 192 | 297 | 1,804 | 928 | 349 | 3,570 | 3,566 |
| | 5.4% | 8.3% | 50.5% | 26.0% | 9.8% | 100.0% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.120

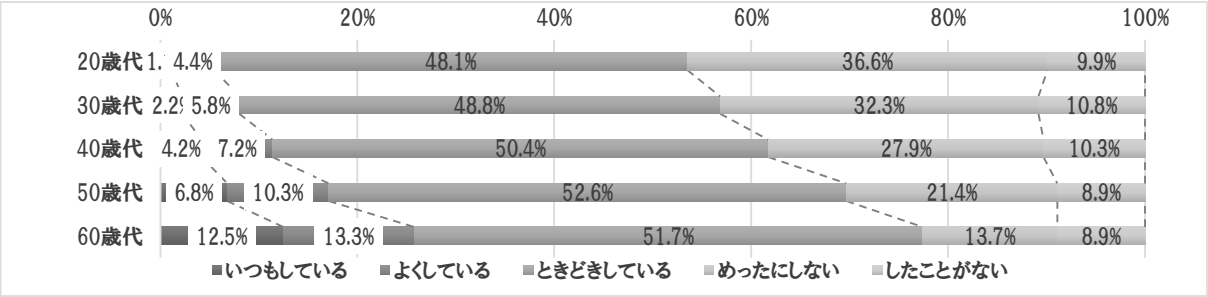



図6　募金や寄付の頻度の年齢差

他方、表 3 と図 3 は他人に追い越されそうな不安（競争不安）を強く感じるかどうか、表 4 と図 4 はこれまでに獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じるか（喪失不安）という質問への回答（選択肢は、よくあてはまる、ややあてはまる、どちらともいえない、あまりあてはまらない、まったくあてはまらない）である。いずれも生年世代との関連は有意で、若年層とくに 20 歳代で競争不安と喪失不安が共に高い傾向がみられる。とりわけ喪失不安については、人生において獲得しているものがそもそも未だ多くはないであろう若年層において、他の生年世代よりも高く、4 人に 1 人以上が「失うこと」への不安を表明していることが注目される。

この他にも、生年世代によってさまざまな意識差が見出されているのだが、このうち近年の若者論の指摘と合致しているのは、若年層の「内向き志向」である。グローバル社会の進展に伴って、国際的な人材育成が、産業界や学術の世界で重要な目標として挙げられるようになった。その反面、日本の若者たちは他社会の若者たちと比べると、海外留学に消極的で、近年はさまざまな面で国内志向が強まっているといわれる。本調査のなかには、これと関連する問いとして「子どもの海外留学の志向」がある。これは子どもには海外留学をさせたほうがよい、という質問への賛否を 4 件の選択肢（そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わない）で問うものである。正確にはこれはある種の学歴志向（向学心）を問う側面をもっている。しかも、一般論としての次世代教育なのか、自分の家族の教育戦略なのかもはっきりしない。さらに、若い世代にとっては次世代の教育戦略ではなく、自分の構えが回答されているという見方もできるだろう。そうした多義性に留意しつつ結果（表 5 図 5）をみると、20～30 歳代の若年層よりも 40～50 歳代の中年層のほうが子どもの海外留学に積極的であり、60 歳代前半の層はさらに一段と積極的な志向を示していることがわかる。若年層で「内向き（国内）志向」が緩やかに進行しているというのは、確かな事実であるようだ。

若年層の消極性は、日常の社会的活動にもあらわれている。典型的なのは表 6 と図 6 に示した募金や寄付という利他行動の頻度（いつもしている、よくしている、ときどきしている、めったにしない、したことがない、の 5 件）である。ここでは、若年になるほど募金や寄付には消極的であるというきわめて明白な生年世代による志向の傾斜を確認できる。

## ２．時代変化の予兆

「若い人たちが安心して暮らせる社会を！」などという掛け声を至るところで耳にする。ところが、社会意識のあり方を確認すると、若年層は労働からは疎外されがちであるいっぽう、競争を煽られ、喪失の不安も感じている。しかもかれらは「内向き志向」をもち、利他行動にも積極的ではない。この点で、現代日本の社会意識の生年世代差は、産業化の時代の古いものから新しいものへの変化とはそもそも異なった時代の流れを予感させる。しかもそれは明るい見通しを示すものではない。

# 「中」意識から「上・下」意識へ
## ―心の中の格差社会化―

谷岡　謙
（大阪大学／日本学術振興会）

### １．”総格差社会”日本と意識の格差

現代日本は格差社会だと広く言われている。その始まりは橘木俊詔（1998）の『日本の経済格差』や佐藤俊樹（2000）の『不平等社会日本』であり、日本において格差が広がりつつあることが明らかとなった。その後、下流社会[1)]（三浦 2006）といった格差言説がベストセラーになり、客観的な格差だけでなく意識の上でも格差が存在することが人びとに広く知られることとなった。

そこで本稿では、格差社会初期の 1995 年と格差社会と言われ始めてから 10 年以上が経過した 2015 年の人びとの意識を比較し、社会構造の変化と人びとの意識の変化がどのように対応しているのかを検討する。1995 年から 2015 年という 20 年間の社会の変化を捉える上で重要な 3 つの点に注目する。

第 1 に、人びとの意識の上での格差がどのように変化しているかという点である。格差社会初期の 1995 年と格差社会という認識が浸透した 2015 年において、人びとは自らを社会の中でどれくらいの地位にいると思うようになっているだろうか。格差言説が示唆するような意識の上での格差は、社会調査データにも表れているだろうか。本稿では主観的階層と呼ばれる意識を用いて、人びとの意識の上での格差の時代による変化を明らかにする。意識の上での格差が進行しているならば、一億総中流を思わせる「中」意識から「上・下」意識が増加し二極化した様相を呈していると考えられる。

第 2 に、人びとの主観的階層が年齢層によってどのように異なっているのかという点に注目する。その中でも特に若年層は、就職難や高い失業率、低賃金といった多くの問題を抱えている。このような世代による有利・不利が、意識の上ではどのように表れているかを検討する。

第 3 に、非正規雇用者の意識[2)] に注目する。非正規雇用者は年々増加しており、総務省統計局（2016）の『労働力調査』によれば、1995 年に 20.9％であった非正規雇用者は、2015 年には 37.5％まで増加している。非正規雇用者は、正規雇用者と比べ労働条件が悪く、将来性も乏しいといった多くの問題を抱えている。よって、その雇用形態の有利・不利が意識の上ではどのように表れているかを検討する。

以上より本稿では、クロス表分析による基礎的な分析を行い、この 20 年間に特徴的な社会構造の変化と人びとの意識の上での格差の関係を明らかにすることを目指す。

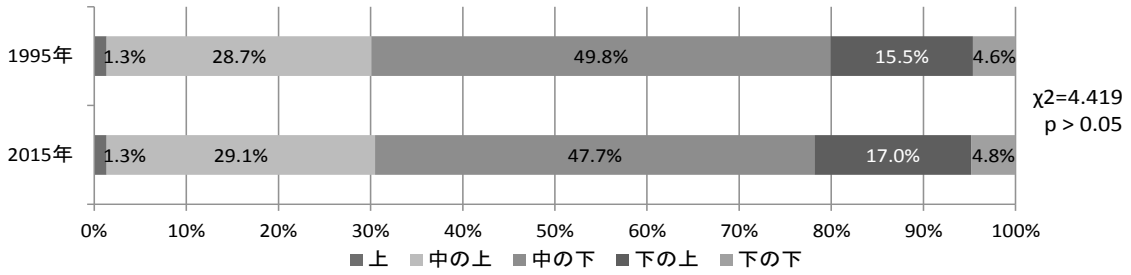



図 1　主観的階層の分布比較

## ２.「中」意識か「上・下」意識か（クロス表分析）

### 2-1　データと変数

本稿で使用するデータは、1995 年に実施された SSM 調査[3] と 2015 年に実施された SSP 調査である。使用する変数のワーディング・定義は以下のとおりである。

**主観的階層**[4]

日本社会を 5 つの層に分けるとすれば、あなたはこの中のどれに入ると思われますか。（上、中の上、中の下、下の上、下の下）

**年齢層**

**若年層**：20~34 歳、**壮年層**：35~49 歳、**中高年層**：50~64 歳

**正規雇用**

経営者・役員、常時雇用されている一般従業者、自営業主・自由業者、家族従業者

**非正規雇用**[5]

臨時雇用・パート・アルバイト、派遣社員、契約社員・嘱託[6]、内職

以降では、これらの変数を用いてクロス表分析を進めていく。

### 2-2　根強い「中」意識？（主観的階層の分布比較）

1 つ目の分析として、主観的階層の回答が 1995 年と 2015 年で変化したのかどうかをクロス表分析によって検討する（図 1）。$\chi^2$ 検定の結果、2 時点間で統計的に有意な差は認められなかった。つまり、1995 年から 2015 年までの 20 年間で、主観的階層の分布は変化していないということである。

格差社会と言われるようになって 10 年以上経っても、「格差」という言葉が表すような意識の変化は起きておらず、依然として「中」意識が根強く残っていることが明らかとなった。しかし、主観的階層の分布に変化はなかったが、年齢・雇用形態と主観的階層の関連が変化している可能性がある。よって、以降では時代ごとにクロス表分析を行っていく。

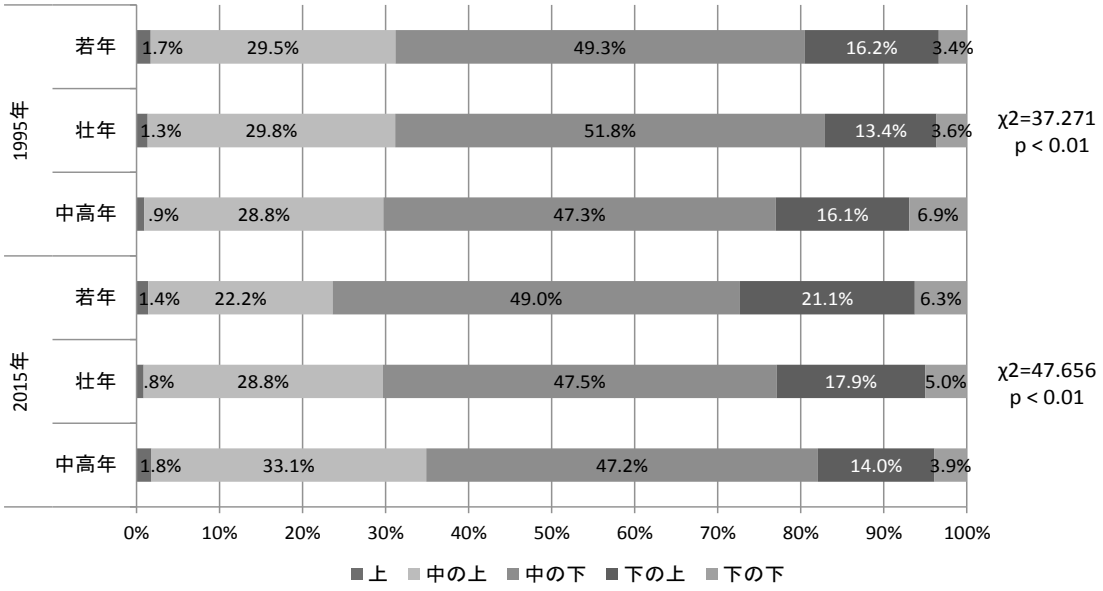



図 2　年齢と主観的階層の関連

### 2-3　若年層の下流化と中高年層の上流化（年齢と主観的階層）

続いて、年齢層と主観的階層の関係が 1995 年と 2015 年でどのように変化したのかを 3 重クロス表分析によって検討する（図 2）。$\chi^2$ 検定の結果、1995 年と 2015 年ともに、年齢層と主観的階層との間には統計的に有意な差が見られた。つまり、年齢層によって主観的階層の分布が異なるということである。

有意な差があるという点では共通しているものの、具体的にその分布を見ていくと年齢層と主観的階層の関連の仕方は、時代によって異なっていることがわかる。1995 年においては、「中の下」は壮年層の割合が多く、「下の上」は壮年層が少なく、「下の下」は、若年層・壮年層が少なく、中高年層が多くなっている。しかし、2015 年においては、中高年層は「中の上」の割合が多く、また「下の上・下の下」が少なくなっている。その一方で、若年層においては「中の上」の割合が少なく、「下の上・下の下」の割合が多くなっていることがわかる。

### 2-4　非正規雇用の下流化と正規雇用の上流化（雇用形態と主観的階層）

最後に、雇用形態と主観的階層の関連が 1995 年と 2015 年でどのように変化したのかを 3 重クロス表分析によって検討する（図 3）。$\chi^2$ 検定の結果、2015 年のみ統計的に有意な差が見られた。つまり、1995 年においては正規雇用と非正規雇用との間に主観的階層の差は見られないが、2015 年においては正規雇用か非正規雇用かによって主観的階層の分布が異なっているということである。

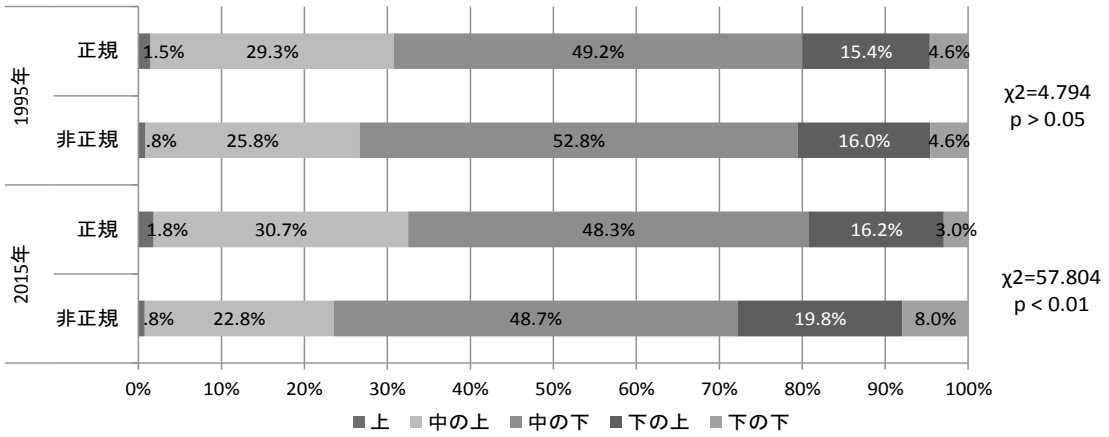



図 3　雇用形態と主観的階層の関連

具体的な数値を見ると、「中の上」は正規雇用の 30.7%に対して、非正規雇用は 22.8%にとどまっている。一方、「下の上・下の下」を合わせて見ると、正規雇用の 19.2%に対して、非正規雇用は 27.8%と大きな差が開いている。2015 年においては、正規雇用であれば主観的階層が高くなり、非正規雇用であれば主観的階層が低くなるということが明らかとなった。

## ３.「中流」から「上流・下流」へ（考察）

本稿の分析で明らかになったのは、主観的階層は 1995 年から 2015 年の 20 年間では変化していないが、年齢別に見ると若年層が、雇用形態別に見ると非正規雇用が下流化しており、一方の中高年層・正規雇用は上流化しているということである。

これらの結果は、格差社会において客観的な格差の変化と人びとの主観的階層との関連が、1995 年から 2015 年までの 20 年間で変化していることを示している。まず押さえなければならないのが、人びとの主観的階層の分布を見ただけでは、格差社会を思わせる意識にはなっていないということである。社会全体において、意識の上でも格差社会化が進んでいるならば、「中」回答が減少し、「上・下」の回答[7] が増加するはずである。しかし、実際はそのような変化は起きず、非常に安定した回答傾向となっている。

重要なのは、全体で見た際の主観的階層の分布ではなく、主観的階層と人びとの客観的な属性との関連の変化である。本稿の分析で見てきたように、経済状況等が悪化しており雇用不安・地位リスクに晒されていると考えられる若年層や非正規雇用の人びとは低い意識を持ち、一方でより安定した有利な状況にいると考えられる中高年層や正規雇用の人びとは高い意識を持っている。つまり、客観的な属性で意識を切り分けて初めて、意識の上でも格差社会化しているという現象を見出すことが可能になるのである。

本稿が明らかにした意識の上での格差社会化は、社会をそのまま見た際には確認することはできない。なぜなら、不利な若年層や非正規雇用層が下流化するのと同時に、有利な

中高年層や正規雇用層が上流化しているからである。その下流化・上流化という 2 つの動きが打ち消し合うことによって、全体の分布には変化が見られなくなっているのである。また、下流化・上流化が起きているとは言っても、依然として過去の一億総中流に特徴的であるとされた「中」が多くを占めることには注意する必要があるだろう。

本稿では人びとの意識の上での格差が格差社会の初期から現在に至るまでどのように変化しているかを検討したが、この 20 年間で生じた客観的な格差と人びとの意識との関連が強まっていることが示された。今後は今回検討しなかった属性についても、その関連の変化を検討していく必要があるだろう[8)]。

## 付記

1995 年 SSM 調査の利用にあたっては 2015 年 SSM 調査管理委員会の許可を得た。

また本稿は JSPS 特別研究員奨励費 251732 の助成を受けたものです。

## 注釈

1) 三浦（2006）の日本において「下流化」が進行しているという議論は、社会意識研究で「中」と捉えられている主観的階層の「中の下」を「下流」と読み替えることにより「下流化」が起きているとするものであり、社会意識研究では支持されていない。
2) 若年非正規雇用（フリーター）の意識に注目した研究として、小林大祐（2011）が挙げられる。
3) 1995 年 SSM 調査（社会階層と社会移動全国調査）は、2015 年 SSP 調査の主な比較対象として設定されている社会調査であり、調査概要については盛山和夫ほか編（2011）を、得られた知見の概説については、原純輔・盛山和夫（1999）などを参照されたい。
4) 本稿で用いる主観的階層の変数は、階層意識研究においては階層帰属意識と呼ばれているものであり、多くの研究の蓄積がある。階層帰属意識の時系列的な変化については、数土直紀（2010）や神林博史（2011）、吉川徹（2014）に詳しい。また、一億総中流の指標としてよく用いられたのは、内閣府（2015）の『国民生活に関する世論調査』のものである。ワーディングや選択肢が異なっており、「中」カテゴリが 3 つに分かれているのが特徴である（上、中の上、中の中、中の下、下）。
5) 今回使用するデータの非正規雇用の分布は、1995 年：正規 83%、非正規 17%、2015 年：正規 68%、非正規 32%となっている。
6) 1995 年のデータにはこの選択肢は存在しない。
7) 「中の上」は厳密には「上」ではないが、実際に「上」と回答する人が非常に少ないため、階層意識研究では実質的な上層として扱われることが多い。
8) 年齢・学歴・職業・収入との関連を同時に見た重回帰分析の結果については、付表 1 や男女別に分析した付表 2 を参照されたい。また付表 2 より、非正規雇用による主観的階層の低下は、男性においてのみ確認できることがわかる。

## 文献

原純輔・盛山和夫，1999,『社会階層――豊かさの中の不平等』東京大学出版会.

神林博史，2011,「中流意識と日本社会」盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲編『日本の社会階層とそのメカニズム――不平等を問い直す』白桃書房，151-84.

吉川徹，2014,『現代日本の「社会の心」――計量社会意識論』有斐閣.

小林大祐，2011,「雇用流動化社会における働き方と階層帰属意識」斉藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 3――流動化のなかの社会意識』東京大学出版会，95-110.

三浦展，2006,『下流社会――新たな階層集団の出現』光文社新書.

内閣府，2015,「国民生活に関する世論調査」,（2016 年 2 月 17 日取得, http://survey.gov-online.go.jp/index-ko.html）.

佐藤俊樹，2000,『不平等社会日本――さよなら総中流』中公新書.

盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲編，2011,『日本の社会階層とそのメカニズム――不平等を問い直す』白桃書房.

総務省統計局，2016,「労働力調査　長期系列データ」,（2016 年 2 月 17 日取得, http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm）

数土直紀，2010,『日本人の階層意識』講談社.

橘木俊詔，1998,『日本の経済格差――所得と資産から考える』岩波新書.

付表 1　主観的階層の重回帰分析（全体）

| | SSM1995 | | | SSP2015 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | *B* | *S.E.* | *β* | *B* | *S.E.* | *β* |
| 切片 | .270 | .152 | | .343 | .151 | * |
| 女性 | .185 | .032 | .113 ** | .186 | .034 | .111 ** |
| 若年層 | | *ref.* | | | *ref.* | |
| 壮年層 | .018 | .034 | .011 | .084 | .041 | .049 * |
| 中高年層 | .054 | .038 | .032 | .263 | .041 | .155 ** |
| 教育年数 | .042 | .007 | .120 ** | .061 | .007 | .159 ** |
| 世帯収入 | .323 | .018 | .288 ** | .290 | .018 | .297 ** |
| 上層ホワイト | | *ref.* | | | *ref.* | |
| 下層ホワイト | -.126 | .044 | -.060 ** | -.190 | .044 | -.093 ** |
| 自営 | -.138 | .050 | -.051 ** | -.179 | .062 | -.056 ** |
| 熟練ブルー | -.114 | .049 | -.045 * | -.155 | .053 | -.060 ** |
| 非熟練・農業 | -.237 | .046 | -.111 ** | -.310 | .049 | -.139 ** |
| 無職 | -.069 | .047 | -.035 | -.088 | .052 | -.038 † |
| 非正規 | -.004 | .043 | -.002 | -.091 | .041 | -.048 * |
| *Adjusted* $R^2$ | | .135 | | | .191 | |
| *N* | | 3654 | | | 2704 | |

注）** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, † $p < 0.10$

付表 2　主観的階層の重回帰分析（男女別）

| | 男性 | | | | | | 女性 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | SSM1995 | | | SSP2015 | | | SSM1995 | | | SSP2015 | | |
| | *B* | *S.E.* | *β* | *B* | *S.E.* | *β* | *B* | *S.E.* | *β* | *B* | *S.E.* | *β* |
| 切片 | .663 | .230 | ** | 1.031 | .223 | ** | .454 | .194 | ** | .023 | .208 | |
| 若年層 | | *ref.* | | | *ref.* | | | *ref.* | | | *ref.* | |
| 壮年層 | -.043 | .052 | -.025 | .125 | .060 | .071 * | .071 | .045 | .045 | .026 | .055 | .015 ** |
| 中高年層 | .018 | .058 | .010 | .288 | .060 | .167 ** | .081 | .051 | .049 | .242 | .055 | .145 ** |
| 教育年数 | .035 | .009 | .106 ** | .049 | .010 | .140 ** | .049 | .010 | .126 ** | .073 | .011 | .168 ** |
| 世帯収入 | .320 | .030 | .266 ** | .219 | .028 | .222 ** | .313 | .024 | .298 ** | .330 | .024 | .341 ** |
| 上層ホワイト | | *ref.* | | | *ref.* | | | *ref.* | | | *ref.* | |
| 下層ホワイト | -.208 | .070 | -.075 ** | -.214 | .069 | -.088 ** | .015 | .065 | .008 | -.112 | .059 | -.061 † |
| 自営 | -.214 | .061 | -.093 ** | -.325 | .082 | -.111 ** | .052 | .096 | .014 | -.012 | .096 | -.003 |
| 熟練ブルー | -.184 | .060 | -.085 ** | -.295 | .065 | -.134 ** | .034 | .096 | .010 | .037 | .093 | .011 |
| 非熟練・農業 | -.343 | .064 | -.152 ** | -.515 | .069 | -.228 ** | -.070 | .071 | -.035 | -.109 | .069 | -.050 |
| 無職 | -.223 | .095 | -.062 * | -.424 | .103 | -.121 ** | .079 | .064 | .049 | .087 | .063 | .045 |
| 非正規 | .130 | .128 | .023 | -.169 | .076 | -.060 * | -.026 | .047 | -.014 | -.055 | .050 | -.033 |
| *Adjusted* $R^2$ | | .139 | | | .209 | | | .124 | | | .188 | |
| *N* | | 1759 | | | 1266 | | | 1895 | | | 1438 | |

注）** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, † $p < 0.10$

# 働き方と主観的 Well-Being の変容

## ―正規雇用の心理的メリット―

橋爪 裕人
（大阪大学／日本学術振興会）

### １．非正規をめぐる制度や環境の変化と満足感

本稿は 1995 年と 2015 年のデータを比較することで、正規や非正規、無職といった従業上の地位による主観的 Well-Being（生活満足度）の違いが、この 20 年の間で変化したのか検討することをその目的とする。さらに 20 年前の正規労働者に比べて今の正規労働者の主観的 Well-Being（生活満足度）は高いのかそれとも低いのか、非正規など異なる従業上の地位にある人についても同様に 20 年前よりも高いのか低いのかという点も明らかにしたいと考えている。特に注目するべき点はこの 20 年間で非正規という働き方は、個人にとってかつてよりも不満をもたらす働き方になったのかという点である。

本稿で取り上げる主観的 Well-Being という概念は近年社会学や経済学、心理学において関心の高まっている概念であり、より良い生活・人生のありかたについての主観的な側面として、主に幸福感や生活満足度といった指標で測定されているものである。また主観客観の両面を視野に含めた Well-Being に対しては政策的な関心も高まっており、OECD のような国際的な組織や、フランスをはじめ複数の国においても Well-Being に関する指標 [1] の作成が試みられ、政策目標として Well-Being の向上が議論の俎上に上がっている（OECD 2011 ; J. E. Stiglitz et al. 2010=2011）。

これまで多くの研究者によってどのような国や地域の、またどのような個人の主観的 Well-Being が高いのかという点について多くの知見が積み重ねられてきた。その中でも重要な論点として、労働と主観的 Well-Being の関連 [2] があげられる。これまで多変量解析などによって、収入の低下をコントロールしてもなお、失業者の主観的 Well-Being が低いことが指摘されてきた（Frey and Stutzer 2000 ; 大竹他 2010）。この知見は古典的な経済学における労働は不効用であるとする理論とは矛盾するのであるが、Helliwell らは働いているということがやりがいを感じさせ、自己効力感を高め、自分の就いている職業や職場への所属がアイデンティティの源泉として作用すると主張する。そのためそれを失ってしまう失業者の主観的 Well-Being が低くなっているのだという（Helliwell2003 ; 浦川 2011）。

これは正規と非正規という労働者の立場の違いにおいてもいえることであり、浦川邦夫（2011）は非正規労働者が正規の労働者に比べてやりがいや自己効力感を持ちにくい働き方をしており、非正規労働者の主観的 Well-Being は低いことを指摘している。非正規労働者の低く不安定な地位や、無職者の地位・居場所の喪失を考えると現代の日本社会におい

表 1　使用変数の基礎集計

| 生活満足度 | 1995 | | 2015 | |
|---|---|---|---|---|
| | 度数 | 有効% | 度数 | 有効% |
| 不満 | 163 | 3.5 | 74 | 2.1 |
| どちらかといえば不満 | 554 | 11.8 | 223 | 6.4 |
| どちらともいえない | 947 | 20.1 | 698 | 20.1 |
| どちらといえば満足 | 2112 | 44.9 | 1592 | 45.8 |
| 満足 | 926 | 19.7 | 887 | 25.5 |
| 合計 | 4702 | 100 | 3474 | 100 |
| 平均 | 3.66 | | 3.86 | |

| 従業上の地位 | 1995 | | 2015 | |
|---|---|---|---|---|
| | 度数 | 有効% | 度数 | 有効% |
| 正規 | 2249 | 47.5 | 1713 | 49.2 |
| 非正規 | 578 | 12.2 | 908 | 26.1 |
| 自営 | 826 | 17.4 | 296 | 8.5 |
| 無職 | 1082 | 22.9 | 563 | 16.2 |
| 合計 | 4735 | 100 | 3480 | 100 |

て正規と非正規そして無職では主観的 Well-Being に違いがあると考えられる。このことは派遣切りやワーキングプア、3 年で辞める若者といった現代の日本社会における諸問題を鑑みれば納得のいくものだろう。では、このような労働における格差に関する問題はいつに端を発しているのだろうか。

そのひとつに 1990 年代というタイミングがあげられる。この 20 世紀末という時代は労働者をめぐる環境が劇的に変化した時代であった。その象徴ともいえるのが 1999 年に制定された男女共同参画社会基本法である。この法律の制定以降女性の社会進出について多くの関心が集まり、女性も労働市場に参入することが推奨される時代となった。また同年労働者派遣法の改正が行われ、労働者を派遣できる業種が一気に拡大した。以上のような労働環境をめぐる制度の変更もあり、特に女性が多数派を占める非正規労働者はその規模を拡大してきた（表 1)。また、当時はバブル経済が崩壊し失われた 20 年と呼ばれる平成の大不況へと突入した時代でもあり、リストラが話題となったのもこのころからである。つまりこの 20 年間で労働者をめぐる制度や環境が大きく変化し、非正規や無職の人が一層不利になったと考えられるのである。しかし、実際にこのようなスパンで労働と主観的 Well-Being の関係性とその変化について検討した研究はなく、現在の非正規や無職の主観的 Well-Being の低さがこの 20 年ほどの変化と関係しているのかについては明らかでない。

よって本稿では、分散分析を用いて非正規や無職といった従業上の地位は正規や自営に比べて、主観的 Well-Being の代表的な指標である生活満足度の平均値が低いのか、20 年間で各従業上の地位にある人の生活満足度は上昇もしくは下降したのか検討する。また、日本社会においては非正規労働者に女性が多く、無職者の多くが専業主婦であるというジェンダー構造の不均一を考慮して男女別の分析も行い、非正規や無職の生活満足度についてより精度を高めた検討を行いたい。

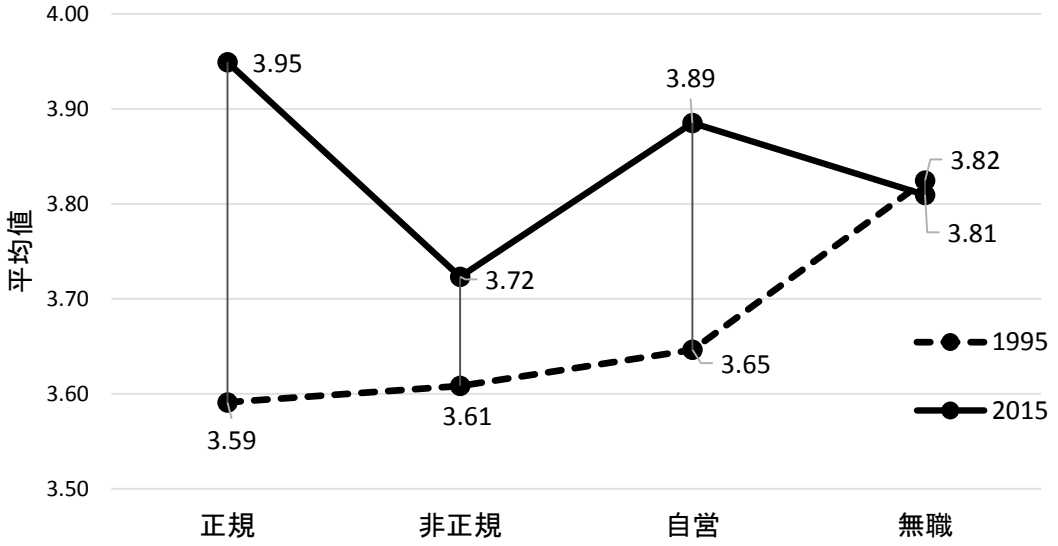



図 1　1995 年と 2015 年の従業上の地位による生活満足度の違い

## ２．分析

### 2-1　用いるデータと変数

まず本稿においては 1995 年 SSM 調査と 2015 年 SSP 調査のデータを統合して分析する。その際年齢層は SSP 調査に合わせて 64 歳以下となるように調整している。分析において用いる変数は両方の調査に含まれる変数である。従属変数は生活満足度であり、「あなたはつぎのようなことがらについて、どの程度満足していますか。」という質問のうち「生活全般」についての回答を用いている。回答の選択肢は「(ア)　満足している（イ）　どちらかといえば満足している (ウ)　どちらともいえない (エ)　どちらかといえば不満である (オ)　不満である」の 5 段階からなり、分析に際しては「満足している」が 5、「不満である」が 1 をとるよう 5 段階に数値化している。

独立変数については「あなたがなさっているお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。」という質問に対する回答のうち、「経営者、役員」と「常時雇用されている一般従業者」を「正規」、「臨時雇用・パート・アルバイト」「派遣社員」「契約社員、嘱託」と答えた人を「非正規」、「自営業主、自由業者」「家族従業者」「内職」を「自営」、「無職」はそのまま「無職」とした。本稿で用いるデータにおいて無職者には定年退職した人専業主婦、失業者、その他の非労働力が含まれるが、これらを正確に区別することはデータの構造上困難である。また学生は分析から除いている。

### 2-2　非正規は不満な働き方になったのか

では分散分析によって 1995 年と 2015 年において従業上の地位による生活満足度の違いがあるか、そして 20 年の間に各従業上の地位にある人の生活満足度はどのように変化したのか検討する（図 1)。

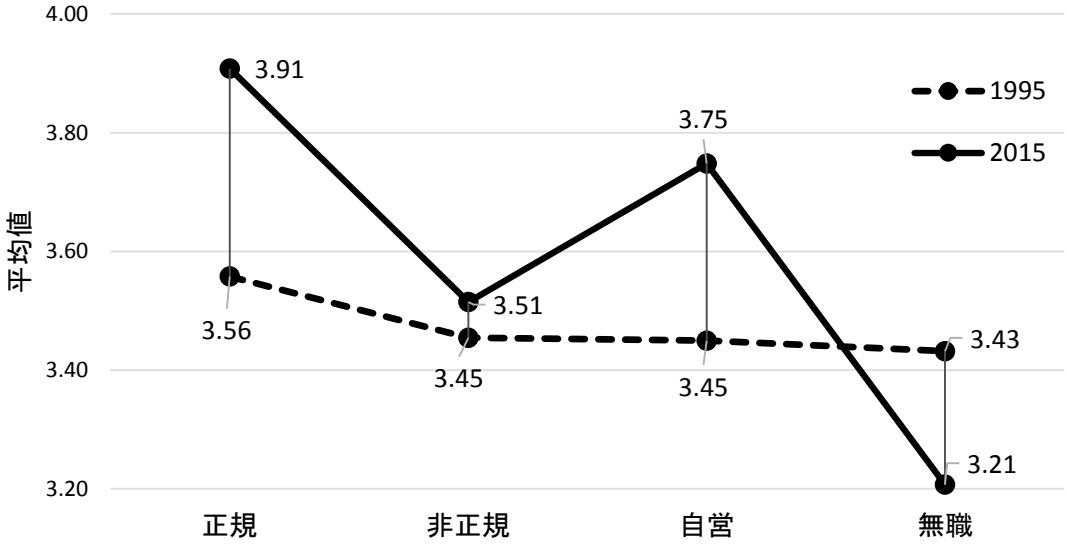



**図 2　1995 年と 2015 年の従業上の地位による生活満足度の違い（男性）**

Welch の *F* 検定[3] の結果 1995 年（F=13.225，p<0.001）、2015 年（F= 11.902，p<0.001）ともに従業上の地位によって生活満足度に有意な差があり、多重比較の結果 1995 年では無職（3.81）だけが高く、2015 年では正規（3.95）に比べると非正規（3.72）と無職（3.82）が低いという結果が確認できた。また、20 年間の変化を見るための年度と従業上の地位からなる 8 カテゴリによる分散分析 （F= 25.549，p<0.001）では正規と自営のみ 1995 年に比べて 2015 年のほうが高い（正規 3.59→3.95、自営 3.65→3.89）という結果が確認できた。

### 2-3　男性で非正規や無職であるとどうなるか

次に男性のみにケースを絞った分析を行う。(図 2) 1995 年については従業上の地位による生活満足度の有意な差は確認できなかった（F=1.401，p>0.05）。2015 年については有意な差があり（F=18.954，p<0.001）、多重比較から正規（3.91）と非正規（3.51）・無職（3.21）、自営（3.75）と無職の間に有意な差が確認できた。20 年間の変化を見る分散分析（F=21.218，p<0.001）からは、正規のみ 20 年間で有意に生活満足度の平均値が上昇（3.56→3.91）していることが明らかになった。

### 2-4　女性は非正規であっても社会に出るべきか

最後に女性のみの分析結果を確認する。(図 3) 女性の場合は 1995 年（F= 10.087, p<0.001）も 2015 年（F= 10.093，p<0.001）も従業上の地位によって生活満足度に差があることが明らかになった。多重比較から 1995 年では正規（3.76）・非正規（3.62）に比べて無職（3.88）が、非正規に比べて自営（3.82）が高いことが分かった。同様に 2015 年では非正規（3.77）のみが低いことが分かった。20 年間の変化について確認する（F=13.266，p<0.001）と、正規のみ 20 年間で生活満足度の平均値が上昇（3.67→4.04）していることが確認できた。

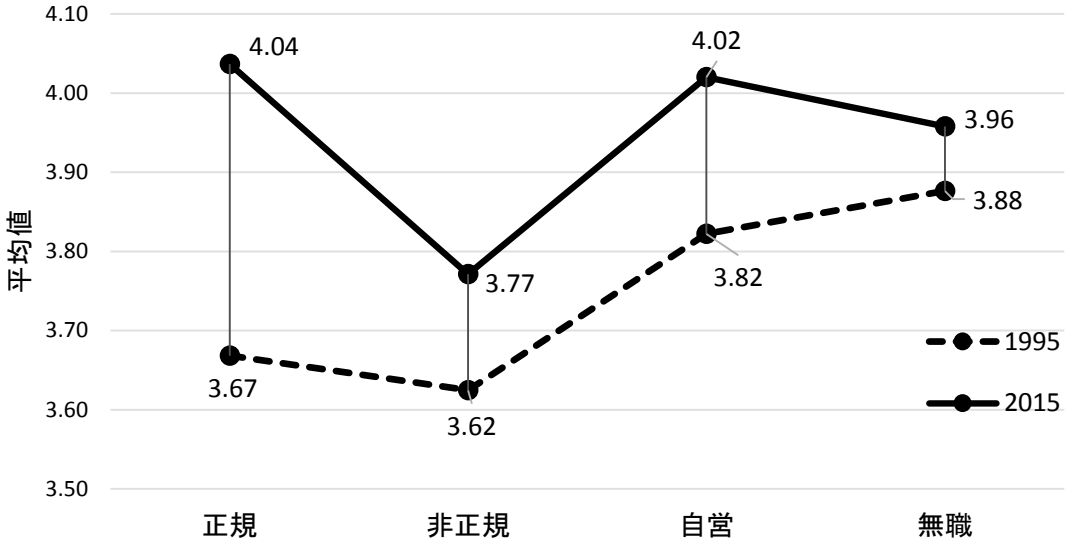



図 3　1995 年と 2015 年の従業上の地位による生活満足度の違い（女性）

## ３．非正規の悪化ではなく正規の一人勝ち

全体サンプル並びに男女別の分散分析の結果[4)] から以下のことが明らかになった。まず男女ともに正規労働者の生活満足度が向上している。その一方で非正規労働者と無職者の生活満足度はこの 20 年間で低下もしていなければ向上もしていない。自営業者の生活満足度は全体のサンプルで見ると 20 年間で上昇しているが、男女に分けるとその差は有意ではなくなり、正規の変化に比べると小さいものであることが分かる。

そして、従業上の地位と生活満足度の関係、その 20 年間での変化については男女で様子が違っており、男性では 1995 年時点で従業上の地位によって生活満足度に違いがなかったが 20 年の間に正規の生活満足度が上昇していた。また有意ではないものの自営の上昇と無職の下降が起きていることにより、2015 年では正規と自営という生活満足度の高いグループと非正規・無職という低いグループに大別できることが明らかになった。

一方女性では 1995 年時点では正規・非正規が低く、自営・無職が高いという男性とは異なる様子を見せていた。それが 20 年間の間に正規のみ生活満足度が上昇し、2015 年では非正規だけが低いという結果になっていた。

以上の結果を解釈すると、まず全体的な傾向として非正規労働者や無職者の主観的 Well-Being が 20 年前に比べて悪化したわけではないということと、その一方で正規労働者の主観的 Well-Being が上昇したということがいえる。よって、正規と非正規の間に主観的 Well-Being の格差が発生した。この格差は非正規労働者という働き方が以前よりも不幸な働き方になったというよりは、正規の職に就けることの価値が高まり、アドバンテージが大きくなったととらえるべきだろう。

男性においては 20 年前と違って無職であることは不幸なことになった。これは定年後再雇用の増加を反映して、64 歳までを含む本データにおける定年退職者の割合が低下し、無

職者に占める失業者の割合が増加したことも原因と考えられる。2015 年において男性は無職と非正規の間に有意な差はないことから、失業と非正規で働くことの間に主観的 Well-Being という観点ではそれほど差がないことを示している。

女性の 1995 年時点では、正規でも非正規でも家の外に出て働くと不幸という、男女共同参画社会基本法による是正の必要性を支持するような結果であった。しかし 20 年後の現在では非正規で働くことだけは避けたほうが良いという、現在の労働法制に対する警鐘を鳴らすような結果となっている。また女性の無職が男性と違って高い主観的 Well-Being を維持しているのは専業主婦層によるものであると考えられる。

以上の内容から、男女とも非正規労働者として働くことは相対的に正規や自営といった働き方や専業主婦という選択に比べると避けるべき選択肢であることが示唆される。それは、非正規が 20 年の間に不満を持ちやすい働き方へと変化したということではなかった。むしろ正規が当たり前の働き方であったものから、労働市場における絶対的な勝ち組としての働き方へと大きくその内実を変化させたことによるものであった。特に女性において 20 年前とは異なり、正規・自営・無職に比べて非正規のみが不幸な選択であるというように変化していることは、女性における非正規労働者の多さと相まって、働き方だけでなくジェンダーによる主観的 Well-Being の格差が生まれている可能性を示唆するものであり、今後一層の研究が求められるものである。

## 付記

1995 年 SSM 調査の利用にあたっては 2015 年 SSM 調査管理委員会の許可を得た。

また本稿は JSPS 科研費 15J00504 の助成を受けたものです。

## 注釈

1） OECD では住宅、収入、雇用、共同体、教育、環境、ガバナンス、医療、生活の満足度、安全、ワークライフバランスの 11 領域からなる Better Life Index を作成し公開している。上記の領域からわかるように、Well-Being という概念自体は客観的に測定可能な要素を含んでいるが、本稿では測定と比較の可能性を考慮し生活満足度によって測定される主観的 Well-Being（意識）を取り上げる。

2） Easterlin（1974）の研究で Easterlin’s Paradox と呼ばれる、経済成長が幸福感の増大につながらないとする発見をきっかけに、所得と Well-Being の関係性について数多くの研究が行われたが、そのような議論の中で失業は非常に重要な論点となっていた。

3） 分散分析では一般的に F 検定を用いるが、これは等分散の仮定を満たす必要がある。本稿の全分散分析において等分散の仮定が満たされなかった。よって本稿においては、これ以降も分散が等しくないことを考慮した Welch の F 検定を用いている。

4） 同様の分析結果が年齢、学歴、収入や、配偶者の有無、所有財、持ち家の有無をコン

トロールした多変量解析によっても確認されている（詳細は付表を参照のこと）。

## 文献


Easterlin Richard A., 1974, *Does Economic Growth Improve the Human Lot? Some Empirical Evidence, Nations and Households in Economic Growth*, New York: Academic Press.

Frey B. S. and A. Stutzer, 1999, *Measuring preferences by Subjective Well-Being*, Journal of Institutional and Theoretical Economics, 155(4): 755-88.

Helliwell, J. F., 2003, *How's Life? Combining Individual and National Variables to Explain Subjective Well-Being*, Economic Modelling, 20, 331-60.

Joseph E. Stiglitz, Amartya Sen and Jean-Paul Fitoussi, 2010, *Mismeasuring Our Lives: Why GDP Doesn't Add Up (Preface)*, The New Press （＝2011，福島清彦訳，『暮らしの質を測る――経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会.）

OECD, 2011, *How's Life? MEASURERING WELL-BEING* （＝2012，徳永優子・来田誠一郎・西村美由起・矢倉美登里 訳，『OECD 幸福度白書――より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』明石書店.）

大竹文雄・白石百合子・筒井義郎，2010，『日本の幸福度――格差・労働・家族』日本評論社.

浦川邦夫，2011，「幸福度研究の現状――将来不安への処方箋」『日本労働研究雑誌』 612: 4-15.


**付表　生活満足度の重回帰分析**

| | | 全ケース | | 男性 | | 女性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | B | S.E. | B | S.E. | B | S.E. |
| | 切片 | 2.750 ** | .106 | 2.583 ** | .156 | 2.904 ** | .151 |
| | 性別(女性) | .200 ** | .033 | – | – | – | – |
| | 年齢 | -.004 * | .002 | -.005 * | .003 | -.002 | .002 |
| | 年齢² | .001 ** | .000 | .001 ** | .000 | .001 ** | .000 |
| | 教育年数 | .003 | .007 | -.002 | .009 | .012 | .011 |
| 従業上の地位 (ref.は正規) | 非正規 | -.066 | .058 | -.033 | .176 | .008 | .069 |
| | 自営 | -.025 | .048 | -.175 ** | .065 | .171 * | .072 |
| | 無職 | .113 * | .048 | .065 | .114 | .199 ** | .061 |
| | 世帯収入 | .003 ** | .000 | .003 ** | .000 | .002 ** | .000 |
| | 所有財 | .094 ** | .017 | .100 ** | .025 | .089 ** | .023 |
| | 配偶者あり | .463 ** | .055 | .634 ** | .106 | .382 ** | .065 |
| | 家族人数 | -.035 ** | .012 | -.022 | .018 | -.050 ** | .016 |
| | 子ども人数 | -.025 | .018 | -.036 | .027 | -.012 | .024 |
| | 持ち家あり | .154 ** | .036 | .199 ** | .055 | .125 ** | .047 |
| | 2015年 | .336 ** | .041 | .356 ** | .050 | .310 ** | .076 |
| | 2015×非正規 | -.228 ** | .075 | -.271 | .213 | -.213 * | .099 |
| | 2015×自営 | -.161 | .091 | -.030 | .130 | -.284 * | .134 |
| | 2015×無職 | -.337 ** | .076 | -.875 ** | .197 | -.252 * | .100 |
| | R-square, (N) | .082(N=5228) | | .101(N=2367) | | .068(N=2861) | |

注）*は5%**は1%水準で有意な効果であることを示す

# 若年層における現在志向の時点間比較

## —若者の現在志向の正体—

狭間 諒多朗
（大阪大学／日本学術振興会）

## １．本稿の検証課題

### 1-1　若年層の現在志向は強まっているのか？

現在の日本社会は「将来展望のまったくできない不透明なリスク社会」（友枝 2015: 2）とされている。自らの将来がどうなるのかについて、確かなことを言える人々は少なくなっている。それは、本来将来ある身とされる若年層においても例外ではない。社会の急速な変化によって、現在の若年層は自分の将来計画を描くことが困難になっている（Furlong and Cartmel 2007=2009）。「将来がみえない若年層」は、次のような言説に説得力を与えた。それは「現在の若年層は将来のために努力するのではなく、今現在の快楽を重視している」というものである。本稿では、このような「将来よりも現在を重視」する態度を現在志向と定義し、分析を行っていく。現在志向は、現在の若年層の実態を把握する上で重要な概念とされており、先行研究でも「若年層の現在志向」が議論の前提として用いられている。

たとえば、近年では若年層の生活満足度が高まっていることが明らかにされている。豊泉周治は、「のんびりと自分の人生を楽しむ」ことが望ましい生き方であると回答する中高生の割合が増加していることや、先行研究の議論からその理由を説明した。その説明とは、将来に希望がもてない時代において、若年層が「現在の欲求」にこだわり、価値観を適応させながら、困難な時代を幸せに生きている、というものである（豊泉 2010）。同様の議論を展開している古市憲寿は、現在の若年層は「今日よりも明日がよくなる」とは信じることができず、将来に希望がないからこそ「今、ここ」の身近な幸せを重視し、その結果生活満足度が高くなっていると説明している（古市 2011）。要するに彼らの議論は、現在の若年層が、将来の大きな目標や目的を達成する幸せではなく、現在の身近な幸せを重視するように、現在志向を強める形で価値観を転換し、期待水準を引き下げることで現状に満足しているというものである。とはいうものの、現在志向そのものが強まっているのかどうかについて、直接的なデータが示されているわけではない。そこで、本稿で明らかにする１つ目の課題は、若年層が将来よりも現在を重視するようになったかどうか、すなわち現在志向が強まったかどうかを検証することである。

### 1-2　格差社会と若年層

しかしながら、現在の若年層を分析する際に、彼／彼女らを一枚岩として語ることはで

きない。なぜならば、現在の若年層は「格差社会」といわれる時期に成長し、そして社会に出た世代であるからである。先行研究でも、格差・不平等の観点から彼／彼女らを分析するということがなされてきた。

たとえば山田昌弘は、現在の日本社会では生活が不安定になりつつあるとし、特に若年層がその影響を受けていると主張する。そして 1998 年を転換点として、希望をもてる人と、もてない人の格差が歴然と広がる「希望の二極化」が生じたという [1)]。山田はこのような現在の日本社会を「希望格差社会」と名づけている（山田 2004b）。また、苅谷剛彦は高校生を対象とした調査の分析結果から、勉強に対する意欲をもつ者ともたざる者の二極化が進行し、これを「意欲格差（インセンティブ・ディバイド）」と呼んでいる。苅谷は、学校外での勉強時間や自ら学ぶ意欲といったものが社会階層によって異なっていることを指摘し、1979 年と 1997 年を比較した時にその差が拡大していることを発見した（苅谷 2001）。古市も、現在の若年層を年齢的に若いというだけで一括りに語ることは困難であると主張している。「正社員」と「非正規」、「意識の高い都市型ノマド」と「地方に住むマイルドヤンキー」といったように、同じ若者でも分断が広まったはずだという（古市 2015）。

以上の議論からは、1990 年代後半以降の若年層を分析する際には、若年層内での差、とりわけ階層差について検証しなければならないことが示唆される。そこで、本稿で明らかにする 2 つ目の課題は、若年層の中で、現在志向の階層差が存在するのかどうかを検証することである。

以下の節では、1995 年と 2015 年に行われた全国調査を用いて、上記の 1 つ目の課題と 2 つ目の課題を検証していく。

## ２．方法

本稿で使用するデータは「1995 年社会階層と社会移動全国調査」（SSM1995）の A 票と「2015 年階層と社会意識全国調査」（SSP2015）である。全年齢層での分析を行うときには、両調査に共通する 20～64 歳に年齢層を揃えてある。また、本稿では、若年層を 20～34 歳と定義し分析を行う。ただし、分析は学生を除いた上で行った [2)]。

現在志向の指標としては「将来のために節約・努力するよりも、今の自分の人生を楽しむようにしている」という質問項目を使用する。なお、回答選択肢は「よくあてはまる／ややあてはまる／どちらともいえない／あまりあてはらない／ まったくあてはらない」の 5 つである。回答分布を確認する際には、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を足し合わせ、「あてはまる／どちらともいえない／あてはまらない」の 3 カテゴリの質的変数として使用する。一方、連続変数として使用するときには、「よくあてはまる」=5～「まったくあてはまらない」=1 となるように数値を与え、数値が高いほど現在志向が強いことを示すようにしている。

まず第 1 の課題を検証するために、現在志向の回答分布の変化を確認する。はじめに全

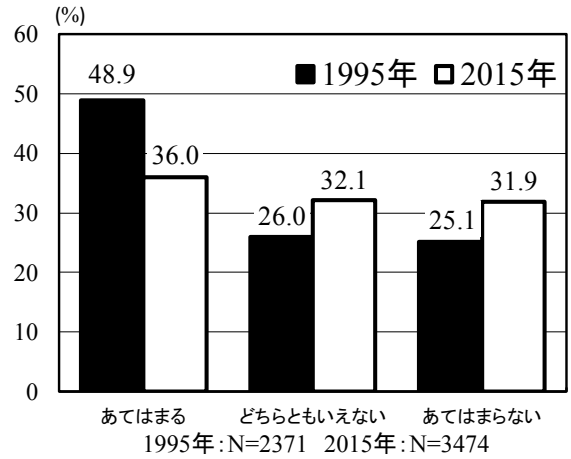



図 1 現在志向の回答分布（全年齢層）

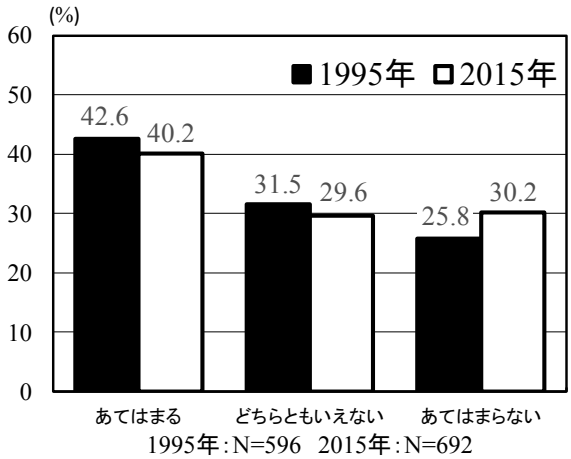



図 2 現在志向の回答分布（若年層）

年齢層での回答分布の変化を確認し、その後、若年層での回答分布の変化を確認する。続いて第 2 の課題を検証するため、若年層に分析対象をしぼって OLS 重回帰分析を行い、規定要因の変化を確認する。従属変数には現在志向、独立変数には性別、満年齢、教育年数、従業上の地位、世帯収入、配偶者の有無を使用する。

## ３．分析結果

### 3-1　若年層の現在志向は強まっていない

まずは全年齢層における現在志向の回答分布を確認する（図 1)。「あてはまる」と回答した人の割合をみると、1995 年では 48.9%、2015 年では 36.0%となっており、12.9 ポイント減少している。一方、「あてはまらない」と回答した人の割合は、1995 年では 25.1%であるのに対して 2015 年では 31.9%と 6.8 ポイント増加している。つまり現在志向を持つ人の割合は、この 20 年間で減少したことがわかる。

続いて、若年層における現在志向の回答分布を確認する（図 2)。分布の形をみてみると、2 時点でほぼ同じ形を示し、この 20 年間であまり大きな変化はなかったことがわかる。「あてはまる」と回答した人の割合も、1995 年が 42.6%、2015 年が 40.2%となっており、大きな変化はない。つまり、若年層だけをみると、現在志向を持つ人の割合は、増加しているとも減少しているともいえない[3)]。

回答分布の確認から明らかになったことは次の 2 点である。

① 全年齢層でみれば、この 20 年間で現在志向を持つ人の割合が減少した。

② しかしながら、若年層では現在志向を持つ人々の割合は変化していない。

したがって、先行研究で言及されている、若年層における現在志向の強まりは確認されなかった。それでは、若年層内における階層差は存在するのだろうか。続いて、現在志向の規定要因を明らかにする。

表 1　若年層における現在志向の規定要因

| | 1995年 | | | 2015年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 相関係数 r | 偏回帰係数 B | 標準化偏回帰係数 β | 相関係数 r | 偏回帰係数 B | 標準化偏回帰係数 β |
| 定数 | | 2.956 ** | | | 4.674 ** | |
| 性別（男性＜女性） | -.047 | -.119 | -.051 | -.174 ** | -.319 ** | -.156 ** |
| 年齢 | .021 | .025 | .092 | -.027 | .008 | .029 |
| 教育年数 | .018 | -.013 | -.022 | -.114 ** | -.065 ** | -.141 ** |
| 非正規以外職（ref） | | | | | | |
| 非正規職 | -.083 | -.156 | -.039 | -.028 | -.068 | -.029 |
| 無職 | .024 | .301 | .111 | -.093 * | -.194 | -.066 |
| 世帯収入（対数変換） | .010 | .008 | .003 | -.072 | -.084 | -.070 |
| 有配偶者 | -.151 ** | -.517 ** | -.215 ** | -.115 ** | -.245 * | -.120 * |
| 調整済み$R^2$ | | .027 ** | | | .056 ** | |
| N | | 436 | | | 540 | |

注）* p<0.05, ** p<0.01

### 3-2　現在志向の階層差があらわれた

若年層における OLS 重回帰分析の結果が表 1 である。

1995 年の結果をみてみると、まず調整済み決定係数 $R^2$ の値は.027 であった（1%水準で有意）。しかしながら、各独立変数の値を確認すると、有意な結果となったのは有配偶者のみであった（B=－.517**、β=－.215**）。したがって、1995 年では現在志向を規定する要因は配偶者の有無のみであり、配偶者のいない人の現在志向が配偶者のいる人よりも強いことがわかる。一方、2015 年の結果をみてみると、1995 年とは違った様相を呈している。まず調整済み決定係数 $R^2$ の値が.056（1%水準で有意）であり、この 20 年間で大きくなっている。各独立変数の値を確認すると、1995 年でも有意であった有配偶（B=－.245*、β=－.120*）に加えて、性別（B=－.319**、β=－.156**）と教育年数（B=－.065**、β=－.141**）にも有意な結果がでている。すなわち、男性、低学歴、無配偶者の人ほど現在志向が強いことがわかった。学歴という階層要因に有意な結果が現れたことから、若年層において、この 20 年の間に現在志向の階層差があらわれたといえる。

## ４．考察

本稿の分析から明らかになったことは次の 2 点である。

① この 20 年の間に、全年齢層では現在志向を持つ人々の割合が減少したが、若年層では現在志向を持つ人の割合は変化していない。

② この 20 年の間に、若年層では学歴によって現在志向が規定されるようになった。つま

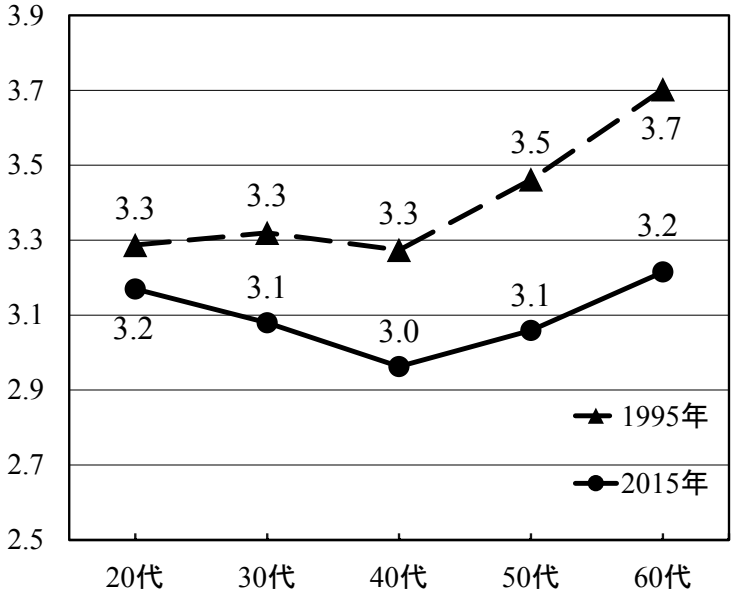



図 3　現在志向の年代別平均値

り現在志向の階層差があらわれた。

本節では明らかとなったこの 2 点について考察を行う。

### 4-1　若年層の現在志向が強まったという錯覚

若年層の現在志向は強まっていなかった。それでは、なぜ若年層の現在志向が強まっているという言説が成立しているのだろうか。この問に答えるために図 3 を作成した。これは、1995 年と 2015 年各時点における、20 代から 60 代までの現在志向の平均値をプロットしたものである。全体的に 2015 年のほうが下に位置しており、この 20 年の間に現在志向が弱まったことが再確認できる [4)]。ところが、その差は年齢が高くなるほど大きくなっており、20 代や 30 代では、この 20 年の変化は大きくない。ポイントは年齢と現在志向の関連における「傾斜」である。1995 年では、年齢が高いほど現在志向が強くなるという傾斜がみられた。ところが、2015 年では年齢によらずおおよそ一定の値を示し、1995 年のような傾斜はない [5)]。このような変化が若年層における現在志向の強まりという錯覚をもたらした可能性がある。かつての若年層は、確かに壮年層や中年層と比べてより将来のために節約・努力していた。基本的に、年齢が低いほどこれからの人生が長いため、このような傾斜は当然だと人々に受け入れられやすい。そして、この時の感覚を引きずったまま「若い人は大人たちよりも将来を考えているはずだ」と考えている状態で、壮中年層と同じくらいの現在志向を持つ現在の若年層をみると、若年層の現在志向が強まったように感じてしまうのだろう。しかし、重要なのは、現在の壮中年層（40～60 代）の現在志向が、かつての壮中年層と比べて弱いということであり、若年層の現在志向自体は強まっても弱まってもいない。

### 4-2　低階層の若年層が置かれている困難な状況

P.ウィリスの「ハマータウンの野郎ども」（Willis 1977=1996）や E.リーボウの「タリーズコーナー」（Liebow 1967=2001）といった、下層階級の人々に焦点を当てたエスノグラフィでは、下層階級の人々の持つ現在志向に言及されている。そこでは、今よりもよくなる将来を描くことができず、必然的に現在を重視する下層階級の人々の姿が描かれている。益田仁はこれらの研究の共通項を取り出し、現在志向は「将来の生活に対する見通しに何ら希望がもてず、現在において将来のために努力したとしても何の見返りも期待できない状況」（益田 2012: 92）から生み出されるとまとめている。であるならば、現在志向の階層差が出現したという結果は、低階層の若年層が将来の生活に対する見通しや希望を持てなくなった、ということのあらわれである可能性がある。宮本みち子によれば 2000 年代に日本が「不完全雇用社会」へと転換し、若年層、とりわけ恵まれた条件をもたない若年層が集中的にダメージを受けているという。しかしながら、日本の社会保障制度は、高齢者と比べて若年層に対して手薄であり、困難な状況にある若年層を救済するすべを持っていないと主張する（宮本 2012）。将来展望のできない社会において、低階層の若年層に対する支援策も乏しい中、低階層の若年層が将来に対する見通しや希望を失った結果、高階層の若年層よりも強い現在志向を持つにいたったと考えられる。

しかしながら、これまでの議論は分析結果と先行研究から考えられる一考察にすぎない。したがって、若年層と現在志向の関連、とりわけ現在志向へと向かうメカニズムについては、質的調査も含めた新たな調査、分析を行いながら、知見を積み重ねていく必要がある。

### 付記

1995 年 SSM 調査の使用にあたっては 2015 年 SSM 調査管理委員会の許可を得た。

また本稿は JSPS 科研費 14J00460 の助成を受けたものです。

### 注釈

1）　1998 年を前後に、自殺者数が 3 万人台となって以後高止まりしたこと、離婚数や失業者、フリーター数の増加傾向に弾みがついたこと、実質 GNP 成長率がマイナスに転じたことなどを「1998 年問題」として例示し、この年を転換点としている（山田 2004a）。

2）　学生にとっての将来や現在という言葉の意味が学生以外の人々のそれとは異なっていることが考えられるため、学生を分析から除いた。学生における現在志向については、別の分析枠組みが必要となる。

3）　確認のため、全年齢層、若年層それぞれについて、調査年と現在志向のクロス集計をとり、$\chi 2$ 検定を行った（図表省略）。その結果、全年齢層では 1%水準で有意な結果となったが、若年層では有意な結果とはならなかった。検定の結果からも、若年層ではこの 20 年で現在志向を持つ人の割合に大きな変化がなかったことを確認できる。

4） この 20 年の間に、現在志向が全体的に弱まった原因については、時代が変わったことで人々の現在志向が全体的に弱まったという時代効果と比較的現在志向の強かった出生コーホートが退出し、代わって比較的現在志向の弱い出生コーホートが加入したことによるコーホート効果が考えられる。しかしながら、これらの要因を厳密に識別することは非常に困難であり、また本稿の検証課題を超えている。若年層の現在志向が強まったという言説が成立している原因を考察する本稿において、重要なのは年齢と現在志向の関連における「傾斜」がこの 20 年の間に消失したという事実である。

5） 確認のため、全年齢層における満年齢と現在志向の相関分析を行ったところ（図表省略）、1995 年では 1%水準で有意な正の関連（r=.093**）がみられたが、2015 年では有意な関連はみられなかった。つまり、1995 年では年齢が高くなればなるほど現在志向が強まるが、2015 年ではそのような関連がみられないという結果が検定の結果からも確認される。

## 文献


Furlong, Andy and Fred, Cartmel, 2007, *Young People and Social Change*, 2nd ed., Buckingham: Open University Press.（=2009，乾彰夫・西村貴之・平塚眞樹・丸井妙子訳『若年層と社会変容――リスク社会を生きる』大月書店.）

古市憲寿，2011,『絶望の国の幸福な若者たち』講談社.

――――，2015,「『若者論』の終焉，あるいは始まり――討論者の立場から」『学術の動向』20(1): 40-5.

苅谷剛彦，2001,『階層化日本と教育危機――不平等再生産から意欲格差社会へ』有信堂高文社.

Liebow, Elliot, 1967, *Tally's Corner*, New York: Little, Brown.（=2001，吉川徹監訳『タリーズコーナー』東信堂.）

益田仁，2012,「若年非正規雇用労働者と希望」『社会学評論』63(1): 87-105.

宮本みち子，2012,『若者が無縁化する――仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』筑摩書房.

友枝敏雄編，2015,『リスク社会を生きる若者たち――高校生の意識調査から』大阪大学出版会.

豊泉周治，2010,『若者のための社会学――希望の足場をかける』はるか書房.

Willis, Paul, 1977, *Learning to Labour*, London: Ashgate.（=1996，熊沢誠・山田潤訳『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房.）

山田昌弘，2004,『希望格差社会――『負け組』の絶望感が日本を引き裂く』筑摩書房.

――――，2012,『若者が無縁化する――仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』筑摩書房.

# 社会意識と主観的健康の基礎的分析

## ―権威主義的な人は不健康？！―

大久保 将貴
（大阪大学／日本学術振興会）

## １．はじめに

現代社会における医療技術の飛躍的な進歩、社会保障制度への関心の高まり、働き方の変化等によって、人々の健康志向はますます強くなり、「人々の健康を何が規定するのか」が大きな関心を集めている。健康に対する関心の高まりを受けて、近年では「健康の格差」「社会階層と健康」を題材にした研究が蓄積している（近藤 2005; 川上ほか 2015）。これまでの不平等・格差研究では所得、教育、職業等の指標が注目される一方で、健康を扱った研究は相対的に少なかったのだが、健康が重要な厚生指標であることからも、健康についてはさらなる分析が進められるべきである（Reynolds and Brady 2012）。本稿では、SSP 調査で豊富に含まれる意識項目を利用し、どの意識項目が、どの程度、主観的健康観に影響を与えているのかを探索的に明らかにする。具体的な意識項目としては、社会的凝集性、労働・宗教・格差意識、現在志向・地位不安・現状維持志向・主観的自由、社会的評価・家族意識、教育意識、性別役割分業意識、政治・権威主義的態度を扱う。近年、社会学では健康を扱った研究が蓄積しており（石田 2006; 中田 2008; 筒井 2015; 本庄・神林 2015）、今後の社会学における健康研究の発展において、まずは意識項目に関する基礎的な情報を提供することが本稿の目的となる。

## ２．分析枠組

### 2-1　データ

本稿の主眼は、現代日本における主観的健康と意識の関連を把握することであるため、SSP2015 データのみを利用する。

### 2-2　被説明変数

被説明変数は主観的健康観であり、「あなたは、現在のご自分の健康状態をどう思いますか」という質問文に対して、「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「わるい」の 5 つの選択肢が用意されている。ここでは解釈を容易にするため、「よい（27.3%）」「まあよい（30.0%）」を健康群（＝1）に、「ふつう（31.0%）」「あまりよくない（10.6%）」「わるい（1.0%）」を非健康群（=0）にリコードした。なお無回答（0.1%）は欠損値として処理をした。主観的健康観は、健康を測定する客観的な指標ではないものの、様々な機能的能力、

医療機関利用状況、疾病率、死亡率との強い関連があることがわかっており、一般的かつ信頼性のある健康指標として利用されてきた（Idler and Benyamini 1997; Ferraro and Farmer 1999）。

### 2-3　説明変数と統制変数

説明変数は、SSP2015 調査における以下の意識に関する質問項目を利用する。

問 17　（社会的凝集性項目：どの程度そう思うか：5 件法）

a)　困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる

b)　近所の人たちは強いきずなで結ばれている

問 18（労働義務・宗教・格差・資産項目：どの程度そう思うか：5 件法）

a)　働くことは、社会に対する義務である

b)　「宗教的な心」というものは大切だと思う

c)　チャンスが平等にあたえられるなら、競争で貧富の差がついてもしかたがない

d)　競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことの方が大切だ

e)　今後、日本で格差が広がってもかまわない

f)　今の日本では資産の格差が大きすぎる

g)　大きな資産を持てるようになるかどうかは、本人の努力次第だ

h)　本人の社会的地位は、家庭の豊かさや親の社会的地位で決まっている

問 19（現在志向・地位不安・現状維持・主観的自由項目：どの程度あてはまるか：5 件法）

a)　自分の仕事のために、家庭や私生活を犠牲にしていることが多い

b)　将来のために節約・努力するよりも、今の自分の人生を楽しむようにしている

c)　まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる

d)　うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる

e)　もっと多くを手にするよりも、これまでに獲得したものを維持することの方が重要であると思う

f)　私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる

問 20（社会的評価・家族項目：どの程度重要か：4 件法）

a)　社会的評価の高い職業につくこと

b)　高い収入を得ること

c)　家族との時間を大切にすること

問 21（教育項目：どの程度そう思うか：4 件法）

a)　子どもには、大学以上の教育を受けさせるのがよい

b)　子どもには、学校教育のほかに家庭教師をつけたり、塾に通わせた方がよい

c)　子どもには、海外留学をさせたほうがよい

問 22（性別役割分業項目：どの程度そう思うか：4 件法）

a)　男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである

b)　夫が妻と同じくらい家事や育児をするのはあたりまえのことだ

問 23（政治・権威主義的態度項目：どの程度そう思うか：5 件法）

a)　政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない

b)　政治のことはやりたい人にまかせておけばよい

c)　これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ

d)　今の日本にはリーダーシップを持った政治家が必要だ

e)　国民の意見や希望は、国の政治にはほとんど反映されていない

f)　権威のある人々にはつねに敬意を払わなければならない

g)　以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む

h)　伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる

i)　この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである

上記の各質問に対して、回答の選択肢は 4 件もしくは 5 件法であるが、ここでは肯定的な回答を 1 にリコードし、それ以外を 0 にリコードした [1)]。統制変数としては、性別（女性＝1）、年齢、年齢の二乗、教育年数、婚姻状況（結婚＝1）、子どもの有無（有＝1）、世帯収入、働き方（非正規＝ref.、正規＝1、自営業＝2、学生・無職＝3）を投入した。

### 2-4　分析方法

以上の変数を用いて、ロジスティック回帰を行う。説明変数である意識変数については、全てを同時投入するのではなく、一つずつ投入し、全 33 モデルを推定した。なお、統制変数については全モデルで全てを投入している。

## ３．分析結果

解釈を容易にするため、ロジスティック回帰の結果はオッズ比を掲載する。また、意識変数がモデルに投入されていない変数や観察されない要因に影響を受けていると考えられるため、オッズ比については因果関係としてではなく相関関係として解釈する。設問番号ごとのオッズ比を示した分析結果が図 1～図 7 である [2)]。

図 1 からは、「困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる」「近所の人たちは強いきずなで結ばれている」という質問に肯定的な回答をした人はそうでない人に比べて、約 1.8 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。

図 2 からは、「働くことは、社会に対する義務である」「「宗教的な心」というものは大切だと思う」「チャンスが平等にあたえられるなら、競争で貧富の差がついてもしかたがない」「今後、日本で格差が広がってもかまわない」「大きな資産を持てるようになるかどうかは、本人の努力次第だ」という質問に肯定的な回答をした人はそうでない人に比べて、それぞれ約 1.6、1.3、1.3、1.6、1.3 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。

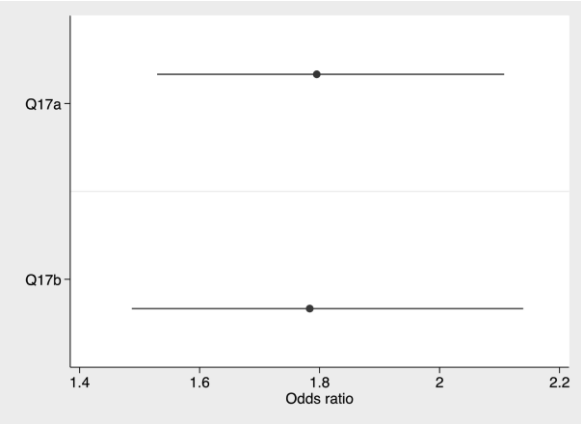



図 1　社会的凝集性

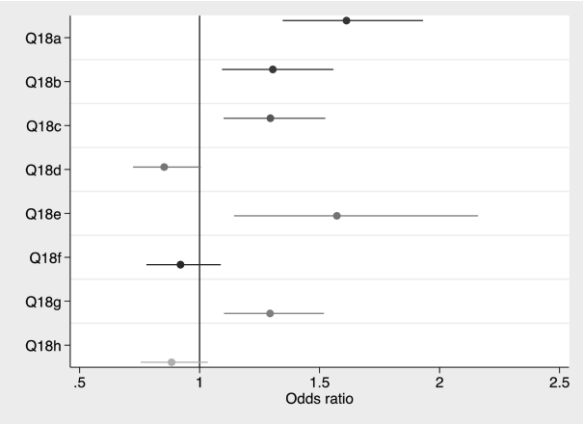



図 2　労働・宗教・格差意識

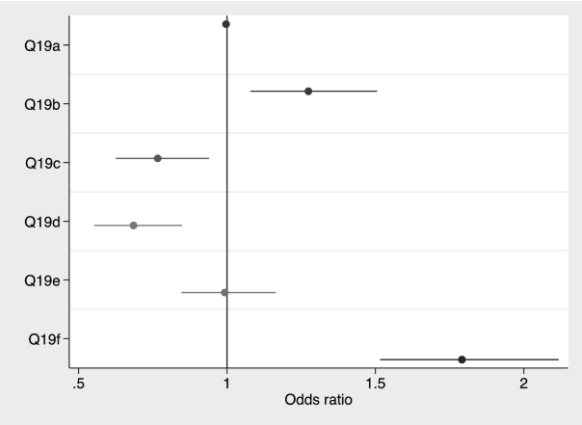



図 3　現在志向・地位不安・主観的自由

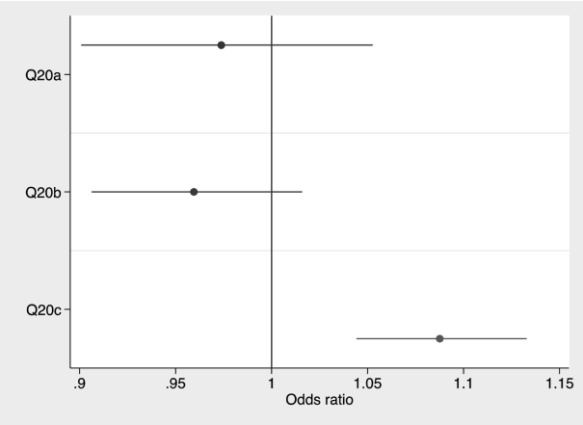



図 4　社会的評価・家族意識

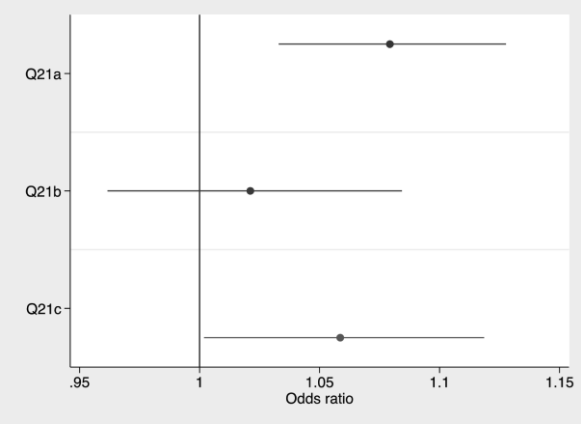



図 5　教育意識

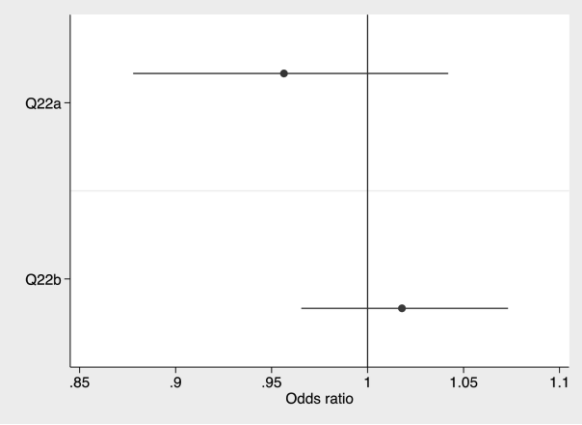



図 6　性別役割分業

図 3 からは、「将来のために節約・努力するよりも、今の自分の人生を楽しむようにしている」「私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる」という質問にあてはまると回答をした人はそうでない人に比べて、それぞれ約 1.2、1.8 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。一方で、「まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる」「うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる」

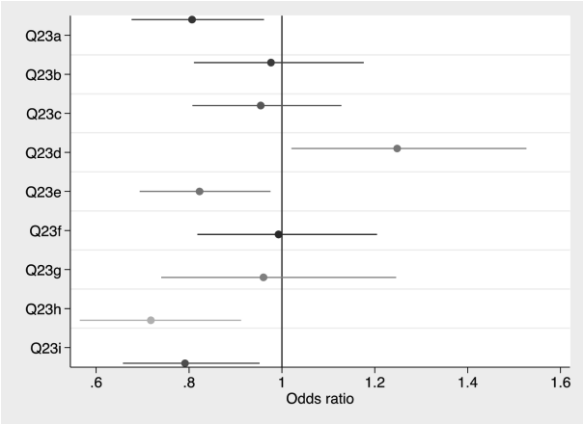



**図 7　政治・権威主義的態度**

にあてはまると回答をした人はそうでない人に比べて、約 0.8、0.7 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。換言すれば、約 1.3 倍、1.4 倍「健康でない」と回答しやすいということである。

図 4 からは、「家族との時間を大切にすること」という質問に肯定的な回答をした人は約 1.1 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。

図 5 からは、「子どもには、大学以上の教育を受けさせるのがよい」「子どもには、海外留学をさせたほうがよい」という質問に肯定的な回答をした人はそうでない人に比べて、約 1.1 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。

図 6 からは、有意な関連がある項目は確認できないことがわかる。

図 7 からは、「今の日本にはリーダーシップを持った政治家が必要だ」という質問に肯定的な回答をした人はそうでない人に比べて、約 1.2 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。一方で、「政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない」「国民の意見や希望は、国の政治にはほとんど反映されていない」「伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる」「この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである」に肯定的な回答をした人はそうでない人に比べて、それぞれ 0.8、0.8、0.7、0.8 倍「健康である」と回答しやすいことがわかる。換言すれば、約 1.2、1.2、1.4、1.3 倍「健康でない」と回答しやすいということである。

## ４．考察

図 1 の結果からは、社会的凝集性の高さが健康を予測することが明らかとなった。この関連は、Kawachi and Kennedy（1997）以降大きな注目を浴びてきたが、現代日本においても同様の傾向が確認される。図 2 の結果からは、格差容認が健康を予測している点が興味深い。所得格差と健康については幾つかの関連が指摘されているが（Wilkinson and Pickett

2006)、その経路に意識がどう位置付けられるかは、政策インプリケーションを含意するため重要な課題だろう。図 3 の結果からは、地位競争不安や地位喪失不安が不健康と関連すること明らかになった。ストレスは様々な疾病リスクを高めることが知られているが（Steptoe and Kivimaki 2012)、社会学の立場からは、どのようなストレスがどういった経路で健康に影響を与えているのかをさらに探る必要がある。図 4 の結果からは、家族意識と健康の関連が明らかとなった。一方で、家族関係が健康に与える影響は接触頻度、居住形態、会話時間等によって様々であることが知られており（Ailshire and Burgard 2012)、そうした様々な結果と家族意識がどのように関連しているかを今後掘り下げる必要がある。図 5 の結果からは、子どもへの教育意識と健康の関連を確認した。しかしながら、先述したように、こうした関連が因果関係なのかは本分析からはわからず、健康であるから子どもへの教育意識が高いという図式の可能性もある。図 6 の結果からは、性別役割分業意識と健康は有意な関連がないことが明らかとなった。こうした傾向が現代社会に固有のものなのか否かについては、時点感比較を行うことである程度明らかになる。図 7 の結果からは、権威主義的態度と健康の負の関係が明らかになった。権威主義的態度は被説明変数で扱われることが多かったが、説明変数とした場合には健康の予測因子となることがわかる。先述の通り、ストレスは健康に負の影響を与えるが、権威主義的態度がストレスといかなる関係にあるのかはさらなる分析が必要となる。

## ５．おわりに

本稿の目的は、今後の社会学における健康研究の発展に向けて、現代日本における主観的健康観と社会意識について基礎情報を提供することであった。分析の結果、主観的健康観と正の関連があるのは、社会的凝集性、労働義務感、宗教心、結果の平等、機会の平等、格差容認、現在志向、主観的自由、家族意識、教育意識、政治態度であることを確認した一方で、主観的健康観と負の関連があるのは、地位競争不安、地位喪失不安、権威主義的態度である。本稿では、方法論上の限界はあるものの [3)]、様々な意識項目に着目することで、これまでの健康研究で注目を浴びてこなかった予測因子を提示したといえよう。

### 付記

本稿は JSPS 特別研究員奨励費 14J00973 の助成を受けたものです。

### 注釈

1)　例えば問 17 の回答選択肢は「とてもそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「全くそう思わない」が用意されているが、この場合は「とてもそう思う」「そう思う」を 1 に、それ以外を 0 にリコードしている。他の質問項目についても同様の手順でリコードを行っている。

2）　図における信頼区間を表すエラーバーがオッズ比 1 をまたいでいる場合には、その変数が有意に影響を与えていないことを意味する。

3）　第 1 に、本稿の分析で検討した意識変数は、分析モデルに含まれていない誤差項の影響を受けている可能性があるため、分析結果を因果関係として解釈できない。第 2 に、客観的属性変数や行動変数との関連を考慮することが不可欠である。健康の決定要因において、行動が意識を媒介するのか、意識が行動を媒介するのかは、社会学のみならず健康研究において重要な問いである。

## 文献


Ailshire, J. and S. Burgard, 2012, “Family Relationships and Troubled Sleep among U.S. Adults: Examining the Influences of Contact Frequency and Relationship Quality,” *Journal of Health and Social Behavior*, 53（2）: 248-62.

Ferraro, K. and M. Farmer, 1999, “Utility of Health Data from Social Surveys,” *American Sociological Review*, 64（2）: 303-15.

本庄かおり・神林博史，2015,「ジェンダーと健康」川上憲人・橋本英樹・近藤尚己編『社会と健康――健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』東京大学出版会.

Idler, E. and Y. Benyamini, 1997, “Self-Rated Health and Mortality: A Review of Twenty-Seven Community Studies,” *Journal of Health and Social Behavior*, 38（1）: 21-37.

石田浩，2006,「健康と格差――少子高齢化の背後にあるもの」白波瀬佐和子編『変化する社会の不平等――少子高齢化にひそむ格差』東京大学出版会.

Kawachi, I. and B. Kennedy, 1997, “Health and Social Cohesion: Why Care about Income Inequality,” *British Medical Journal*, 314: 1037-40.

川上憲人・橋本英樹・近藤尚己，2015,『社会と健康――健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』東京大学出版会.

近藤克則，2005,『健康格差社会――何が心と健康を蝕むのか』医学書院.

中田知生，2008,「高齢期における主観的健康悪化と退職の過程――潜在成長曲線モデルを用いて」『理論と方法』23（1）: 57-72.

Reynolds, M. and D. Brady, 2012, “Bringing You More Than the Weekend: Union Membership and Self-rated Health,” *Social Forces*, 90（3）: 1023-49.

Steptoe, A. and M. Kivimaki, 2012, “Stress and Cardiovascular Disease,” *Nature Review Cardiology*, 9: 360-70.

筒井淳也，2015,「高齢者の主観的健康状態に関するパネルデータ分析――配偶状態の影響の検討」『立命館産業社会論集』51（1）: 297-304.

Wilkinson, R. and E. Pickett, 2006, “Income Inequality and Health: A Review and Explanation of the Evidence,” *Social Science and Medicine*, 62: 1768-84.

# 主観的社会的地位と健康

## ―なぜ「下」であることは健康に悪影響を与えるのか―

神林 博史
（東北学院大学）

## １．目的

### 1-1　主観的社会的地位と健康の関連

この 15 年ほどの間に、社会疫学では主観的社会的地位（Subjective Social Status: SSS）と健康の関係が注目を集めるようになった。SSS は「自分が社会の序列構造のどこに位置するか」についての人びとの認知を測定したもので、社会階層研究で用いられる階層帰属意識・階級帰属意識とほぼ同じものである。

収入・職業・学歴といった客観的な社会経済的地位（以下「SES」）は健康に影響し、一般に SES が低い人びとほど健康状態が悪い傾向があることが知られている。SSS と健康の関連が注目を集めたのは、SES の影響をコントロールしてもなお、SSS は健康に対して統計的に有意な効果を持ち、その効果は SES と同等かそれ以上であることが明らかになったからである。SES とは独立に SSS が健康と関連するということは、社会経済的な不平等が健康に与える影響の中に、それまで想定されていなかった新たなメカニズムが存在する可能性を示唆する。この点で SSS と健康の関連は健康の社会的決定要因を考える上で非常に興味深いものであり、このことを最初に指摘した論文（Adler et al. 2000）以降、現在までにすでに 100 本以上の論文が出版されている（Euteneur 2014; 神林 印刷中）。

### 1-2　主観的社会的地位と健康をつなぐメカニズム

SSS と健康の関連については、上述の特徴の他にもう 1 点興味深い知見がある。それは、SSS の効果の非対称性である。SSS を「上」「中」「下」のようなダミー変数として処理した時、「上」よりも「下」の方が健康との関連が強いという傾向が、少なからぬ研究で確認されている。

ではなぜ SSS は SES とは独立に、健康に対して非対称な効果を持つのだろうか。その理由は未だ完全には解明されていないが、現時点では、(1) 相対的剥奪、(2) 心理的資源、(3) 損失回避性、の 3 つの媒介変数をキーとしたメカニズムが存在する可能性を考えることができる。

まず相対的剥奪だが、この状態にある個人は、強い不満やストレスを抱える可能性が高く、このことが健康に悪影響を与えると考えられる（Kondo 2012）。一般には SES あるいは SSS が低い人ほど、相対的剥奪に陥る可能性が高いだろう。また、相対的剥奪と SSS は、

その形成過程に社会的比較を含むという共通点があるので、SSS と相対的剥奪の間には密接な関係があると考えらえる。（ただし現時点では、相対的剥奪と SSS の因果関係は理論的・実証的に必ずしも明確に整理されていない。）

次に心理的資源だが、これは生活において生じる困難やストレスに耐え、それを克服する助けとなるような心理特性のことである。具体的には、自尊心、楽天性、首尾一貫性感覚、コントロール感などがこれに含まれる。一般に、SES または SSS が高い人ほどこれらの心理的資源が豊かであることが知られており、「SSS→心理的資源→健康」という媒介関係が確認されている（Kan et al. 2014）。

最後に、損失回避性はプロスペクト理論における重要概念の 1 つである。人間は、何かを得るよりも失うことにより強く反応する（Kahneman and Tversky 1979）。したがって、何か（本稿の関心で言えば SES）を失う可能性が高い人は、そのことがストレスや不安の原因になり、健康に悪影響を及ぼすと予想できる。一般には、SES（または SSS）が低い人ほど、損失回避性が低い（損失リスクが高い）と考えられる。

まとめると、低 SSS であることは、相対的剥奪の増大と、心理的資源および損失回避性の低下をもたらす。このことが SSS と健康の関係を媒介するとともに、不利な要因が「下」に集中することで SSS の効果の非対称性を作り出すと考えられる。

### 1-3　本稿の目的

SSS と健康をつなぐメカニズムを探る研究は近年着実に増加しているが、筆者が知る限りでは、これら 3 つの媒介変数を同時に分析に投入した研究は見当たらない。もし相対的剥奪・心理的資源・損失回避性の 3 要因が SSS と健康の関係を媒介しているのなら、これらの変数を SSS と同時に投入した場合、健康に対する SSS の効果は消失するか低下すると予想できる。本稿の目的は、以上のような問題意識に基づき、SSS が健康に影響するメカニズムを検討することである。

## ２．方法

「2015 年第 1 回 SSP 調査（SSP2015 調査）」のデータを分析する。ロジスティック回帰モデルを使用し、男女別に分析する。使用する変数は以下の通りである。

・従属変数

主観的健康（健康度の自己評価）。5 件法の回答を「悪い＝1」「ふつう・良い=0」の 2 値に変換。

・独立変数

（1）デモグラフィック変数：年齢（20 代から 60 代の 5 カテゴリのダミー変数、基準カテ

ゴリは 50 代)、および婚姻関係（既婚ダミー）を用いる。

（2）SES：客観的な社会経済的地位変数として、学歴（短大以上ダミー)、職業（EGP 階級分類による 6 カテゴリのダミー変数、基準カテゴリは自営)、従業上の地位（正規雇用／非正規雇用／自営／無職の 4 カテゴリのダミー変数、基準カテゴリは正規雇用)、世帯収入（四分位数に基づく 4 カテゴリのダミー変数、基準カテゴリは第 3 四分位）を用いる。

（3）SSS：10 段階階層帰属意識を用いる。分布を考慮して「上」(10～8)、「中の上」(7)、「中の中」(5～6)、「中の下」(4)、「下」(3～1) の 5 カテゴリに再編しダミー変数とする。基準カテゴリは「中の中」。

（4）相対的剥奪：先行研究では、相対的剥奪の指標はイツハキ指標（Yitzhaki 1979）のように SES から作成するか、相対所得のように主観的な評価を用いたものに大別される。本報告では後者を採用し、2 種類の指標を用いる。1 つめは「世帯収入への評価」である。これは自分の世帯収入を「①とても少ない、②どちらかといえば少ない、③ちょうどいい、④どちらかといえば多い、⑤とても多い」の 5 段階で評価するものである。収入を少なく評価するほど、相対的剥奪度（剥奪感）が高いとみなせる。③を基準カテゴリとし、①、②、④＋⑤の各カテゴリをダミー変数に変換して使用する。2 つめは、主観的社会移動である。これは、現在の SSS と 15 歳時の SSS の差をとったもので、下降移動（15 歳時 SSS より現在の SSS の方が低い）を経験した人は相対的剥奪を経験する可能性が高いと考えられる。水平移動（2 つの SSS の差=0）を基準カテゴリとし、下降移動ダミーと上昇移動ダミーの 2 つを使用する。これら 2 つの指標は、社会的比較の対象が異なることに注意が必要である。世帯収入評価が他者との比較による相対的剥奪を測定しているのに対し、主観的社会移動は個人内の過去との比較による相対的剥奪を測定している。

（5）心理的資源：SSP2015 調査の場合、残念ながら心理的資源に相当する変数はほとんどない。今回は代理変数として「私の生き方は、主に自分の考えで自由に決められる」(主観的自由)を用いる。あてはまる=1、どちらともいえない＋あてはまらない=0 のダミー変数。

（6）損失回避性：地位不安に関わる 2 つの項目（「他人に追い越されそうな不安」と「自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安」、以下では前者を「後塵不安」、後者を「喪失不安」と呼ぶ）を用いる。あてはまる=1、どちらともいえない＋あてはまらない=0 のダミー変数。

## ３．分析

### 3-1　主観的健康に対する SES と SSS の効果

まず、主観的健康に対して SES と SSS がどのような効果をもたらすかを確認しておこう。表 1 は、(1) デモグラフィック変数のみを独立変数としたモデル（モデル 1)、(2) モデル 1 に SES を追加したモデル(モデル 2)、(3) モデル 2 に SSS を追加したモデル(モデル 3)、の 3 つのモデルの擬似 $R^2$ 値（Nagelkerke $R^2$）をまとめたものである。

表 1　主観的健康に対する SES および SSS の効果（疑似 $R^2$ 値）

| | モデル 1（年齢＋婚姻関係） | モデル 2（モデル 1＋SES） | モデル 3（モデル 2＋SSS） |
|---|---|---|---|
| 男性（N=1288） | .090 | .115 (+.025) | .148 (+.033) |
| 女性（N=1445） | .041 | .087 (+.046) | .130 (+.043) |

数値：Nagelkerke $R^2$、（ ）内の数値は 1 つ前のモデルからの $R^2$ の増加量

表 2　媒介変数に対する SSS の効果

| | 世帯収入評価 | | 主観的社会移動 | | 主観的自由 | | 後塵不安 | | 喪失不安 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSS | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| 下(1-3) | -.409 | -.295 | -2.079 | -2.043 | | -.276 | | .477 | | .399 |
| 中の下(4) | -.286 | -.156 | -1.037 | -1.025 | | | | | | |
| 中の上(7) | .136 | .291 | 1.184 | .805 | .266 | | | | | |
| 上(8-10) | .475 | .506 | 1.752 | 1.891 | .447 | | -.339 | | | |
| $R^2$ | .321 | .296 | .357 | .282 | .055 | .060 | .093 | .079 | .059 | .043 |
| N | 1288 | 1445 | 1288 | 1445 | 1288 | 1445 | 1288 | 1445 | 1288 | 1445 |

方法：OLS。数値はデモグラフィック変数およびSESをコントロールした場合のSSSの非標準化偏回帰係数（SSSの基準カテゴリは「中の中」）。5%水準で有意な係数のみ表示。主観的社会移動以外の意識変数は肯定的な回答ほど数値が大きくなるようにコードされている。

変数を追加するごとに疑似 $R^2$ 値は上昇するが、その増加量は「モデル 1→モデル 2」の場合と「モデル 2→モデル 3」の場合がほぼ同等である。したがって、「SSS は SES とは独立に、健康に対して同等以上の効果を持つ」という傾向は、SSP2015 データにおいても確認されたことになる。

### 3-2　媒介変数に対する SSS の影響

次に、今回の分析で用いる 3 つの媒介変数（の 5 つの指標）に対する SSS の効果を確認しておこう。デモグラフィック変数、SES および SSS を独立変数とし、世帯収入評価・主観的社会移動・主観的自由・後塵不安・喪失不安を従属変数とした重回帰分析の結果をまとめたものが表 2 である（紙幅の都合で SSS の効果のみ表示）。

SSS の効果は従属変数によって異なるが、男性の喪失不安以外には SSS が有意な効果を持っていることがわかる。

### 3-3　SSS の効果は 3 つのメカニズムに媒介されるか？

では、これらの媒介変数をコントロールした時に、主観的健康に対する SSS の効果がどのように変化するかを検討しよう。まず、男性の分析の結果を表 3 に示す。モデル 1 は SSS およびコントロール変数を独立変数とするモデル、モデル 2 はこれに相対的剥奪・心理的資源・損失回避性の指標を追加したモデルである。モデル 1 からモデル 2 で SSS の効果がどのように変化するかが分析の焦点となる。

モデル 1 では、SSS の「下」のみが主観的健康に対し有意な正の効果を持っている。つまり、SSS が下の人は健康状態が「悪い」と回答する可能性が高い。それ以外の SSS のカテゴリは効果を持っておらず、SSS の効果の非対称性が確認できる。

表 3　主観的健康（悪い）に対する SES、SSS および媒介変数の効果（男性）

| 独立変数 | | モデル1 オッズ比 | p | 95%信頼区間 下限 | 上限 | モデル2 オッズ比 | p | 95%信頼区間 下限 | 上限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年齢 | 20-29歳 | .317 | * | .144 | .700 | .309 | * | .135 | .706 |
| (ref.50-59歳) | 30-39歳 | .512 | * | .265 | 0.989 | .514 | | .263 | 1.006 |
| | 40-49歳 | 1.652 | | 0.995 | 2.743 | 1.567 | | .929 | 2.642 |
| | 60-64歳 | 1.880 | * | 1.042 | 3.393 | 1.819 | * | 0.986 | 3.356 |
| 婚姻関係 | 既婚 | .380 | * | .247 | .585 | .349 | * | .223 | .546 |
| 教育 | 短大以上卒 | 1.052 | | .697 | 1.589 | 1.112 | | .728 | 1.700 |
| 職業 | 上層NM | 1.274 | | .549 | 2.955 | 1.560 | | .653 | 3.725 |
| (ref.自営) | 下層NM | 1.167 | | .443 | 3.068 | 1.512 | | .554 | 4.125 |
| | 熟練M | .915 | | .356 | 2.349 | 1.163 | | .438 | 3.086 |
| | 非熟練M | .921 | | .360 | 2.356 | 1.028 | | .388 | 2.720 |
| | 農業 | .414 | | .083 | 2.064 | .335 | | .061 | 1.841 |
| 従業上の地位 | 非正規雇用 | 1.262 | | .670 | 2.380 | 1.278 | | .671 | 2.437 |
| (ref.正規雇用) | 自営 | 1.400 | | .618 | 3.170 | 1.677 | | .721 | 3.902 |
| | 無職 | 2.932 | * | 1.113 | 7.722 | 3.172 | * | 1.163 | 8.648 |
| 世帯収入 | 第1四分位(低) | .747 | | .403 | 1.384 | .619 | | .325 | 1.178 |
| (ref.第3四分位) | 第2四分位 | .834 | | .465 | 1.494 | .846 | | .468 | 1.528 |
| | 第4四分位(高) | 1.008 | | .552 | 1.841 | 1.005 | | .536 | 1.884 |
| SSS | 下(1-3) | 2.774 | * | 1.677 | 4.591 | 2.767 | * | 1.572 | 4.870 |
| (ref.「中の中」) | 中の下(4) | 1.043 | | .612 | 1.777 | 1.055 | | .601 | 1.852 |
| | 中の上(7) | .714 | | .383 | 1.332 | .650 | | .339 | 1.246 |
| | 上(8-10) | .486 | | .179 | 1.315 | .424 | | .147 | 1.220 |
| 世帯収入評価 | とても少ない | | | | | 3.010 | * | 1.609 | 5.634 |
| (ref.ちょうどいい) | 少ない | | | | | 1.119 | | .681 | 1.839 |
| | 多い | | | | | 1.291 | | .554 | 3.012 |
| 主観的社会移動 | 下降移動 | | | | | .578 | * | .348 | .959 |
| (ref.水平移動) | 上昇移動 | | | | | .975 | | .600 | 1.587 |
| 主観的自由 | 自由に決められる | | | | | .745 | | .502 | 1.106 |
| 地位不安 | 後塵不安 | | | | | .906 | | .519 | 1.581 |
| | 喪失不安 | | | | | 1.788 | * | 1.037 | 3.083 |
| | 定数 | .169 | * | | | .163 | * | | |
| $\chi^2$(d.f.) | | 99.883 (21) | | | | 127.917(29) | | | |
| -2LL | | 802.399 | | | | 774.365 | | | |
| 擬似$R^2$(Nagelkerke) | | .148 | | | | .188 | | | |
| N | | 1288 | | | | | | | |

方法:ロジスティック回帰モデル　* p<.05

3 種の媒介変数を投入したモデル 2 では、世帯収入評価、主観的社会移動、喪失不安が有意な効果を持っている。すなわち、世帯収入評価が「とても低い」と感じていることおよび喪失不安があることは、健康状態が悪いことと結びつく。これは予想に合致する結果だが、その一方で、下降移動のオッズ比は有意に 1 を下回っているので、下降移動した人は健康状態が「悪い」と回答しにくいことを示す。

以上の結果のうち、主観的社会移動と喪失不安の効果については少々注意が必要である。まず、下降移動が健康悪化に負の効果を持つことは奇妙に思える。しかし下降移動は出身階層（15 歳時 SSS）が高い場合に生じやすいことをふまえれば、下降移動の効果には「出身階層が高い」ことの健康への影響が反映されていると解釈すべきかもしれない。また、喪失不安の効果は「喪失不安が健康を悪化させる」のではなく、「健康状態が悪い人が喪失不安を持ちやすい」という逆因果の可能性を考慮すべきだろう。

表 4　主観的健康（悪い）に対する SES、SSS および媒介変数の効果（女性）

| 独立変数 | | モデル1 オッズ比 | p | 95%信頼区間 下限 | 上限 | モデル2 オッズ比 | p | 95%信頼区間 下限 | 上限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年齢 | 20-29歳 | .464 | * | .229 | .940 | .489 | | .236 | 1.014 |
| (ref.50-59歳) | 30-39歳 | .701 | | .400 | 1.230 | .723 | | .406 | 1.288 |
| | 40-49歳 | 1.750 | * | 1.094 | 2.800 | 1.860 | * | 1.147 | 3.017 |
| | 60-64歳 | 1.532 | | .883 | 2.659 | 1.642 | | .926 | 2.912 |
| 婚姻関係 | 既婚 | .583 | * | .384 | .883 | .565 | * | .366 | .873 |
| 教育 | 短大以上卒 | .935 | | .631 | 1.385 | 1.051 | | .699 | 1.581 |
| 職業 | 上層NM | .511 | | .165 | 1.576 | .527 | | .168 | 1.655 |
| (ref.自営) | 下層NM | .492 | | .160 | 1.510 | .534 | | .171 | 1.665 |
| | 熟練M | .885 | | .252 | 3.110 | 1.030 | | .288 | 3.681 |
| | 非熟練M | .560 | | .174 | 1.808 | .646 | | .197 | 2.117 |
| | 農業 | .226 | | .025 | 2.019 | .255 | | .029 | 2.226 |
| 従業上の地位 | 非正規雇用 | .926 | | .559 | 1.534 | .933 | | .557 | 1.565 |
| (ref.正規雇用) | 自営 | .681 | | .210 | 2.208 | .700 | | .214 | 2.288 |
| | 無職 | 1.124 | | .376 | 3.364 | 1.243 | | .410 | 3.775 |
| 世帯収入 | 第1四分位(低) | 1.608 | | .854 | 3.028 | 1.392 | | .719 | 2.694 |
| (ref.第3四分位) | 第2四分位 | 1.443 | | .769 | 2.706 | 1.320 | | .697 | 2.503 |
| | 第4四分位(高) | 1.058 | | .519 | 2.158 | 1.053 | | .507 | 2.186 |
| SSS | 下(1-3) | 3.691 | * | 2.266 | 6.013 | 3.103 | * | 1.846 | 5.218 |
| (ref.「中の中」) | 中の下(4) | 2.045 | * | 1.296 | 3.229 | 1.900 | * | 1.183 | 3.052 |
| | 中の上(7) | .927 | | .498 | 1.723 | .930 | | .487 | 1.774 |
| | 上(8-10) | .574 | | .170 | 1.934 | .491 | | .139 | 1.740 |
| 世帯収入評価 | とても少ない | | | | | 1.365 | | .733 | 2.540 |
| (ref.ちょうどいい) | 少ない | | | | | 1.396 | | .898 | 2.171 |
| | 多い | | | | | .995 | | .424 | 2.336 |
| 主観的社会移動 | 下降移動 | | | | | 1.575 | | .957 | 2.593 |
| (ref.水平移動) | 上昇移動 | | | | | 1.729 | * | 1.010 | 2.961 |
| 主観的自由 | 自由に決められる | | | | | .707 | | .492 | 1.015 |
| 地位不安 | 後塵不安 | | | | | .816 | | .457 | 1.456 |
| | 喪失不安 | | | | | 2.631 | * | 1.504 | 4.601 |
| | 定数 | .132 | * | | | .077 | * | | |
| $\chi^2$(d.f.) | | 97.432 (21) | | | | 122.866(29) | | | |
| -2LL | | 908.380 | | | | 882.964 | | | |
| 擬似$R^2$(Nagelkerke) | | .130 | | | | .163 | | | |
| N | | 1445 | | | | | | | |

方法:ロジスティック回帰モデル　* p<.05

これらの変数をコントロールしても SSS の効果は基本的に変化しない。したがって、SSS の効果は相対的剥奪・心理的資源・損失回避性ではないメカニズムによって生じている可能性が高い。

次に、女性の分析結果をまとめたのが表 4 である。モデル 1 では、SSS の「下」「中の下」が有意な正の効果を持っている。媒介変数については、上昇移動と地位不安（喪失不安）のみが正の効果を持っている。上昇移動が正の効果を持っているということは、上昇移動した人は主観的健康が悪い傾向があるということになるが、これは男性の場合と同様に、出身階層の効果（上昇移動した人の多くは出身階層が低かった可能性が高い）を反映したものと考えるべきかもしれない。

男性の場合と同様、媒介変数を追加しても SSS の効果はほとんど変化しない。したがっ

て、女性の場合も、主観的健康に対する SSS の効果は相対的剥奪・心理的資源・損失回避性ではないメカニズムによって生じていると考えられる。

## ４．考察

本稿の分析は予備的なものであるが、その結果から判断する限り、SSS と健康の関連は相対的剥奪・心理的資源・損失回避性の媒介関係では十分に説明できないことが明らかになった。では、低 SSS と不健康をつなぐメカニズムはどのようなものだろうか。残念ながら、現時点ではそれに明確に答えることはできない。また、相対的剥奪については、今回用いた指標以外にも様々な指標を考えることができる。この面でのさらなる検討も必要であろう。

これまでの日本の階層研究では、階層帰属意識は専ら従属変数として分析されてきた。しかし SSS と健康の関連が示すように、階層帰属意識は独立変数としても興味深い性質を持っている。本稿の主題は、広く言えば「格差社会は、なぜ・どのように、個人や社会にとって悪いのか」という問題と関わっている。この問題系の中で、階層帰属意識あるいは他の階層意識の「使い道」を探求することは、社会意識研究にとって興味深い課題であると思われる。

## 文献


Adler, N.E., et al., 2000, “Relationship of Subjective and Objective Social Status with Psychological and Physiological Functioning: Preliminary Data in Healthy White Women,” *Health Psychology*, 19(6): 586-92.

Euteneuer, F., 2014, “Subjective Social Status and Health,” *Current Opinion of Psychiatry*, 27:337-343.

Kan, C., N. et al., 2014, “Psychological Resources as Mediators of the Association between Social Class and Health: Comparative Findings from Japan and the USA,” *International Journal of Behavioral Medicine*, 21(1): 53-65.

神林博史，印刷中，「『主観的社会的地位と健康』研究の動向と課題：階層意識研究の視点からのレビュー」『人間情報学研究』21（ページ数未定）.

吉川徹，2015,『現代日本の「社会の心」――計量社会意識論』有斐閣.

Kahneman, D. and A. Tversky, 1979, “Prospect Theory: An Analysis of Decision under Risk,” *Econometrica*, 47(2): 263-91.

Kondo, N., 2012, “Socioeconomic Disparities and Health: Impacts and Pathways,” *Journal of Epidemiology*, 22(1): 2-6.

Yitzhaki, S., 1979, “Relative Deprivation and Gini Coefficient,” *Quarterly Journal of Economics*, 93: 321-24.

# 都市規模が市民参加に与える影響

## —群部で盛んな市民参加—

平松　誠
（大阪大学）

### １．市民参加における地域の重要性

本稿の目的は、地域の都市規模が、個人の市民社会への参加にどのような影響を与えるのかを検討することである。

近年、日本社会でも市民社会に関する関心が高まっている。ここで、市民社会を「国家と市場社会（market society）の双方から区別される」（斎藤 2000: 2）、自発的な個人が参加する公的な領域と定義する。とりわけ、阪神淡路大震災、東日本大震災といった二つの大きな自然災害の後に、多くの人がボランティアや寄付を通して被災地支援を行ったことは記憶に新しい（桜井編 2013）。また、1998 年 12 月に「特定非営利活動促進法」が施行された後には、ボランティア活動や NPO 活動を活発に行うための法制度も、徐々に整いつつある。

市民社会への関心が高まるにつれて、市民社会への参加（市民参加）をどのような人が担うのかという点が社会学、経済学などの立場から検討されてきた。先行研究より、経済的階層が高い人や高年齢の人が投票行動、政治活動、市民運動、ボランティア行動（仁平 2011）、そして寄付行動（柗永 2012）を行いやすいことが明らかになってきた。また、女性や教育年数の長い人もボランティア行動を行いやすいこと（仁平 2011; 三谷 2014）も明らかになっている。総じて、階層、年齢、性別などの属性によって、個人の市民参加が規定されているといった興味深い知見が明らかにされてきた。

しかしながら、どのような個人が市民社会に参加しやすいのかについて注目されてきた一方で、どのような地域に居住する人が市民参加に積極的になるのかという点については、それほど大きな注目は寄せられてこなかった。仁平典宏（2008）は、2005 年 SSM データの分析[1]より、都市規模が小さい地域で市民参加が生じやすいことを示しているが、その内実について詳細に検討しているわけではない。実際に市民参加をする際には、その人が居住している地域において多くの活動が行われていることは想像に難くない。たとえば、地域の学校や公民館で投票、ボランティアなどを行うことなどが考えられる。その人が居住する地域において市民参加が行われやすいことを踏まえると、どのような地域に住むことで、個人がそれらの行動を行いやすくなるかに注目する必要がある。

そこで、本稿では個人が居住する市区町村の都市規模が個人の市民参加に与える影響について、クロス表分析を通して検討していく。

## ２．分析

### 2-1　変数

まず、分析に使用する変数について確認する。

#### 都市規模

市区町村を、政令指定都市[2)]と東京都特別区部[3)]を含む「大都市」（N=884）、政令指定都市以外の市を表す「市部」（N=2322）、町村を表す「郡部」（N=330）の 3 つに分けた。これらの変数を、都市規模を表すものとして使用する。

#### 市民参加

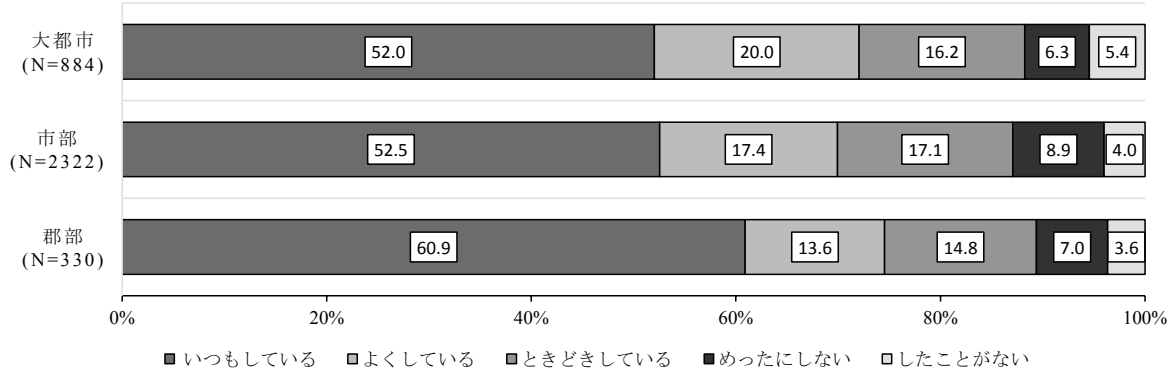
分析に用いた変数は以下の 5 つである。まず、政治参加に関する変数として「投票行動」、「議員とのつきあい」の 2 つに注目する。次に、政治に限らず広く社会参加に関する変数として「市民運動」、「ボランティア行動」、「募金・寄付行動」の 3 つに注目する。これらの変数はすべて、「いつもしている」、「よくしている」、「ときどきしている」、「めったにしない」、「したことがない」の 5 カテゴリで尋ねられている。

・国政選挙や自治体選挙の際の投票（投票行動）
・国会や地方議会の議員とのつきあい（議員とのつきあい）
・市民運動への参加（市民運動）
・ボランティア・NPO 活動（ボランティア行動）
・募金や寄付（募金・寄付行動）

### 2-2　クロス表分析

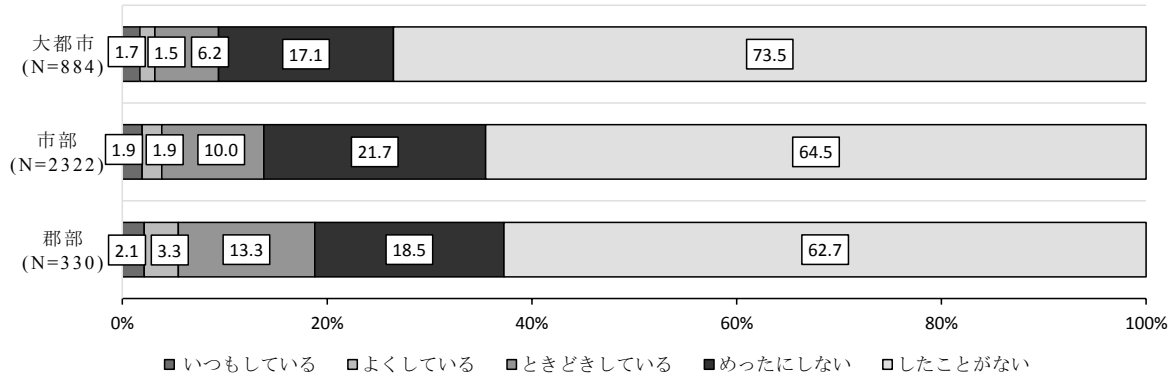
まずは、「投票行動」と「議員とのつきあい」といった政治に関する変数について見ていこう（図 1）。都市規模と投票行動との関連について見ると、「いつもしている」が大都市では 52.0%である一方で、郡部では 60.9%であり、両者には約 9 ポイントもの差があることが分かる。また、$\chi^2$検定の結果、都市規模と投票行動との間には 1%水準で有意な関連が認められた（$\chi^2$（d.f.=8）=20.321，$p<0.01$）。したがって、郡部に居住する人々は積極的に投票を行いやすいことが伺える。

つづいて、都市規模と議員とのつきあいとの関連について見ることにしよう（図 2）。「いつもしている」、「よくしている」、「ときどきしている」の合計を見ると、大都市で 9.4%、市部で 13.8%、郡部で 18.7%であり、大都市と郡部との差は 9.3 ポイントと大きな差がある。また、$\chi^2$検定の結果、都市規模と議員つきあいとの間には、1%水準で有意な関連が認められた（$\chi^2$（d.f.=8）=36.335，$p<0.01$）。この結果より、郡部に居住する人々は日常的に議員との関わりをもちやすいことが示された。




$\chi^2$（d.f.=8）=20.321**，Cramer's V=0.054　（注）**p<0.01

**図 1　都市規模と投票行動のクロス表**

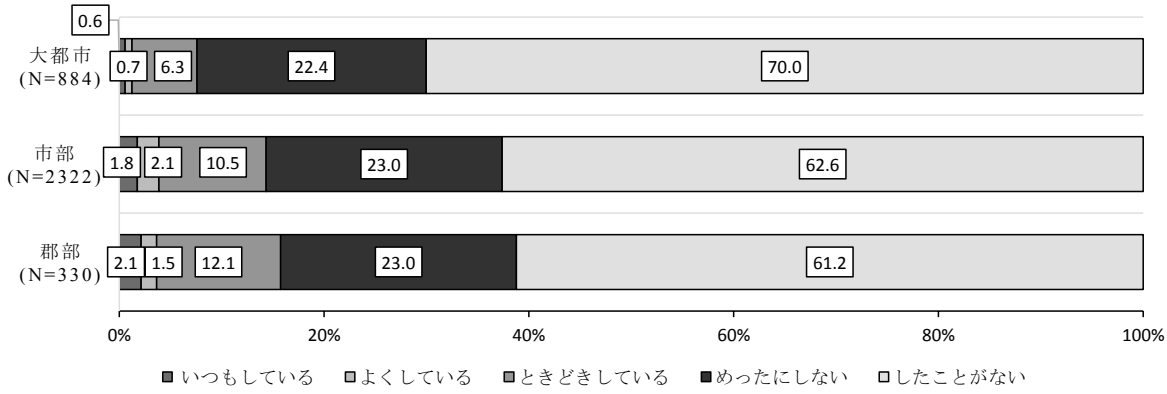



$\chi^2$（d.f.=8）=36.335**，Cramer's V=0.072　（注）**p<0.01

**図 2　都市規模と議員とのつきあいのクロス表**

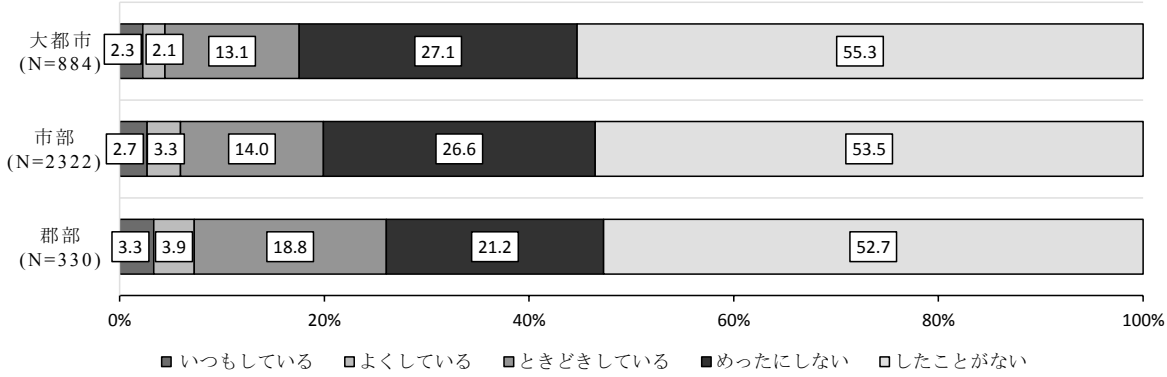
次に、「市民運動」、「ボランティア行動」、「募金・寄付行動」の 3 つの変数に関して見ていこう。まずは、都市規模と市民運動との関連性についてである（図 3)。「いつもしている」、「よくしている」、「ときどきしている」の合計を見ると大都市では 7.6%、市部で 14.4%、郡部で 15.7%であり、大都市と郡部との差は 8.1 ポイントである。$\chi^2$検定の結果、都市規模と市民運動との間には 1%水準で有意な関連が示された（$\chi^2$（d.f.=8）=34.854，p<0.01)。したがって、市民運動に関しても郡部の人々の方が日常的に参加しやすいことが示された。

つづいて、都市規模とボランティア行動との関連について見てみよう（図 4)。「いつもしている」、「よくしている」、「ときどきしている」の合計を見ると大都市で 17.5%、市部で 20.0%、郡部では 26.0%であり、大都市と郡部との差は 8.5 ポイントである。また、$\chi^2$値検定の結果、10%水準で有意な関連が示された（$\chi^2$（d.f.=8）=14.415，p<0.10)。Cramer's V の値を見ると 0.045 であり、それほど大きな値を取っている訳ではない。したがって、強い関連ではないものの、郡部に住む人々の方がボランティアになりやすいことが示唆された。



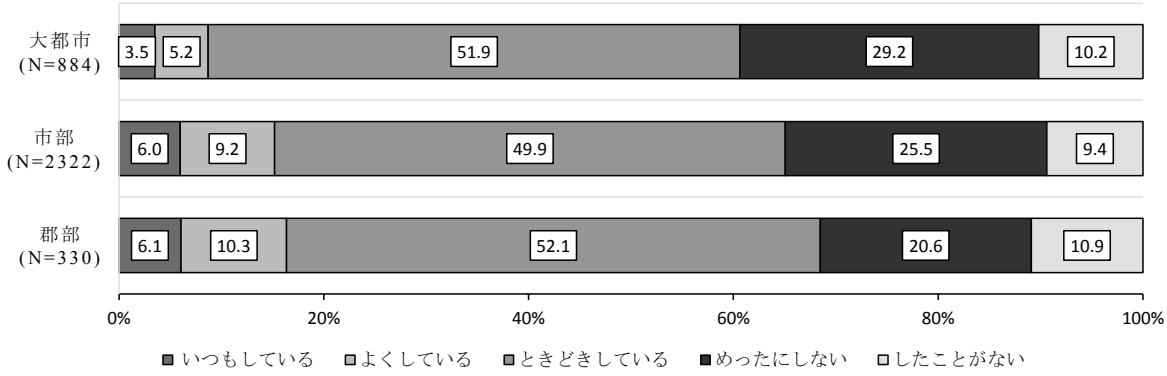

$\chi^2$（d.f.=8）=34.854**，Cramer's V=0.070　（注）**p<0.01

図 3　都市規模と市民運動のクロス表




$\chi^2$（d.f.=8）=14.415†，Cramer's V=0.045　（注）**p<0.01，*p<0.05，†p<0.10

図 4　都市規模とボランティア行動のクロス表




$\chi^2$（d.f.=8）=30.746**，Cramer's V=0.066　（注）**p<0.01

図 5　都市規模と募金・寄付行動のクロス表

最後に、都市規模と募金・寄付行動との関連性について見ることにしよう（図 5)。「いつもしている」、「よくしている」、「ときどきしている」の合計を見ると、大都市で 60.6%、市部で 65.1%、郡部で 68.5%であり、大都市と郡部との差は 7.9 ポイントである。$\chi^2$検定の結果、都市規模と募金・寄付行動との間には 1%水準で有意な関連が認められた（$\chi^2$(d.f. =8) =30.746，$p<0.01$)。つまり、郡部に居住する人々の方が募金や寄付を日常的に行いやすいことが示された。

ここまでの結果をまとめると、5 つの変数すべてにおいて、郡部に居住する人々の方が、大都市や市部に居住する人々よりも市民参加に積極的であることが明らかになった。しかしながら、これらの結果は、クロス表分析においてのみ見られる疑似的な関係性を示しているだけかもしれない。たとえば、大都市には若者が多く住み、郡部には高齢者が多く住んでいるために、実際には年齢の効果が今回示したクロス表分析で現われている可能性もある。そこで、図 1～5 の分析に加えて、都市規模以外の様々な変数の効果、たとえば性別、年齢、階層などを統制した重回帰分析も行った[4)]（付表)。その結果、5 つの変数すべてにおいて、郡部との正の関連が示された。つまり、都市規模と市民参加との関連性は見せかけのものではなく、統計的にも意味のあるものと言える。

## ３．郡部で盛んな市民参加

本稿の分析結果より、大都市や市部よりも、郡部において市民参加が活発に行われやすいことが明らかになった。この結果は、2005 年の SSM 調査の分析結果（仁平 2008）と同様の結果であり、2015 年時点においても多様な市民参加に対して郡部の影響が確認されたと言える。また、今回の SSP 調査で調査対象者となっている 64 歳以下の現役世代においても、2005 年と同様の結果が見出されたことは特筆すべきことである。以下では、なぜ郡部で市民参加が活発になるのかについて、考察を加えていこう。

まず、投票行動と議員とのつきあいに関して考えてみよう。図 1、図 2 より、郡部に住む人々の方が、投票を頻繁に行ったり、議員とのつきあいに積極的になることが明らかになった。これらの知見は、私たちが知っている常識とそれほど大きくズレてはいないだろう[5)]。郡部は人口規模が小さいために、そこに住む人々は地域の住民と顔見知りになりやすく、彼ら彼女らとの日常的な関わりを持ちやすい。つまり、郡部居住者は、地域住民との日常的な関わりを通して、地域の問題や政治に対する関心を抱きやすくなり、結果として投票や議員との関わりに積極的になると考えることができる。

つづいて、市民運動、ボランティア行動、募金・寄付行動について考えてみよう。図 3～5 より、郡部に住んでいる人々の方が、この 3 つの行動を頻繁に行いやすいことが示された。これら 3 つの行動においても重要となるのは、地域住民との関わりの頻繁さではないだろうか。郡部居住者は、普段から地域住民との関わりを持ちやすく、地域や社会に関心を抱きやすくなることが考えられる。その結果として、自らの住む地域を通して、市民

運動、ボランティア、募金・寄付などの行動に積極的になるのではないだろうか。

意外な発見と言えるのは、郡部で市民運動が活発に行われやすいという事実である。2015年は、東京の国会議事堂前や大阪の扇町公園でのデモが、メディアを通して盛んに取り上げられた。これらの市民運動は、人口が多い大都市部での現象であるがゆえに、大きな注目が寄せられたと言える。しかし、今回の SSP 調査のデータが示した結果は、郡部で市民運動が盛んであるという事実である。今後は、郡部に代表される地方社会での政治や環境問題などをめぐる活発な市民運動の実践にも注目する必要があるだろう。

最後に、今後の課題を 2 つ述べておきたい。第 1 に、地域変数の区分をより詳細にすることである。本稿では、地域変数として大都市、市部、郡部の 3 つの区分を用いたが、必ずしもこれらの分け方が適切であるとは言えない。平成になってから数多く実施された市町村合併の影響により、1 つの市区町村の中に都市的な地域と郡部のような地域が混在する場合が増えている。そのため、より細かい地域区分を用いることで、分析の精度を高める工夫も必要となるだろう。第 2 に、地域のどの要因が個人の市民参加に影響を与えるのかをより正確に明らかにすることである。今回検討した都市規模、つまり人口の大きさだけではなく、地域の階層、流動性、人口構成などにも注目することで、地域のどの要因が個人の市民参加を促すのか、あるいは抑制するのかを明らかにすることが可能となる。

**注釈**

1) 仁平（2008）は、「投票行動」、「政治や選挙への支援」、「市民運動」、「ボランティア活動」、「自治会・町内会への参加」を市民参加に関する変数として重回帰分析を行っている。
2) 総務省（2012）によると、政令指定都市は、大阪市、名古屋市、京都市、横浜市、神戸市、北九州市、札幌市、川崎市、福岡市、広島市、仙台市、千葉市、さいたま市、静岡市、堺市、新潟市、浜松市、岡山市、相模原市、熊本市の 20 市である。なお、政令指定都市の条件は人口 50 万人以上であり、なおかつ政令で指定されることである。
3) 東京都特別区部とは、公選の区長、議会や条例制定権、課税権を持つ一般の市町村と同様の基礎自治体であり、23 区に分かれている（特別区長会 2016）。
4) 付表では、市民参加変数を従属変数とした重回帰分析を行った。従属変数は参加頻度が高くなるほど、点数が高くなるように数値を与えた。独立変数には、市民参加に関する分析を行っている先行研究（仁平 2011; 吉川 2014）にならい、性別、年齢、世帯年収、学歴、職業を投入した。これらの変数の効果を統制した上で、都市規模に関する変数が統計的に有意な効果を持つかどうかを検討した。
5) たとえば、2014 年に行われた第 47 回衆議院選挙の都道県別小選挙区投票率を見ると、島根県、山形県、山梨県などの地方で投票率が特に高いことが分かる（総務省 2014）。

## 文献


吉川徹，2014,『現代日本の「社会の心」――計量社会意識論』有斐閣.

柗永佳甫，2012,『新しい公共と市民社会の定量分析』大阪大学出版会.

三谷はるよ，2014,「『市民活動参加者の脱階層化』命題の検証――1995 年と 2010 年の全国調査データによる時点間比較分析」『社会学評論』65(1): 32-46.

仁平典宏，2008,「『参加型市民社会』の階層的・政治的布置――『階層化』と『保守化』の交点で」土場学編『2005 年 SSM 調査シリーズ 7 公共性と格差』2005 年 SSM 調査研究会，189-210.

――――，2011,「階層化／保守化のなかの『参加型市民社会』――ネオリベラリズムとの関係をめぐって」斎藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 3 流動化のなかの社会意識』東京大学出版会，309-23.

斎藤純一，2000,『公共性』岩波書店.

桜井政成編，2013,『東日本大震災と NPO・ボランティア――市民の力はいかにして立ち現われたか』ミネルヴァ書房.

総務省，2012,「指定都市一覧」，総務省ホームページ（2016 年 2 月 8 日取得，http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/bunken/shitei_toshi-ichiran.html）.

――――，2014,「衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査結果調」，総務省ホームページ（2016 年 2 月 20 日取得，http://www.soumu.go.jp/main_content/000328960.pdf）.

特別区長会，2016,「特別区制度の概要」，特別区長会ホームページ（2016 年 2 月 16 日取得，http://www.tokyo23city-kuchokai.jp/gaiyo/tokubetsu.html）.


### 付表　市民参加変数を従属変数とした重回帰分析

| | | 投票行動 | | 議員とのつきあい | | 市民運動 | | ボランティア行動 | | 募金・寄付行動 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | *B* | *S.E.* | *B* | *S.E.* | *B* | *S.E.* | *B* | *S.E.* | *B* | *S.E.* |
| 定数 | | .909 ** | .282 | .220 | .218 | .652 ** | .218 | .206 | .251 | 1.031 ** | .234 |
| 女性 | | -.005 | .044 | -.192 ** | .034 | -.192 ** | .034 | .026 | .039 | .252 ** | .037 |
| 年齢 | | .029 ** | .002 | .014 ** | .001 | .007 ** | .001 | .006 ** | .002 | .015 ** | .001 |
| 世帯年収（対数変換） | | .035 * | .015 | .032 ** | .012 | .034 ** | .012 | .035 ** | .014 | .051 ** | .013 |
| 教育年数 | | .098 ** | .011 | .015 | .008 | -.006 | .008 | .045 ** | .009 | -.001 | .009 |
| 職業 | 専門・管理 | .001 | .069 | .001 | .054 | .182 ** | .054 | .152 * | .062 | .094 | .057 |
| | 事務・販売 | .057 | .064 | .042 | .050 | .124 * | .050 | .051 | .057 | .031 | .053 |
| | ブルーカラー | .020 | .068 | -.060 | .053 | .087 | .053 | -.098 | .060 | -.020 | .056 |
| | 無職・学生（基準） | | | | | | | | | | |
| 都市規模 | 市部 | -.026 | .049 | .100 ** | .038 | .181 ** | .038 | .112 * | .044 | .162 ** | .041 |
| | 郡部 | .263 ** | .085 | .228 ** | .066 | .257 ** | .066 | .243 ** | .076 | .212 ** | .071 |
| | 大都市（基準） | | | | | | | | | | |
| *調整済* $R^2$ | | .110 | | .056 | | .040 | | .031 | | .065 | |
| *N* | | | | | | 2731 | | | | | |

（注）**p<0.01，*p<0.05

# 「絆」意識に対する個人属性とその認知の影響
## ―「絆」を支える経済的ゆとり―

阪口 侑洋
（大阪大学）

## １.「絆」を再考する社会へ

2010 年 NHK によって制作・放送されたテレビ番組「無縁社会～“無縁死” ３万２千人の衝撃～」は、多くの日本人に衝撃を与えた。その内容は誰にも看取られずに亡くなり遺体の引き取り手すらない死（坂井 2012）である「無縁死」ケースの多さから、その背景にある現代日本における地縁血縁社会の崩壊やコミュニケーションの希薄化が如何に深刻なものとなっているかを描き出すものであった。翌年には東日本大震災が発生、被災者救援におけるソーシャルワーカー達の活躍のみならず、未曾有の大災害に瀕することで家族や社会とのつながりの重要性が再認識され、この年、日本漢字能力検定協会が 1995 年から毎年行っている「今年の漢字」において、「絆」の文字が選ばれることとなった。

今日、「絆」という言葉は災害支援のみならず、貧困、格差、差別といった様々な社会問題への対応の手立てとして期待され、人と人とのつながり、中でも地域社会や近隣住民といった身近なネットワークを大事にするところから解決が図られつつある。このような「絆」を模索する「無縁社会」である現代においてどのようなアプローチが必要となるのか。稲場圭信（2008）は、「共感力」、「人間関係力」、「チャレンジ力」、「ロールモデル力」の 4 つの力を挙げ、社会の中で「思いやり」を育むアプローチを提示した。また、宮本要太郎（2014）は研究の方法として、宗教者のライフストーリーを積極的に取り入れることで「その活動の意味づけや解釈といった領域においても、研究者と宗教者が協働しえる可能性について、実践的に検証していくことができるのではないか」と述べている。

本稿では、社会的地位が近隣住民への眼差しや「絆」意識にどのように関係しているかを明らかにすることで、社会階層意識論の視点から社会関係の再構築の糸口を探ることとする。

## ２. 分析枠組み

### 2-1 「絆」意識と個人属性の関係

地域社会を構成する近隣住民の属性が、種々の活動や社会意識にどのように影響を及ぼしているかについては、いくつかの知見がある。實方華子ほか（2011）は、小規模防災広場の計画のための近隣住民によるワークショップへの参加意思に対して、個々人の「災害対策の必要性」ではなく「地域への帰属性」と「児童コミュニティ性」が結びつきを持つ

ことを明らかにした。また、上園美澄ほか（2015）は長崎市内の一地域を対象[1)]とした研究において「基本属性により、日常生活の関心やその度合い、子どもや住民、自治会への関わり方が異なること」を示しており、例えばジェンダーにおいては「女性の方が男性よりも、近所の人が子どもに対しコミットすることを期待している」こと、職業においては「無職者は有職者よりも地域への信頼度が高い」ことなどを挙げている。

### 2-2　分析課題

このように、個々人の属性が「絆」意識に与える影響を確認することは、地域社会における活動や政策を考えるうえで有用なものであると考えられる。しかし、これまでの先行研究は一地域における限定的なものであり、日本社会全体の一般的な傾向は明らかにされていない。そこで、最新の全国規模の社会調査を用いて「絆」意識に対する個人的属性の影響を分析することで、より幅広い適用可能性のある知見を示すことにしたい。

個人属性から社会意識への効果を考えるに際し前提となるのは、その個人属性が「社会階層の上位にある人が上流階級に帰属意識をもち、中層にある人は中意識をもっていて、下層にある人が下層にいると考えているというような社会的地位と地位アイデンティティの客観-主観関係」（吉川 2014）を担保することである。しかし、実際にその経路を考えてみると、社会的地位と地位アイデンティティの間に「認知」の壁が存在するという問題がある。本稿では個人属性に対する「認知」を考慮した分析モデルを適用し、個人属性の効果をより仔細に観測する。

### 2-3　本稿の目的と分析モデル

本稿は、個人属性に係留される社会的地位が「絆」意識や地域社会志向に対してどのような影響を与えるかについて、社会調査データを用いた計量分析によって明らかにすることを目的にしたものである。そのうえで、①これまでの先行研究が特定地域での調査に根ざしていたものに対して全国区のデータを用いること、②個人属性に加えその獲得状態に対する認知指標を盛り込むことで個人の地位アイデンティティをよりはっきり分析に反映させられることの二点を持って新しい知見とする。

## ３．方法

### 3-1　データと変数

使用するデータは、「2015 年 第 1 回 階層と社会意識全国調査」（以下、SSP2015）のものである。また、分析における独立変数には、年齢、性別（男性=1、女性=2）、教育年数、職業（上層ホワイトを基準カテゴリとした、EGP6 分類+学生・無職の 7 種類）、世帯収入（100 万円単位）といった社会経済的地位指標に加え、家庭の状況を表す項目として結婚の有無（未婚=0、既婚・離別・死別=1）と子どもの有無（無=0、有=1）を、生活の状況を

表 1　分析に使用する変数の記述統計 [3)]

| | 度数 | | 平均値 | 中央値 | 標準偏差 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 有効数 | 欠損値 | | | |
| 結婚の有無 | 3559 | 16 | 0.774 | 1 | 0.418 |
| 子どもの有無 | 3533 | 42 | 0.688 | 1 | 0.464 |
| 収入階層帰属意識（反転）[4)] | 3535 | 40 | 4.529 | 5 | 1.821 |
| 17a）困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる（反転）[4)] | 3571 | 4 | 3.429 | 4 | 0.962 |
| 17b）近所の人たちは強いきずなで結ばれている（反転）[4)] | 3568 | 7 | 2.945 | 3 | 0.965 |

表す項目として居住年数を、加えて自分の経済状態についての認知を示す項目として収入階層帰属意識 [2)] を使用する。従属変数は、SSP2015 において、近隣の住民との関係について、「そう思う」から「そう思わない」までを 5 件法で問うた、以下二つの質問項目を用いる。

困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる（問 17 a）
近所の人たちは強いきずなで結ばれている（問 17 b）

### 3-2　分析手法

分析手法には、モデル拡張型の OLS 重回帰分析を用いる。モデル 1 では先に挙げた独立変数のうち、年齢、性別、教育年数、職業、世帯収入、結婚の有無、子どもの有無、居住年数を投入する。モデル 2 ではそれらに加え、収入階層帰属意識を追加で投入し、項目自体の効果のみならずモデル全体の説明力の変化にも着目する。この分析で確認される「効果」とは、例えば「男性は女性より○○と考える傾向が強い」や、「学歴が高ければ高いほど△△といった行動を取る」といった形で示されるものであり、モデル全体におけるそれらの効果の集積が「説明力」である。また、説明力が上昇した時、因果構造のより適切な説明がなされたことを示す。

## ４．分析結果

### 4-1　「困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる」

まず、「困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる」に対する重回帰分析の結果を確認する。モデル 1 では、性別、非熟練ブルー職、子どもの有無、居住年数がそれぞれ有意な効果を持っている。モデル 2 において、収入階層帰属意識を投入すると、正の効果（$\beta$=0.127）があることが示され、モデル全体の説明力も 0.013 有意に上昇している。

表 2　「困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる」に対する重回帰分析

| | モデル 1 | | | | モデル 2 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 非標準化係数 | | | 標準化係数 | 非標準化係数 | | | 標準化係数 |
| | *B* | | 標準誤差 | *β* | *B* | | 標準誤差 | *β* |
| （定数） | 2.858 | | 0.173 | | 2.648 | | 0.175 | |
| 性別 | 0.178 | ** | 0.039 | 0.092 | 0.197 | ** | 0.039 | 0.102 |
| 年齢 | −0.003 | | 0.002 | −0.041 | −0.004 | * | 0.002 | −0.053 |
| 本人教育年数 | 0.007 | | 0.009 | 0.017 | 0.001 | | 0.009 | 0.003 |
| 上層ホワイト（ref.） | | | | | | | | |
| 下層ホワイト | −0.074 | | 0.053 | −0.031 | −0.027 | | 0.053 | −0.011 |
| 自営 | −0.049 | | 0.076 | −0.013 | −0.025 | | 0.076 | −0.007 |
| 熟練ブルー | 0.083 | | 0.065 | 0.027 | 0.123 | | 0.065 | 0.040 |
| 非熟練ブルー | −0.156 | * | 0.060 | −0.057 | −0.092 | | 0.061 | −0.034 |
| 農業 | 0.160 | | 0.136 | 0.023 | 0.193 | | 0.135 | 0.027 |
| 無職（学生含む） | −0.036 | | 0.058 | −0.014 | 0.032 | | 0.058 | 0.012 |
| 世帯年収実数（100 万円単位） | 7.30E−05 | | 0.003 | 0.000 | −0.004 | | 0.003 | −0.025 |
| 結婚の有無 | −0.085 | | 0.073 | −0.036 | −0.106 | | 0.072 | −0.044 |
| 子どもの有無 | 0.343 | ** | 0.062 | 0.162 | 0.343 | ** | 0.061 | 0.162 |
| 居住年数 | 0.011 | ** | 0.001 | 0.174 | 0.012 | ** | 0.001 | 0.183 |
| 収入階層帰属意識 | | | | | 0.067 | ** | 0.011 | 0.127 |
| 決定係数 $R^2$ | | | | 0.056 | | | | 0.069 |
| 調整済み $R^2$ | | | | 0.051 | | | | 0.064 |
| $R^2$ 変化量 | | | | | | | | 0.013** |

**1%水準　*5%水準で有意

また、非熟練ブルー職の負の効果が消え、年齢の負の効果が観測されている。このことから、女性、子どもがいる人、居住年数が長い人ほど、近隣住民は助けになる存在であると思っていること、そして、収入の実数値は近隣住民観に影響を及ぼさないが、「自分の世帯は世間と比べどの程度の稼ぎがあるか」という認識は近隣住民への視線に影響することが分かった。

### 4-2　「近所の人たちは強いきずなで結ばれている」

次に、「近所の人たちは強いきずなで結ばれている」の結果を確認する。モデル 1 をみると、こちらでも性別、子どもの有無、居住年数で有意な効果が見られた。一方、職業の効果を見ると、こちらの質問では農業が正の効果を持っている。収入階層帰属意識を投入し

表 3　「近所の人たちは強いきずなで結ばれている」に対する重回帰分析

| | モデル 1 | | | | モデル 2 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 非標準化係数 | | | 標準化係数 | 非標準化係数 | | | 標準化係数 |
| | *B* | | 標準誤差 | *β* | *B* | | 標準誤差 | *β* |
| （定数） | 2.365 | | 0.174 | | 2.149 | | 0.176 | |
| 性別 | 0.099 | * | 0.039 | 0.051 | 0.117 | ** | 0.039 | 0.060 |
| 年齢 | 0.002 | | 0.002 | 0.027 | 0.001 | | 0.002 | 0.015 |
| 本人教育年数 | −0.001 | | 0.009 | −0.002 | −0.007 | | 0.009 | −0.016 |
| 上層ホワイト（ref.） | | | | | | | | |
| 下層ホワイト | −0.033 | | 0.053 | −0.014 | 0.016 | | 0.054 | 0.007 |
| 自営 | 0.001 | | 0.077 | 0.000 | 0.026 | | 0.076 | 0.007 |
| 熟練ブルー | 0.121 | | 0.065 | 0.039 | 0.161 | * | 0.065 | 0.053 |
| 非熟練ブルー | −0.109 | | 0.061 | −0.040 | −0.043 | | 0.061 | −0.016 |
| 農業 | 0.352 | ** | 0.135 | 0.050 | 0.386 | ** | 0.134 | 0.055 |
| 無職（学生含む） | −0.015 | | 0.058 | −0.006 | 0.056 | | 0.059 | 0.021 |
| 世帯年収実数（100 万円単位） | 0.001 | | 0.003 | 0.009 | −0.003 | | 0.003 | −0.017 |
| 結婚の有無 | −0.112 | | 0.073 | −0.046 | −0.134 | | 0.073 | −0.056 |
| 子どもの有無 | 0.271 | ** | 0.062 | 0.127 | 0.271 | ** | 0.062 | 0.127 |
| 居住年数 | 0.011 | ** | 0.001 | 0.177 | 0.012 | ** | 0.001 | 0.186 |
| 収入階層帰属意識 | | | | | 0.069 | ** | 0.011 | 0.130 |
| 決定係数 $R^2$ | | | | 0.060 | | | | 0.074 |
| 調整済み $R^2$ | | | | 0.056 | | | | 0.070 |
| $R^2$ 変化量 | | | | | | | | 0.014** |

**1%水準　*5%水準で有意

たモデル 2 では、性別、子どもの有無、居住年数、農業の効果は変わらず存在するが、熟練ブルーの正の効果も確認された。また、収入自体の効果は確認できないが、収入階層帰属意識の効果（$\beta$=0.13）は見られる点も先の質問と共通している。このことから、女性、子どもがある人、居住年数の高い人、そして特定の職業に就いている人に加え、「自分たちは世間と比べどの程度の稼ぎがあるか」という認識において「高い」と思っている人ほど、近隣社会における「絆」を感じ取っているという傾向が明らかになった。

## ５．考察――自立と絆の社会へ

本稿は、「絆」意識に対する個人属性の効果を計測し、地域社会の「絆」を再考するためのアプローチを模索するためのものであった。先の結果から、性別、子どもの有無、居住

年数が共通して近隣住民観に正の効果を示し――具体的には女性、子どものいる人、居住年数の長い人ほど地域社会の助け合いや「絆」を感じ取っているという結果を示した。職業については一致した見解は得られなかったが、農業従事者において「絆」認知が高いなど一定の知見は得ることができた。ここで得られた居住年数と子どもの有無の効果は、實方ほか（2011）の示す「地域への帰属性」と「児童コミュニティ性」の効果とそれぞれ一致した傾向であるが、上園ほか（2015）の示すジェンダーの効果は同様のものが見られたのに対し、無職者の有意な効果は見られないなど、必ずしも先行研究とは一致しない結果が示されることとなった。

また、収入そのものの効果は見られないものの、世帯収入が多いと考えている人々が、高い「絆」意識を持つ傾向があるという結果が得られた。これは、単純に所得の水準を上げれば地域社会への志向性が高まるということではなく、個々人が世間に見合った収入を得ていると思うかが近隣住民への眼差しに影響を与えているといった複雑な構図を意味している。しかしここでの効果は、子どもの有無や居住年数のような地域へのコミットメント機会の促進によるプラス方向のものではなく、「不相応」「不適当」な際にコミットメントを抑制してしまうマイナス方向の影響によるものだとも考えられる。いずれにせよ、ある程度の生活を個々人が実感を持って謳歌できなければ、成員の近隣住民の絆は強まらず、地域社会をより良くすることもできないという点は念頭に置く必要があるだろう。

今回の結果は、収入という生活の軸となるものに個々人が自信と実感を持てる社会――すなわち、個々人が経済的に自立した社会が出来上がることと、「絆」で結ばれた人と人とが支え合う社会は同じものを端緒としている、という答えを得たのだともいえよう。地域社会やコミュニティからの個々人への働きかけのキーワードもまず「自立」をスタートラインとすることで、そのコミットメントの中で信頼を得ることに繋がるのだ、と筆者は考える。

**注釈**

1）「Ｔ町は、長崎市のベッドタウンとして、30 年ほど前に長崎市郊外に住宅造成地として開発された。2013 年 10 月末日現在の人口は 1124 名、世帯数 413 戸であり、高齢化率は 33.5％となっている。」（上園ほか 2015：36）

2）「それではつぎのことがらにいて、現代日本社会おける最高の水準を 1、最低の水準を 10 とすると、現在のあなたご自身はどの位にあたると思われますか。

　a）収入 」

3）本稿の分析のために作成・編集した項目のみ記載する。

4）調査の質問項目では、数字の低いものが正ないし肯定、数字の高いものが負ないし否定を示すように割り当てられているが、分析結果を解釈するうえにおいては数値の読みとりに支障をきたす可能性があるため、反転した数値を用いることとする。

## 文献

稲場圭信，2008,『思いやり格差が日本をダメにする――支え合う社会をつくる 8 つのアプローチ』日本放送出版協会.

上園美澄・窪田祐也・福島香織・平野裕子，2015,「T 町住民の子ども・自治会・近隣住民との関係に関する意識――対象者の居住家族形態の比較を中心に」『保健学研究』27(1): 35-43.

金子昭, 2014,「釜ヶ崎における天理教の活動――その歴史と現在」『宗教研究.（別冊）』 87: 138-139.

吉川徹，2014,『現代日本の「社会の心」――計量社会意識論』有斐閣.

坂井昭夫，2012,「"無縁社会" 考――経済学の責務と若干の論点」『高崎経済大学論集』54(4): 13-27.

實方華子・武田史朗・大窪健之・小代祐輝，2011,「小規模防災広場への管理参加意欲と近隣住民の意識および属性との関係に関する研究」『歴史都市防災論文集』5: 23-8.

宮本要太郎，2014,「「無縁社会」と宗教者の接点としてのライフストーリーについて」『宗教研究（別冊）』 87: 139-40.

# 変わるジェンダー意識

## ―「イクメン意識」は、女性より男性でむしろ高い?!―

吉川 徹
（大阪大学）

## １．イクメン意識を考える

### 1-1　性別役割分業の新潮流

日本のジェンダー意識の計量的検討が始まったのは1970年代だといわれる（鈴木1997）。社会学において当初から主要変数と目されてきたのは「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」という質問文への賛否であった。計量社会学ではこれを性別役割分業意識と呼ぶことが多いが、以下では内外意識と略称することにする（吉川 2014）。性別役割分業をめぐっては、この他に専業主婦は意義のある仕事だと思うか、男の子と女の子は違った育て方をすべきだと思うか、男性が中心的な役割を果たし女性はそれを補助するべきか、などの質問が尋ねられてきた。内外意識では、男女のジェンダー、生年世代、職業的地位、学歴などによる傾向の違いが、他の質問よりも明瞭にあらわれることもすでに知られている。

内外意識はジェンダー平等をめぐる 20 世紀の力学を理論的背景としている。すなわち男性主導で動いていた産業経済セクターに、マイノリティの位置にある女性が進出していくことについて、人びとの意見の分布がどのようになっており、それが実態としてのジェンダー平等化にどう影響するかが論点となっていたのだ。興味深いのは、1980年代においては性別役割分業の諸課題の当事者は女性だとみなされることが多かったことである。結果として、男性のジェンダー意識の実像についての調査計量は、女性のジェンダー意識に比べてやや立ち遅れ気味であった。

もっとも、現代日本においては男女共同参画が進展しつつある。社会に潜在するホンネや実態慣行はどうあれ、女性を家庭に押し止めてきた旧来の価値観は、公的には一切推奨されていない。この社会的望ましさの劇変によって、20世紀には賛否が拮抗していた内外意識の否定回答（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）は、後にみるとおり本調査では全体の四分の三以上を占めるまでに至っている。

継続調査で意識の変化を捉えるには、同じワーディングの質問と選択肢を繰り返すことが鉄則である。しかしジェンダー意識に関しては、このように主力指標である内外意識の回答分布が否定傾向に偏って、スケールアウトしつつあり、計量操作のうえでの適切性が確保しにくくなっている。

ところで夫婦間の家事分担については近年、既婚女性の就業継続や、少子化対策として

表 1　性別とイクメン意識の関係

| | | 夫が妻と同じくらい家事や育児をするのはあたりまえのことだ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
| 男性 | 度数 | 312 | 770 | 443 | 109 | 1,634 |
| | 行% | 19.1% | 47.1% | 27.1% | 6.7% | 100.0% |
| 女性 | 度数 | 245 | 818 | 680 | 184 | 1,927 |
| | 行% | 12.7% | 42.4% | 35.3% | 9.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 557 | 1,588 | 1,123 | 293 | 3,561 |
| | 行% | 15.6% | 44.6% | 31.5% | 8.2% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000　Cramer's V=0.124

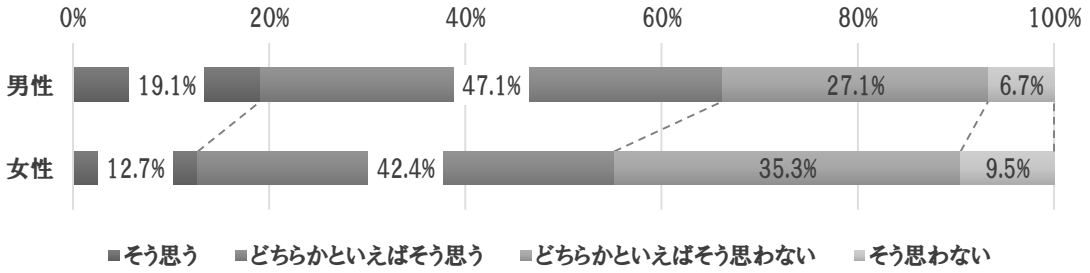



図 1　イクメン意識の男女差

の出産育児についての夫・父親のサポートの重要性に関心が寄せられている。ワークライフバランスを考えるうえで、産業経済セクターにおける男女の平等化とともに、男性の積極的な家事育児参加が論点となってきているのだ。つまり、男女の分業にかんして「外」に対する女性の進出と、「内」に対する男性のコミットメントという二つの異なるベクトルが論点となっているのだ。

この新しい状況に鑑みて、本調査では新たなワーディングによる質問を設計した。それが「夫が妻と同じくらい家事や育児をするのはあたりまえのことだ」という意見への賛否を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の 4 件の選択肢で問う項目である。男性（男性配偶者）の積極的な家事育児参加は、女性の就労継続や少子化対策を左右する。それゆえに一億総活躍社会がいわれるこんにちの日本社会において重要な課題となっている。ここでの質問は厳密には家事と育児の双方に言及しているのだが、わたしたちはこれをイクメン意識と通称する。いうまでもないが、イクメンというのは、近年盛んに用いられるようになった現代社会学用語である（工藤 2016）。

このイクメン意識について集計結果をみてみると、賛成派がやや多いものの、現状ではおおよそ賛否が拮抗した状態にあることがわかる。そのうえで、たいへん興味深い傾向が明らかになった。それは、男性の「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」という肯定回答が 66.2%に上るのに対し、女性においては 55.1%にとどまっているということである。

表 2　性別と内外意識の関係

| | | 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
| 男性 | 度数 | 75 | 363 | 619 | 578 | 1,635 |
| | 行% | 4.6% | 22.2% | 37.9% | 35.4% | 100.0% |
| 女性 | 度数 | 43 | 329 | 760 | 793 | 1,925 |
| | 行% | 2.2% | 17.1% | 39.5% | 41.2% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 118 | 692 | 1,379 | 1,371 | 3,560 |
| | 行% | 3.3% | 19.4% | 38.7% | 38.5% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=　0.000　Cramer's V=　0.099

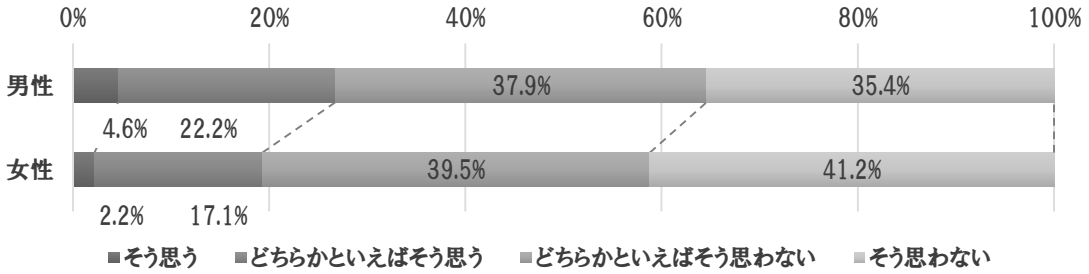



図 2　内外意識の男女差

つまり夫の家事育児参加は、男性において女性よりも肯定的に受容されているのだ（表 1 および図 1）。しかもその男女差は顕著である（Cramer's V=0.124）。

他方、内外意識のほうをみると、旧来どおり男性の分業肯定傾向が（26.8%）が女性の肯定傾向（19.3%）よりも強く、男性側が男女の平等な参画の妨げになるかたちになっている。ちなみに 1995 年 SSM 調査（B 票 20～69 歳）では、男性では 49.4%、女性では 40.1%がこの意見に肯定している。肯定比率は現在よりも大幅に高いのだが、そのなかでやはり男性が守旧的で、女性がリベラルという傾向を確認することができる。

### 1-2　イクメン意識の意外な「傾斜」

では、イクメン意識はこんにちの日本社会のどの社会層でより肯定的に受容されているのだろうか。次にこれをみていく。表 3 および図 3 では対象者を 10 生年ごとに区切ってイクメン意識の傾向をみている。夫の家事育児参加が新しい動向であることから予想すると、50 歳代以上で否定的な傾向がみられると思われたが、生年世代ごとの賛否の意見の異なりは意外なほど小さい。あえていえば、家事育児に手がかかるライフステージの夫婦が多く含まれる 30 歳代で肯定的な意見が多くなっているという程度である。なお、このように本調査の対象者については、年齢が高い層では守旧的な傾向があり、若い層がリベラルな傾向があるという旧来の予測は成り立たないことが多い。

表 3　生年世代とイクメン意識の関係

| | | 夫が妻と同じくらい家事や育児をするのはあたりまえのことだ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
| 20 歳代 | 度数 | 75 | 222 | 143 | 34 | 474 |
| | 行% | 15.8% | 46.8% | 30.2% | 7.2% | 100.0% |
| 30 歳代 | 度数 | 140 | 313 | 223 | 37 | 713 |
| | 行% | 19.6% | 43.9% | 31.3% | 5.2% | 100.0% |
| 40 歳代 | 度数 | 128 | 415 | 299 | 66 | 908 |
| | 行% | 14.1% | 45.7% | 32.9% | 7.3% | 100.0% |
| 50 歳代 | 度数 | 120 | 389 | 284 | 88 | 881 |
| | 行% | 13.6% | 44.2% | 32.2% | 10.0% | 100.0% |
| 60 歳代 | 度数 | 94 | 249 | 174 | 68 | 585 |
| | 行% | 16.1% | 42.6% | 29.7% | 11.6% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 557 | 1,588 | 1,123 | 293 | 3,561 |
| | 行% | 15.6% | 44.6% | 31.5% | 8.2% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.057

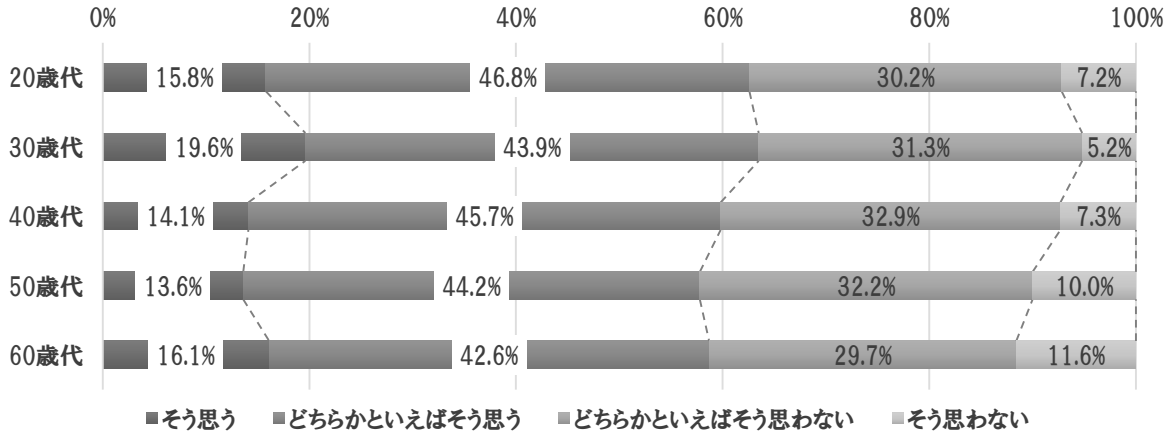



図 3　イクメン意識の年齢差

続いて表 4 と図 4 では就業形態とイクメン意識の関係をみている。就業形態における正規雇用は常勤被雇用と自営業を指し、非正規雇用はパート、アルバイト、派遣、臨時職を指し、無職には退職者と学生も含まれる。ここでは、ジェンダーと就労をめぐる男女の立場の違いを考慮して、男女別に計 6 つのカテゴリとしている。結果をみると、男性内では就業形態による違いは大きくはなく、男性無職層では夫の家事育児に肯定する傾向がわずかに強いことがわかる程度である。ところが、女性内では就業形態によって、考え方に大きな違いがみられる。すなわち家事育児を担い「主婦」としての役割を遂行している女性無職と非正規（多くはパート就労）においては、いずれもほぼ半数が、夫が妻と同じくらい家事や育児をすることを「あたりまえだ」とまでは考えていないのだ。表 4 からわかるとおり、女性のなかで無職・非正規層は、三分の二近くを占めているので、彼女たちの意

表 4　就業形態とイクメン意識の関係（男女別）

| | | 夫が妻と同じくらい家事や育児をするのはあたりまえのことだ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
| 男性正規雇用 | 度数 | 249 | 612 | 369 | 76 | 1,306 |
| | 行% | 19.1% | 46.9% | 28.3% | 5.8% | 100.0% |
| 男性非正規 | 度数 | 33 | 74 | 41 | 21 | 169 |
| | 行% | 19.5% | 43.8% | 24.3% | 12.4% | 100.0% |
| 男性無職 | 度数 | 29 | 81 | 33 | 12 | 155 |
| | 行% | 18.7% | 52.3% | 21.3% | 7.7% | 100.0% |
| 女性正規雇用 | 度数 | 116 | 322 | 191 | 55 | 684 |
| | 行% | 17.0% | 47.1% | 27.9% | 8.0% | 100.0% |
| 女性非正規 | 度数 | 83 | 300 | 294 | 71 | 748 |
| | 行% | 11.1% | 40.1% | 39.3% | 9.5% | 100.0% |
| 女性無職 | 度数 | 46 | 196 | 194 | 57 | 493 |
| | 行% | 9.3% | 39.8% | 39.4% | 11.6% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 556 | 1,585 | 1,122 | 292 | 3,555 |
| | 行% | 15.6% | 44.6% | 31.6% | 8.2% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.160

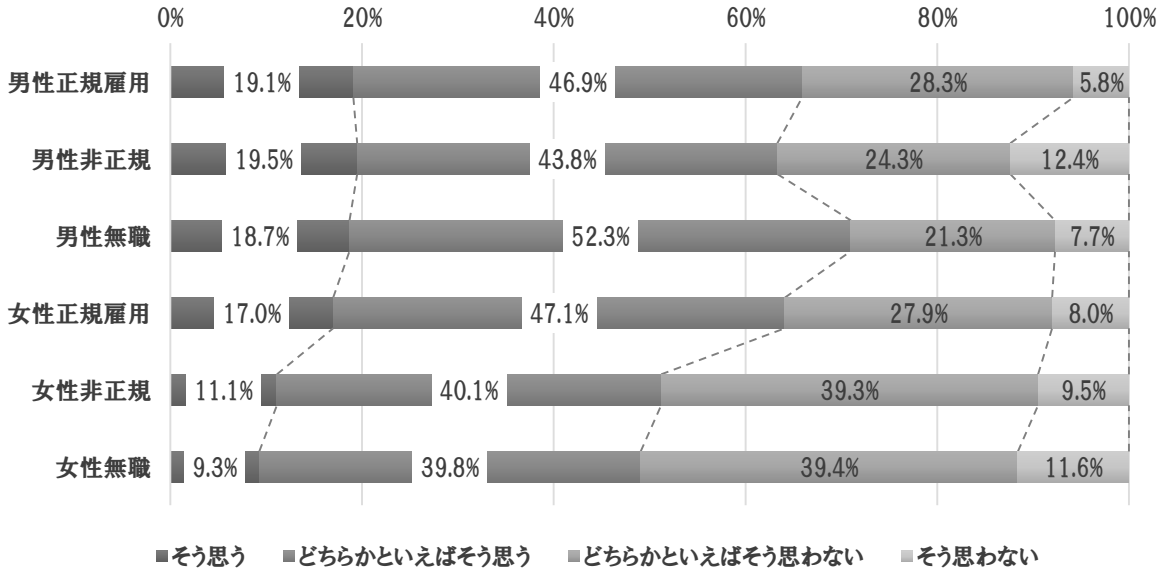



図 4　イクメン意識の就業形態差（男女別）

見が女性全体の否定的傾向を形作っているとみることができる。

表 5 および図 5 では、学歴とイクメン意識の関係をやはり男女別にみている。ここでわかるのは、夫の家事育児参加は大卒層（大学院卒、大卒、短大卒、以下同）において肯定的に受け入れられる傾向にあるということである。そこにはジェンダー差もあるので、図 5 全体でみると、大卒男性がイクメンに肯定的な意識をもっており、非大卒女性は夫の家事育児参加に躊躇しているという傾向を読み取ることができる。

表 5　学歴とイクメン意識の関係（男女別）

| | | 夫が妻と同じくらい家事や育児をするのはあたりまえのことだ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | 合計 |
| 男性大卒 | 度数 | 137 | 400 | 190 | 33 | 760 |
| | 行% | 18.0% | 52.6% | 25.0% | 4.3% | 100.0% |
| 男性非大卒 | 度数 | 175 | 362 | 252 | 75 | 864 |
| | 行% | 20.3% | 41.9% | 29.2% | 8.7% | 100.0% |
| 女性大卒 | 度数 | 114 | 350 | 259 | 57 | 780 |
| | 行% | 14.6% | 44.9% | 33.2% | 7.3% | 100.0% |
| 女性非大卒 | 度数 | 130 | 461 | 412 | 124 | 1,127 |
| | 行% | 11.5% | 40.9% | 36.6% | 11.0% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 556 | 1,573 | 1,113 | 289 | 3,531 |
| | 行% | 15.7% | 44.5% | 31.5% | 8.2% | 100.0% |

$\chi^2$の有意確率=0.000, Cramer's V=0.100

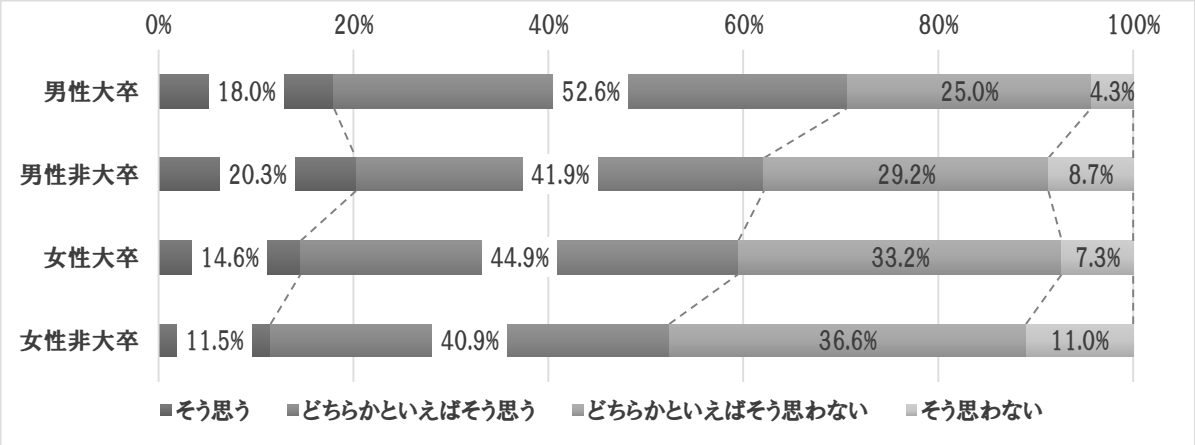



図 5　イクメン意識の学歴差（男女別）

## ２．ジェンダー意識の新旧のベクトル

ここで示した結果をまとめると、夫の家事育児参加には、男性が女性よりも肯定的であるという思わぬジェンダー差が見出される。ただし生年によるイクメン意識の違いは顕著ではない。そしてそれぞれのジェンダー内において正規職であると非正規や無職であるよりもイクメンに肯定的な意識をもっており、大卒であるほどイクメンに肯定する傾向が強いということがわかる。これらは夫の家事参加という新たな生活スタイルは、雇用の基盤が安定し、妻がフルタイム就労している上層（世帯）において、男性側から徐々に浸透しているという可能性を示唆する。

なお、表 6 に示したとおり、ここで見出された男女差は、年齢、学歴、職業、収入などの影響を考慮する多変量解析（OLS 重回帰分析）の結果としても有意である。

内外意識のワーディングから端的に知られるとおり、従来のジェンダー意識の論点は女性の就労にあり、産業経済セクターにおける男女平等をめざすというフェミニズム的な関

**表 6　イクメン意識についての OLS 重回帰分析**

夫が家事や育児をするのはあたりまえのことだ　　n=2706

| | 相関係数 | | 回帰係数 | | 標準偏回帰係数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | *r* | sig. | *B* | 標準誤差 | *β* | sig. |
| 性別（男性＜女性） | -.115 | ** | -.155 | 0.034 | -0.093 | ** |
| 年齢 | -.049 | * | -.002 | 0.001 | -0.026 | |
| 学歴（教育年数） | .090 | ** | .024 | 0.008 | 0.063 | ** |
| 世帯年収（対数値） | .012 | | -.020 | 0.019 | -0.020 | |
| 上層ホワイト（基準） | | | | | | |
| 下層ホワイト | .002 | | -.050 | 0.047 | -0.025 | |
| 自営 | -.035 | | -.164 | 0.067 | -0.051 | * |
| 熟練ブルー | .027 | | -.028 | 0.057 | -0.011 | |
| 非熟練ブルー | -.003 | | -.046 | 0.054 | -0.020 | |
| 農業 | -.049 | * | -.311 | 0.118 | -0.052 | ** |
| 無職 | -.072 | ** | -.155 | 0.054 | -0.068 | ** |
| 決定係数（*R2*） | 0.026 | ** | 調整 $R^2$ | 0.023 | ** | |

心に立脚していた。そして内外意識のジェンダー差のあり方は、この側面のジェンダー平等化が、男性は既得の立場を維持しようという守旧的な考えをもちやすく、女性はより平等な状態を望むという、20 世紀以来の構図を維持していることがわかる。

他方、イクメン意識は、男性側を家事育児参加の当事者とした、ジェンダー間の新たな分業スタイルについての賛否を問うものである。これはいわば男性学的な問題設定だということができるだろう。そしてこのイクメン意識のほうでは、内外意識とは男女逆の傾向が明瞭にあらわれているのは、現代日本の男性の家事育児への参加が、20 世紀の価値対立の構図とは全く別のものとして浸透しつつあることを示唆している。このことには、本調査の対象者の半数以上が、均等法施行後に就職した若い生年世代にあたり、ワーク･ライフ・バランスを自らの日常生活の課題として考えていることも影響しているだろう。

男性の育児休暇をめぐる昨今の議論はもちろんのこと、後このような現代のジェンダーをめぐる新たな動向の背後には、男性の意外に積極的な家事参加意欲と男女間の温度差があるのかもしれない。

最後に強調しておくが、ここでみたのは性別役割分業についての意見である。より重要なことは、心構えや望ましさではなく、男性の家事育児参加の実態が本当に変わり、女性をサポートする力を発揮することである。そこには依然として大きな課題がある。

## 付記

1995 年 SSM 調査の利用にあたっては 2015 年 SSM 調査管理委員会の許可を得た。

## 文献

吉川徹，2014,『現代日本の「社会の心」――計量社会意識論』有斐閣.

工藤保則，2016,「イクメン」井上俊・永井良和編『今どきコトバ事情――現代社会学単語帳』ミネルヴァ書，66-9.

鈴木淳子，1997,『性役割――比較文化の視点から』垣内出版.

# ポスト 55 年体制期における政治文化の時点間比較
## ―人気政治家を支える有権者側の変化―

伊藤 理史
（大阪大学）

## １．問題

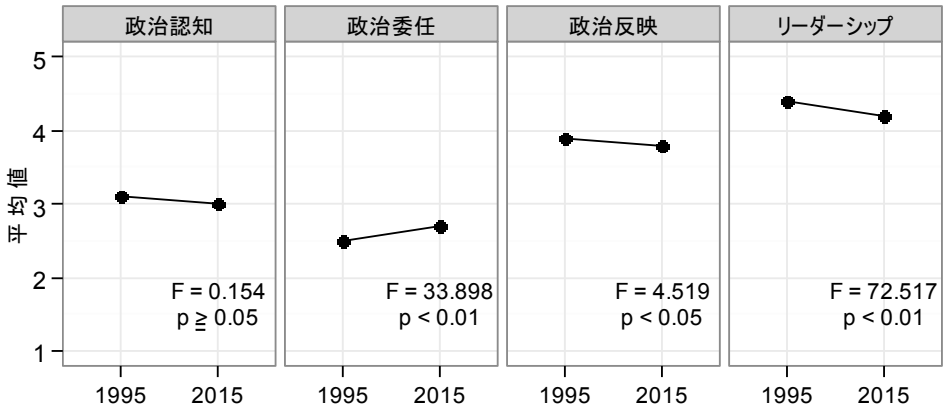
本稿の目的は、1995 年と 2015 年に実施された 2 つの社会調査[1)]データの分析によって、政治的疎外・人気政治家をめぐる政治文化（有権者の政治に対する心構え）の時点間比較を行い、ポスト 55 年体制期の 2 つの政治的特徴が生じた理由を考察することである。

1993 年の第 40 回衆議院議員総選挙の結果、保守政党（自民党）と革新政党（社会党＋共産党）のいわゆる保守・革新の対立構造にもとづく 55 年体制期が崩壊し、すでに 20 年以上もの歳月が流れている。そしてポスト 55 年体制期では、55 年体制期とは異なる政治的特徴として、次の 2 点を指摘することができる。第 1 の政治的特徴とは、長期的な投票率の低下にみる政治的疎外の増大であり、第 2 の特徴とは、小泉純一郎や橋下徹などリーダーシップのある人気政治家の誕生である。本稿では、このようなポスト 55 年体制期の 2 つの政治的特徴に対して、有権者の政治文化の変化という観点から検討を加えていく。

まず、第 1 の政治的特徴を考える上で重要となる政治文化は、政治的疎外である。政治的疎外とは、政治に対するネガティヴな政治意識全般の総称であるが（山田 1994）、政治参加からの撤退を招くために、健全な民主主義にとって望ましくないものとされてきた（Almond and Verba 1963=1974）。また日本の場合、55 年体制期から続く政界汚職などのスキャンダルや度重なる政党の離合集散により、政治的疎外がすでに有権者一般に蔓延しているとされる（山田 1994）。しかし政治的疎外の実証研究は、政治的疎外の潜在変数の構造や規定要因[2)] に関心を寄せてきたが（安野 2000 など）、時点間比較についての分析が十分になされていない。そこで時点比較可能な政治的疎外の指標として、政治認知、政治委任、政治反映（詳細は次節）に注目し、その変化について量・質の両面から検討する。

次に、第 2 の政治的特徴を考える上で重要となる政治文化は、指導力のある人気政治家を待望する有権者の政治意識である。古典理論では、人気政治家は当該社会に政治的疎外が蔓延している場合に誕生しやすいとされる（Kornhauser 1959=1961）。また近年の日本では、人気政治家の誕生が、ポピュリズムの文脈で注目を集めている（大嶽 2003）。しかし有権者側が人気政治家を待望しているのかについて、政治文化の観点から検討した実証研究は存在しない。そこで時点間比較だけでなく政治的疎外との関連についても検討する。

以上より本稿では、分散分析、クロス表分析、相関分析による基礎的な分析を行い、ポスト 55 年体制期の 2 つの政治的特徴を理解するための資料を提供することを目指す。




注）*N*（1995 年）=2298　*N*（2015 年）=3561

**図 1　政治的疎外・人気政治家の平均値の変化**

## ２．分析

### 2-1　変数

まずポスト55年体制期の2つの政治的特徴にそれぞれ対応する政治文化の変数を確認する。各変数のワーディングは以下のとおりである（括弧内は略称を示す）。

**政治的疎外**

・政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない（**政治認知**）

・政治のことはやりたい人にまかせておけばよい（**政治委任**）

・国民の意見や希望は、国の政治にはほとんど反映されていない（**政治反映**）

**人気政治家**

・今の日本にはリーダーシップのある政治家が必要だ（**リーダーシップ**）

これらの変数はすべて、そう思う=1、どちらかといえばそう思う=2、どちらともいえない=3、どちらかといえばそう思わない=4、そう思わない=5、の 5 カテゴリでたずねられており、反転処理の上分析する。これらの変数は、1995 年 SSM 調査と 2015 年第 1 回 SSP 調査の両方に含まれ、ポスト 55 年体制期の 20 年間の時点間比較が可能な点で貴重である。

### 2-2　政治的疎外・人気政治家の量的変化

次に一元配置分散分析によって、4 項目の政治文化の平均値がどのように変化したのかを検討する（図 1）。Welch の *t* 検定の結果、政治認知以外の政治委任、政治反映、リーダーシップの 3 項目で、統計的に有意な差が認められた。つまり 1995 年から 2015 年までの 20 年間で、政治認知については変化していないが、政治委任では、政治はやりたい人にまかせればよいと考えている有権者が増加（＋0.201）、また政治反映では、政治が自身の意

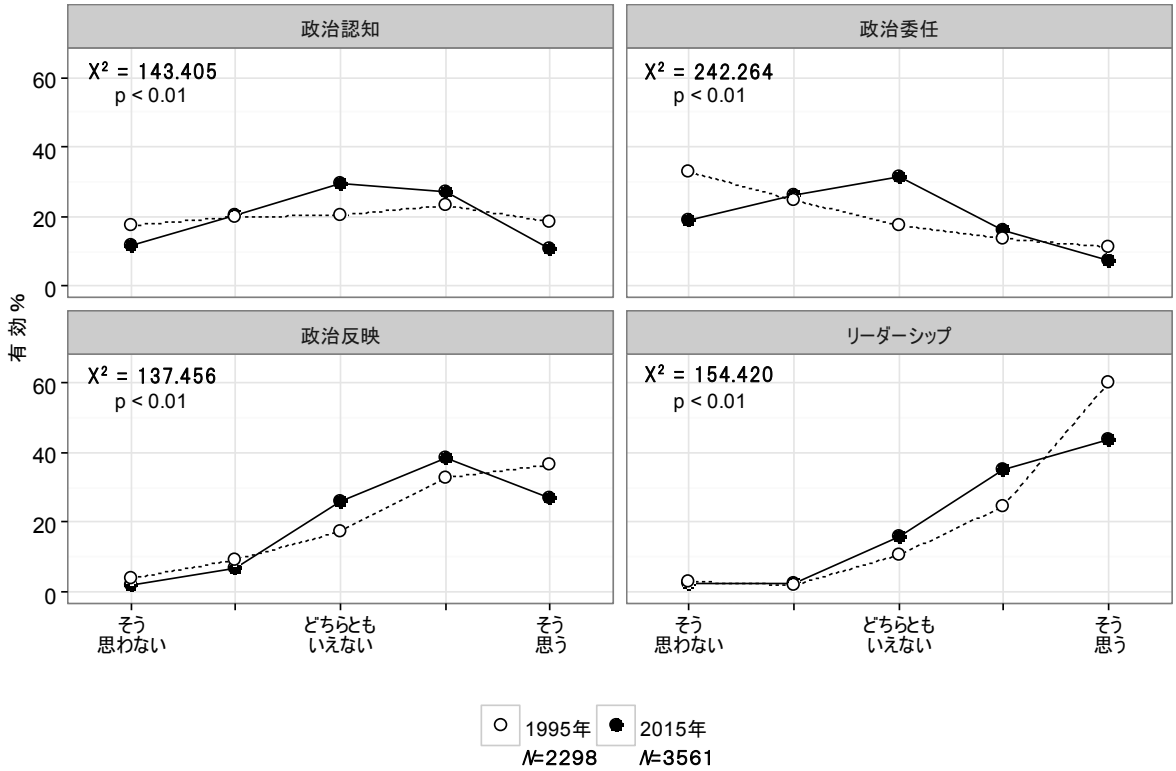



図 2　政治的疎外・人気政治家の回答カテゴリ分布の変化

見を反映していないと考えている有権者が減少（－0.061）、リーダーシップでは、指導力のある人気政治家を望む有権者が減少（－0.216）していることが明らかとなった。

### 2-3　政治的疎外・人気政治家の質的変化

さらにクロス表分析によって、4 項目の政治文化の各回答カテゴリ（「そう思わない」から「そう思う」までの 5 カテゴリ）分布がどのように変化したのかを検討する（図 2）。$\chi^2$ 検定の結果、4 項目すべてで、統計的に有意な差が認められた。まず政治的疎外のうち政治認知と政治委任の 2 項目は、回答分布の変化が類似しており、「そう思う」／「そう思わない」という強い肯定／否定の回答カテゴリが減少し、代わりに中間回答が増加していることがわかる。次に政治的疎外のうちの政治反映と、リーダーシップの 2 項目も、回答分布の変化が類似しており、否定側（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）では変化していないが、「そう思う」という強い肯定の回答カテゴリが大幅に減少している。またその傾向は、特にリーダーシップで顕著であることが示された（－16.1 ポイント）。

### 2-4　政治的疎外・人気政治家の関連の仕方と変化

最後に 4 項目の政治文化間の相関分析によって、どのような関連があるのか、また関連の仕方がどのように変化したのかを検討する（表 1）。表 1 では、それぞれ表左下側に 1995 年の相関係数の値を、表右上側に 2015 年の相関係数の値（太字）を記載している。

表 1　政治的疎外・人気政治家の相関係数とその変化

| 1995年 ＼ 2015年 | 政治認知 | 政治委任 | 政治反映 | リーダーシップ |
|---|---|---|---|---|
| **政治認知** | | **0.383** *** | **0.185** *** | **-0.016** |
| **政治委任** | 0.370 *** | | **0.064** *** | **-0.015** |
| **政治反映** | 0.148 *** | 0.106 *** | | **0.161** *** |
| **リーダーシップ** | -0.007 | -0.065 ** | 0.122 *** | |

注1）$N$（1995年）=2298，$N$（2015年）=3561，***$p$<0.001，**$p$<0.01.
注2）表左下側: 1995年の相関係数の値，表右上側: 2015年の相関係数の値（太字）.

第 1 に、政治的疎外の 3 項目間の相関係数に注目すると、いずれも統計的に有意であり、想定しうる関連を確認することができる。すなわち政治を理解できない有権者は、政治委任志向が強く、自身の意見が政治に反映されていないと考えている。またこのような関連は、相関係数の大きさと向きが 2 時点間で大きく変化していないことから、頑健である。

第 2 に、政治的疎外とリーダーシップの相関係数に注目すると、まず政治認知は 2 時点ともに関連しておらず、次に政治委任は 1995 年では負で統計的に有意であったが、2015 年では有意でなくなっており、最後に政治反映は 2 時点ともに、正で統計的に有意であることが明らかとなった。つまり政治認知については関連しない。政治委任については、1995 年では、政治はやりたい人にまかせればよいと考えている有権者が指導力のある人気政治家を望んでいない（つまり政治的に疎外されていない有権者が指導力のある人気政治家を望んでいる）という関係が存在した。しかし 2015 年では、そのような関係が消失[3] している。政治反映については、2 時点ともに、自身の意見が政治に反映されていないと考える有権者が指導力のある人気政治家を望んでいるという関係を確認できる。

## ３．考察

前節の分散分析、クロス表分析、相関分析の結果より、以下の 3 点が明らかになった。

第 1 に、平均値の量的変化については、政治認知以外の 3 項目で確認され、政治委任が増加、政治反映が減少、リーダーシップが減少であった。いずれの項目も、劇的な変化とは形容しがたく、また政治的疎外の 3 項目は、変化の実態が異なることが明らかになった。

第 2 に、回答カテゴリ分布の質的変化については、平均値ではみられなかった政治認知も含むすべてで確認され、いずれも中間回答が増加[4] していた。また政治反映とリーダーシップでは、強い否定側では変わらず、強い肯定側で減少していることが明らかになった。

第 3 に、相関係数とその変化については、政治認知はリーダーシップと一貫して関連せず、政治委任は 1995 年ではあったリーダーシップとの関連が 2015 年では消失し、政治反映はリーダーシップと一貫して関連していることが明らかになった。

これらの結果は、政治的疎外と人気政治家についての有権者の政治文化の変化の実態とその関連の仕方が、1995 年から 2015 年までの 20 年間で、量・質ともに変化していること

を示している。そこで以下では、2 つの政治的特徴ごとに分析結果を考察する。

第 1 の政治的特徴について、政治的疎外が単純に増加しているとも減少しているともいえず、変化の実態は複雑[5] であることが示されている。政治的疎外のうち有権者側の問題[6] となる政治認知と政治委任は、増加または強い否定が減少しており、楽観視できない状況にある。政治的疎外のうち政治家側の問題となる政治反映は、逆に減少してはいるが強い否定では変わらず、強い肯定が減少しただけである点も注意を要する。このように有権者の政治的疎外は、有権者側の問題、政治家側の問題の両面から変化している。そして投票率の低下という有権者の政治離れは、以上の政治文化を背景として生じているのである。

第 2 の政治的特徴について、ポスト 55 年体制初期の 1995 年では、政治的に疎外されていない有権者とされている有権者の双方が、人気政治家誕生の担い手であったことを示している。政治文化の側から考えると、一方では政治に積極的にかかわりたい有権者が、一方では現状の政治に不満を持つ有権者が、ともに 55 年体制下の自民党長期政権という政党政治へのカウンター・パート[7] として積極的に指導力のある政治家を望んだことが示唆される。しかしこのような関連は、2015 年には変化している。これはリーダーシップで強い肯定が減少したことと併せて考えると、政治的に疎外されていない有権者において、この 20 年間で指導力のある人気政治家への期待の熱が引いてきたことの証左であると考えられる。その一方で、現状の政治に不満を持つ有権者は、引き続き指導力のある人気政治家を求めている。したがって今後も人気政治家は登場し続けるであろうが、担い手は過去とは異なっている。したがって直近の人気政治家ほど、古典理論に忠実であるといえよう。

以上より、本稿ではポスト 55 年体制期内の政治文化の変化に注目したが、この 20 年間で無視できぬ変化があり、実際の政治的特徴を説明できることが示された。今後は本稿を端緒に、ポスト 55 年体制期内の政治文化の変化を検討する実証研究の蓄積に期待したい。

**付記**

1995 年 SSM 調査の利用にあたっては 2015 年 SSM 調査管理委員会の許可を得た。

**注釈**

1） 本稿の分析に使用するデータは、1995 年 SSM 調査と 2015 年第 1 回 SSP 調査から得られたものである。1995 年 SSM 調査は、2015 年第 1 回 SSP 調査の主な比較対象として設定されている社会調査であり、調査概要については盛山和夫ほか編（2011）を、得られた知見の概説については、原純輔・盛山和夫（1999）などを参照されたい。また 2015 年第 1 回 SSP 調査の概要は、本報告書内にある調査概要の項に詳細な記載がある。

2） 本稿で取り上げた政治文化の規定要因については、付表 1 を参照されたい。

3） ちなみにこのような関連の傾向は、性別、年齢、学歴、職業、収入というデモグラフィック要因を統制した上でも見いだすことができる（付表 2 参照）。

4） 政治的疎外のうち政治認知の傾向については、1995 年 SSM 調査と 2010 年 SSPI 調査を比較検討した松谷満（2015）ですでに報告されているものである。したがって本稿の分析結果は、それを 2015 年第 1 回 SSP 調査のデータで追確認したものとなる。

5） かつて R. Inglehart（1977=1978）は、経済成長がある程度進んだ西側先進国では、世代の入れ替わり効果によって政治的疎外が減少するという楽観的な見通しを立てていた。しかし本稿の分析結果からは、このような仮説は支持されない。

6） 政治的疎外の有権者側の問題／政治家側の問題とは、それぞれ政治的有効性感覚における内的有効性感覚と外的有効性感覚に対応している（安野 2000）。

7） このことは 1995 年当時、自民党の主要な支持層であった農業従事者が、指導力のある人気政治家を望んでいないことからも、整合的である（付表 1 および付表 2 参照）。

## 文献


Almond, G. A. and S. Verba, 1963, *The Civic Culture: Political Attitudes and Democracy in Five Nations*, Princeton: Princeton University Press.（＝1974，石川一雄・薄井秀二・中野実・岡沢憲芙・深谷満雄・木村修三・山崎隆志・神野勝弘・片岡寛光訳『現代市民の政治文化――五カ国における政治的態度と民主主義』勁草書房.）

原純輔・盛山和夫，1999,『社会階層――豊かさの中の不平等』東京大学出版会.

Inglehart, R., 1977, *The Silent Revolution: Changing Values and Political Styles Among Western Public*s, Princeton: Princeton University Press.（＝1978，三宅一郎・金丸輝男・富沢克訳『静かなる革命――政治意識と行動様式の変化』東洋経済新報社.）

Kornhauser, W., 1959, *Politics of Mass Society*, New York: Free Press.（＝1961，辻村明訳『現代社会学叢書 大衆社会の政治』東京創元社.）

松谷満，2015,「どうして「社会は変えられない」のか――政治意識と社会階層」数土直紀編『社会意識からみた日本――階層意識の新次元』有斐閣，144-166.

大嶽秀夫，2003,『日本型ポピュリズム――政治への期待と幻滅』中央公論新社.

盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲編，2011,『日本の社会階層とそのメカニズム――不平等を問い直す』白桃書房.

山田一成，1994,「現代社会における政治的疎外意識」栗田宣義編『政治心理学リニューアル』学文社，91-114.

安野智子，2000,「政治的疎外意識と政治参加――「衆議院選挙に関する世論調査」による分析」佐藤博樹・石田浩・池田謙一編『社会調査の公開データ――2 次分析への招待』東京大学出版会，158-70.

## 付表 1　政治文化の重回帰分析

| | | 政治認知 | | 政治委任 | | 政治反映 | | リーダーシップ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1995年 | 2015年 | 1995年 | 2015年 | 1995年 | 2015年 | 1995年 | 2015年 |
| | | *β* | *β* | *β* | *β* | *β* | *β* | *β* | *β* |
| 性別 | 女性 | 0.218 *** | 0.266 *** | 0.020 | -0.002 | 0.050 * | 0.098 *** | 0.001 | 0.004 |
| 年齢 | 20-64歳 | -0.119 *** | -0.200 *** | -0.094 *** | -0.056 ** | -0.093 *** | -0.038 * | 0.114 *** | 0.128 *** |
| 学歴 | 教育年数 | -0.288 *** | -0.223 *** | -0.191 *** | -0.122 *** | -0.049 | -0.136 *** | -0.040 | -0.007 |
| 職業 | 上層ホワイト（*ref.*） | | | | | | | | |
| | 下層ホワイト | 0.005 | 0.011 | 0.003 | 0.031 | 0.041 | 0.025 | 0.005 | 0.003 |
| | 自営 | 0.047 | 0.023 | 0.048 | 0.012 | 0.031 | 0.028 | 0.063 * | 0.043 * |
| | 熟練ブルー | 0.044 | 0.049 * | 0.054 | 0.036 | 0.017 | 0.024 | 0.017 | 0.037 |
| | 非熟練ブルー | 0.034 | 0.080 *** | 0.041 | 0.091 *** | 0.047 | 0.028 | 0.039 | -0.003 |
| | 農業 | 0.063 ** | 0.029 | 0.064 ** | 0.022 | 0.011 | 0.023 | -0.057 * | 0.024 |
| | 無職 | 0.041 | 0.022 | 0.028 | 0.029 | 0.006 | -0.023 | 0.005 | 0.034 |
| 収入 | 世帯（対数変換済） | -0.077 *** | -0.048 ** | -0.028 | -0.023 | -0.047 * | -0.048 * | 0.056 | 0.034 |
| *Adjusted* $R^2$ | | 0.162 | 0.183 | 0.044 | 0.027 | 0.013 | 0.038 | 0.023 | 0.019 |
| *N* | | 2053 | 2759 | 2049 | 2761 | 2032 | 2761 | 2015 | 2758 |

注）***$p$<0.001, **$p$<0.01, *$p$<0.05, $\beta$=標準化偏回帰係数.

## 付表 2　リーダーシップの重回帰分析（政治的疎外を含む）

| | | リーダーシップ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1995年 | | | 2015年 | | |
| | | *B* | *S.E.* | *β* | *B* | *S.E.* | *β* |
| 切片 | | 3.510 *** | 0.287 | | 2.898 *** | 0.234 | |
| 性別 | 女性 | 0.000 | 0.049 | 0.000 | -0.018 | 0.039 | -0.010 |
| 年齢 | 20-64歳 | 0.009 *** | 0.002 | 0.120 | 0.010 *** | 0.002 | 0.129 |
| 学歴 | 教育年数 | -0.020 | 0.011 | -0.053 | 0.004 | 0.009 | 0.008 |
| 職業 | 上層ホワイト（*ref.*） | | | | | | |
| | 下層ホワイト | -0.010 | 0.076 | -0.004 | 0.004 | 0.053 | 0.002 |
| | 自営 | 0.174 * | 0.082 | 0.058 | 0.142 | 0.075 | 0.039 |
| | 熟練ブルー | 0.041 | 0.081 | 0.014 | 0.103 | 0.064 | 0.035 |
| | 非熟練ブルー | 0.096 | 0.080 | 0.035 | -0.008 | 0.060 | -0.003 |
| | 農業 | -0.281 * | 0.117 | -0.060 | 0.147 | 0.131 | 0.022 |
| | 無職 | 0.021 | 0.074 | 0.010 | 0.097 | 0.057 | 0.039 |
| 収入 | 世帯（対数変換済） | 0.062 * | 0.027 | 0.054 | 0.043 * | 0.021 | 0.040 |
| 疎外 | 政治認知 | -0.010 | 0.017 | -0.014 | -0.012 | 0.018 | -0.015 |
| | 政治委任 | -0.042 * | 0.016 | -0.061 | -0.027 | 0.016 | -0.034 |
| | 政治反映 | 0.107 *** | 0.018 | 0.131 | 0.159 *** | 0.019 | 0.165 |
| *Adjusted* $R^2$ | | 0.041 | | | 0.044 | | |
| *N* | | 1980 | | | 2756 | | |

注）***$p$<0.001, **$p$<0.01, *$p$<0.05, $B$=非標準化偏回帰係数, $\beta$=標準化偏回帰係数.

# ３　コード・ブック

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| ID | 個人ID | – | | | |
| Q1_1 | 問1_1)性別 | SA | 2 | 1 | 男性 |
| | | | | 2 | 女性 |
| Q1_2_1_year | 問1_2_1)生年月__年 | NU | | | 年(自由記述) |
| Q1_2_2_month | 問1_2_2)生年月__月 | NU | | | 月(自由記述) |
| Q2_a | 問2_a)国政選挙や自治体選挙の際の投票 | SA | 5 | 1 | いつもしている |
| | | | | 2 | よくしている |
| | | | | 3 | ときどきしている |
| | | | | 4 | めったにしない |
| | | | | 5 | したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q2_b | 問2_b)国会や地方議会の議員とのつきあい | SA | 5 | 1 | いつもしている |
| | | | | 2 | よくしている |
| | | | | 3 | ときどきしている |
| | | | | 4 | めったにしない |
| | | | | 5 | したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q2_c | 問2_c)市民運動への参加 | SA | 5 | 1 | いつもしている |
| | | | | 2 | よくしている |
| | | | | 3 | ときどきしている |
| | | | | 4 | めったにしない |
| | | | | 5 | したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q2_d | 問2_d)ボランティア・NPO活動 | SA | 5 | 1 | いつもしている |
| | | | | 2 | よくしている |
| | | | | 3 | ときどきしている |
| | | | | 4 | めったにしない |
| | | | | 5 | したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q2_e | 問2_e)募金や寄付 | SA | 5 | 1 | いつもしている |
| | | | | 2 | よくしている |
| | | | | 3 | ときどきしている |
| | | | | 4 | めったにしない |
| | | | | 5 | したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q2_f | 問2_f)サプリメント・健康食品の利用 | SA | 5 | 1 | いつもしている |
| | | | | 2 | よくしている |
| | | | | 3 | ときどきしている |
| | | | | 4 | めったにしない |
| | | | | 5 | したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q2_g | 問2_g)プレミアム(ワンランク上の)商品の購入 | SA | 5 | 1 | いつもしている |
| | | | | 2 | よくしている |
| | | | | 3 | ときどきしている |
| | | | | 4 | めったにしない |
| | | | | 5 | したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q3_a | 問3_a)クラシック音楽の音楽会・コンサートへ行く | SA | 5 | 1 | 月に1回以上 |
| | | | | 2 | 年に1回から数回 |
| | | | | 3 | 数年に1回ぐらい |
| | | | | 4 | 最近5、6年はしたことはない |
| | | | | 5 | 今まで1度もしたことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q3_b | 問3_b)美術展や博物館に行く | SA | 5 | 1 | 月に1回以上 |
| | | | | 2 | 年に1回から数回 |
| | | | | 3 | 数年に1回ぐらい |
| | | | | 4 | 最近5、6年はしたことはない |
| | | | | 5 | 今まで1度もしたことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q3_c | 問3_c)小説や歴史の本を読む | SA | 5 | 1 | 週に1回以上 |
| | | | | 2 | 月に1回くらい |
| | | | | 3 | 年に1回から数回 |
| | | | | 4 | 数年に1回ぐらい |
| | | | | 5 | 最近5、6年はしたことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q3_d | 問3_d)図書館に行く | SA | 5 | 1 | 週に1回以上 |
| | | | | 2 | 月に1回くらい |
| | | | | 3 | 年に1回から数回 |
| | | | | 4 | 数年に1回ぐらい |
| | | | | 5 | 最近5、6年はしたことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q3_e | 問3_e)海外旅行に行く | SA | 5 | 1 | 月に1回以上 |
| | | | | 2 | 年に1回から数回 |
| | | | | 3 | 数年に1回ぐらい |
| | | | | 4 | 最近5、6年はしたことはない |
| | | | | 5 | 今まで1度もしたことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q4 | 問4)最後に行かれた学校 | SA | 14 | 1 | 中学校 |
| | | | | 2 | 中学校卒業後に専門学校 |
| | | | | 3 | 職業科高校(工業、商業、農業、家政など) |
| | | | | 4 | 普通科高校(普通科、理数科など) |
| | | | | 5 | 高校卒業後に専門学校 |
| | | | | 6 | 短期大学・高等専門学校 |
| | | | | 7 | 大学の人文社会系学部(四年制) |
| | | | | 8 | 大学の理工系学部(四年制) |
| | | | | 9 | 大学の六年制学部(医・歯など) |
| | | | | 10 | 大学院修士課程 |
| | | | | 11 | 大学院博士課程 |
| | | | | 12 | その他 |
| | | | | 13 | その他の高校 |
| | | | | 14 | その他・学部不明の大学 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q5_1 | 問5_1)就職経験の有無 | SA | 2 | 1 | 仕事に就いたことがある |
| | | | | 2 | 一度も仕事をしたことはない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q5_2_1_year | 問5_2_1)最初に就職した年月__年 | NU | | | 年(自由記述) |
| | | | | 8888 | 非該当 |
| | | | | 9999 | 無回答 |
| Q5_2_2_month | 問5_2_2)最初に就職した年月__月 | NU | | | 月(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q5_3 | 問5_3)転職・退職経験の有無 | SA | 4 | 1 | 現在まで同じ勤め先で、仕事を続けている |
| | | | | 2 | 一度だけやめた |
| | | | | 3 | 二度やめた |
| | | | | 4 | 三度以上やめた |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q5_4a | 問5_4a)学校を出るまでの間の浪人・留年 | SA | 2 | 1 | 経験したことがある |
| | | | | 2 | 経験したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q5_4b | 問5_4b)学校を出た後の3ヶ月以上の失業・職探しの期間 | SA | 2 | 1 | 経験したことがある |
| | | | | 2 | 経験したことがない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_1 | 問6_1)働き方 | SA | 11 | 1 | 経営者、役員 |
| | | | | 2 | 常時雇用されている一般従業者 |
| | | | | 3 | 臨時雇用・パート・アルバイト |
| | | | | 4 | 派遣社員 |
| | | | | 5 | 契約社員、嘱託 |
| | | | | 6 | 自営業主、自由業者 |
| | | | | 7 | 家族従業者(農家や商店などで家業を手伝っている) |
| | | | | 8 | 内職 |
| | | | | 9 | 無職:仕事を探している |
| | | | | 10 | 無職:仕事を探していない |
| | | | | 11 | 学生 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_2 | 問6_2) 勤め先の事業内容 | SA | 16 | 1 | 農業、林業 |
| | | | | 2 | 漁業 |
| | | | | 3 | 鉱業、採石業、砂利採取業(鉱物資源の採掘など) |
| | | | | 4 | 建設業(建物や土木設備の建設) |
| | | | | 5 | 製造業(モノを組み当てたり作ったりするメーカー) |
| | | | | 6 | 電気・ガス・熱供給・水道業(社会基盤・インフラの供給の企業) |
| | | | | 7 | 情報通信業 |
| | | | | 8 | 運輸業(モノや人の運搬をする企業)、郵便業 |
| | | | | 9 | 卸売業 |
| | | | | 10 | 小売業 |
| | | | | 11 | 金融業、保険業(郵貯・簡保を含む) |
| | | | | 12 | 不動産業、物品賃貸業 |
| | | | | 13 | 学術研究、専門・技術サービス業(学校など) |
| | | | | 14 | 宿泊業、飲食サービス業 |
| | | | | 15 | 生活関連サービス業、娯楽業 |
| | | | | 16 | その他 |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q6_3 | 問6_3)従業先の企業規模 | SA | 10 | 1 | 1人 |
| | | | | 2 | 2～4人 |
| | | | | 3 | 5～9人 |
| | | | | 4 | 10～29人 |
| | | | | 5 | 30～99人 |
| | | | | 6 | 100～299人 |
| | | | | 7 | 300～499人 |
| | | | | 8 | 500～999人 |
| | | | | 9 | 1000人以上 |
| | | | | 10 | 官公庁 |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_4 | 問6_4)役職 | SA | 7 | 1 | 役職なし |
| | | | | 2 | 監督、職長、班長、組長 |
| | | | | 3 | 係長、係長相当職 |
| | | | | 4 | 課長、課長相当職 |
| | | | | 5 | 部長、部長相当職 |
| | | | | 6 | 社長、重役、役員、理事 |
| | | | | 7 | その他 |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_5 | 問6_5_ISCO)現在のお仕事の内容ISCO | | | | ISCO-08 |
| | | | | 88888 | 非該当 |
| | | | | 99999 | 無回答 |
| Q6_6_1_year | 問6_6_1)今の仕事に就いた時期__年 | NU | | | 年(自由記述) |
| | | | | 8888 | 非該当 |
| | | | | 9999 | 無回答 |
| Q6_6_2_month | 問6_6_2)今の仕事に就いた時期__月 | NU | | | 月(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_7_1_week | 問6_7_1)仕事時間(週) | NU | | | 時間(自由記述) |
| | | | | 888 | 非該当 |
| | | | | 999 | 無回答 |
| Q6_7_2_month | 問6_7_2)仕事時間(月) | NU | | | 時間(自由記述) |
| | | | | 888 | 非該当 |
| | | | | 999 | 無回答 |
| Q6_8 | 問6_8)仕事の中身 | SA | 5 | 1 | おもに自分でモノを作ったり扱ったりしている |
| | | | | 2 | どちらかといえば、モノを作ったり扱ったりしていることが多い |
| | | | | 3 | モノを扱うことと、人とのコミュニケーションが半々ぐらい |
| | | | | 4 | どちらかといえば、人と接したりコミュニケーションをとることが多い |
| | | | | 5 | おもに人と接したりコミュニケーションをとっている |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_9a | 問6_9a)職場では自分の働きぶりが認められている | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | あまりそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_9b | 問6_9b)自分の仕事の内容やペースを自分で決めることができる | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | あまりそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q6_9c | 問6_9c)職場全体の仕事のやり方に自分の意見を反映させることができる | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | あまりそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q7_1 | 問7_1)結婚 | SA | 4 | 1 | 結婚している(事実婚を含む) |
| | | | | 2 | 未婚(結婚したことがない) |
| | | | | 3 | 離別 |
| | | | | 4 | 死別 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q7_2 | 問7_2)結婚された年齢 | NU | | | 歳(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q7_3_1_year | 問7_3_1)配偶者の生年月_年 | NU | | | 年(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q7_3_2_month | 問7_3_2)配偶者の生年月_月 | NU | | | 月(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q8 | 問8)配偶者が行かれた学校 | SA | 9 | 1 | 中学校 |
| | | | | 2 | 中学校卒業後に専門学校 |
| | | | | 3 | 高校 |
| | | | | 4 | 高校卒業後に専門学校 |
| | | | | 5 | 短期大学・高等専門学校 |
| | | | | 6 | 大学(四年制) |
| | | | | 7 | 大学(六年制) |
| | | | | 8 | 大学院 |
| | | | | 9 | その他 |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q9 | 問9)配偶者の働き方 | SA | 13 | 1 | 経営者・役員・大企業の課長以上 |
| | | | | 2 | 常時雇用されている一般従業者 |
| | | | | 3 | 臨時雇用・パート・アルバイト |
| | | | | 4 | 派遣社員 |
| | | | | 5 | 契約社員、嘱託 |
| | | | | 6 | 自営業、自由業者(従業員4人以下) |
| | | | | 7 | 自営、自由業者(従業員5人以上) |
| | | | | 8 | 家族従業者 |
| | | | | 9 | 内職 |
| | | | | 10 | 無職:仕事を探している |
| | | | | 11 | 無職:仕事を探していない |
| | | | | 12 | 学生 |
| | | | | 13 | その他 |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_1 | 問10_1)同居家族の人数 | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2a | 問10_2a)同居家族のうちわけ:あなたご自身 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2b | 問10_2b)同居家族のうちわけ:配偶者 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2c | 問10_2c)同居家族のうちわけ:子ども | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2d | 問10_2d)同居家族のうちわけ:子どもの配偶者 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2e | 問10_2e)同居家族のうちわけ:あなたの兄弟姉妹 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2f | 問10_2f)同居家族のうちわけ:あなたの父親 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2g | 問10_2g)同居家族のうちわけ:あなたの母親 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2h | 問10_2h)同居家族のうちわけ:配偶者の父親 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2i | 問10_2i)同居家族のうちわけ:配偶者の母親 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2j | 問10_2j)同居家族のうちわけ:祖父母 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2k | 問10_2k)同居家族のうちわけ:あなたの孫 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2l | 問10_2l)同居家族のうちわけ:その他 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2m | 問10_2m)同居家族のうちわけ:その他の親族 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q10_2n | 問10_2n)同居家族のうちわけ:親族以外 | MA | 14 | 0 | いない |
| | | | | 1 | いる |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q11_1 | 問11_1)子どもの有無 | SA | 2 | 1 | いる |
| | | | | 2 | いない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_1a | 問11_2_1a)新生児～未就学児童(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_1b | 問11_2_1b)新生児～未就学児童(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_2a | 問11_2_2a)小学生(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_2b | 問11_2_2b)小学生(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_3a | 問11_2_3a)中学生(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_3b | 問11_2_3b)中学生(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_4a | 問11_2_4a)高校生(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_4b | 問11_2_4b)高校生(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_5a | 問11_2_5a)専門学校(高卒後に進学したもの)の学生(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_5b | 問11_2_5b)専門学校(高卒後に進学したもの)の学生(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_6a | 問11_2_6a)短大・高専の学生(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_6b | 問11_2_6b)短大・高専の学生(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_7a | 問11_2_7a)大学生(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_7b | 問11_2_7b)大学生(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_8a | 問11_2_8a)その他の生徒・学生(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_8b | 問11_2_8b)その他の生徒・学生(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_9a | 問11_2_9a)学校は卒業(中退)した人(男性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q11_2_9b | 問11_2_9b)学校は卒業(中退)した人(女性) | NU | | | 人(自由記述) |
| | | | | 88 | 非該当 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q12_a | 問12_a)生活全般 | SA | 5 | 1 | 満足している |
| | | | | 2 | どちらかといえば満足している |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえば不満である |
| | | | | 5 | 不満である |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q12_b | 問12_b)自分の学歴 | SA | 5 | 1 | よくなった |
| | | | | 2 | ややよくなった |
| | | | | 3 | 変わらない |
| | | | | 4 | やや悪くなった |
| | | | | 5 | 悪くなった |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q13_1 | 問13_1)5段階階層帰属意識 | SA | 5 | 1 | 上 |
| | | | | 2 | 中の上 |
| | | | | 3 | 中の下 |
| | | | | 4 | 下の上 |
| | | | | 5 | 下の下 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q13_2a | 問13_2a)上の層% | NU | | | (1-100%自由記述) |
| | | | | 999 | 無回答 |
| Q13_2b | 問13_2b)下の層% | NU | | | (1-100%自由記述) |
| | | | | 999 | 無回答 |
| Q13_3 | 問13_3)10段階階層帰属意識 | SA | 10 | 1 | 1（上） |
| | | | | 2 | 2 |
| | | | | 3 | 3 |
| | | | | 4 | 4 |
| | | | | 5 | 5 |
| | | | | 6 | 6 |
| | | | | 7 | 7 |
| | | | | 8 | 8 |
| | | | | 9 | 9 |
| | | | | 10 | 10（下） |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q14_a | 問14_a)領域別階層帰属意識:収入 | SA | 10 | 1 | 1（上） |
| | | | | 2 | 2 |
| | | | | 3 | 3 |
| | | | | 4 | 4 |
| | | | | 5 | 5 |
| | | | | 6 | 6 |
| | | | | 7 | 7 |
| | | | | 8 | 8 |
| | | | | 9 | 9 |
| | | | | 10 | 10（下） |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q14_b | 問14_b)領域別階層帰属意識:学歴 | SA | 10 | 1 | 1（上） |
| | | | | 2 | 2 |
| | | | | 3 | 3 |
| | | | | 4 | 4 |
| | | | | 5 | 5 |
| | | | | 6 | 6 |
| | | | | 7 | 7 |
| | | | | 8 | 8 |
| | | | | 9 | 9 |
| | | | | 10 | 10（下） |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q14_c | 問14_c)領域別階層帰属意識:何かあった時に頼れる資産や財産 | SA | 10 | 1 | 1（上） |
| | | | | 2 | 2 |
| | | | | 3 | 3 |
| | | | | 4 | 4 |
| | | | | 5 | 5 |
| | | | | 6 | 6 |
| | | | | 7 | 7 |
| | | | | 8 | 8 |
| | | | | 9 | 9 |
| | | | | 10 | 10（下） |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q15_1 | 問15_1)あなたはどの程度幸せですか | SA | 11 | 0 | 0（とても不幸） |
| | | | | 1 | 1 |
| | | | | 2 | 2 |
| | | | | 3 | 3 |
| | | | | 4 | 4 |
| | | | | 5 | 5 |
| | | | | 6 | 6 |
| | | | | 7 | 7 |
| | | | | 8 | 8 |
| | | | | 9 | 9 |
| | | | | 10 | 10（とても幸せ） |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q15_2 | 問15_2)健康状態 | SA | 5 | 1 | よい |
| | | | | 2 | まあよい |
| | | | | 3 | ふつう |
| | | | | 4 | あまりよくない |
| | | | | 5 | わるい |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q16 | 問16)頼りにしている親しい人 | NU | | | (0-99人自由記述) |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q17_a | 問17_a)困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる | SA | 5 | 1 | とてもそう思う |
| | | | | 2 | そう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 5 | 全くそう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q17_b | 問17_b)近所の人たちは強いきずなで結ばれている | SA | 5 | 1 | とてもそう思う |
| | | | | 2 | そう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 5 | 全くそう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_a | 問18_a)働くことは、社会に対する義務である | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_b | 問18_b)「宗教的な心」というものは大切だと思う | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_c | 問18_c)チャンスが平等にあたえられるなら、競争で貧富の差がついてもしかたがない | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_d | 問18_d)競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことの方が大切だ | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_e | 問18_e)今後、日本で格差が広がってもかまわない | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_f | 問18_f)今の日本では資産の格差が大きすぎる | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_g | 問18_g)大きな資産を持てるようになるかどうかは、本人の努力次第だ | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q18_h | 問18_h)本人の社会的地位は、家庭の豊かさや親の社会的地位で決まっている | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q19_a | 問19_a)自分の仕事のために、家庭や私生活を犠牲にしていることが多い | SA | 6 | 1 | よくあてはまる |
| | | | | 2 | ややあてはまる |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりあてはまらない |
| | | | | 5 | まったくあてはまらない |
| | | | | 88 | 仕事をしていない(非該当) |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q19_b | 問19_b)将来のために節約・努力するよりも、今の人生を楽しむようにしている | SA | 5 | 1 | よくあてはまる |
| | | | | 2 | ややあてはまる |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりあてはまらない |
| | | | | 5 | まったくあてはまらない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q19_c | 問19_c)まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる | SA | 5 | 1 | よくあてはまる |
| | | | | 2 | ややあてはまる |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりあてはまらない |
| | | | | 5 | まったくあてはまらない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q19_d | 問19_d)うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる | SA | 5 | 1 | よくあてはまる |
| | | | | 2 | ややあてはまる |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりあてはまらない |
| | | | | 5 | まったくあてはまらない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q19_e | 問19_e)もっと多くを手にするよりも、これまでに獲得したものを維持することの方が重要だと思う | SA | 5 | 1 | よくあてはまる |
| | | | | 2 | ややあてはまる |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりあてはまらない |
| | | | | 5 | まったくあてはまらない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q19_f | 問19_f)私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる | SA | 5 | 1 | よくあてはまる |
| | | | | 2 | ややあてはまる |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | あまりあてはまらない |
| | | | | 5 | まったくあてはまらない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q20_a | 問20_a)社会的評価の高い職業につくこと | SA | 4 | 1 | 重要である |
| | | | | 2 | やや重要である |
| | | | | 3 | あまり重要ではない |
| | | | | 4 | 重要ではない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q20_b | 問20_b)高い収入を得ること | SA | 4 | 1 | 重要である |
| | | | | 2 | やや重要である |
| | | | | 3 | あまり重要ではない |
| | | | | 4 | 重要ではない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q20_c | 問20_c)家族との時間を大切にすること | SA | 4 | 1 | 重要である |
| | | | | 2 | やや重要である |
| | | | | 3 | あまり重要ではない |
| | | | | 4 | 重要ではない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q21_a | 問21_a)子どもには、大学以上の教育を受けさせるのがよい | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | あまりそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q21_b | 問21_b)子どもには、家庭教師をつけたり、塾に通わせた方がよい | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | あまりそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q21_c | 問21_c)子どもには、海外留学をさせたほうがよい | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | ややそう思う |
| | | | | 3 | あまりそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q22_a | 問22_a)男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q22_b | 問22_b)夫が家事や育児をするのはあたりまえのことだ | SA | 4 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 4 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q23_a | 問23_a)政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_b | 問23_b)政治のことはやりたい人にまかせておけばよい | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_c | 問23_c)これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_d | 問23_d)今の日本にはリーダーシップを持った政治家が必要だ | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_e | 問23_e)国民の意見や希望は、国の政治にはほとんど反映されていない | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_f | 問23_f)権威のある人々にはつねに敬意を払わなければならない | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_g | 問23_g)以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_h | 問23_h)伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q23_i | 問23_i) この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである | SA | 5 | 1 | そう思う |
| | | | | 2 | どちらかといえばそう思う |
| | | | | 3 | どちらともいえない |
| | | | | 4 | どちらかといえばそう思わない |
| | | | | 5 | そう思わない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q24 | 問24)あなたの支持政党(2014年12月の衆議院選挙の時点) | SA | 12 | 1 | 自民党 |
| | | | | 2 | 民主党 |
| | | | | 3 | 公明党 |
| | | | | 4 | 維新の党 |
| | | | | 5 | 次世代の党 |
| | | | | 6 | 共産党 |
| | | | | 7 | 生活の党 |
| | | | | 8 | 社民党 |
| | | | | 9 | その他 |
| | | | | 10 | 支持政党なし |
| | | | | 11 | 新党日本 |
| | | | | 12 | 幸福実現党 |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q25_1 | 問25_1)お父さんが行かれた学校 | SA | 10 | 1 | 新制中学校 |
| | | | | 2 | 新制高校 |
| | | | | 3 | 新制短大・高専 |
| | | | | 4 | 新制大学 |
| | | | | 5 | 旧制尋常小学校 |
| | | | | 6 | 旧制高等小学校 |
| | | | | 7 | 旧制中学校・実業高校・師範学校 |
| | | | | 8 | 旧制高校・旧制専門学校 |
| | | | | 9 | 旧制大学(大学院を含む) |
| | | | | 10 | その他 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q25_2 | 問25_2)お母さんが行かれた学校 | SA | 10 | 1 | 新制中学校 |
| | | | | 2 | 新制高校 |
| | | | | 3 | 新制短大・高専 |
| | | | | 4 | 新制大学 |
| | | | | 5 | 旧制尋常小学校 |
| | | | | 6 | 旧制高等小学校 |
| | | | | 7 | 旧制中学校・実業高校・師範学校 |
| | | | | 8 | 旧制高校・旧制専門学校 |
| | | | | 9 | 旧制大学(大学院を含む) |
| | | | | 10 | その他 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_1 | 問26_1)15歳時の10段階階層帰属意識 | SA | 10 | 1 | 1 (上) |
| | | | | 2 | 2 |
| | | | | 3 | 3 |
| | | | | 4 | 4 |
| | | | | 5 | 5 |
| | | | | 6 | 6 |
| | | | | 7 | 7 |
| | | | | 8 | 8 |
| | | | | 9 | 9 |
| | | | | 10 | 10 (下) |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2a | 問26_2a)15歳時にお宅にあったもの:持ち家 | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2b | 問26_2b)15歳時にお宅にあったもの:住居以外の土地や建物 | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2c | 問26_2c)15歳時にお宅にあったもの:乗用車 | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2d | 問26_2d)15歳時にお宅にあったもの:子ども部屋 | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2e | 問26_2e)15歳時にお宅にあったもの:あなた自身の学習机 | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2f | 問26_2f)15歳時にお宅にあったもの:ピアノ | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2g | 問26_2g)15歳時にお宅にあったもの:文学全集・図鑑 | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2h | 問26_2h)15歳時にお宅にあったもの:美術品・骨董品(こっとうひん) | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q26_2i | 問26_2i)15歳時にお宅にあったもの:田畑(家庭菜園を除く) | MA | 9 | 0 | なかった |
| | | | | 1 | あった |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q27_1 | 問27_1)あなたの現在のお住まい | SA | 5 | 1 | 持ち家(一戸建) |
| | | | | 2 | 持ち家(分譲マンション) |
| | | | | 3 | 借家・賃貸のアパート・マンション |
| | | | | 4 | 社宅・寮・官舎 |
| | | | | 5 | その他 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q27_2_1 | 問27_2_1)お住まいの広さ㎡ | NU | | | ㎡(自由記述) |
| | | | | 9999 | 無回答 |
| Q27_2_2 | 問27_2_2)お住まいの広さ坪 | NU | | | 坪(自由記述) |
| | | | | 9999 | 無回答 |
| Q28 | 問28)居住年数 | NU | | | 年(自由記述) |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q29_a | 問29_a)所有しているもの:乗用車 | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_b | 問29_b)所有しているもの:犬・猫などのペット | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_c | 問29_c)所有しているもの:子ども部屋 | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_d | 問29_d)所有しているもの:ピアノ | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_e | 問29_e)所有しているもの:バリアフリー設備 | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_f | 問29_f)所有しているもの:食器洗い機 | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_g | 問29_g)所有しているもの:文学全集・図鑑 | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_h | 問29_h)所有しているもの:美術品・骨董品(こっとうひん) | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_i | 問29_i)所有しているもの:田畑(家庭菜園は除く) | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q29_j | 問29_j)所有しているもの:金庫 | MA | 9 | 0 | ない |
| | | | | 1 | ある |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q30_1 | 問30_1)他の人の収入 | SA | 39 | 1 | なし |
| | | | | 2 | 25万円未満 |
| | | | | 3 | 25～50万円未満 |
| | | | | 4 | 50～75万円未満 |
| | | | | 5 | 75～100万円未満 |
| | | | | 6 | 100～125万円未満 |
| | | | | 7 | 125～150万円未満 |
| | | | | 8 | 150～200万円未満 |
| | | | | 9 | 200～250万円未満 |
| | | | | 10 | 250～300万円未満 |
| | | | | 11 | 300～350万円未満 |
| | | | | 12 | 350～400万円未満 |
| | | | | 13 | 400～450万円未満 |
| | | | | 14 | 500万円位 |
| | | | | 15 | 600万円位 |
| | | | | 16 | 700万円位 |
| | | | | 17 | 800万円位 |
| | | | | 18 | 900万円位 |
| | | | | 19 | 1,000万円位 |
| | | | | 20 | 1,100万円位 |
| | | | | 21 | 1,200万円位 |
| | | | | 22 | 1,300万円位 |
| | | | | 23 | 1,400万円位 |
| | | | | 24 | 1,500万円位 |
| | | | | 25 | 1,600万円位 |
| | | | | 26 | 1,700万円位 |
| | | | | 27 | 1,800万円位 |
| | | | | 28 | 1,900万円位 |
| | | | | 29 | 2,000万円位 |
| | | | | 30 | 2,050～2,500万円未満 |
| | | | | 31 | 2,500～3,000万円未満 |
| | | | | 32 | 3,000～4,000万円未満 |
| | | | | 33 | 4,000～5,000万円未満 |
| | | | | 34 | 5,000～6,000万円未満 |
| | | | | 35 | 6,000～7,000万円未満 |
| | | | | 36 | 7,000～8,000万円未満 |
| | | | | 37 | 8,000～9,000万円未満 |
| | | | | 38 | 9,000～1億円未満 |
| | | | | 39 | 1億円以上 |
| | | | | 99 | 無回答 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| Q30_2a | 問30_2a)個人収入について | SA | 6 | 1 | とても少ない |
| | | | | 2 | どちらかといえば少ない |
| | | | | 3 | ちょうどいい |
| | | | | 4 | どちらかといえば多い |
| | | | | 5 | とても多い |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q30_2b | 問30_2b)世帯収入について | SA | 5 | 1 | とても少ない |
| | | | | 2 | どちらかといえば少ない |
| | | | | 3 | ちょうどいい |
| | | | | 4 | どちらかといえば多い |
| | | | | 5 | とても多い |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q31_1 | 問31_1)ご自身の年収 | SA | 40 | 1 | なし |
| | | | | 2 | 25万円未満 |
| | | | | 3 | 25～50万円未満 |
| | | | | 4 | 50～75万円未満 |
| | | | | 5 | 75～100万円未満 |
| | | | | 6 | 100～125万円未満 |
| | | | | 7 | 125～150万円未満 |
| | | | | 8 | 150～200万円未満 |
| | | | | 9 | 200～250万円未満 |
| | | | | 10 | 250～300万円未満 |
| | | | | 11 | 300～350万円未満 |
| | | | | 12 | 350～400万円未満 |
| | | | | 13 | 400～450万円未満 |
| | | | | 14 | 500万円位 |
| | | | | 15 | 600万円位 |
| | | | | 16 | 700万円位 |
| | | | | 17 | 800万円位 |
| | | | | 18 | 900万円位 |
| | | | | 19 | 1,000万円位 |
| | | | | 20 | 1,100万円位 |
| | | | | 21 | 1,200万円位 |
| | | | | 22 | 1,300万円位 |
| | | | | 23 | 1,400万円位 |
| | | | | 24 | 1,500万円位 |
| | | | | 25 | 1,600万円位 |
| | | | | 26 | 1,700万円位 |
| | | | | 27 | 1,800万円位 |
| | | | | 28 | 1,900万円位 |
| | | | | 29 | 2,000万円位 |
| | | | | 30 | 2,050～2,500万円未満 |
| | | | | 31 | 2,500～3,000万円未満 |
| | | | | 32 | 3,000～4,000万円未満 |
| | | | | 33 | 4,000～5,000万円未満 |
| | | | | 34 | 5,000～6,000万円未満 |
| | | | | 35 | 6,000～7,000万円未満 |
| | | | | 36 | 7,000～8,000万円未満 |
| | | | | 37 | 8,000～9,000万円未満 |
| | | | | 38 | 9,000～1億円未満 |
| | | | | 39 | 1億円以上 |
| | | | | 40 | 分からない・答えたくない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q31_2 | 問31_2)世帯の年収 | SA | 40 | 1 | なし |
| | | | | 2 | 25万円未満 |
| | | | | 3 | 25～50万円未満 |
| | | | | 4 | 50～75万円未満 |
| | | | | 5 | 75～100万円未満 |
| | | | | 6 | 100～125万円未満 |
| | | | | 7 | 125～150万円未満 |
| | | | | 8 | 150～200万円未満 |
| | | | | 9 | 200～250万円未満 |
| | | | | 10 | 250～300万円未満 |
| | | | | 11 | 300～350万円未満 |
| | | | | 12 | 350～400万円未満 |
| | | | | 13 | 400～450万円未満 |
| | | | | 14 | 500万円位 |
| | | | | 15 | 600万円位 |
| | | | | 16 | 700万円位 |
| | | | | 17 | 800万円位 |
| | | | | 18 | 900万円位 |
| | | | | 19 | 1,000万円位 |
| | | | | 20 | 1,100万円位 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 21 | 1,200万円位 |
| | | | | 22 | 1,300万円位 |
| | | | | 23 | 1,400万円位 |
| | | | | 24 | 1,500万円位 |
| | | | | 25 | 1,600万円位 |
| | | | | 26 | 1,700万円位 |
| | | | | 27 | 1,800万円位 |
| | | | | 28 | 1,900万円位 |
| | | | | 29 | 2,000万円位 |
| | | | | 30 | 2,050～2,500万円未満 |
| | | | | 31 | 2,500～3,000万円未満 |
| | | | | 32 | 3,000～4,000万円未満 |
| | | | | 33 | 4,000～5,000万円未満 |
| | | | | 34 | 5,000～6,000万円未満 |
| | | | | 35 | 6,000～7,000万円未満 |
| | | | | 36 | 7,000～8,000万円未満 |
| | | | | 37 | 8,000～9,000万円未満 |
| | | | | 38 | 9,000～1億円未満 |
| | | | | 39 | 1億円以上 |
| | | | | 40 | 分からない・答えたくない |
| | | | | 99 | 無回答 |
| age | 年齢(2014年12月末時点) | NU | | | 生年より作成 |
| edu3 | 本人学歴3分類 | SA | 3 | 1 | 初等学歴 |
| | | | | 2 | 中等学歴 |
| | | | | 3 | 高等学歴 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| edu3p | 配偶者学歴3分類 | SA | 3 | 1 | 初等学歴 |
| | | | | 2 | 中等学歴 |
| | | | | 3 | 高等学歴 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| edu3f | 父親学歴3分類 | SA | 3 | 1 | 初等学歴 |
| | | | | 2 | 中等学歴 |
| | | | | 3 | 高等学歴 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| edu3m | 母親学歴3分類 | SA | 3 | 1 | 初等学歴 |
| | | | | 2 | 中等学歴 |
| | | | | 3 | 高等学歴 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| eduy | 本人教育年数 | SA | 11 | 9 | 9年 |
| | | | | 12 | 12年 |
| | | | | 13 | 13年 |
| | | | | 14 | 14年 |
| | | | | 15 | 15年 |
| | | | | 16 | 16年 |
| | | | | 17 | 17年 |
| | | | | 18 | 18年 |
| | | | | 19 | 19年 |
| | | | | 21 | 21年 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| eduyp | 配偶者教育年数 | SA | 5 | 9 | 9年 |
| | | | | 12 | 12年 |
| | | | | 14 | 14年 |
| | | | | 16 | 16年 |
| | | | | 18 | 18年 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| eduyf | 父親教育年数 | SA | 8 | 6 | 6年 |
| | | | | 8 | 8年 |
| | | | | 9 | 9年 |
| | | | | 11 | 11年 |
| | | | | 12 | 12年 |
| | | | | 14 | 14年 |
| | | | | 16 | 16年 |
| | | | | 17 | 17年 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| eduyf | 母親教育年数 | SA | 8 | 6 | 6年 |
| | | | | 8 | 8年 |
| | | | | 9 | 9年 |
| | | | | 11 | 11年 |
| | | | | 12 | 12年 |
| | | | | 14 | 14年 |
| | | | | 16 | 16年 |
| | | | | 17 | 17年 |
| | | | | . | システム欠損値 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| SSM | SSM職業小分類 | | | | SSM95（改訂） |
| | | | | 998 | 非該当 |
| | | | | 999 | 無回答 |
| JOB8 | 職業8分類（現職） | SA | 8 | 1 | 専門 |
| | | | | 2 | 管理 |
| | | | | 3 | 事務 |
| | | | | 4 | 販売 |
| | | | | 5 | 熟練 |
| | | | | 6 | 半熟練 |
| | | | | 7 | 非熟練 |
| | | | | 8 | 農業 |
| | | | | 9 | 無職 |
| | | | | 10 | 学生 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| EGP9 | EGP9分類 | SA | 9 | 1 | 上層サービス |
| | | | | 2 | 下層サービス |
| | | | | 3 | 事務販売 |
| | | | | 4 | 自営業主 |
| | | | | 5 | 独立自営 |
| | | | | 7 | 管理的マニュアル |
| | | | | 8 | 熟練マニュアル |
| | | | | 9 | 非熟練・半熟練マニュアル |
| | | | | 11 | 農業経営 |
| | | | | 12 | 無職 |
| | | | | 13 | 学生 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| EGP6 | EGP6分類 | SA | 6 | 1 | 上層ホワイト |
| | | | | 2 | 下層ホワイト |
| | | | | 3 | 自衛 |
| | | | | 4 | 熟練ブルー |
| | | | | 5 | 非熟練ブルー |
| | | | | 6 | 農業 |
| | | | | 7 | 無職 |
| | | | | 8 | 学生 |
| | | | | 99 | 無回答 |
| Q30_1R | 個人年収予想（実数） | SA | 39 | 0 | なし |
| | | | | 25 | 25万円未満 |
| | | | | 38 | 25～50万円未満 |
| | | | | 63 | 50～75万円未満 |
| | | | | 88 | 75～100万円未満 |
| | | | | 113 | 100～125万円未満 |
| | | | | 138 | 125～150万円未満 |
| | | | | 175 | 150～200万円未満 |
| | | | | 225 | 200～250万円未満 |
| | | | | 275 | 250～300万円未満 |
| | | | | 325 | 300～350万円未満 |
| | | | | 375 | 350～400万円未満 |
| | | | | 425 | 400～450万円未満 |
| | | | | 500 | 500万円位 |
| | | | | 600 | 600万円位 |
| | | | | 700 | 700万円位 |
| | | | | 800 | 800万円位 |
| | | | | 900 | 900万円位 |
| | | | | 1000 | 1,000万円位 |
| | | | | 1100 | 1,100万円位 |
| | | | | 1200 | 1,200万円位 |
| | | | | 1300 | 1,300万円位 |
| | | | | 1400 | 1,400万円位 |
| | | | | 1500 | 1,500万円位 |
| | | | | 1600 | 1,600万円位 |
| | | | | 1700 | 1,700万円位 |
| | | | | 1800 | 1,800万円位 |
| | | | | 1900 | 1,900万円位 |
| | | | | 2000 | 2,000万円位 |
| | | | | 2275 | 2,050～2,500万円未満 |
| | | | | 2750 | 2,500～3,000万円未満 |
| | | | | 3500 | 3,000～4,000万円未満 |
| | | | | 4500 | 4,000～5,000万円未満 |
| | | | | 5500 | 5,000～6,000万円未満 |
| | | | | 6500 | 6,000～7,000万円未満 |
| | | | | 7500 | 7,000～8,000万円未満 |
| | | | | 8500 | 8,000～9,000万円未満 |
| | | | | 9500 | 9,000～1億円未満 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 10000 | 1億円以上 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| Q31_1R | 個人年収（実数） | SA | 39 | 0 | なし |
| | | | | 25 | 25万円未満 |
| | | | | 38 | 25～50万円未満 |
| | | | | 63 | 50～75万円未満 |
| | | | | 88 | 75～100万円未満 |
| | | | | 113 | 100～125万円未満 |
| | | | | 138 | 125～150万円未満 |
| | | | | 175 | 150～200万円未満 |
| | | | | 225 | 200～250万円未満 |
| | | | | 275 | 250～300万円未満 |
| | | | | 325 | 300～350万円未満 |
| | | | | 375 | 350～400万円未満 |
| | | | | 425 | 400～450万円未満 |
| | | | | 500 | 500万円位 |
| | | | | 600 | 600万円位 |
| | | | | 700 | 700万円位 |
| | | | | 800 | 800万円位 |
| | | | | 900 | 900万円位 |
| | | | | 1000 | 1,000万円位 |
| | | | | 1100 | 1,100万円位 |
| | | | | 1200 | 1,200万円位 |
| | | | | 1300 | 1,300万円位 |
| | | | | 1400 | 1,400万円位 |
| | | | | 1500 | 1,500万円位 |
| | | | | 1600 | 1,600万円位 |
| | | | | 1700 | 1,700万円位 |
| | | | | 1800 | 1,800万円位 |
| | | | | 1900 | 1,900万円位 |
| | | | | 2000 | 2,000万円位 |
| | | | | 2275 | 2,050～2,500万円未満 |
| | | | | 2750 | 2,500～3,000万円未満 |
| | | | | 3500 | 3,000～4,000万円未満 |
| | | | | 4500 | 4,000～5,000万円未満 |
| | | | | 5500 | 5,000～6,000万円未満 |
| | | | | 6500 | 6,000～7,000万円未満 |
| | | | | 7500 | 7,000～8,000万円未満 |
| | | | | 8500 | 8,000～9,000万円未満 |
| | | | | 9500 | 9,000～1億円未満 |
| | | | | 10000 | 1億円以上 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| Q31_2R | 世帯年収（実数） | SA | 39 | 0 | なし |
| | | | | 25 | 25万円未満 |
| | | | | 38 | 25～50万円未満 |
| | | | | 63 | 50～75万円未満 |
| | | | | 88 | 75～100万円未満 |
| | | | | 113 | 100～125万円未満 |
| | | | | 138 | 125～150万円未満 |
| | | | | 175 | 150～200万円未満 |
| | | | | 225 | 200～250万円未満 |
| | | | | 275 | 250～300万円未満 |
| | | | | 325 | 300～350万円未満 |
| | | | | 375 | 350～400万円未満 |
| | | | | 425 | 400～450万円未満 |
| | | | | 500 | 500万円位 |
| | | | | 600 | 600万円位 |
| | | | | 700 | 700万円位 |
| | | | | 800 | 800万円位 |
| | | | | 900 | 900万円位 |
| | | | | 1000 | 1,000万円位 |
| | | | | 1100 | 1,100万円位 |
| | | | | 1200 | 1,200万円位 |
| | | | | 1300 | 1,300万円位 |
| | | | | 1400 | 1,400万円位 |
| | | | | 1500 | 1,500万円位 |
| | | | | 1600 | 1,600万円位 |
| | | | | 1700 | 1,700万円位 |
| | | | | 1800 | 1,800万円位 |
| | | | | 1900 | 1,900万円位 |
| | | | | 2000 | 2,000万円位 |
| | | | | 2275 | 2,050～2,500万円未満 |
| | | | | 2750 | 2,500～3,000万円未満 |

| 変数名 | | 質問タイプ | カテゴリ数 | カテゴリno | カテゴリ |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 3500 | 3,000～4,000万円未満 |
| | | | | 4500 | 4,000～5,000万円未満 |
| | | | | 5500 | 5,000～6,000万円未満 |
| | | | | 6500 | 6,000～7,000万円未満 |
| | | | | 7500 | 7,000～8,000万円未満 |
| | | | | 8500 | 8,000～9,000万円未満 |
| | | | | 9500 | 9,000～1億円未満 |
| | | | | 10000 | 1億円以上 |
| | | | | . | システム欠損値 |
| AREA | 地方別 | | 9 | 1 | 北海道 |
| | | | | 2 | 東北 |
| | | | | 3 | 関東 |
| | | | | 4 | 中部（東） |
| | | | | 5 | 中部（西） |
| | | | | 6 | 近畿 |
| | | | | 7 | 中国 |
| | | | | 8 | 四国 |
| | | | | 9 | 九州（沖縄含む） |
| SIZE | 市郡別 | | 5 | 1 | 区部（政令指定都市） |
| | | | | 2 | 20万人以上の市部 |
| | | | | 3 | 10万人以上の市部 |
| | | | | 4 | 10万人未満の市部 |
| | | | | 5 | 郡部 |

SA　単項選択
MA　多項選択
FA　自由記述
NU　数値のみの自由記述

# ４　基礎集計表

Q1_1　　問1_1）性別

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 46.0 |
| 1 | 男性 | 1644 | 54.0 |
| 2 | 女性 | 1931 | 100.0 |

Q1_2_1_year　　問1_2_1）生年月__年

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1950 | １９５０年 | 113 | 3.2 |
| 1951 | １９５１年 | 130 | 3.6 |
| 1952 | １９５２年 | 114 | 3.2 |
| 1953 | １９５３年 | 120 | 3.4 |
| 1954 | １９５４年 | 109 | 3.0 |
| 1955 | １９５５年 | 109 | 3.0 |
| 1956 | １９５６年 | 82 | 2.3 |
| 1957 | １９５７年 | 83 | 2.3 |
| 1958 | １９５８年 | 95 | 2.7 |
| 1959 | １９５９年 | 69 | 1.9 |
| 1960 | １９６０年 | 94 | 2.6 |
| 1961 | １９６１年 | 82 | 2.3 |
| 1962 | １９６２年 | 88 | 2.5 |
| 1963 | １９６３年 | 86 | 2.4 |
| 1964 | １９６４年 | 95 | 2.7 |
| 1965 | １９６５年 | 97 | 2.7 |
| 1966 | １９６６年 | 66 | 1.8 |
| 1967 | １９６７年 | 104 | 2.9 |
| 1968 | １９６８年 | 90 | 2.5 |
| 1969 | １９６９年 | 100 | 2.8 |
| 1970 | １９７０年 | 88 | 2.5 |
| 1971 | １９７１年 | 87 | 2.4 |
| 1972 | １９７２年 | 91 | 2.5 |
| 1973 | １９７３年 | 78 | 2.2 |
| 1974 | １９７４年 | 109 | 3.0 |
| 1975 | １９７５年 | 85 | 2.4 |
| 1976 | １９７６年 | 94 | 2.6 |
| 1977 | １９７７年 | 74 | 2.1 |
| 1978 | １９７８年 | 81 | 2.3 |
| 1979 | １９７９年 | 77 | 2.2 |
| 1980 | １９８０年 | 68 | 1.9 |
| 1981 | １９８１年 | 66 | 1.8 |
| 1982 | １９８２年 | 64 | 1.8 |
| 1983 | １９８３年 | 50 | 1.4 |
| 1984 | １９８４年 | 61 | 1.7 |
| 1985 | １９８５年 | 47 | 1.3 |
| 1986 | １９８６年 | 52 | 1.5 |
| 1987 | １９８７年 | 54 | 1.5 |
| 1988 | １９８８年 | 50 | 1.4 |
| 1989 | １９８９年 | 53 | 1.5 |
| 1990 | １９９０年 | 31 | 0.9 |
| 1991 | １９９１年 | 45 | 1.3 |
| 1992 | １９９２年 | 61 | 1.7 |
| 1993 | １９９３年 | 42 | 1.2 |
| 1994 | １９９４年 | 41 | 1.1 |

Q1_2_2_month　問1_2_2）生年月__月

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | １月 | 331 | 9.3 |
| 2 | ２月 | 305 | 8.5 |
| 3 | ３月 | 308 | 8.6 |
| 4 | ４月 | 288 | 8.1 |
| 5 | ５月 | 275 | 7.7 |
| 6 | ６月 | 268 | 7.5 |
| 7 | ７月 | 315 | 8.8 |
| 8 | ８月 | 302 | 8.4 |
| 9 | ９月 | 326 | 9.1 |
| 10 | １０月 | 292 | 8.2 |
| 11 | １１月 | 276 | 7.7 |
| 12 | １２月 | 289 | 8.1 |

Q2_a　問2_a）国政選挙や自治体選挙の際の投票

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いつもしている | 1896 | 53.0 |
| 2 | よくしている | 628 | 17.6 |
| 3 | ときどきしている | 594 | 16.6 |
| 4 | めったにしない | 292 | 8.2 |
| 5 | したことがない | 154 | 4.3 |
| 99 | 無回答 | 11 | 0.3 |

Q2_b　問2_b）国会や地方議会の議員とのつきあい

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いつもしている | 72 | 2.0 |
| 2 | よくしている | 69 | 1.9 |
| 3 | ときどきしている | 333 | 9.3 |
| 4 | めったにしない | 720 | 20.1 |
| 5 | したことがない | 2371 | 66.3 |
| 99 | 無回答 | 10 | 0.3 |

Q2_c　問2_c）市民運動への参加

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いつもしている | 57 | 1.6 |
| 2 | よくしている | 60 | 1.7 |
| 3 | ときどきしている | 339 | 9.5 |
| 4 | めったにしない | 815 | 22.8 |
| 5 | したことがない | 2291 | 64.1 |
| 99 | 無回答 | 13 | 0.4 |

Q2_d　　問2_d）ボランティア・NPO活動

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いつもしている | 94 | 2.6 |
| 2 | よくしている | 108 | 3.0 |
| 3 | ときどきしている | 508 | 14.2 |
| 4 | めったにしない | 935 | 26.2 |
| 5 | したことがない | 1921 | 53.7 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q2_e　　問2_e）募金や寄付

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いつもしている | 192 | 5.4 |
| 2 | よくしている | 297 | 8.3 |
| 3 | ときどきしている | 1804 | 50.5 |
| 4 | めったにしない | 928 | 26.0 |
| 5 | したことがない | 349 | 9.8 |
| 99 | 無回答 | 5 | 0.1 |

Q2_f　　問2_f）サプリメント・健康食品の利用

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いつもしている | 375 | 10.5 |
| 2 | よくしている | 320 | 9.0 |
| 3 | ときどきしている | 903 | 25.3 |
| 4 | めったにしない | 1006 | 28.1 |
| 5 | したことがない | 966 | 27.0 |
| 99 | 無回答 | 5 | 0.1 |

Q2_g　　問2_g）プレミアム（ワンランク上の）商品の購入

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いつもしている | 45 | 1.3 |
| 2 | よくしている | 205 | 5.7 |
| 3 | ときどきしている | 1217 | 34.0 |
| 4 | めったにしない | 1351 | 37.8 |
| 5 | したことがない | 751 | 21.0 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q3_a　　問3_a）クラシック音楽の音楽会・コンサートへ行く

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 月に1回以上 | 37 | 1.0 |
| 2 | 年に1回から数回 | 566 | 15.8 |
| 3 | 数年に1回くらい | 618 | 17.3 |
| 4 | 最近5、6年はしたことはない | 1154 | 32.3 |
| 5 | 今まで1度もしたことがない | 1197 | 33.5 |
| 99 | 無回答 | 3 | 0.1 |

Q3_b　　問3_b）美術展や博物館に行く

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 月に1回以上 | 61 | 1.7 |
| 2 | 年に1回から数回 | 852 | 23.8 |
| 3 | 数年に1回くらい | 991 | 27.7 |
| 4 | 最近5、6年はしたことはない | 1145 | 32.0 |
| 5 | 今まで1度もしたことがない | 524 | 14.7 |
| 99 | 無回答 | 2 | 0.1 |

Q3_c　　問3_c）小説や歴史の本を読む

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 週に1回以上 | 428 | 12.0 |
| 2 | 月に1回くらい | 620 | 17.3 |
| 3 | 年に1回から数回 | 951 | 26.6 |
| 4 | 数年に1回くらい | 598 | 16.7 |
| 5 | 最近5、6年はしたことがない | 973 | 27.2 |
| 99 | 無回答 | 5 | 0.1 |

Q3_d　　問3_d）図書館に行く

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 週に1回以上 | 184 | 5.1 |
| 2 | 月に1回くらい | 521 | 14.6 |
| 3 | 年に1回から数回 | 826 | 23.1 |
| 4 | 数年に1回くらい | 585 | 16.4 |
| 5 | 最近5、6年はしたことがない | 1453 | 40.6 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q3_e　　問3_e）海外旅行に行く

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 月に1回以上 | 3 | 0.1 |
| 2 | 年に1回から数回 | 226 | 6.3 |
| 3 | 数年に1回くらい | 633 | 17.7 |
| 4 | 最近5、6年はしたことはない | 1529 | 42.8 |
| 5 | 今まで1度もしたことがない | 1182 | 33.1 |
| 99 | 無回答 | 2 | 0.1 |

Q4　　問4）最後に行かれた学校

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 中学校 | 139 | 3.9 |
| 2 | 中学校卒業後に専門学校 | 63 | 1.8 |
| 3 | 職業科高校 | 517 | 14.5 |
| 4 | 普通科高校 | 788 | 22.0 |
| 5 | 高校卒業後に専門学校 | 491 | 13.7 |
| 6 | 短期大学・高等専門学校 | 502 | 14.0 |
| 7 | 大学の人文社会系学部（四年制） | 669 | 18.7 |
| 8 | 大学の理工系学部（四年制） | 241 | 6.7 |
| 9 | 大学の六年制学部 | 15 | 0.4 |
| 10 | 大学院修士課程 | 87 | 2.4 |
| 11 | 大学院博士課程 | 22 | 0.6 |
| 12 | その他・どれか判断できない | 0 | 0.0 |
| 13 | その他の高校 | 2 | 0.1 |
| 14 | その他・学部不明の大学 | 7 | 0.2 |
| 99 | 無回答 | 32 | 0.9 |

Q5_1　　問5_1）就職経験の有無

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 仕事に就いたことがある | 3457 | 96.7 |
| 2 | 一度も仕事をしたことはない | 116 | 3.2 |
| 99 | 無回答 | 2 | 0.1 |

Q5_2_1_year　　問5_2_1）最初に就職した年月__年

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3353 | 100.0 |
| 平均値 | | 1988.64 |
| 最小値 | | 1966.00 |
| 最大値 | | 2015.00 |

Q5_2_2_month　　問5_2_2）最初に就職した年月__月

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | １月 | 20 | 0.6 |
| 2 | ２月 | 18 | 0.5 |
| 3 | ３月 | 239 | 6.7 |
| 4 | ４月 | 2806 | 78.5 |
| 5 | ５月 | 60 | 1.7 |
| 6 | ６月 | 41 | 1.1 |
| 7 | ７月 | 39 | 1.1 |
| 8 | ８月 | 24 | 0.7 |
| 9 | ９月 | 31 | 0.9 |
| 10 | １０月 | 30 | 0.8 |
| 11 | １１月 | 16 | 0.4 |
| 12 | １２月 | 15 | 0.4 |
| 88 | 非該当 | 118 | 3.3 |
| 99 | 無回答 | 118 | 3.3 |

Q5_3　　問5_3）転職・退職経験の有無

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 現在まで同じ勤め先で、仕事を続けている | 834 | 23.3 |
| 2 | 一度だけやめた | 1038 | 29.0 |
| 3 | 二度やめた | 629 | 17.6 |
| 4 | 三度以上やめた | 947 | 26.5 |
| 88 | 非該当 | 118 | 3.3 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q5_4a　　問5_4a）学校を出るまでの間の浪人・留年

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 経験したことがある | 444 | 12.4 |
| 2 | 経験したことがない | 3127 | 87.5 |
| 99 | 無回答 | 4 | 0.1 |

Q5_4b　　問5_4b）学校を出た後の３ヶ月以上の失業・職探しの期間

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 経験したことがある | 1024 | 28.6 |
| 2 | 経験したことがない | 2545 | 71.2 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q6_1　　問6_1）働き方

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 経営者、役員 | 159 | 4.4 |
| 2 | 常時雇用されている一般従業者 | 1554 | 43.5 |
| 3 | 臨時雇用・パート・アルバイト | 687 | 19.2 |
| 4 | 派遣社員 | 60 | 1.7 |
| 5 | 契約社員、嘱託 | 161 | 4.5 |
| 6 | 自営業主、自由業者 | 217 | 6.1 |
| 7 | 家族従業者 | 67 | 1.9 |
| 8 | 内職 | 12 | 0.3 |
| 9 | 無職：仕事を探している | 119 | 3.3 |
| 10 | 無職：仕事を探していない | 444 | 12.4 |
| 11 | 学生 | 88 | 2.5 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q6_2　　問6_2)　勤め先の事業内容

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 農業、林業 | 76 | 2.1 |
| 2 | 漁業 | 9 | 0.3 |
| 3 | 鉱業、採石業、砂利採取業 | 4 | 0.1 |
| 4 | 建設業 | 224 | 6.3 |
| 5 | 製造業 | 552 | 15.4 |
| 6 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 49 | 1.4 |
| 7 | 情報通信業 | 115 | 3.2 |
| 8 | 運輸業、郵便業 | 143 | 4.0 |
| 9 | 卸売業 | 122 | 3.4 |
| 10 | 小売業 | 263 | 7.4 |
| 11 | 金融業、保険業 | 101 | 2.8 |
| 12 | 不動産業、物品賃貸業 | 39 | 1.1 |
| 13 | 学術研究、専門・技術サービス業 | 521 | 14.6 |
| 14 | 宿泊業、飲食サービス業 | 172 | 4.8 |
| 15 | 生活関連サービス業 | 477 | 13.3 |
| 16 | その他 | 44 | 1.2 |
| 88 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q6_3　　問6_3）従業先の企業規模

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | １人 | 117 | 3.3 |
| 2 | ２～４人 | 253 | 7.1 |
| 3 | ５～９人 | 232 | 6.5 |
| 4 | １０～２９人 | 414 | 11.6 |
| 5 | ３０～９９人 | 444 | 12.4 |
| 6 | １００～２９９人 | 395 | 11.0 |
| 7 | ３００～４９９人 | 163 | 4.6 |
| 8 | ５００～９９９人 | 188 | 5.3 |
| 9 | １０００人以上 | 531 | 14.9 |
| 10 | 官公庁 | 162 | 4.5 |
| 88 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99 | 無回答 | 18 | 0.5 |

Q6_4　　問6_4）役職

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 役職なし | 2089 | 58.4 |
| 2 | 監督、職長、班長、組長 | 167 | 4.7 |
| 3 | 係長、係長相当職 | 198 | 5.5 |
| 4 | 課長、課長相当職 | 158 | 4.4 |
| 5 | 部長、部長相当職 | 81 | 2.3 |
| 6 | 社長、重役、役員、理事 | 196 | 5.5 |
| 7 | その他 | 22 | 0.6 |
| 88 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q6_5_isco　　問6_5_ISCO）現在のお仕事の内容ISCO

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1000 | | 8 | 0.2 |
| 1111 | | 1 | 0.0 |
| 1112 | | 5 | 0.1 |
| 1114 | | 3 | 0.1 |
| 1120 | | 24 | 0.7 |
| 1200 | | 2 | 0.1 |
| 1211 | | 1 | 0.0 |
| 1212 | | 4 | 0.1 |
| 1213 | | 4 | 0.1 |
| 1219 | | 1 | 0.0 |
| 1220 | | 1 | 0.0 |
| 1221 | | 7 | 0.2 |
| 1222 | | 1 | 0.0 |
| 1223 | | 3 | 0.1 |
| 1320 | | 1 | 0.0 |
| 1321 | | 3 | 0.1 |
| 1323 | | 3 | 0.1 |
| 1330 | | 2 | 0.1 |
| 1340 | | 1 | 0.0 |
| 1341 | | 1 | 0.0 |
| 1345 | | 2 | 0.1 |
| 1346 | | 2 | 0.1 |
| 1349 | | 1 | 0.0 |
| 1412 | | 2 | 0.1 |
| 1420 | | 2 | 0.1 |
| 1431 | | 2 | 0.1 |
| 1439 | | 11 | 0.3 |
| 2000 | | 1 | 0.0 |
| 2112 | | 1 | 0.0 |
| 2113 | | 3 | 0.1 |
| 2131 | | 1 | 0.0 |
| 2132 | | 1 | 0.0 |
| 2141 | | 4 | 0.1 |
| 2142 | | 9 | 0.3 |
| 2144 | | 8 | 0.2 |
| 2145 | | 4 | 0.1 |
| 2149 | | 3 | 0.1 |
| 2151 | | 2 | 0.1 |
| 2152 | | 6 | 0.2 |
| 2153 | | 2 | 0.1 |
| 2161 | | 18 | 0.5 |
| 2162 | | 1 | 0.0 |
| 2163 | | 4 | 0.1 |
| 2164 | | 1 | 0.0 |
| 2165 | | 2 | 0.1 |
| 2166 | | 4 | 0.1 |
| 2211 | | 4 | 0.1 |
| 2212 | | 3 | 0.1 |
| 2221 | | 64 | 1.8 |
| 2222 | | 5 | 0.1 |
| 2230 | | 2 | 0.1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2240 | | 1 | 0.0 |
| 2261 | | 4 | 0.1 |
| 2262 | | 5 | 0.1 |
| 2263 | | 1 | 0.0 |
| 2264 | | 6 | 0.2 |
| 2265 | | 5 | 0.1 |
| 2266 | | 1 | 0.0 |
| 2269 | | 7 | 0.2 |
| 2300 | | 2 | 0.1 |
| 2310 | | 7 | 0.2 |
| 2320 | | 1 | 0.0 |
| 2330 | | 29 | 0.8 |
| 2341 | | 23 | 0.6 |
| 2342 | | 17 | 0.5 |
| 2351 | | 6 | 0.2 |
| 2352 | | 3 | 0.1 |
| 2353 | | 4 | 0.1 |
| 2354 | | 7 | 0.2 |
| 2355 | | 2 | 0.1 |
| 2356 | | 3 | 0.1 |
| 2359 | | 42 | 1.2 |
| 2410 | | 1 | 0.0 |
| 2411 | | 3 | 0.1 |
| 2412 | | 9 | 0.3 |
| 2413 | | 1 | 0.0 |
| 2421 | | 5 | 0.1 |
| 2422 | | 4 | 0.1 |
| 2423 | | 8 | 0.2 |
| 2424 | | 2 | 0.1 |
| 2430 | | 1 | 0.0 |
| 2431 | | 5 | 0.1 |
| 2432 | | 4 | 0.1 |
| 2433 | | 10 | 0.3 |
| 2434 | | 10 | 0.3 |
| 2511 | | 3 | 0.1 |
| 2512 | | 10 | 0.3 |
| 2513 | | 1 | 0.0 |
| 2514 | | 1 | 0.0 |
| 2519 | | 5 | 0.1 |
| 2522 | | 2 | 0.1 |
| 2523 | | 5 | 0.1 |
| 2611 | | 2 | 0.1 |
| 2612 | | 1 | 0.0 |
| 2619 | | 4 | 0.1 |
| 2621 | | 1 | 0.0 |
| 2622 | | 3 | 0.1 |
| 2632 | | 1 | 0.0 |
| 2635 | | 17 | 0.5 |
| 2636 | | 6 | 0.2 |
| 2641 | | 2 | 0.1 |
| 2642 | | 2 | 0.1 |
| 2643 | | 1 | 0.0 |
| 2651 | | 2 | 0.1 |
| 2659 | | 4 | 0.1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3100 | | 1 | 0.0 |
| 3110 | | 1 | 0.0 |
| 3111 | | 1 | 0.0 |
| 3112 | | 11 | 0.3 |
| 3113 | | 5 | 0.1 |
| 3114 | | 2 | 0.1 |
| 3115 | | 7 | 0.2 |
| 3116 | | 1 | 0.0 |
| 3118 | | 1 | 0.0 |
| 3119 | | 10 | 0.3 |
| 3120 | | 7 | 0.2 |
| 3122 | | 17 | 0.5 |
| 3123 | | 28 | 0.8 |
| 3130 | | 1 | 0.0 |
| 3131 | | 1 | 0.0 |
| 3132 | | 1 | 0.0 |
| 3133 | | 3 | 0.1 |
| 3134 | | 1 | 0.0 |
| 3135 | | 7 | 0.2 |
| 3139 | | 9 | 0.3 |
| 3142 | | 1 | 0.0 |
| 3143 | | 3 | 0.1 |
| 3152 | | 1 | 0.0 |
| 3154 | | 1 | 0.0 |
| 3155 | | 1 | 0.0 |
| 3211 | | 2 | 0.1 |
| 3212 | | 5 | 0.1 |
| 3213 | | 1 | 0.0 |
| 3214 | | 5 | 0.1 |
| 3221 | | 13 | 0.4 |
| 3222 | | 1 | 0.0 |
| 3230 | | 1 | 0.0 |
| 3240 | | 1 | 0.0 |
| 3251 | | 5 | 0.1 |
| 3252 | | 19 | 0.5 |
| 3255 | | 1 | 0.0 |
| 3256 | | 3 | 0.1 |
| 3258 | | 2 | 0.1 |
| 3259 | | 7 | 0.2 |
| 3300 | | 4 | 0.1 |
| 3311 | | 4 | 0.1 |
| 3312 | | 5 | 0.1 |
| 3313 | | 11 | 0.3 |
| 3314 | | 2 | 0.1 |
| 3315 | | 2 | 0.1 |
| 3320 | | 2 | 0.1 |
| 3321 | | 10 | 0.3 |
| 3322 | | 51 | 1.4 |
| 3323 | | 3 | 0.1 |
| 3332 | | 1 | 0.0 |
| 3333 | | 10 | 0.3 |
| 3334 | | 10 | 0.3 |
| 3339 | | 7 | 0.2 |
| 3341 | | 7 | 0.2 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3352 | | 1 | 0.0 |
| 3353 | | 1 | 0.0 |
| 3355 | | 2 | 0.1 |
| 3359 | | 3 | 0.1 |
| 3411 | | 1 | 0.0 |
| 3412 | | 5 | 0.1 |
| 3421 | | 1 | 0.0 |
| 3422 | | 6 | 0.2 |
| 3423 | | 1 | 0.0 |
| 3432 | | 1 | 0.0 |
| 3434 | | 24 | 0.7 |
| 3435 | | 2 | 0.1 |
| 3500 | | 1 | 0.0 |
| 3511 | | 4 | 0.1 |
| 3512 | | 4 | 0.1 |
| 3513 | | 5 | 0.1 |
| 3521 | | 1 | 0.0 |
| 3522 | | 2 | 0.1 |
| 4000 | | 14 | 0.4 |
| 4100 | | 7 | 0.2 |
| 4110 | | 245 | 6.9 |
| 4120 | | 2 | 0.1 |
| 4130 | | 1 | 0.0 |
| 4131 | | 2 | 0.1 |
| 4132 | | 26 | 0.7 |
| 4211 | | 25 | 0.7 |
| 4213 | | 1 | 0.0 |
| 4214 | | 1 | 0.0 |
| 4221 | | 5 | 0.1 |
| 4222 | | 10 | 0.3 |
| 4223 | | 4 | 0.1 |
| 4224 | | 1 | 0.0 |
| 4225 | | 2 | 0.1 |
| 4226 | | 11 | 0.3 |
| 4227 | | 1 | 0.0 |
| 4229 | | 2 | 0.1 |
| 4300 | | 1 | 0.0 |
| 4310 | | 1 | 0.0 |
| 4311 | | 47 | 1.3 |
| 4312 | | 7 | 0.2 |
| 4313 | | 6 | 0.2 |
| 4320 | | 1 | 0.0 |
| 4321 | | 8 | 0.2 |
| 4322 | | 12 | 0.3 |
| 4323 | | 4 | 0.1 |
| 4400 | | 1 | 0.0 |
| 4410 | | 1 | 0.0 |
| 4413 | | 1 | 0.0 |
| 4414 | | 3 | 0.1 |
| 4415 | | 4 | 0.1 |
| 4416 | | 6 | 0.2 |
| 4419 | | 4 | 0.1 |
| 5000 | | 8 | 0.2 |
| 5100 | | 19 | 0.5 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5111 | | 3 | 0.1 |
| 5112 | | 2 | 0.1 |
| 5113 | | 2 | 0.1 |
| 5120 | | 43 | 1.2 |
| 5131 | | 20 | 0.6 |
| 5132 | | 1 | 0.0 |
| 5141 | | 9 | 0.3 |
| 5142 | | 21 | 0.6 |
| 5151 | | 9 | 0.3 |
| 5152 | | 2 | 0.1 |
| 5153 | | 13 | 0.4 |
| 5161 | | 3 | 0.1 |
| 5162 | | 14 | 0.4 |
| 5163 | | 1 | 0.0 |
| 5164 | | 3 | 0.1 |
| 5165 | | 1 | 0.0 |
| 5169 | | 16 | 0.4 |
| 5200 | | 11 | 0.3 |
| 5212 | | 1 | 0.0 |
| 5220 | | 1 | 0.0 |
| 5221 | | 39 | 1.1 |
| 5222 | | 18 | 0.5 |
| 5223 | | 110 | 3.1 |
| 5230 | | 7 | 0.2 |
| 5241 | | 1 | 0.0 |
| 5242 | | 11 | 0.3 |
| 5243 | | 2 | 0.1 |
| 5244 | | 1 | 0.0 |
| 5245 | | 3 | 0.1 |
| 5246 | | 19 | 0.5 |
| 5249 | | 12 | 0.3 |
| 5311 | | 13 | 0.4 |
| 5312 | | 4 | 0.1 |
| 5320 | | 112 | 3.1 |
| 5321 | | 8 | 0.2 |
| 5322 | | 4 | 0.1 |
| 5329 | | 6 | 0.2 |
| 5400 | | 1 | 0.0 |
| 5411 | | 7 | 0.2 |
| 5412 | | 5 | 0.1 |
| 5414 | | 6 | 0.2 |
| 5415 | | 3 | 0.1 |
| 5419 | | 8 | 0.2 |
| 6000 | | 1 | 0.0 |
| 6100 | | 4 | 0.1 |
| 6111 | | 34 | 1.0 |
| 6112 | | 5 | 0.1 |
| 6113 | | 6 | 0.2 |
| 6121 | | 4 | 0.1 |
| 6122 | | 1 | 0.0 |
| 6129 | | 1 | 0.0 |
| 6130 | | 5 | 0.1 |
| 6220 | | 2 | 0.1 |
| 6221 | | 2 | 0.1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6222 | | 1 | 0.0 |
| 6310 | | 3 | 0.1 |
| 6330 | | 1 | 0.0 |
| 6340 | | 1 | 0.0 |
| 7000 | | 9 | 0.3 |
| 7100 | | 5 | 0.1 |
| 7111 | | 11 | 0.3 |
| 7113 | | 4 | 0.1 |
| 7114 | | 1 | 0.0 |
| 7115 | | 10 | 0.3 |
| 7119 | | 2 | 0.1 |
| 7121 | | 1 | 0.0 |
| 7122 | | 3 | 0.1 |
| 7123 | | 3 | 0.1 |
| 7125 | | 1 | 0.0 |
| 7126 | | 8 | 0.2 |
| 7127 | | 3 | 0.1 |
| 7131 | | 5 | 0.1 |
| 7132 | | 4 | 0.1 |
| 7200 | | 1 | 0.0 |
| 7210 | | 1 | 0.0 |
| 7211 | | 4 | 0.1 |
| 7212 | | 1 | 0.0 |
| 7213 | | 3 | 0.1 |
| 7214 | | 6 | 0.2 |
| 7221 | | 3 | 0.1 |
| 7222 | | 6 | 0.2 |
| 7223 | | 14 | 0.4 |
| 7224 | | 6 | 0.2 |
| 7231 | | 18 | 0.5 |
| 7232 | | 2 | 0.1 |
| 7233 | | 9 | 0.3 |
| 7234 | | 2 | 0.1 |
| 7310 | | 1 | 0.0 |
| 7311 | | 15 | 0.4 |
| 7312 | | 1 | 0.0 |
| 7314 | | 1 | 0.0 |
| 7315 | | 2 | 0.1 |
| 7317 | | 2 | 0.1 |
| 7318 | | 4 | 0.1 |
| 7319 | | 44 | 1.2 |
| 7321 | | 4 | 0.1 |
| 7322 | | 1 | 0.0 |
| 7323 | | 3 | 0.1 |
| 7400 | | 2 | 0.1 |
| 7411 | | 11 | 0.3 |
| 7412 | | 5 | 0.1 |
| 7413 | | 1 | 0.0 |
| 7421 | | 3 | 0.1 |
| 7422 | | 8 | 0.2 |
| 7511 | | 18 | 0.5 |
| 7512 | | 13 | 0.4 |
| 7513 | | 1 | 0.0 |
| 7514 | | 5 | 0.1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7515 | | 3 | 0.1 |
| 7516 | | 1 | 0.0 |
| 7521 | | 2 | 0.1 |
| 7522 | | 1 | 0.0 |
| 7523 | | 2 | 0.1 |
| 7530 | | 1 | 0.0 |
| 7531 | | 6 | 0.2 |
| 7532 | | 4 | 0.1 |
| 7533 | | 1 | 0.0 |
| 7534 | | 1 | 0.0 |
| 7536 | | 2 | 0.1 |
| 7542 | | 1 | 0.0 |
| 7543 | | 8 | 0.2 |
| 7549 | | 25 | 0.7 |
| 8000 | | 1 | 0.0 |
| 8121 | | 6 | 0.2 |
| 8141 | | 1 | 0.0 |
| 8142 | | 1 | 0.0 |
| 8143 | | 3 | 0.1 |
| 8160 | | 1 | 0.0 |
| 8171 | | 1 | 0.0 |
| 8172 | | 1 | 0.0 |
| 8181 | | 1 | 0.0 |
| 8211 | | 7 | 0.2 |
| 8212 | | 14 | 0.4 |
| 8219 | | 14 | 0.4 |
| 8300 | | 2 | 0.1 |
| 8311 | | 2 | 0.1 |
| 8312 | | 2 | 0.1 |
| 8320 | | 1 | 0.0 |
| 8322 | | 16 | 0.4 |
| 8331 | | 8 | 0.2 |
| 8332 | | 22 | 0.6 |
| 8340 | | 1 | 0.0 |
| 8341 | | 1 | 0.0 |
| 8342 | | 7 | 0.2 |
| 8343 | | 1 | 0.0 |
| 8344 | | 4 | 0.1 |
| 8350 | | 3 | 0.1 |
| 9000 | | 1 | 0.0 |
| 9100 | | 2 | 0.1 |
| 9111 | | 1 | 0.0 |
| 9112 | | 13 | 0.4 |
| 9121 | | 6 | 0.2 |
| 9129 | | 6 | 0.2 |
| 9211 | | 5 | 0.1 |
| 9214 | | 1 | 0.0 |
| 9216 | | 1 | 0.0 |
| 9310 | | 1 | 0.0 |
| 9311 | | 1 | 0.0 |
| 9312 | | 8 | 0.2 |
| 9313 | | 6 | 0.2 |
| 9321 | | 8 | 0.2 |
| 9329 | | 64 | 1.8 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9330 | | 3 | 0.1 |
| 9332 | | 1 | 0.0 |
| 9333 | | 5 | 0.1 |
| 9334 | | 15 | 0.4 |
| 9411 | | 2 | 0.1 |
| 9412 | | 13 | 0.4 |
| 9510 | | 4 | 0.1 |
| 9611 | | 5 | 0.1 |
| 9613 | | 4 | 0.1 |
| 9620 | | 1 | 0.0 |
| 9621 | | 28 | 0.8 |
| 9622 | | 4 | 0.1 |
| 9623 | | 4 | 0.1 |
| 9629 | | 48 | 1.3 |
| 88888 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99999 | 無回答・不明 | 100 | 2.8 |

Q6_6_1_year　問6_6_1）今の仕事に就いた時期__年

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 2010 | 100.0 |
| 平均値 | | 2004.26 |
| 最小値 | | 1969.00 |
| 最大値 | | 2015.00 |

Q6_6_2_month　問6_6_2）今の仕事に就いた時期__月

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | １月 | 140 | 3.9 |
| 2 | ２月 | 103 | 2.9 |
| 3 | ３月 | 136 | 3.8 |
| 4 | ４月 | 507 | 14.2 |
| 5 | ５月 | 159 | 4.4 |
| 6 | ６月 | 127 | 3.6 |
| 7 | ７月 | 138 | 3.9 |
| 8 | ８月 | 108 | 3.0 |
| 9 | ９月 | 153 | 4.3 |
| 10 | １０月 | 213 | 6.0 |
| 11 | １１月 | 111 | 3.1 |
| 12 | １２月 | 100 | 2.8 |
| 88 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99 | 無回答 | 922 | 25.8 |

Q6_7_1_week　問6_7_1）仕事時間（週）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 2899 | 100.0 |
| 平均値 | | 41.03 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 168.00 |

Q6_7_2_month　問6_7_2）仕事時間（月）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 2899 | 100.0 |
| 平均値 | | 164.13 |
| 最小値 | | 4.00 |
| 最大値 | | 672.00 |

Q6_8　問6_8）仕事の中身

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 主にモノを作ったり扱っている | 477 | 13.3 |
| 2 | どちらかといえばモノを扱う事が多い | 302 | 8.4 |
| 3 | モノと人が半々くらい | 618 | 17.3 |
| 4 | どちらかといえば人と接する事が多い | 683 | 19.1 |
| 5 | 主に人と接することが多い | 823 | 23.0 |
| 8 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 9 | 無回答 | 14 | 0.4 |

Q6_9a　問6_9a）職場では自分の働きぶりが認められている

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 1085 | 30.3 |
| 2 | ややそう思う | 1499 | 41.9 |
| 3 | あまりそう思わない | 278 | 7.8 |
| 4 | そう思わない | 47 | 1.3 |
| 88 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99 | 無回答 | 8 | 0.2 |

Q6_9b　問6_9b）自分の仕事の内容やペースを自分で決めることができる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 881 | 24.6 |
| 2 | ややそう思う | 1370 | 38.3 |
| 3 | あまりそう思わない | 497 | 13.9 |
| 4 | そう思わない | 163 | 4.6 |
| 88 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q6_9c　問6_9c）職場全体の仕事のやり方に自分の意見を反映させることができる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 625 | 17.5 |
| 2 | ややそう思う | 1499 | 41.9 |
| 3 | あまりそう思わない | 635 | 17.8 |
| 4 | そう思わない | 152 | 4.3 |
| 88 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q7_1　　問7_1）結婚

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 結婚している（事実婚を含む） | 2481 | 69.4 |
| 2 | 未婚（結婚したことがない） | 805 | 22.5 |
| 3 | 離別 | 213 | 6.0 |
| 4 | 死別 | 60 | 1.7 |
| 99 | 無回答 | 16 | 0.4 |

Q7_2　　問7_2）結婚された年齢

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 2467 | 100.0 |
| 平均値 | | 27.31 |
| 最小値 | | 16.00 |
| 最大値 | | 63.00 |

Q7_3_1_year　　問7_3_1）配偶者の生年月_年

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 2444 | 100.0 |
| 平均値 | | 1965.27 |
| 最小値 | | 1933.00 |
| 最大値 | | 1994.00 |

Q7_3_2_month　　問7_3_2）配偶者の生年月_月

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | １月 | 222 | 6.2 |
| 2 | ２月 | 208 | 5.8 |
| 3 | ３月 | 204 | 5.7 |
| 4 | ４月 | 201 | 5.6 |
| 5 | ５月 | 178 | 5.0 |
| 6 | ６月 | 185 | 5.2 |
| 7 | ７月 | 202 | 5.7 |
| 8 | ８月 | 230 | 6.4 |
| 9 | ９月 | 216 | 6.0 |
| 10 | １０月 | 207 | 5.8 |
| 11 | １１月 | 188 | 5.3 |
| 12 | １２月 | 200 | 5.6 |
| 88 | 非該当 | 1094 | 30.6 |
| 99 | 無回答 | 40 | 1.1 |

Q8　　問8）配偶者が行かれた学校

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 中学校 | 114 | 3.2 |
| 2 | 中学校卒業後に専門学校 | 43 | 1.2 |
| 3 | 高校 | 909 | 25.4 |
| 4 | 高校卒業後に専門学校 | 319 | 8.9 |
| 5 | 短期大学・高等専門学校 | 343 | 9.6 |
| 6 | 大学（四年制） | 651 | 18.2 |
| 7 | 大学（六年制） | 17 | 0.5 |
| 8 | 大学院 | 66 | 1.8 |
| 9 | その他 | 1 | 0.0 |
| 88 | 非該当 | 1094 | 30.6 |
| 99 | 無回答 | 18 | 0.5 |

Q9　　問9）配偶者の働き方

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 経営者・役員・大企業の課長以上 | 176 | 4.9 |
| 2 | 常時雇用されている一般従業者 | 1002 | 28.0 |
| 3 | 臨時雇用・パート・アルバイト | 432 | 12.1 |
| 4 | 派遣社員 | 25 | 0.7 |
| 5 | 契約社員、嘱託 | 82 | 2.3 |
| 6 | 自営、自由業者（従業員4人以下） | 169 | 4.7 |
| 7 | 自営、自由業者（従業員5人以上） | 27 | 0.8 |
| 8 | 家族従業者 | 55 | 1.5 |
| 9 | 内職 | 14 | 0.4 |
| 10 | 無職：仕事を探している | 75 | 2.1 |
| 11 | 無職：仕事を探していない | 394 | 11.0 |
| 12 | 学生 | 5 | 0.1 |
| 13 | その他 | 5 | 0.1 |
| 88 | 非該当 | 1094 | 30.6 |
| 99 | 無回答 | 20 | 0.6 |

Q10_1　　問10_1）同居家族の人数

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3502 | 100.0 |
| 平均値 | | 3.40 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 10.00 |

Q10_2a　　問10_2a）同居家族のうちわけ：あなたご自身

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 0 | 0.0 |
| 1 | いる | 3575 | 100.0 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2b　　問10_2b）同居家族のうちわけ：配偶者

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 1119 | 31.3 |
| 1 | いる | 2456 | 68.7 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2c　問10_2c）同居家族のうちわけ：子ども

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 1595 | 44.6 |
| 1 | いる | 1980 | 55.4 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2d　問10_2d）同居家族のうちわけ：子どもの配偶者

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3491 | 97.7 |
| 1 | いる | 84 | 2.3 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2e　問10_2e）同居家族のうちわけ：あなたの兄弟姉妹

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3152 | 88.2 |
| 1 | いる | 423 | 11.8 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2f　問10_2f）同居家族のうちわけ：あなたの父親

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 2967 | 83.0 |
| 1 | いる | 608 | 17.0 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2g　問10_2g）同居家族のうちわけ：あなたの母親

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 2702 | 75.6 |
| 1 | いる | 873 | 24.4 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2h　問10_2h）同居家族のうちわけ：配偶者の父親

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3445 | 96.4 |
| 1 | いる | 130 | 3.6 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2i　問10_2i）同居家族のうちわけ：配偶者の母親

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3331 | 93.2 |
| 1 | いる | 244 | 6.8 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2j　　問10_2j）同居家族のうちわけ：祖父母

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3416 | 95.6 |
| 1 | いる | 159 | 4.4 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2k　　問10_2k）同居家族のうちわけ：あなたの孫

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3484 | 97.5 |
| 1 | いる | 91 | 2.5 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2l　　問10_2l）同居家族のうちわけ：その他

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3542 | 99.1 |
| 1 | いる | 33 | 0.9 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2m　　問10_2m）同居家族のうちわけ：その他の親族

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3556 | 99.5 |
| 1 | いる | 19 | 0.5 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q10_2n　　問10_2n）同居家族のうちわけ：親族以外

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | いない | 3570 | 99.9 |
| 1 | いる | 5 | 0.1 |
| 99 | 無回答 | 0 | 0.0 |

Q11_1　　問11_1）子どもの有無

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | いる | 2429 | 67.9 |
| 2 | いない | 1104 | 30.9 |
| 99 | 無回答 | 42 | 1.2 |

Q11_2_1a　　問11_2_1a）新生児～未就学児童（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 327 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.13 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 3.00 |

Q11_2_1b　　問11_2_1b）新生児～未就学児童（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 341 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.23 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 4.00 |

Q11_2_2a　　問11_2_2a）小学生（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 331 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.11 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 3.00 |

Q11_2_2b　　問11_2_2b）小学生（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 303 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.16 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 5.00 |

Q11_2_3a　　問11_2_3a）中学生（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 182 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.04 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_3b　　問11_2_3b）中学生（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 182 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.05 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_4a　　問11_2_4a）高校生（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 188 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.05 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 3.00 |

Q11_2_4b　　問11_2_4b）高校生（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 166 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.02 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_5a　問11_2_5a）専門学校（高卒後に進学したもの）の学生（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 18 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.06 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_5b　問11_2_5b）専門学校（高卒後に進学したもの）の学生（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 33 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.03 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_6a　問11_2_6a）短大・高専の学生（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.00 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 1.00 |

Q11_2_6b　問11_2_6b）短大・高専の学生（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 15 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.07 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_7a　問11_2_7a）大学生（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 175 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.12 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 4.00 |

Q11_2_7b　問11_2_7b）大学生（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 119 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.13 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_8a　問11_2_8a）その他の生徒・学生（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 15 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.07 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_8b　　問11_2_8b）その他の生徒・学生（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 13 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.08 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 2.00 |

Q11_2_9a　　問11_2_9a）学校は卒業（中退）した人（男性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 736 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.38 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 4.00 |

Q11_2_9b　　問11_2_9b）学校は卒業（中退）した人（女性）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 727 | 100.0 |
| 平均値 | | 1.41 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 4.00 |

Q12_a　　問12_a）生活全般

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 満足している | 915 | 25.6 |
| 2 | どちらかといえば満足している | 1640 | 45.9 |
| 3 | どちらともいえない | 711 | 19.9 |
| 4 | どちらかといえば不満である | 227 | 6.3 |
| 5 | 不満である | 75 | 2.1 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q12_b　　問12_b）自分の学歴

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 満足している | 951 | 26.6 |
| 2 | どちらかといえば満足している | 1095 | 30.6 |
| 3 | どちらともいえない | 1005 | 28.1 |
| 4 | どちらかといえば不満である | 412 | 11.5 |
| 5 | 不満である | 106 | 3.0 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q13_1　　問13_1）5段階階層帰属意識

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 上 | 48 | 1.3 |
| 2 | 中の上 | 1037 | 29.0 |
| 3 | 中の下 | 1698 | 47.5 |
| 4 | 下の上 | 605 | 16.9 |
| 5 | 下の下 | 172 | 4.8 |
| 99 | 無回答 | 15 | 0.4 |

Q13_2a　　問13_2a）上の層％

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3510 | 100.0 |
| 平均値 | | 18.06 |
| 最小値 | | 0.00 |
| 最大値 | | 100.00 |

Q13_2b　　問13_2b）下の層％

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3509 | 100.0 |
| 平均値 | | 32.71 |
| 最小値 | | 0.00 |
| 最大値 | | 99.90 |

Q13_3　　問13_3）10段階階層帰属意識

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 1（上） | 14 | 0.4 |
| 2 | 2 | 20 | 0.6 |
| 3 | 3 | 163 | 4.6 |
| 4 | 4 | 510 | 14.3 |
| 5 | 5 | 915 | 25.6 |
| 6 | 6 | 816 | 22.8 |
| 7 | 7 | 638 | 17.8 |
| 8 | 8 | 322 | 9.0 |
| 9 | 9 | 115 | 3.2 |
| 10 | 10（下） | 45 | 1.3 |
| 99 | 無回答 | 17 | 0.5 |

Q14_a　　問14_a）領域別階層帰属意識：収入

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 1（上） | 7 | 0.2 |
| 2 | 2 | 9 | 0.3 |
| 3 | 3 | 118 | 3.3 |
| 4 | 4 | 340 | 9.5 |
| 5 | 5 | 745 | 20.8 |
| 6 | 6 | 573 | 16.0 |
| 7 | 7 | 712 | 19.9 |
| 8 | 8 | 533 | 14.9 |
| 9 | 9 | 256 | 7.2 |
| 10 | 10（下） | 242 | 6.8 |
| 99 | 無回答 | 40 | 1.1 |

Q14_b　　問14_b）領域別階層帰属意識：学歴

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 1（上） | 29 | 0.8 |
| 2 | 2 | 67 | 1.9 |
| 3 | 3 | 187 | 5.2 |
| 4 | 4 | 354 | 9.9 |
| 5 | 5 | 962 | 26.9 |
| 6 | 6 | 631 | 17.7 |
| 7 | 7 | 631 | 17.7 |
| 8 | 8 | 449 | 12.6 |
| 9 | 9 | 160 | 4.5 |
| 10 | 10（下） | 82 | 2.3 |
| 99 | 無回答 | 23 | 0.6 |

Q14_c　　問14_c）領域別階層帰属意識：何かあった時に頼れる資産や財産

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 1（上） | 18 | 0.5 |
| 2 | 2 | 33 | 0.9 |
| 3 | 3 | 156 | 4.4 |
| 4 | 4 | 317 | 8.9 |
| 5 | 5 | 746 | 20.9 |
| 6 | 6 | 417 | 11.7 |
| 7 | 7 | 558 | 15.6 |
| 8 | 8 | 647 | 18.1 |
| 9 | 9 | 335 | 9.4 |
| 10 | 10（下） | 322 | 9.0 |
| 99 | 無回答 | 26 | 0.7 |

Q15_1　　問15_1）あなたはどの程度幸せですか

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | 0（とても不幸） | 12 | 0.3 |
| 1 | 1 | 13 | 0.4 |
| 2 | 2 | 44 | 1.2 |
| 3 | 3 | 131 | 3.7 |
| 4 | 4 | 146 | 4.1 |
| 5 | 5 | 696 | 19.5 |
| 6 | 6 | 424 | 11.9 |
| 7 | 7 | 654 | 18.3 |
| 8 | 8 | 830 | 23.2 |
| 9 | 9 | 303 | 8.5 |
| 10 | 10（とても幸せ） | 313 | 8.8 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q15_2　　問15_2）健康状態

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | よい | 975 | 27.3 |
| 2 | まあよい | 1073 | 30.0 |
| 3 | ふつう | 1110 | 31.0 |
| 4 | あまりよくない | 380 | 10.6 |
| 5 | わるい | 35 | 1.0 |
| 99 | 無回答 | 2 | 0.1 |

Q16　　問16）頼りにしている親しい人

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3553 | 100.0 |
| 平均値 | | 5.06 |
| 最小値 | | 0.00 |
| 最大値 | | 99.90 |

Q17_a　　問17_a）困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | とてもそう思う | 354 | 9.9 |
| 2 | そう思う | 1539 | 43.0 |
| 3 | どちらともいえない | 1111 | 31.1 |
| 4 | そう思わない | 420 | 11.7 |
| 5 | 全くそう思わない | 147 | 4.1 |
| 99 | 無回答 | 4 | 0.1 |

Q17_b　　問17_b）近所の人たちは強いきずなで結ばれている

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | とてもそう思う | 157 | 4.4 |
| 2 | そう思う | 838 | 23.4 |
| 3 | どちらともいえない | 1485 | 41.5 |
| 4 | そう思わない | 828 | 23.2 |
| 5 | 全くそう思わない | 260 | 7.3 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q18_a　　問18_a）働くことは、社会に対する義務である

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 1406 | 39.3 |
| 2 | ややそう思う | 1176 | 32.9 |
| 3 | どちらともいえない | 677 | 18.9 |
| 4 | あまりそう思わない | 237 | 6.6 |
| 5 | そう思わない | 74 | 2.1 |
| 99 | 無回答 | 5 | 0.1 |

Q18_b　　問18_b）「宗教的な心」というものは大切だと思う

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 348 | 9.7 |
| 2 | ややそう思う | 691 | 19.3 |
| 3 | どちらともいえない | 1414 | 39.6 |
| 4 | あまりそう思わない | 740 | 20.7 |
| 5 | そう思わない | 372 | 10.4 |
| 99 | 無回答 | 10 | 0.3 |

Q18_c　　問18_c）チャンスが平等にあたえられるなら、競争で貧富の差がついてもしかたがない

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 626 | 17.5 |
| 2 | ややそう思う | 1253 | 35.0 |
| 3 | どちらともいえない | 1093 | 30.6 |
| 4 | あまりそう思わない | 433 | 12.1 |
| 5 | そう思わない | 162 | 4.5 |
| 99 | 無回答 | 8 | 0.2 |

Q18_d　　問18_d）競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことの方が大切だ

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 486 | 13.6 |
| 2 | ややそう思う | 916 | 25.6 |
| 3 | どちらともいえない | 1470 | 41.1 |
| 4 | あまりそう思わない | 549 | 15.4 |
| 5 | そう思わない | 142 | 4.0 |
| 99 | 無回答 | 12 | 0.3 |

Q18_e　　問18_e）今後、日本で格差が広がってもかまわない

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 55 | 1.5 |
| 2 | ややそう思う | 204 | 5.7 |
| 3 | どちらともいえない | 816 | 22.8 |
| 4 | あまりそう思わない | 1513 | 42.3 |
| 5 | そう思わない | 978 | 27.4 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q18_f　　問18_f）今の日本では資産の格差が大きすぎる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 854 | 23.9 |
| 2 | ややそう思う | 1382 | 38.7 |
| 3 | どちらともいえない | 903 | 25.3 |
| 4 | あまりそう思わない | 373 | 10.4 |
| 5 | そう思わない | 53 | 1.5 |
| 99 | 無回答 | 10 | 0.3 |

Q18_g　　問18_g）大きな資産を持てるようになるかどうかは、本人の努力次第だ

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 571 | 16.0 |
| 2 | ややそう思う | 1260 | 35.2 |
| 3 | どちらともいえない | 1044 | 29.2 |
| 4 | あまりそう思わない | 503 | 14.1 |
| 5 | そう思わない | 188 | 5.3 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q18_h　　問18_h）本人の社会的地位は、家庭の豊かさや親の社会的地位で決まっている

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 222 | 6.2 |
| 2 | ややそう思う | 1402 | 39.2 |
| 3 | どちらともいえない | 1071 | 30.0 |
| 4 | あまりそう思わない | 621 | 17.4 |
| 5 | そう思わない | 250 | 7.0 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q19_a　　19_a）自分の仕事のために、家庭や私生活を犠牲にしていることが多い

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | よくあてはまる | 250 | 7.0 |
| 2 | ややあてはまる | 1069 | 29.9 |
| 3 | どちらともいえない | 645 | 18.0 |
| 4 | あまりあてはまらない | 989 | 27.7 |
| 5 | まったくあてはまらない | 224 | 6.3 |
| 88 | 仕事をしていない（非該当） | 388 | 10.9 |
| 99 | 無回答 | 10 | 0.3 |

Q19_b　　問19_b）将来のために節約・努力するよりも、今の人生を楽しむようにしている

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | よくあてはまる | 247 | 6.9 |
| 2 | ややあてはまる | 1051 | 29.4 |
| 3 | どちらともいえない | 1137 | 31.8 |
| 4 | あまりあてはまらない | 1020 | 28.5 |
| 5 | まったくあてはまらない | 114 | 3.2 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q19_c　　問19_c）まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | よくあてはまる | 126 | 3.5 |
| 2 | ややあてはまる | 576 | 16.1 |
| 3 | どちらともいえない | 732 | 20.5 |
| 4 | あまりあてはまらない | 1467 | 41.0 |
| 5 | まったくあてはまらない | 665 | 18.6 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q19_d　　問19_d）うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | よくあてはまる | 81 | 2.3 |
| 2 | ややあてはまる | 486 | 13.6 |
| 3 | どちらともいえない | 733 | 20.5 |
| 4 | あまりあてはまらない | 1510 | 42.2 |
| 5 | まったくあてはまらない | 755 | 21.1 |
| 99 | 無回答 | 10 | 0.3 |

Q19_e　　問19_e）もっと多くを手にするよりも、これまでに獲得したものを維持することの方が重要だと思う

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | よくあてはまる | 338 | 9.5 |
| 2 | ややあてはまる | 1206 | 33.7 |
| 3 | どちらともいえない | 1298 | 36.3 |
| 4 | あまりあてはまらない | 612 | 17.1 |
| 5 | まったくあてはまらない | 112 | 3.1 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q19_f　　問19_f）私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | よくあてはまる | 653 | 18.3 |
| 2 | ややあてはまる | 1510 | 42.2 |
| 3 | どちらともいえない | 894 | 25.0 |
| 4 | あまりあてはまらない | 457 | 12.8 |
| 5 | まったくあてはまらない | 54 | 1.5 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q20_a　　問20_a）社会的評価の高い職業につくこと

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 重要である | 213 | 6.0 |
| 2 | やや重要である | 1195 | 33.4 |
| 3 | あまり重要ではない | 1776 | 49.7 |
| 4 | 重要ではない | 379 | 10.6 |
| 99 | 無回答 | 12 | 0.3 |

Q20_b　　問20_b）高い収入を得ること

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 重要である | 474 | 13.3 |
| 2 | やや重要である | 1988 | 55.6 |
| 3 | あまり重要ではない | 986 | 27.6 |
| 4 | 重要ではない | 120 | 3.4 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q20_c　　問20_c）家族との時間を大切にすること

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 重要である | 2105 | 58.9 |
| 2 | やや重要である | 1319 | 36.9 |
| 3 | あまり重要ではない | 124 | 3.5 |
| 4 | 重要ではない | 19 | 0.5 |
| 99 | 無回答 | 8 | 0.2 |

Q21_a　　問21_a）子どもには、大学以上の教育を受けさせるのがよい

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 1027 | 28.7 |
| 2 | ややそう思う | 1228 | 34.3 |
| 3 | あまりそう思わない | 1101 | 30.8 |
| 4 | そう思わない | 200 | 5.6 |
| 99 | 無回答 | 19 | 0.5 |

Q21_b　　問21_b）子どもには、家庭教師をつけたり、塾に通わせた方がよい

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 373 | 10.4 |
| 2 | ややそう思う | 1267 | 35.4 |
| 3 | あまりそう思わない | 1509 | 42.2 |
| 4 | そう思わない | 402 | 11.2 |
| 99 | 無回答 | 24 | 0.7 |

Q21_c　　問21_c）子どもには、海外留学をさせたほうがよい

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 458 | 12.8 |
| 2 | ややそう思う | 1204 | 33.7 |
| 3 | あまりそう思わない | 1409 | 39.4 |
| 4 | そう思わない | 481 | 13.5 |
| 99 | 無回答 | 23 | 0.6 |

Q22_a　　問22_a）男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 118 | 3.3 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 692 | 19.4 |
| 3 | どちらかといえばそう思わない | 1379 | 38.6 |
| 4 | そう思わない | 1371 | 38.3 |
| 99 | 無回答 | 15 | 0.4 |

Q22_b　　問22_b）夫が家事や育児をするのはあたりまえのことだ

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 557 | 15.6 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 1588 | 44.4 |
| 3 | どちらかといえばそう思わない | 1123 | 31.4 |
| 4 | そう思わない | 293 | 8.2 |
| 99 | 無回答 | 14 | 0.4 |

Q23_a　　問23_a）政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 388 | 10.9 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 965 | 27.0 |
| 3 | どちらともいえない | 1055 | 29.5 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 736 | 20.6 |
| 5 | そう思わない | 425 | 11.9 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q23_b　　問23_b）政治のことはやりたい人にまかせておけばよい

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 265 | 7.4 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 567 | 15.9 |
| 3 | どちらともいえない | 1121 | 31.4 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 938 | 26.2 |
| 5 | そう思わない | 677 | 18.9 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q23_c　　問23_c）これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 390 | 10.9 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 794 | 22.2 |
| 3 | どちらともいえない | 1827 | 51.1 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 391 | 10.9 |
| 5 | そう思わない | 163 | 4.6 |
| 99 | 無回答 | 10 | 0.3 |

Q23_d　　問23_d）今の日本にはリーダーシップを持った政治家が必要だ

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 1559 | 43.6 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 1259 | 35.2 |
| 3 | どちらともいえない | 568 | 15.9 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 93 | 2.6 |
| 5 | そう思わない | 87 | 2.4 |
| 99 | 無回答 | 9 | 0.3 |

Q23_e　　問23_e）国民の意見や希望は、国の政治にはほとんど反映されていない

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 959 | 26.8 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 1381 | 38.6 |
| 3 | どちらともいえない | 920 | 25.7 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 248 | 6.9 |
| 5 | そう思わない | 63 | 1.8 |
| 99 | 無回答 | 4 | 0.1 |

Q23_f　　問23_f）権威のある人々にはつねに敬意を払わなければならない

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 118 | 3.3 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 607 | 17.0 |
| 3 | どちらともいえない | 1334 | 37.3 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 829 | 23.2 |
| 5 | そう思わない | 681 | 19.0 |
| 99 | 無回答 | 6 | 0.2 |

Q23_g　　問23_g）以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 78 | 2.2 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 276 | 7.7 |
| 3 | どちらともいえない | 1491 | 41.7 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 958 | 26.8 |
| 5 | そう思わない | 757 | 21.2 |
| 99 | 無回答 | 15 | 0.4 |

Q23_h　　問23_h）伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 114 | 3.2 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 318 | 8.9 |
| 3 | どちらともいえない | 1629 | 45.6 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 835 | 23.4 |
| 5 | そう思わない | 669 | 18.7 |
| 99 | 無回答 | 10 | 0.3 |

Q23_i　　問23_i）　この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | そう思う | 138 | 3.9 |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 684 | 19.1 |
| 3 | どちらともいえない | 1475 | 41.3 |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 726 | 20.3 |
| 5 | そう思わない | 545 | 15.2 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q24　　問24）あなたの支持政党（2014年12月の衆議院選挙の時点）

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 自民党 | 1274 | 35.6 |
| 2 | 民主党 | 321 | 9.0 |
| 3 | 公明党 | 192 | 5.4 |
| 4 | 維新の党 | 191 | 5.3 |
| 5 | 次世代の党 | 14 | 0.4 |
| 6 | 共産党 | 135 | 3.8 |
| 7 | 生活の党 | 13 | 0.4 |
| 8 | 社民党 | 27 | 0.8 |
| 9 | その他 | 1 | 0.0 |
| 10 | 支持政党なし | 1365 | 38.2 |
| 11 | 新党日本 | 1 | 0.0 |
| 12 | 幸福実現党 | 2 | 0.1 |
| 99 | 無回答 | 39 | 1.1 |

Q25_1　　問25_1）お父さんが行かれた学校

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 新制中学校 | 520 | 14.5 |
| 2 | 新制高校 | 977 | 27.3 |
| 3 | 新制短大・高専 | 59 | 1.7 |
| 4 | 新制大学 | 507 | 14.2 |
| 5 | 旧制尋常小学校 | 389 | 10.9 |
| 6 | 旧制高等小学校 | 185 | 5.2 |
| 7 | 旧制中学校・実業学校・師範学校 | 348 | 9.7 |
| 8 | 旧制高校・旧制専門学校 | 197 | 5.5 |
| 9 | 旧制大学（大学院を含む） | 139 | 3.9 |
| 10 | その他 | 10 | 0.3 |
| 99 | 無回答 | 244 | 6.8 |

Q25_2　　問25_2）お母さんが行かれた学校

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 新制中学校 | 534 | 14.9 |
| 2 | 新制高校 | 1174 | 32.8 |
| 3 | 新制短大・高専 | 287 | 8.0 |
| 4 | 新制大学 | 142 | 4.0 |
| 5 | 旧制尋常小学校 | 351 | 9.8 |
| 6 | 旧制高等小学校 | 197 | 5.5 |
| 7 | 旧制中学校・実業学校・師範学校 | 352 | 9.8 |
| 8 | 旧制高校・旧制専門学校 | 281 | 7.9 |
| 9 | 旧制大学（大学院を含む） | 41 | 1.1 |
| 10 | その他 | 12 | 0.3 |
| 99 | 無回答 | 204 | 5.7 |

Q26_1　　問26_1）15歳時の10段階階層帰属意識

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 1（上） | 27 | 0.8 |
| 2 | 2 | 55 | 1.5 |
| 3 | 3 | 219 | 6.1 |
| 4 | 4 | 459 | 12.8 |
| 5 | 5 | 1263 | 35.3 |
| 6 | 6 | 575 | 16.1 |
| 7 | 7 | 417 | 11.7 |
| 8 | 8 | 346 | 9.7 |
| 9 | 9 | 138 | 3.9 |
| 10 | 10（下） | 50 | 1.4 |
| 99 | 無回答 | 26 | 0.7 |

Q26_2a　　問26_2a）15歳時にお宅にあったもの：持ち家

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 641 | 17.9 |
| 1 | あった | 2865 | 80.1 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2b　　問26_2b）15歳時にお宅にあったもの：住居以外の土地や建物

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 1886 | 52.8 |
| 1 | あった | 1620 | 45.3 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2c　　問26_2c）15歳時にお宅にあったもの：乗用車

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 990 | 27.7 |
| 1 | あった | 2516 | 70.4 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2d　　問26_2d）15歳時にお宅にあったもの：子ども部屋

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 662 | 18.5 |
| 1 | あった | 2844 | 79.6 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2e　　問26_2e）15歳時にお宅にあったもの：あなた自身の学習机

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 314 | 8.8 |
| 1 | あった | 3192 | 89.3 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2f　　問26_2f）15歳時にお宅にあったもの：ピアノ

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 2520 | 70.5 |
| 1 | あった | 986 | 27.6 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2g　　問26_2g）15歳時にお宅にあったもの：文学全集・図鑑

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 1229 | 34.4 |
| 1 | あった | 2277 | 63.7 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2h　　問26_2h）15歳時にお宅にあったもの：美術品・骨董品（こっとうひん）

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 2831 | 79.2 |
| 1 | あった | 675 | 18.9 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q26_2i　　問26_2i）15歳時にお宅にあったもの：田畑（家庭菜園を除く）

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | なかった | 2232 | 62.4 |
| 1 | あった | 1274 | 35.6 |
| 99 | 無回答 | 69 | 1.9 |

Q27_1　　問27_1）あなたの現在のお住まい

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 持ち家（一戸建） | 2414 | 67.5 |
| 2 | 持ち家（分譲マンション） | 336 | 9.4 |
| 3 | 借家・賃貸のアパート・マンション | 746 | 20.9 |
| 4 | 社宅・寮・官舎 | 70 | 2.0 |
| 5 | その他 | 2 | 0.1 |
| 99 | 無回答 | 7 | 0.2 |

Q27_2_1　　問27_2_1）お住まいの広さ㎡

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3255 | 100.0 |
| 平均値 | | 136.53 |
| 最小値 | | 3.00 |
| 最大値 | | 3960.00 |

Q27_2_2　　問27_2_2）お住まいの広さ坪

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3255 | 100.0 |
| 平均値 | | 41.37 |
| 最小値 | | 1.00 |
| 最大値 | | 1200.00 |

Q28　　問28）居住年数

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3551 | 100.0 |
| 平均値 | | 19.47 |
| 最小値 | | 0.00 |
| 最大値 | | 64.00 |

Q29_a　　問29_a）所有しているもの：乗用車

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 250 | 7.0 |
| 1 | ある | 3170 | 88.7 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_b　　問29_b）所有しているもの：犬・猫などのペット

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2401 | 67.2 |
| 1 | ある | 1019 | 28.5 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_c　　問29_c）所有しているもの：子ども部屋

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 920 | 25.7 |
| 1 | ある | 2500 | 69.9 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_d　　問29_d）所有しているもの：ピアノ

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2397 | 67.0 |
| 1 | ある | 1023 | 28.6 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_e　　問29_e）所有しているもの：バリアフリー設備

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2456 | 68.7 |
| 1 | ある | 964 | 27.0 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_f　　問29_f）所有しているもの：食器洗い機

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2136 | 59.7 |
| 1 | ある | 1284 | 35.9 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_g　　問29_g）所有しているもの：文学全集・図鑑

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2065 | 57.8 |
| 1 | ある | 1355 | 37.9 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_h　　問29_h）所有しているもの：美術品・骨董品（こっとうひん）

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2900 | 81.1 |
| 1 | ある | 520 | 14.5 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_i　　問29_i）所有しているもの：田畑（家庭菜園は除く）

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2712 | 75.9 |
| 1 | ある | 708 | 19.8 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q29_j　　問29_j）所有しているもの：金庫

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 0 | ない | 2813 | 78.7 |
| 1 | ある | 607 | 17.0 |
| 99 | 無回答 | 155 | 4.3 |

Q30_1　　問30_1）他の人の収入

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | なし | 38 | 1.1 |
| 2 | ２５万円未満 | 56 | 1.6 |
| 3 | ２５～５０万円未満 | 84 | 2.3 |
| 4 | ５０～７５万円未満 | 20 | 0.6 |
| 5 | ７５～１００万円未満 | 44 | 1.2 |
| 6 | １００～１２５万円未満 | 48 | 1.3 |
| 7 | １２５～１５０万円未満 | 64 | 1.8 |
| 8 | １５０～２００万円未満 | 104 | 2.9 |
| 9 | ２００～２５０万円未満 | 175 | 4.9 |
| 10 | ２５０～３００万円未満 | 270 | 7.6 |
| 11 | ３００～３５０万円未満 | 328 | 9.2 |
| 12 | ３５０～４００万円未満 | 366 | 10.2 |
| 13 | ４００～４５０万円未満 | 393 | 11.0 |
| 14 | ５００万円位 | 516 | 14.4 |
| 15 | ６００万円位 | 367 | 10.3 |
| 16 | ７００万円位 | 247 | 6.9 |
| 17 | ８００万円位 | 192 | 5.4 |
| 18 | ９００万円位 | 47 | 1.3 |
| 19 | １，０００万円位 | 62 | 1.7 |
| 20 | １，１００万円位 | 7 | 0.2 |
| 21 | １，２００万円位 | 9 | 0.3 |
| 22 | １，３００万円位 | 7 | 0.2 |
| 23 | １，４００万円位 | 5 | 0.1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 24 | １，５００万円位 | 3 | 0.1 |
| 25 | １，６００万円位 | 4 | 0.1 |
| 26 | １，７００万円位 | 0 | 0.0 |
| 27 | １，８００万円位 | 1 | 0.0 |
| 28 | １，９００万円位 | 0 | 0.0 |
| 29 | ２，０００万円位 | 1 | 0.0 |
| 30 | ２，０５０万円～２，５００万円未満 | 2 | 0.1 |
| 31 | ２，５００万円～３，０００万円未満 | 0 | 0.0 |
| 32 | ３，０００万円～４，０００万円未満 | 2 | 0.1 |
| 33 | ４，０００万円～５，０００万円未満 | 2 | 0.1 |
| 34 | ５，０００万円～６，０００万円未満 | 2 | 0.1 |
| 35 | ６，０００万円～７，０００万円未満 | 0 | 0.0 |
| 36 | ７，０００万円～８，０００万円未満 | 0 | 0.0 |
| 37 | ８，０００万円～９，０００万円未満 | 1 | 0.0 |
| 38 | ９，０００万円～１億円未満 | 1 | 0.0 |
| 39 | １億円以上 | 2 | 0.1 |
| 99 | 無回答 | 105 | 2.9 |

Q30_2a　　問30_2a）個人収入について

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| | 全体 | 3575 | 100.0 |
| 1 | とても少ない | 552 | 15.4 |
| 2 | どちらかといえば少ない | 1524 | 42.6 |
| 3 | ちょうどいい | 887 | 24.8 |
| 4 | どちらかといえば多い | 170 | 4.8 |
| 5 | とても多い | 16 | 0.4 |
| 99 | 無回答 | 426 | 11.9 |

Q30_2b　　問30_2b）世帯収入について

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| | 全体 | 3575 | 100.0 |
| 1 | とても少ない | 376 | 10.5 |
| 2 | どちらかといえば少ない | 1621 | 45.3 |
| 3 | ちょうどいい | 1264 | 35.4 |
| 4 | どちらかといえば多い | 271 | 7.6 |
| 5 | とても多い | 12 | 0.3 |
| 99 | 無回答 | 31 | 0.9 |

Q31_1　　問31_1）本人年収

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| | 全体 | 3575 | 100.0 |
| 1 | なし | 344 | 9.6 |
| 2 | ２５万円未満 | 134 | 3.7 |
| 3 | ２５～５０万円未満 | 72 | 2.0 |
| 4 | ５０～７５万円未満 | 89 | 2.5 |
| 5 | ７５～１００万円未満 | 225 | 6.3 |
| 6 | １００～１２５万円未満 | 208 | 5.8 |
| 7 | １２５～１５０万円未満 | 135 | 3.8 |
| 8 | １５０～２００万円未満 | 196 | 5.5 |
| 9 | ２００～２５０万円未満 | 231 | 6.5 |
| 10 | ２５０～３００万円未満 | 202 | 5.7 |
| 11 | ３００～３５０万円未満 | 222 | 6.2 |
| 12 | ３５０～４００万円未満 | 177 | 5.0 |
| 13 | ４００～４５０万円未満 | 191 | 5.3 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | ５００万円位 | 230 | 6.4 |
| 15 | ６００万円位 | 169 | 4.7 |
| 16 | ７００万円位 | 131 | 3.7 |
| 17 | ８００万円位 | 74 | 2.1 |
| 18 | ９００万円位 | 42 | 1.2 |
| 19 | １，０００万円位 | 36 | 1.0 |
| 20 | １，１００万円位 | 18 | 0.5 |
| 21 | １，２００万円位 | 15 | 0.4 |
| 22 | １，３００万円位 | 6 | 0.2 |
| 23 | １，４００万円位 | 6 | 0.2 |
| 24 | １，５００万円位 | 7 | 0.2 |
| 25 | １，６００万円位 | 2 | 0.1 |
| 26 | １，７００万円位 | 3 | 0.1 |
| 28 | １，９００万円位 | 3 | 0.1 |
| 29 | ２，０００万円位 | 4 | 0.1 |
| 30 | ２，０５０万円～２，５００万円未満 | 5 | 0.1 |
| 31 | ２，５００万円～３，０００万円未満 | 8 | 0.2 |
| 32 | ３，０００万円～４，０００万円未満 | 5 | 0.1 |
| 33 | ４，０００万円～５，０００万円未満 | 1 | 0.0 |
| 34 | ５，０００万円～６，０００万円未満 | 0 | 0.0 |
| 35 | ６，０００万円～７，０００万円未満 | 0 | 0.0 |
| 36 | ７，０００万円～８，０００万円未満 | 0 | 0.0 |
| 37 | ８，０００万円～９，０００万円未満 | 0 | 0.0 |
| 38 | ９，０００万円～１億円未満 | 0 | 0.0 |
| 39 | １億円以上 | 3 | 0.1 |
| 40 | 分からない・答えたくない | 143 | 4.0 |
| 99 | 無回答 | 238 | 6.7 |

※27　１，８００万円位は回答数０

Q31_2　　問31_2）世帯年収

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| | 全体 | 3575 | 100.0 |
| 1 | なし | 17 | 0.5 |
| 2 | ２５万円未満 | 17 | 0.5 |
| 3 | ２５～５０万円未満 | 14 | 0.4 |
| 4 | ５０～７５万円未満 | 11 | 0.3 |
| 5 | ７５～１００万円未満 | 24 | 0.7 |
| 6 | １００～１２５万円未満 | 29 | 0.8 |
| 7 | １２５～１５０万円未満 | 31 | 0.9 |
| 8 | １５０～２００万円未満 | 82 | 2.3 |
| 9 | ２００～２５０万円未満 | 125 | 3.5 |
| 10 | ２５０～３００万円未満 | 149 | 4.2 |
| 11 | ３００～３５０万円未満 | 182 | 5.1 |
| 12 | ３５０～４００万円未満 | 177 | 5.0 |
| 13 | ４００～４５０万円未満 | 221 | 6.2 |
| 14 | ５００万円位 | 316 | 8.8 |
| 15 | ６００万円位 | 296 | 8.3 |
| 16 | ７００万円位 | 260 | 7.3 |
| 17 | ８００万円位 | 217 | 6.1 |
| 18 | ９００万円位 | 148 | 4.1 |
| 19 | １，０００万円位 | 169 | 4.7 |
| 20 | １，１００万円位 | 78 | 2.2 |
| 21 | １，２００万円位 | 62 | 1.7 |
| 22 | １，３００万円位 | 42 | 1.2 |
| 23 | １，４００万円位 | 25 | 0.7 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 24 | １，５００万円位 | 41 | 1.1 |
| 25 | １，６００万円位 | 19 | 0.5 |
| 26 | １，７００万円位 | 10 | 0.3 |
| 27 | １，８００万円位 | 8 | 0.2 |
| 28 | １，９００万円位 | 7 | 0.2 |
| 29 | ２，０００万円位 | 18 | 0.5 |
| 30 | ２，０５０万円～２，５００万円未満 | 13 | 0.4 |
| 31 | ２，５００万円～３，０００万円未満 | 14 | 0.4 |
| 32 | ３，０００万円～４，０００万円未満 | 10 | 0.3 |
| 33 | ４，０００万円～５，０００万円未満 | 4 | 0.1 |
| 34 | ５，０００万円～６，０００万円未満 | 1 | 0.0 |
| 35 | ６，０００万円～７，０００万円未満 | 1 | 0.0 |
| 36 | ７，０００万円～８，０００万円未満 | 1 | 0.0 |
| 37 | ８，０００万円～９，０００万円未満 | 1 | 0.0 |
| 38 | ９，０００万円～１億円未満 | 1 | 0.0 |
| 39 | １億円以上 | 1 | 0.0 |
| 40 | 分からない・答えたくない | 374 | 10.5 |
| 99 | 無回答 | 359 | 10.0 |

age　年齢（2014年12月末時点）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3575 | 100.0 |
| 平均値 | | 45.27 |
| 最小値 | | 20.00 |
| 最大値 | | 64.00 |

edu3　本人学歴3分類

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 初等学歴 | 202 | 5.7 |
| 2 | 中等学歴 | 1798 | 50.3 |
| 3 | 高等学歴 | 1543 | 43.2 |
| . | システム欠損値 | 32 | 0.9 |

edu3p　配偶者学歴3分類

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 初等学歴 | 157 | 4.4 |
| 2 | 中等学歴 | 1228 | 34.3 |
| 3 | 高等学歴 | 1077 | 30.1 |
| . | システム欠損値 | 1113 | 31.1 |

edu3f　父親学歴3分類

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 初等学歴 | 1094 | 30.6 |
| 2 | 中等学歴 | 1325 | 37.1 |
| 3 | 高等学歴 | 902 | 25.2 |
| . | システム欠損値 | 254 | 7.1 |

edu3m　　母親学歴3分類

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 初等学歴 | 1082 | 30.3 |
| 2 | 中等学歴 | 1526 | 42.7 |
| 3 | 高等学歴 | 751 | 21.0 |
| . | システム欠損値 | 216 | 6.0 |

eduy　　本人教育年数

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3554 | 100.0 |
| 平均値 | | 13.38 |
| 最小値 | | 9.00 |
| 最大値 | | 21.00 |

eduyp　　配偶者教育年数

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 2462 | 100.0 |
| 平均値 | | 13.35 |
| 最小値 | | 9.00 |
| 最大値 | | 18.00 |

eduyf　　父親教育年数

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3321 | 100.0 |
| 平均値 | | 11.47 |
| 最小値 | | 6.00 |
| 最大値 | | 17.00 |

eduym　　父親教育年数

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3359 | 100.0 |
| 平均値 | | 11.13 |
| 最小値 | | 6.00 |
| 最大値 | | 17.00 |

SSM　　SSM職業小分類

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 501 | 自然科学系研究者 | 5 | 0.1 |
| 502 | 人文科学系研究者 | 1 | 0.0 |
| 503 | 機械・電気・科学技術者 | 71 | 2.0 |
| 504 | 建築・土木技術者 | 23 | 0.6 |
| 505 | 農林技術者 | 5 | 0.1 |
| 506 | 情報処理技術者 | 30 | 0.8 |
| 507 | その他の技師・技術者 | 5 | 0.1 |
| 508 | 医師 | 7 | 0.2 |
| 509 | 歯科医師 | 4 | 0.1 |
| 510 | 薬剤師 | 6 | 0.2 |
| 511 | 助産婦 | 5 | 0.1 |
| 513 | 栄養士 | 5 | 0.1 |
| 514 | 看護婦・看護師 | 77 | 2.2 |
| 516 | その他の保険医療従事者 | 55 | 1.5 |
| 517 | 裁判官、検察官、弁護士 | 3 | 0.1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 518 | その他の法務従事者 | 4 | 0.1 |
| 519 | 公認会計士、税理士 | 3 | 0.1 |
| 520 | 幼稚園教員 | 17 | 0.5 |
| 521 | 小学校教員 | 23 | 0.6 |
| 522 | 中学校教員 | 29 | 0.8 |
| 524 | 大学教員 | 7 | 0.2 |
| 525 | 盲・ろう・養護学校教員 | 3 | 0.1 |
| 526 | その他の教員 | 3 | 0.1 |
| 527 | 宗教家 | 6 | 0.2 |
| 528 | 文芸家、著述家 | 2 | 0.1 |
| 529 | 記者、編集者 | 2 | 0.1 |
| 531 | デザイナー | 9 | 0.3 |
| 533 | 音楽家（個人に教授するものを除く） | 2 | 0.1 |
| 534 | 俳優、舞踏家、演芸家（個人に教授するものを除く） | 2 | 0.1 |
| 535 | 職業スポーツ家（個人に教授するものを除く） | 1 | 0.0 |
| 537 | 保母、保父 | 13 | 0.4 |
| 538 | 社会福祉事業専門職員 | 17 | 0.5 |
| 539 | 個人教師 | 62 | 1.7 |
| 540 | 不動産鑑定士 | 10 | 0.3 |
| 541 | 経営コンサルタント | 6 | 0.2 |
| 543 | 図書館司書 | 3 | 0.1 |
| 544 | その他の専門的・技術的職業従事者 | 21 | 0.6 |
| 545 | 管理的公務員 | 5 | 0.1 |
| 547 | 地方議員 | 1 | 0.0 |
| 548 | 会社役員 | 24 | 0.7 |
| 549 | その他の法人・団体の役員 | 3 | 0.1 |
| 550 | 会社・団体等の管理職員 | 77 | 2.2 |
| 554 | 総務・企画事務員 | 321 | 9.0 |
| 555 | 受付・案内事務員 | 49 | 1.4 |
| 556 | 出荷・受荷事務員 | 25 | 0.7 |
| 557 | 営業・販売事務員 | 6 | 0.2 |
| 558 | その他の一般事務員 | 45 | 1.3 |
| 559 | 会計事務員 | 88 | 2.5 |
| 561 | 集金人 | 1 | 0.0 |
| 562 | その他の外勤事務従業者 | 5 | 0.1 |
| 564 | 速記者、タイピスト、キーパンチャー | 29 | 0.8 |
| 565 | 電子計算機等操作員 | 16 | 0.4 |
| 566 | 小売店主 | 39 | 1.1 |
| 568 | 飲食店主 | 2 | 0.1 |
| 569 | 販売店員 | 181 | 5.1 |
| 570 | 行商人、呼売人、露天商 | 7 | 0.2 |
| 571 | 再生資源卸売人・回収人 | 5 | 0.1 |
| 572 | 商品仲立人 | 12 | 0.3 |
| 573 | 外交員（保険、不動産を除く） | 71 | 2.0 |
| 574 | 保険代理人・外交員 | 10 | 0.3 |
| 576 | 質屋店主・店員 | 1 | 0.0 |
| 577 | その他の販売類似職業従事者 | 23 | 0.6 |
| 578 | 女中、家政婦、家事サービス職業従事者 | 21 | 0.6 |
| 579 | 理容師、美容師 | 30 | 0.8 |
| 580 | クリーニング職、洗濯職 | 6 | 0.2 |
| 581 | 料理人 | 67 | 1.9 |
| 582 | バーテンダー | 1 | 0.0 |
| 583 | 給仕係 | 20 | 0.6 |
| 587 | 旅行・観光案内人 | 5 | 0.1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 588 | その他の個人サービス職業従事者 | 60 | 1.7 |
| 591 | ファッションモデル | 1 | 0.0 |
| 592 | その他のサービス職業従事者 | 15 | 0.4 |
| 593 | 自衛官 | 3 | 0.1 |
| 594 | 警察官、海上保安官、鉄道公安官 | 7 | 0.2 |
| 595 | 消防員 | 7 | 0.2 |
| 596 | 看守、守衛、監視員 | 15 | 0.4 |
| 599 | 農耕・養蚕作業者 | 49 | 1.4 |
| 600 | 植木職、造園師 | 7 | 0.2 |
| 601 | 畜産作業者 | 10 | 0.3 |
| 603 | その他の農林業作業者 | 1 | 0.0 |
| 604 | 漁業従事者 | 6 | 0.2 |
| 606 | 電車・機関車運転士 | 2 | 0.1 |
| 607 | 自動車運転者 | 51 | 1.4 |
| 608 | 船長・航海士（漁船を除く）、水先人 | 1 | 0.0 |
| 611 | 車掌 | 2 | 0.1 |
| 612 | 鉄道員 | 3 | 0.1 |
| 613 | 船員 | 3 | 0.1 |
| 614 | その他の運輸従業者 | 8 | 0.2 |
| 615 | 無線通信士、無線傍受士 | 3 | 0.1 |
| 617 | 電話交換手 | 4 | 0.1 |
| 619 | その他の通信従事者 | 1 | 0.0 |
| 620 | 採鉱員、採炭員 | 1 | 0.0 |
| 622 | その他の採掘作業者 | 1 | 0.0 |
| 623 | 陶磁器工、絵付作業者 | 1 | 0.0 |
| 624 | 石工 | 4 | 0.1 |
| 625 | ガラス・セメント製品製造作業者 | 2 | 0.1 |
| 628 | 鋳物工、鍛造工、金属材料製造作業者 | 8 | 0.2 |
| 630 | 金属工作機械工、めっき工、金属加工作業者 | 38 | 1.1 |
| 631 | 鉄工、板金工 | 3 | 0.1 |
| 632 | 金属溶接工 | 1 | 0.0 |
| 633 | 一般機械組立工・修理工 | 16 | 0.4 |
| 634 | 電気機械器具組立工・修理工 | 16 | 0.4 |
| 635 | 自動車組立工・整備工 | 18 | 0.5 |
| 638 | 航空機組立工・整備工 | 2 | 0.1 |
| 639 | 自転車組立工・修理工 | 2 | 0.1 |
| 642 | 光学機械・精密機械器具組立工・修理工 | 15 | 0.4 |
| 644 | パン・菓子・めん類・豆腐製造工 | 20 | 0.6 |
| 645 | 味噌・醤油・缶詰食品・乳製品製造工、飲食料品製造作業者 | 20 | 0.6 |
| 646 | たばこ製造工 | 1 | 0.0 |
| 649 | 織布工、紡織作業者 | 4 | 0.1 |
| 651 | 洋服・和服仕立職 | 6 | 0.2 |
| 652 | 縫製工、裁断工 | 6 | 0.2 |
| 653 | 製材工、木工 | 6 | 0.2 |
| 654 | 指物職、家具職、建具職 | 1 | 0.0 |
| 656 | おけ職、木・竹・草・つる製品製造作業者 | 2 | 0.1 |
| 657 | 製紙工、紙器製造工、パルプ・紙・紙製品製造作業者 | 4 | 0.1 |
| 658 | 印刷・製本作業者 | 8 | 0.2 |
| 659 | ゴム・プラスチック製品製造作業者 | 17 | 0.5 |
| 660 | くつ製造工・修理工、かわ・かわ製品製造作業者 | 2 | 0.1 |
| 661 | 塗装工、画工、看板工 | 9 | 0.3 |
| 663 | 表具師、内張工 | 1 | 0.0 |
| 665 | 貴金属・宝石・甲・角等細工工 | 1 | 0.0 |
| 669 | がん具製造工 | 44 | 1.2 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 670 | 製図工、現図工 | 1 | 0.0 |
| 672 | その他の技能工・生産工程作業者 | 109 | 3.0 |
| 674 | 起重機・建設機械運転作業者 | 10 | 0.3 |
| 675 | その他の定置機関運転作業者 | 21 | 0.6 |
| 676 | 発電員、変電員 | 1 | 0.0 |
| 677 | 電気工事・電話工事作業者 | 28 | 0.8 |
| 678 | 土木・建築請負師 | 7 | 0.2 |
| 679 | 左官、とび職 | 22 | 0.6 |
| 680 | れんが積工、配管工 | 17 | 0.5 |
| 682 | 土工、道路工夫 | 9 | 0.3 |
| 684 | 現場監督、その他の建設作業者 | 43 | 1.2 |
| 685 | 倉庫夫、仲仕 | 15 | 0.4 |
| 686 | 運搬労務者 | 34 | 1.0 |
| 687 | 清掃員 | 26 | 0.7 |
| 688 | その他の労務作業者 | 66 | 1.8 |
| 704 | 製品製造作業 | 9 | 0.3 |
| 802 | その他の医療・福祉サービス職従事者 | 112 | 3.1 |
| 998 | 非該当 | 658 | 18.4 |
| 999 | 無回答・不明 | 105 | 2.9 |

JOB8　　職業8分類（現職）

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 専門 | 662 | 18.5 |
| 2 | 管理 | 111 | 3.1 |
| 3 | 事務 | 622 | 17.4 |
| 4 | 販売 | 437 | 12.2 |
| 5 | 熟練 | 365 | 10.2 |
| 6 | 半熟練 | 353 | 9.9 |
| 7 | 非熟練 | 189 | 5.3 |
| 8 | 農業 | 73 | 2.0 |
| 9 | 無職 | 563 | 15.7 |
| 10 | 学生 | 88 | 2.5 |
| 99 | 無回答 | 112 | 3.1 |

EGP9　　EGP9分類

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 上層サービス | 246 | 6.9 |
| 2 | 下層サービス | 632 | 17.7 |
| 3 | 事務販売 | 712 | 19.9 |
| 4 | 自営業主 | 173 | 4.8 |
| 5 | 独立自営 | 70 | 2.0 |
| 7 | 管理的マニュアル | 155 | 4.3 |
| 8 | 熟練マニュアル | 218 | 6.1 |
| 9 | 非熟練･半熟練マニュアル | 533 | 14.9 |
| 11 | 農業経営 | 73 | 2.0 |
| 12 | 無職 | 563 | 15.7 |
| 13 | 学生 | 88 | 2.5 |
| 99 | 無回答 | 112 | 3.1 |

EGP6　　EGP6分類

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 上層ホワイト | 878 | 24.6 |
| 2 | 下層ホワイト | 712 | 19.9 |
| 3 | 自営 | 243 | 6.8 |
| 4 | 熟練ブルー | 373 | 10.4 |
| 5 | 非熟練ブルー | 533 | 14.9 |
| 6 | 農業 | 73 | 2.0 |
| 7 | 無職 | 563 | 15.7 |
| 8 | 学生 | 88 | 2.5 |
| 99 | 無回答 | 112 | 3.1 |

Q30_1R　　個人年収予想（実数）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3470 | 100.0 |
| 平均値 | | 459.28 |
| 最小値 | | 0.00 |
| 最大値 | | 10000.00 |

Q31_1R　　個人年収（実数）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 3194 | 100.0 |
| 平均値 | | 327.52 |
| 最小値 | | 0.00 |
| 最大値 | | 10000.00 |

Q31_2R　　世帯年収（実数）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 全体 | 2842 | 100.0 |
| 平均値 | | 667.95 |
| 最小値 | | 0.00 |
| 最大値 | | 10000.00 |

AREA　　地方別

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 北海道 | 171 | 4.8 |
| 2 | 東北 | 309 | 8.6 |
| 3 | 関東 | 1050 | 29.4 |
| 4 | 中部（東） | 290 | 8.1 |
| 5 | 中部（西） | 392 | 11.0 |
| 6 | 近畿 | 588 | 16.4 |
| 7 | 中国 | 235 | 6.6 |
| 8 | 四国 | 123 | 3.4 |
| 9 | 九州（沖縄含む） | 417 | 11.7 |

SIZE　　市郡別

| | | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 全体 | | 3575 | 100.0 |
| 1 | 区部（政令指定都市） | 897 | 25.1 |
| 2 | ２０万人以上の市部 | 853 | 23.9 |
| 3 | １０万人以上の市部 | 639 | 17.9 |
| 4 | １０万人未満の市部 | 854 | 23.9 |
| 5 | 郡部 | 332 | 9.3 |

# ５　調査票

さっそくですが、あなたご自身のことをうかがいます。

問 1(1)　性別　　〔**見て判断できれば、聞かなくてもよい**〕

*問 1(1) 性別*

| |
|---|
| (ア) 男性<br><br>(イ) 女性 |

問 1 (2) あなたのお生まれは何年何月ですか。

*問 1(2) 生年月*

| |
|---|
| 西暦 19_____　( 昭和・平成 _____)年<br>____月生まれ<br>満_____歳 (今月 1 日時点) |

続いてあなたの暮らしについてうかがいます。

問 2　あなたはつぎにあげるようなことをどの程度していますか。あてはまるものをお答えください。

*a) 国政選挙や自治体選挙の際の投票*

*b) 国会や地方議会の議員とのつきあい*

*c) 市民運動への参加*

*d) ボランティア・NPO 活動*

*e) 募金や寄付*

*f) サプリメント・健康食品の利用*

*g) プレミアム(ワンランク上の)商品の購入*

| |
|---|
| (ア) いつもしている |
| (イ) よくしている |
| (ウ) ときどきしている |
| (エ) めったにしない |
| (オ) したことがない |

問3　あなたは、つぎにあげるような活動をしていますか。最近の５、６年についてお答えください。

*a) クラシック音楽の音楽会・コンサートへ行く*

| |
|---|
| (ア) 月に１回以上 |
| (イ) 年に１回から数回 |
| (ウ) 数年に１回くらい |
| (エ) 最近５、６年はしたことはない |
| (オ) 今まで１度もしたことがない |

*b) 美術展や博物館に行く*

| |
|---|
| (ア) 月に１回以上 |
| (イ) 年に１回から数回 |
| (ウ) 数年に１回くらい |
| (エ) 最近５、６年はしたことはない |
| (オ) 今まで１度もしたことがない |

*c）小説や歴史の本を読む*

| |
|---|
| (ア) 週に１回以上 |
| (イ) 月に１回くらい |
| (ウ) 年に１回から数回 |
| (エ) 数年に１回くらい |
| (オ) 最近５、６年はしたことがない |

*d）図書館に行く*

| |
|---|
| (ア) 週に１回以上 |
| (イ) 月に１回くらい |
| (ウ) 年に１回から数回 |
| (エ) 数年に１回くらい |
| (オ) 最近５、６年はしたことがない |

*e）海外旅行に行く*

| |
|---|
| (ア) 月に１回以上 |
| (イ) 年に１回から数回 |
| (ウ) 数年に１回くらい |
| (エ) 最近５、６年はしたことはない |
| (オ) 今まで１度もしたことがない |

つぎにあなたの人生のあゆみについてうかがいます。

問 4 あなたが最後に行かれた(または現在行かれている)学校はつぎのどちらにあたりますか。１つだけお答えください。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。

*問４ 最後に行かれた学校*

| |
|---|
| (ア) 中学校 |
| (イ) 中学校卒業後に専門学校 |
| (ウ) 職業科高校(工業、商業、農業・家政など) |
| (エ) 普通科高校(普通科、理数科など) |
| (オ) 高校卒業後に専門学校 |
| (カ) 短期大学・高等専門学校 |
| (キ) 大学の人文社会系学部(四年制) |
| (ク) 大学の理工系学部(四年制) |
| (ケ) 大学の六年制学部(医・歯など) |
| (コ) 大学院修士課程 |
| (サ) 大学院博士課程 |
| (シ) その他・どれにあたるか判断できない(⇒入力画面へ) |

問 4 (s1) 具体的な学校名をお答えください。

*問 4(s1) 具体的な学校名をお答えください。*

| |
|---|
| |

問 4 (s2) 小学校１年生からの通算通学年数をお答えください。浪人や留年、休学の期間は除いてください。

*問 4(s2) 通算通学年数*

問 5(1) 最後に行かれた学校を出てから、これまでに収入を伴うお仕事に就いたことはありますか。(在学中のアルバイトは除きます)

*問 5(1) 就職経験の有無*

(ア) 仕事に就いたことがある
(イ) 一度も仕事をしたことはない

問 5 (2) それでは、最後に行かれた学校を出てから、最初の仕事に就かれたのは何年何月ですか(在学中のアルバイトは除きます)。

*問 5(2) 最初に就職した年月*

年　月

満＿＿＿歳

問 5 (3) その後、転職や退職でお仕事をやめたことはありますか。ただし、同じ企業体や自治体の中での出向、異動、転属と休職は、除いてお答えください。

*問 5(3) 転職・退職経験の有無*

(ア) 現在まで同じ勤め先で、仕事を続けている
(イ) 一度だけやめた
(ウ) 二度やめた
(エ) 三度以上やめた

問 5(4) これまでの人生において、つぎのような経験がありますか。

*a) 学校を出るまでの間の浪人・留年*

*b) 学校を出た後の 3 ヶ月以上の失業・職探しの期間*

(ア) 経験したことがある
(イ) 経験したことがない

それでは現在のお仕事の様子についてうかがいます。

問 6(1) あなたがなさっているお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

*問 6(1) 働き方*

(ア) 経営者、役員
(イ) 常時雇用されている一般従業者　(ア以外の正社員、正職員など)
(ウ) 臨時雇用・パート・アルバイト
(エ) 派遣社員
(オ) 契約社員、嘱託
(カ) 自営業主、自由業者
(キ) 家族従業者(農家や商店などで家業を手伝っている)
(ク) 内　職
(ケ) 無職：仕事を探している
(コ) 無職：仕事を探していない
(サ) 学　生

問 6(2) あなたの勤め先は、どのような事業をいとなんでいますか。

*問 6(2) 勤め先の事業内容*

(ア) 農業、林業
(イ) 漁業
(ウ) 鉱業、採石業、砂利採取業（鉱物資源の採掘など))
(エ) 建設業(建物や土木設備の建設)
(オ) 製造業(モノを組み立てたり作ったりするメーカー)
(カ) 電気・ガス・熱供給・水道業(社会基盤・インフラの供給の企業)
(キ) 情報通信業
(ク) 運輸業(モノや人の運搬をする企業)、郵便業
(ケ) 卸売業
(コ) 小売業
(サ) 金融業、保険業（郵貯・簡保を含む）
(シ) 不動産業、物品賃貸業
(ス) 学術研究、専門・技術サービス業(学校など)
(セ) 宿泊業、飲食サービス業
(ソ) 生活関連サービス業、娯楽業
(タ) その他・この中にはない　(⇒入力画面へ)

問 6(2s) 具体的な事業内容をお答えください。

*問 6(2s) 具体的な事業内容をお答え下さい。*

問 6(3) 現在の従業員(働いている人)は、ご自分を含め、会社全体で何人ぐらいですか。家族従業者、パート・アルバイトなども含めて考えてください。

*問 6(3) 従業先の企業規模*

(ア) 1 人
(イ) 2～4 人
(ウ) 5～9 人
(エ) 10～29 人
(オ) 30～99 人
(カ) 100～299 人
(キ) 300～499 人
(ク) 500～999 人
(ケ) 1000 人以上
(コ) 官公庁(独立行政法人)

問 6(4) 何かの役職についていますか。

*問 6(4) 役職*

(ア) 役職なし
(イ) 監督、職長、班長、組長
(ウ) 係長、係長相当職
(エ) 課長、課長相当職
(オ) 部長、部長相当職
(カ) 社長、重役、役員、理事
(キ) 選ぶものがない・その他　⇒入力画面へ

問 6(4s) その役職の名前を具体的にお答えください。

***問 6(4s) 役職の名前を具体的にお答えください。***

| |
|---|
| |

問 6(5) あなたは職場でどのような仕事をしていますか。具体的な仕事の内容を問いの流れに沿って選んでいってください。

***問 6(5) 現在のお仕事の内容***

問 6(5s) 具体的に仕事の内容を入力してください。

プルダウン選択システム

***問 6(5s) 具体的に仕事の内容を入力してください。***

| |
|---|
| |

問 6(6) あなたは、何年何月から現在のお勤め先で働いておられますか。

***問 6(6) 今の仕事に就いた時期***

| |
|---|
| _____年 ____月<br>満_____歳 |

問 6(7) 現在のお仕事をふだん週何時間くらいしていますか。残業の時間も含めてください。隔週勤務などの方は、1ヶ月に何時間くらい働いているかをお考えください。

***問 6(7) 仕事時間***

| |
|---|
| 1週間におよそ _____ 時間くらい<br>1ヶ月に換算するとおよそ _____ 時間くらい |

問 6(8) 現在のお仕事では、自分でモノを作ったり扱ったりすることが多いですか、それとも人と接したりコミュニケーションをとることが多いですか。

***問 6(8) 仕事の中身***

| |
|---|
| (ア) おもに自分でモノを作ったり扱ったりしている<br>(イ) どちらかといえば、モノを作ったり扱ったりしていることが多い<br>(ウ) モノを扱うことと、人とのコミュニケーションが半々ぐらい<br>(エ) どちらかといえば、人と接したりコミュニケーションをとることが多い<br>(オ) おもに人と接したりコミュニケーションをとっている |

問 6(9) 今の職場で、これらのことがらは、あなたの場合にどの程度あてはまりますか。

*a）職場では自分の働きぶりが認められている*

(ア) そう思う
(イ) ややそう思う
(ウ) あまりそう思わない
(エ) そう思わない

*b）自分の仕事の内容やペースを自分で決めることができる*

(ア) かなりあてはまる
(イ) ある程度あてはまる
(ウ) あまりあてはまらない
(エ) あてはまらない

*c）職場全体の仕事のやり方に自分の意見を反映させることができる*

(ア) かなりあてはまる
(イ) ある程度あてはまる
(ウ) あまりあてはまらない
(エ) あてはまらない

あなたの配偶者(夫または妻)についてうかがいます。

問 7(1) あなたは現在結婚されていますか。

*問 7(1) 結婚*

(ア) 結婚している(事実婚を含む)
(イ) 未婚(結婚したことがない)
(ウ) 離別
(エ) 死別

問 7(2) 現在の配偶者と結婚されたのは、あなたが何歳のときでしたか。

*問 7(2) 結婚された年齢*

あなたが
満 _____ 歳 のとき
年 ごろ

問 7(3) 配偶者のお生まれは何年ですか。

*問 7(3) 配偶者の生年月*

年 月生まれ

およそ _____歳

問 8 あなたの配偶者が最後に行かれた(または現在行かれている)学校はつぎのどちらにあたりますか。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。

*問 8 配偶者が行かれた学校*

(ア) 中学校
(イ) 中学校卒業後に専門学校
(ウ) 高校
(エ) 高校卒業後に専門学校
(オ) 短期大学・高等専門学校
(カ) 大学(四年制)
(キ) 大学(六年制)
(ク) 大学院
(ケ) その他・どれにあたるか判断できない　⇒入力画面へ

問 8s 具体的にお答えください。

*問 8s 具体的にお答えください。*

問 9 あなたの配偶者の現在のお仕事についてうかがいます。その方のお仕事は大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

*問 9 配偶者の働き方*

(ア) 経営者・役員・大企業の課長相当以上
(イ) 常時雇用されている一般従業者　(ア以外の正社員、正職員など)
(ウ) 臨時雇用・パート・アルバイト
(エ) 派遣社員
(オ) 契約社員、嘱託
(カ) 自営業主、自由業者(従業員 4 人以下)
(キ) 自営業主、自由業者(従業員 5 人以上)
(ク) 家族従業者(農家や商店などで家業を手伝っている)
(ケ) 内　職
(コ) 無職：仕事を探している
(サ) 無職：仕事を探していない
(シ) 学　生
(ス)　この中にはあてはまるものがない ⇒入力画面へ

問 9s 具体的にお答えください。

*問 9s 具体的にお答えください。*

ご家族についておたずねします。

問 10(1) 同居されているご家族は、あなたご自身を含めて何人いらっしゃいますか(ペットは除く)。

*問 10(1) 同居家族の人数*

| |
|---|
| あなたを含めて_____人 |

問 10(2 ) つぎの中から、同居されているご家族をすべて選んでください。

*問 10(2) 同居家族のうちわけ*

| | | |
|---|---|---|
| a) あなたご自身 | いる | いない |
| b) 配偶者 | いる | いない |
| c) 子ども | いる | いない |
| d) 子どもの配偶者 | いる | いない |
| e) あなたの兄弟姉妹 | いる | いない |
| f) あなたの父親 | いる | いない |
| g) あなたの母親 | いる | いない |
| h) 配偶者の父親 | いる | いない |
| i) 配偶者の母親 | いる | いない |
| j) 祖父母 | いる | いない |
| k) あなたの孫 | いる | いない |
| l) その他 | いる | いない⇒入力画面へ |

問 10(2s) 具体的にお答えください。

*問 10 (2s) 具体的にお答えください。*

| |
|---|
| |

お子さんについておたずねします。現在、離れて暮らしておられるお子さんもすべて含めてお答えください。

問 11(1) あなたにはお子さんはいらっしゃいますか。

*問 11(1) 子ども*

| |
|---|
| (ア) いる |
| (イ) いない |

問 11(2) あなたのお子さんには、どのような方が、何人いらっしゃるかをお答えください。

*問 11(2) 子どものうちわけ*

| | 男性 | 女性 |
|---|---|---|
| 新生児~未就学児童 | | |
| 小学生 | | |
| 中学生 | | |
| 高校生 | | |
| 専門学校(高卒後に進学したもの)の学生 | | |
| 短大・高専の学生 | | |
| 大学生 | | |
| その他の生徒・学生 | | |
| 学校は卒業(中退)した人 | | |
| | 男性 | 女性 |
| 合計 | 人 | 人 |

ここからは、あなたのお考えをお答えいただきます。

問 12 あなたはつぎのようなことがらについて、どの程度満足していますか。

*a) 生活全般*

*b) 自分の学歴*

(ア) 満足している
(イ) どちらかといえば満足している
(ウ) どちらともいえない
(エ) どちらかといえば不満である
(オ) 不満である

つぎのことがらについてお答えください。

問 13(1) かりに現在の日本の社会全体を、このリストに書いてあるように 5 つの層に分けるとすれば、あなた自身はこのどれに入ると思いますか。

*問 13(1) 層*

(ア) 上
(イ) 中の上
(ウ) 中の下
(エ) 下の上
(オ) 下の下

問 13(2) かりに、日本の社会全体のひとびとを上、中、下の 3 つの層に分けるとすれば、

*a) 上(じょう)の層は何パーセントぐらいいると思いますか。*

_____%

*b) 下(げ)の層は何パーセントぐらいいると思いますか。*

_____%

問 13(3) それでは、このリストに書いてあるように、1 から 10 までの 10 の層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入ると思いますか。

*問 13(3) 層*

| | |
|---|---|
| ┌ 1 | 上 |
| ├ 2 | ↑ |
| ├ 3 | |
| ├ 4 | |
| ├ 5 | |
| ├ 6 | ↓ |
| ├ 7 | |
| ├ 8 | |
| ├ 9 | 下 |
| └10 | |

問 14 それではつぎのことがらについて、現代の日本社会における最高の水準を 1、最低の水準を 10 とすると、現在のあなたご自身はどの位にあたると思われますか。

*a) 収入*

*b) 学歴*

*c) 何かあった時に頼れる資産や財産*

| | |
|---|---|
| ┌ 1 | 上 |
| ├ 2 | ↑ |
| ├ 3 | |
| ├ 4 | |
| ├ 5 | |
| ├ 6 | ↓ |
| ├ 7 | |
| ├ 8 | |
| ├ 9 | 下 |
| └10 | |

問 15(1) 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。

*問 15(1) あなたはどの程度幸せですか。*

とても不幸　　とても幸せ

0　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

問 15(2) あなたは、現在のご自分健康状態をどう思いますか。

*問 15(2) 健康状態*

| |
|---|
| (ア) よい |
| (イ) まあよい |
| (ウ) ふつう |
| (エ) あまりよくない |
| (オ) わるい |

問 16　あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている方は何人くらいでしょうか。

*問 16 頼りにしている親しい人*

| | | 人 |
|---|---|---|

問 17　あなたは以下のことについてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。

*a) 困っているとき、近所の人たちは手助けをしてくれる*

*b) 近所の人たちは強いきずなで結ばれている*

| |
|---|
| (ア) とてもそう思う |
| (イ) そう思う |
| (ウ) どちらともいえない |
| (エ) そう思わない |
| (オ) 全くそう思わない |

問 18 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。

*a) 働くことは、社会に対する義務である*

*b) 「宗教的な心」というものは大切だと思う*

*c) チャンスが平等にあたえられるなら、競争で貧富の差がついてもしかたがない*

*d) 競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことの方が大切だ*

*e) 今後、日本で格差が広がってもかまわない*

*f) 今の日本では資産の格差が大きすぎる*

*g) 大きな資産を持てるようになるかどうかは、本人の努力次第だ*

*h) 本人の社会的地位は、家庭の豊かさや親の社会的地位で決まっている*

| |
|---|
| (ア) そう思う |
| (イ) ややそう思う |
| (ウ) どちらともいえない |
| (エ) あまりそう思わない |
| (オ) そう思わない |

問 19 あなたにとってつぎのような気持ちや考え、生き方はどの程度あてはまりますか。

*a) 自分の仕事のために、家庭や私生活を犠牲にしていることが多い*

(ア) よくあてはまる
(イ) ややあてはまる
(ウ) どちらともいえない
(エ) あまりあてはまらない
(オ) まったくあてはまらない
(カ) 仕事をしていない(非該当)

*b) 将来のために節約・努力するよりも、今の自分の人生を楽しむようにしている*

*c) まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる*

*d) うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる*

*e) もっと多くを手にするよりも、これまでに獲得したものを維持することの方が重要であると思う*

*f) 私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる*

(ア) よくあてはまる
(イ) ややあてはまる
(ウ) どちらともいえない
(エ) あまりあてはまらない
(オ) まったくあてはまらない

問 20 つぎにあげることがらは、あなたにとってどのくらい重要ですか。

*a) 社会的評価の高い職業につくこと*

*b) 高い収入を得ること*

*c) 家族との時間を大切にすること*

(ア) 重要である
(イ) やや重要である
(ウ) あまり重要ではない
(エ) 重要ではない

問 21 子どもの教育についてつぎのような意見があります。それぞれについて、あなたはどう思われますか。

*a) 子どもには、大学以上の教育を受けさせるのがよい*

*b) 子どもには、学校教育のほかに家庭教師をつけたり、塾に通わせた方がよい*

*c) 子どもには、海外留学をさせたほうがよい*

(ア) そう思う
(イ) ややそう思う
(ウ) あまりそう思わない
(エ) そう思わない

問 22 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。

*a) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである*

*b) 夫が妻と同じくらい家事や育児をするのはあたりまえのことだ*

(ア) そう思う
(イ) どちらかといえばそう思う
(ウ) どちらかといえばそう思わない
(エ) そう思わない

問 23 つぎのような意見について、あなたはそう思いますか、それともそうは思いませんか。

*a) 政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない*
*b) 政治のことはやりたい人にまかせておけばよい*
*c) これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ*
*d) 今の日本にはリーダーシップを持った政治家が必要だ*
*e) 国民の意見や希望は、国の政治にはほとんど反映されていない*
*f) 権威のある人々にはつねに敬意を払わなければならない*
*g) 以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む*
*h) 伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる*
*i) この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである*

(ア) そう思う
(イ) どちらかといえばそう思う
(ウ) どちらともいえない
(エ) どちらかといえばそう思わない
(オ) そう思わない

問 24　あなたは 2014 年 12 月の衆議院選挙の時点では、何党を支持していましたか。支持していた政党を 1 つ選んでください。

*問 24　2014 年 12 月時点のあなたの支持政党*

(ア) 自民党(自由民主党)
(イ) 民主党
(ウ) 公明党
(エ) 維新の党
(オ) 次世代の党
(カ) 共産党(日本共産党)
(キ) 生活の党
(ク) 社民党(社会民主党)
(ケ) その他(具体的に)⇒入力画面へ
(コ) 支持政党なし

問 24s 具体的に党名をお答えください。

*問 24s 具体的に党名をお答えください。*

あなたのご両親についてうかがいます。亡くなられている場合もお答えください。

問 25(1) あなたのお父さんが最後に行かれた学校はつぎのどれにあたりますか(中退も卒業と同じ扱いでお答えください)。

*問 25(1) お父さんが行かれた学校*

| |
|---|
| (ア) 新制中学校 |
| (イ) 新制高校(高卒後の専門学校を含む) |
| (ウ) 新制短大・高専 |
| (エ) 新制大学(大学院を含む) |
| (オ) 旧制尋常小学校 |
| (カ) 旧制高等小学校 |
| (キ) 旧制中学校・実業学校・師範学校 |
| (ク) 旧制高校・旧制専門学校 |
| (ケ) 旧制大学(大学院を含む) |
| (コ) その他(具体的に)⇒ |

問 25(1s) 具体的にお答えください。

*問 25(1s) 具体的にお答えください。*

| |
|---|
| |

問 25(2) あなたのお母さんが最後に行かれた学校はつぎのどれにあたりますか(中退も卒業と同じ扱いでお答えください)。

*問 25(2) お母さんが行かれた学校*

| |
|---|
| (ア) 新制中学校 |
| (イ) 新制高校(高卒後の専門学校を含む) |
| (ウ) 新制短大・高専 |
| (エ) 新制大学(大学院を含む) |
| (オ) 旧制尋常小学校 |
| (カ) 旧制高等小学校 |
| (キ) 旧制中学校・実業学校・師範学校 |
| (ク) 旧制高校・旧制専門学校 |
| (ケ) 旧制大学(大学院を含む) |
| (コ) その他(具体的に)⇒ |

問 25(2s) 具体的にお答えください。

*問 25(2s) 具体的にお答えください。*

| |
|---|
| |

あなたが 15 歳の頃(中学 3 年生の時)のことについてうかがいます。

問 26(1) あなたが 15 歳のころの日本社会を、このリストに書いてあるように、1 から 10 までの 10 の層に分けるとすれば、あなたの育ったご家庭はどこに入っていたと思いますか。

*問 26(1) 15 歳時の層*

| | |
|---|---|
| ┌ 1 | 上 |
| ├ 2 | ↑ |
| ├ 3 | |
| ├ 4 | |
| ├ 5 | |
| ├ 6 | ↓ |
| ├ 7 | |
| ├ 8 | |
| ├ 9 | 下 |
| └10 | |

問 26 (2) あなたが 15 歳の頃、あなたのお宅には、つぎに挙げるものがありましたか。

*問 26(2) 15 歳時にお宅にあったもの*

a) 持ち家
あった　なかった
b) 住居以外の土地や建物
あった　なかった
c) 乗用車
あった　なかった
d) 子ども部屋
あった　なかった
e) あなた自身の学習机
あった　なかった
f) ピアノ
あった　なかった
g) 文学全集・図鑑
あった　なかった
h) 美術品・骨董品(こっとうひん)
あった　なかった
i) 田畑(家庭菜園は除く)
あった　なかった

問 27(1) あなたの現在のお住まいは、つぎのどれにあたりますか。

*問 27(1) あなたの現在のお住まい*

(ア)持ち家(一戸建)
(イ)持ち家(分譲マンション)
(ウ)借家・賃貸のアパート・マンション
(エ)社宅・寮・官舎
(オ)その他(具体的に)⇒

問 27(1s) 具体的にお答えください。

*問 27(1s) 具体的にお答えください。*

問 27(2) あなたのお住まいはどれくらいの広さ(延床面積)ですか。平米数または坪数でお答えください。

*問 27(2) お住まいの広さ*

約＿＿＿㎡
約＿＿＿坪

注) 1 坪は畳 2 畳分で約 3.3 ㎡です。

問 28　あなたは、現在の地域(ご自宅周辺)に約何年お住まいですか。他の地域に転居していた時期を除いた、合計の年数をお答えください。

*問 28 居住年数*

約 _____年

問 29　**現在、**お宅では、つぎに挙げるものをお持ちですか。

*問 29 所有しているもの*

a) 乗用車
　ある　　ない
b) 犬・猫などのペット
　ある　　ない
c) 子ども部屋
　ある　　ない
d) ピアノ
　ある　　ない
e) バリアフリー設備
　ある　　ない
f) 食器洗い機
　ある　　ない
g) 文学全集・図鑑
　ある　　ない
h) 美術品・骨董品(こっとうひん)
　ある　　ない
i) 田畑(家庭菜園は除く)
　ある　　ない
j) 金庫
　ある　　ない

問 30(1) あなたと同年代の人の平均的な世帯年収は、いくらぐらいだと思いますか。つぎの中から１つだけお選びください。

*問 30(1) 他の人の収入*

| | |
|---|---|
| 1 | な し |
| 2 | 25 万円未満 |
| 3 | 25～50 万円未満 |
| 4 | 50～75 万円未満 |
| 5 | 75～100 万円未満 |
| 6 | 100～125 万円未満 |
| 7 | 125～150 万円未満 |
| 8 | 150～200 万円未満 |
| 9 | 200～250 万円未満 |
| 10 | 250～300 万円未満 |
| 11 | 300～350 万円未満 |
| 12 | 350～400 万円未満 |
| 13 | 400～450 万円未満 |
| 14 | 500 万円位(450～550 万円未満) |
| 15 | 600 万円位(550～650 万円未満) |
| 16 | 700 万円位(650～750 万円未満) |
| 17 | 800 万円位(750～850 万円未満) |
| 18 | 900 万円位(850～950 万円未満) |
| 19 | 1,000 万円位(950～1,050 万円未満) |
| 20 | 1,100 万円位(1,050～1,150 万円未満) |
| 21 | 1,200 万円位(1,150～1,250 万円未満) |
| 22 | 1,300 万円位(1,250～1,350 万円未満) |
| 23 | 1,400 万円位(1,350～1,450 万円未満) |
| 24 | 1,500 万円位(1,450～1,550 万円未満) |
| 25 | 1,600 万円位(1,550～1,650 万円未満) |
| 26 | 1,700 万円位(1,650～1,750 万円未満) |
| 27 | 1,800 万円位(1,750～1,850 万円未満) |
| 28 | 1,900 万円位(1,850～1,950 万円未満) |
| 29 | 2,000 万円位(1,950～2,050 万円未満) |
| 30 | 2,050 万円～2500 万円未満 |
| 31 | 2,500 万円～3000 万円未満 |
| 32 | 3,000 万円～4000 万円未満 |
| 33 | 4,000 万円～5000 万円未満 |
| 34 | 5,000 万円～6000 万円未満 |
| 35 | 6,000 万円～7000 万円未満 |
| 36 | 7,000 万円～8000 万円未満 |
| 37 | 8,000 万円～9000 万円未満 |
| 38 | 9,000 万円～1 億円未満 |
| 39 | 1 億円以上 |

問 30(2) 現在のご自身の収入について、あなたはどのように感じていますか。あなたの気持ちにいちばん近い選択肢を１つお選びください。

*a)個人収入について*

(ア) とても少ない
(イ) どちらかといえば少ない
(ウ) ちょうどいい
(エ) どちらかといえば多い
(オ) とても多い
(カ) 個人収入はない

*b)世帯収入について*

(ア) とても少ない
(イ) どちらかといえば少ない
(ウ) ちょうどいい
(エ) どちらかといえば多い
(オ) とても多い

「ここから 2 問は、収入についておうかがいします。私(調査員)にはお選びになった回答が見えないしくみになっています。この 2 問で、質問は終わりです。それぞれの質問では、回答をお選びになった後、右下にある「確定」というボタンをタッチしてください。次に進むための操作は、私(調査員)が行いますが、私(調査員)の画面では、お選びになった回答は一切表示されません。では、ご回答をよろしくお願いします。

問 31(1)　過去１年間のあなた個人の収入は、税込みでいくらぐらいでしたか。年金、株式配当や臨時収入、副収入などもすべて含めてお答えください。（１つ選択）

*問 31(1)　ご自身の年収*

| | |
|---|---|
| 1 | な し |
| 2 | 25 万円未満 |
| 3 | 25～50 万円未満 |
| 4 | 50～75 万円未満 |
| 5 | 75～100 万円未満 |
| 6 | 100～125 万円未満 |
| 7 | 125～150 万円未満 |
| 8 | 150～200 万円未満 |
| 9 | 200～250 万円未満 |
| 10 | 250～300 万円未満 |
| 11 | 300～350 万円未満 |
| 12 | 350～400 万円未満 |
| 13 | 400～450 万円未満 |
| 14 | 500 万円位(450～550 万円未満) |
| 15 | 600 万円位(550～650 万円未満) |
| 16 | 700 万円位(650～750 万円未満) |
| 17 | 800 万円位(750～850 万円未満) |
| 18 | 900 万円位(850～950 万円未満) |
| 19 | 1,000 万円位(950～1,050 万円未満) |
| 20 | 1,100 万円位(1,050～1,150 万円未満) |
| 21 | 1,200 万円位(1,150～1,250 万円未満) |
| 22 | 1,300 万円位(1,250～1,350 万円未満) |
| 23 | 1,400 万円位(1,350～1,450 万円未満) |
| 24 | 1,500 万円位(1,450～1,550 万円未満) |
| 25 | 1,600 万円位(1,550～1,650 万円未満) |
| 26 | 1,700 万円位(1,650～1,750 万円未満) |
| 27 | 1,800 万円位(1,750～1,850 万円未満) |
| 28 | 1,900 万円位(1,850～1,950 万円未満) |
| 29 | 2,000 万円位(1,950～2,050 万円未満) |
| 30 | 2,050 万円～2500 万円未満 |
| 31 | 2,500 万円～3000 万円未満 |
| 32 | 3,000 万円～4000 万円未満 |
| 33 | 4,000 万円～5000 万円未満 |
| 34 | 5,000 万円～6000 万円未満 |
| 35 | 6,000 万円～7000 万円未満 |
| 36 | 7,000 万円～8000 万円未満 |
| 37 | 8,000 万円～9000 万円未満 |
| 38 | 9,000 万円～1 億円未満 |
| 39 | 1 億円以上 |
| 40 | わからない・答えたくない |

問 31(2) 過去１年間のあなたのお宅(生計をともにしている家族)の収入は、税込みでいくらぐらいでしたか。他のご家族の方の収入も含めてお答えください。年金、株式配当や臨時収入、副収入などもすべて含めてお答えください。(１つ選択)

*問 31(2) 世帯の年収*

| | |
|---|---|
| 1 | な し |
| 2 | 25 万円未満 |
| 3 | 25～50 万円未満 |
| 4 | 50～75 万円未満 |
| 5 | 75～100 万円未満 |
| 6 | 100～125 万円未満 |
| 7 | 125～150 万円未満 |
| 8 | 150～200 万円未満 |
| 9 | 200～250 万円未満 |
| 10 | 250～300 万円未満 |
| 11 | 300～350 万円未満 |
| 12 | 350～400 万円未満 |
| 13 | 400～450 万円未満 |
| 14 | 500 万円位(450～550 万円未満) |
| 15 | 600 万円位(550～650 万円未満) |
| 16 | 700 万円位(650～750 万円未満) |
| 17 | 800 万円位(750～850 万円未満) |
| 18 | 900 万円位(850～950 万円未満) |
| 19 | 1,000 万円位(950～1,050 万円未満) |
| 20 | 1,100 万円位(1,050～1,150 万円未満) |
| 21 | 1,200 万円位(1,150～1,250 万円未満) |
| 22 | 1,300 万円位(1,250～1,350 万円未満) |
| 23 | 1,400 万円位(1,350～1,450 万円未満) |
| 24 | 1,500 万円位(1,450～1,550 万円未満) |
| 25 | 1,600 万円位(1,550～1,650 万円未満) |
| 26 | 1,700 万円位(1,650～1,750 万円未満) |
| 27 | 1,800 万円位(1,750～1,850 万円未満) |
| 28 | 1,900 万円位(1,850～1,950 万円未満) |
| 29 | 2,000 万円位(1,950～2,050 万円未満) |
| 30 | 2,050 万円～2500 万円未満 |
| 31 | 2,500 万円～3000 万円未満 |
| 32 | 3,000 万円～4000 万円未満 |
| 33 | 4,000 万円～5000 万円未満 |
| 34 | 5,000 万円～6000 万円未満 |
| 35 | 6,000 万円～7000 万円未満 |
| 36 | 7,000 万円～8000 万円未満 |
| 37 | 8,000 万円～9000 万円未満 |
| 38 | 9,000 万円～1 億円未満 |
| 39 | 1 億円以上 |
| 40 | わからない・答えたくない |

総格差社会日本を読み解く調査科学

SSP Project

Stratification and Social Psychology

2015 年階層と社会意識全国調査（第 1 回 SSP 調査）報告書

編　集：SSP プロジェクト事務局（吉川徹・伊藤理史）

発　行：SSP プロジェクト

発行日：2016 年 3 月 18 日